(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第309集

福島曲戸遺跡

上福島遺跡

主要地方道藤岡・大胡線地方特定道路整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告第1集

〈本　文　編〉

2002

群　馬　県　土　木　部

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第309集

福島曲戸遺跡

上福島遺跡

主要地方道藤岡・大胡線地方特定道路整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告第1集

〈本　文　編〉

2002

群　馬　県　土　木　部

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

遺跡を南から望む。中央に利根川が東流し、その奥に赤城山がみえる。

巻頭2

遺跡を東から望む。江戸時代の災害復旧溝群を調査しているところ。すぐ北側には泥流が流れ下った利根川がみえる。

序

福島曲戸遺跡、上福島遺跡は佐波郡玉村町に所在し、主要地方道藤岡・大胡線地方特定道路整備事業に伴って発掘調査された遺跡です。

発掘調査は、群馬県土木部から委託を受け、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が平成10年10月から実施しました。

今回の発掘調査により江戸時代から縄文時代にわたる生活の跡が年輪のように層をなして確認されました。

江戸時代は、火山災害や洪水などの自然災害に対する復旧の跡がみつかり、平安時代では膨大な量の土器類とともに漆紙文書、刻書紡錘車など貴重な文字資料もみいだされました。さらに、その下には古墳時代の水田も姿を現しています。そこには、それぞれの時代の人たちの生きる力をよみとることができるはずです。

これらの調査成果は、郷土群馬の歴史の重要な資料となるとともに、現在そして未来へ向けた古の人々からのメッセージともなります。

この報告書が、研究者、県民、そして学校教育における郷土学習にも大いに役立てていただけるものと確信しております。

最後になりましたが、群馬県教育委員会、群馬県土木部、群馬県伊勢崎土木事務所、玉村町教育委員会、玉村町都市施設課並びに関係機関、地元関係者各位には終始ご協力を賜り、心より感謝の意を表し序といたします。

平成１４年９月３０日

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長　小野　宇三郎

例　　言

1．本書は、主要地方道藤岡・大胡線地方特定道路整備事業に伴い事前調査された福島曲戸遺跡の発掘調査報告書である。

2．福島曲戸遺跡は群馬県佐波郡玉村町大字福島字近戸938-1、939、965、966-1、966-2、966-3、966-4、966-5、967-1、967-3、967-4、967-6、968-1、968-2、941-1、941-2、941-3、941-4、942-1、978-1、979-1、979-2、980-1、981-1、981-9、982-3、983-2、字曲戸1068-1、1068-2、1069-1、1069-2、1070-2、1070-5、1075-1、1075-6、1075-10、1075-11、1075-12、1075-13、1075-14、1075-15、1075-16、1075-17、1075-18、1075-19、1075-22、1081-1、1082-1、1091-1、1091-2、1092-1、に所在する。

3．事業主体　群馬県（伊勢崎土木事務所）

4．調査主体　財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

5．調査期間　平成10年10月1日～平成12年8月21日

6．整理期間　平成13年4月1日～平成14年9月30日

7．調査・整理組織

事務担当　菅野　清、小野宇三郎、原田恒弘、赤山容三、吉田豊、渡辺　健、住谷　進、神保侑史、水田　稔、能登　健、小渕　淳、坂本敏夫、大島信夫、真下高幸、中束耕志、西田健彦、国定　均、井上　剛、小山建夫、笠原秀樹、須田朋子、吉田有光、柳岡良宏、宮崎忠司、岡島伸昌、森下弘美、片岡徳雄、大澤友治

調査担当　石塚久則、原　雅信、麻生敏隆、高柳浩道、石川雅俊、内田敬久、小成田涼子、嘱託員村上章義

整理担当　原　雅信、石川雅俊

整理嘱託員・補助員　鹿沼敏子、下境マサ江、高橋とし子、田中暁美、南雲素子、伊東博子、高山由紀子、萩原由香、儘田澄子、猪野熊洋子、堀米弘美、勅使川原操子、石関富美代、萩原妙子

遺物写真　佐藤元彦

保存処理　関　邦一、土橋まり子、横倉知子

土器実測　田中精子、千代谷知子

8．発掘調査資料・出土遺物は群馬県文化財センターに保管してある。

9　漆紙文書、刻書紡錘車、墨書土器等の文字資料については、国立歴史民俗博物館　平川 南教授のご指導を受けました。

10．発掘調査及び報告書作成には以下の方々にご協力・ご指導いただいた。記して感謝の意を表します。
石守　晃、伊平　敬、大木紳一郎、大西雅広、神谷佳明、斉藤利明、桜岡正信、関　晴彦、友廣哲也、外山政子、三浦京子、村上章義、綿貫邦男

11．本文執筆　2－1－d・2－6－e　麻生敏隆、2－7－b・c・d　株式会社古環境研究所、前記以外　原　雅信・石川雅俊

12．本書編集　原　雅信、石川雅俊

凡　　例

1．本書における遺構名は算用数字を用いて表す。数字は調査の進行に従って便宜上付与しているため、いかなる順位を示すものではなく遺構固有名詞とする。

2．本書の遺構図版中にある＋印とそれに記される数値は国家座標に基づき設定したものである。詳細については、Ⅰ－3に後述している。

3．本書における遺構図には、それぞれ比例尺を付したが、基本的に次のようである。

住居跡：1/60　**掘立柱建物跡**：1/80　**井戸・墓・土坑・溝**：1/40

ただし、図によってはその限りではなく、異なる場合は各々スケールを付した。

4．本書における遺物図版にはそれぞれに比例尺を付したが、基本的に次のようである。

金属器・石器類の小型品：1/2　**土器・陶器など**：1/4　**大型甕など**：1/6　**銭貨・石鏃**：1/1

ただし、図によってはその限りではなく、異なる場合は各々スケールを付した。

5．本書における遺構図版中の断面基準は標高値で表した。単位はmである。

6．各遺構図版中の遺物・遺物図版・遺物写真図版・遺物観察表に付された番号は同一である。

7．土器の実測図は原則として四分割法をとった。ただし、残存量が二分の一以下の場合は180度展開して図上復元とし、中心線は点線で示した。

8．遺物の撮影および展開・断面は根本的に一角方で示した。

9．土器の色調は「標準土色帳」農林省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究監修に準じた。

10．本書で使用する浅間山および榛名山噴火による降下火砕物・泥流堆積物の呼称については以下のように表記する。

As－A　：浅間山噴出の火砕物　1783（天明三）年

As－B　：浅間山噴出の火砕物　1108（天仁元）年

ＦＰ泥流：榛名二ツ岳噴出の火砕物泥流堆積物

Hr－FP　：榛名二ツ岳噴出の火砕物

ＦＡ泥流：榛名二ツ岳噴出の火砕物泥流堆積物

Hr－FA　：榛名二ツ岳噴出の火砕物

As－C　：浅間山噴出の火砕物

11．遺構図・遺物図のスクリーン・トーンは、以下の通りである。

(1)　遺構図スクリーン・トーン（基本土層）

浅間Ｂ軽石　　黄褐色シルト質土

(2)　遺物図のスクリーン・トーン

羽口ガラス質　　漆紙

羽口煤　　漆

煤

巻頭図版　1
巻頭図版　2
序
例言
凡例
目次
挿図目次・表目次
報告書抄録

福島曲戸遺跡

Ⅰ　発掘調査と遺跡の概要……1
1．調査に至る経緯……1
2．周辺の歴史的環境
　a．遺跡の立地……3
　b．周辺の歴史的環境……4
3．調査の方法と経過……8
　a．グリッドの設定
　b．調査区の設定
　c．調査の方法
　d．調査の経過
4．遺跡の概要……11
　a．基本土層と確認遺構
　b．遺構の概要

Ⅱ　発掘調査の成果……15
1．縄文時代の遺構と遺物……15
　a．概要
　b．土坑
　c．グリッド出土土器
　d．グリッド出土石器
2．古墳時代の遺構と遺物……21
　a．概要
　b．竪穴住居
　c．掘立柱建物
　d．土坑
　e．水田
3．古代の遺構と遺物……48
　(1) A区
　　a．調査の状況
　　b．遺構の検出状況
　　c．竪穴住居
　　d．掘立柱建物
　　e．竪穴遺構
　　f．土坑
　　g．井戸
　　h．溝
　　i．遺物包含層
　(2) B・C・D・E区
　　a．遺構の検出状況
　　b．竪穴住居
　　c．竪穴遺構
　　d．土坑
　　e．溝
　　f．水田
4．中世の遺構と遺物……183
　a．遺構の検出状況
　b．土坑
　c．溝
　d．水田
5．近世以降の遺構と遺物……197
　a．遺構の検出状況
　b．災害復旧遺構
　　①近世1復旧溝群
　　②近世2復旧溝群
　c．掘立柱建物
　d．土坑
　e．水田・溝
　f．その他（盛土状遺構）
　g．グリッド出土遺物
6．調査のまとめ……224
　a．古墳時代
　b．古代の掘立柱建物
　c．古代の遺物について
　　ア．文字資料について
　　イ．凸帯付四耳壺
　　ウ．有孔鍔付鉢について
　　エ．碗・坏類について
　　オ．灰釉陶器
　　カ．緑釉陶器・青磁
　　キ．タタキ甕
　　ク．巡方について
　d．近世の災害復旧溝について
7．自然科学分析……246
　a．目的と分析地点
　b．A区およびE区の土層とテフラ
　c．A区およびE区における植物珪酸体
　d．A区における花粉分析

付図　福島曲戸遺跡A区全体図（1：80）

上福島遺跡

Ⅰ　遺跡の位置と調査の概要
1．遺跡の位置と環境……323
2．調査の方法と経過……323

Ⅱ　発掘調査の成果
1．遺跡の概要……324
2．基本土層……325
3．近世の検出遺構……326
4．平安時代の検出遺構……328
5．古墳時代の検出遺構……328

第2分冊（写真図版）

挿　図　目　次

福島曲戸遺跡

第 1 図　遺跡位置図（国土地理院1/200,000「宇都宮・長野」）…… 1
第 2 図　路線図 …… 2
第 3 図　遺跡周辺地形模式図（群馬県史参照）…… 3
第 4 図　周辺遺跡分布図（国土地理院1：25,000「高崎」「前橋」「大胡」「伊勢崎」使用）…… 5
第 5 図　グリッド設定図 …… 10
第 6 図　基本土層図 …… 12
第 7 図　D区862号土坑 …… 15
第 8 図　D区862号土坑出土遺物とグリッド出土遺物（1）…… 16
第 9 図　グリッド出土遺物（2）…… 18
第10図　グリッド出土遺物（3）…… 19
第11図　グリッド出土遺物（4）…… 20
第12図　古墳時代遺構位置図 …… 21
第13図　住居配置図（D区）…… 22
第14図　D区40号住居 …… 23
第15図　D区40号住居出土遺物 …… 24
第16図　D区41号住居 …… 25
第17図　D区41号住居出土遺物 …… 26
第18図　D区42号住居と出土遺物 …… 27
第19図　D区43号住居と出土遺物 …… 28
第20図　D区44号住居と出土遺物 …… 28
第21図　D区45号住居と出土遺物 …… 29
第22図　D区46号住居と出土遺物 …… 30
第23図　D区47号住居 …… 31
第24図　D区47号住居出土遺物 …… 32
第25図　D区48号住居 …… 33
第26図　D区48号住居出土遺物 …… 34
第27図　D区49号住居と出土遺物 …… 35
第28図　D区50号住居と出土遺物 …… 36
第29図　D区51号住居 …… 37
第30図　D区54号住居と出土遺物 …… 38
第31図　D区55号住居と出土遺物 …… 38
第32図　D区35号掘立柱建物 …… 39
第33図　D区824・826号土坑 …… 39
第34図　D区821・823・827～829・861号土坑 …… 40
第35図　D区863～866・E区811号土坑 …… 41
第36図　D区土坑出土遺物 …… 42
第37図　E区土層断面 …… 43
第38図　E区水田・811号土坑・土坑列A・B …… 44
第39図　E区グリッド出土遺物（1）…… 45
第40図　D区グリッド出土遺物（2）…… 46
第41図　D区グリッド（3）・E区グリッド出土遺物 …… 47
第42図　古代遺構位置図 …… 48
第43図　遺構位置図（A区）…… 49
第44図　住居配置図（A区）…… 50
第45図　A区1・2号住居 …… 51
第46図　A区1・2号住居出土遺物 …… 52
第47図　A区3号住居と出土遺物 …… 52
第48図　A区7号住居と出土遺物 …… 53
第49図　A区8号住居と出土遺物 …… 54
第50図　A区12号住居と出土遺物 …… 54
第51図　A区5・10・11号住居 …… 55
第52図　A区5・10・11号住居出土遺物 …… 56
第53図　A区20号住居と出土遺物 …… 57
第54図　A区21号住居 …… 57
第55図　A区21号住居出土遺物 …… 58
第56図　A区23号住居と出土遺物 …… 58
第57図　A区31号住居と出土遺物 …… 59
第58図　A区33号住居と出土遺物 …… 59
第59図　掘立柱建物配置図（A区）…… 62
第60図　A区3号掘立柱建物 …… 67
第61図　A区4号掘立柱建物 …… 67
第62図　A区1号掘立柱建物 …… 68
第63図　A区2号掘立柱建物 …… 68
第64図　A区6号掘立柱建物 …… 69
第65図　A区7号掘立柱建物 …… 69
第66図　A区9号掘立柱建物 …… 70
第67図　A区10号掘立柱建物 …… 70
第68図　A区12号掘立柱建物 …… 71
第69図　A区13号掘立柱建物 …… 71
第70図　A区14号掘立柱建物 …… 72
第71図　A区16号掘立柱建物 …… 72
第72図　A区22号掘立柱建物 …… 73
第73図　A区24号掘立柱建物 …… 73
第74図　A区25号掘立柱建物 …… 74
第75図　A区26号掘立柱建物 …… 74
第76図　A区11号掘立柱建物 …… 75
第77図　A区5号掘立柱建物 …… 75
第78図　A区8号掘立柱建物 …… 76
第79図　A区15号掘立柱建物 …… 76
第80図　A区17号掘立柱建物 …… 76
第81図　A区18号掘立柱建物 …… 77
第82図　A区19号掘立柱建物 …… 77
第83図　A区20号掘立柱建物 …… 77
第84図　A区21号掘立柱建物 …… 77
第85図　A区23号掘立柱建物 …… 78
第86図　A区27号掘立柱建物 …… 78
第87図　A区28号掘立柱建物 …… 78
第88図　A区29号掘立柱建物 …… 78
第89図　A区30号掘立柱建物 …… 79
第90図　A区31号掘立柱建物 …… 79
第91図　A区32号掘立柱建物 …… 79
第92図　A区33号掘立柱建物 …… 79
第93図　A区34号掘立柱建物 …… 79
第94図　A区掘立柱建物出土遺物 …… 80
第95図　竪穴遺構と土坑配置図（A区）…… 82
第96図　A区11～13・15・16・18・19号竪穴遺構 …… 84
第97図　A区12・13・15・16号竪穴遺構出土遺物 …… 85
第98図　A区19号竪穴遺構出土遺物 …… 86
第99図　A区土坑（1）…… 99
第100図　A区土坑（2）…… 100
第101図　A区土坑（3）…… 101
第102図　A区土坑（4）…… 102
第103図　A区土坑（5）…… 103
第104図　A区土坑（6）…… 104
第105図　A区土坑（7）…… 105
第106図　A区土坑（8）…… 106

第107図　A区土坑（9）…… 107
第108図　A区土坑（10）…… 108
第109図　A区土坑（11）…… 109
第110図　A区土坑出土遺物 …… 110
第111図　A区1号井戸 …… 111
第112図　A区2号井戸 …… 112
第113図　A区1号井戸出土遺物（1）…… 113
第114図　A区1号井戸出土遺物（2）…… 114
第115図　A区1号井戸出土遺物（3）…… 115
第116図　A区1号井戸出土遺物（4）…… 116
第117図　A区1号井戸（5）・2号井戸出土遺物 …… 117
第118図　溝配置図（A区）…… 119
第119図　A区45～56号溝土層断面 …… 119
第120図　A区溝出土遺物（1）…… 120
第121図　A区溝出土遺物（2）…… 121
第122図　古代A　区遺構配置 …… 122
第123図　包含層遺物分布 …… 122
第124図　土師器　分布 …… 123
第125図　土師器　坏 …… 123
第126図　土師器　甕 …… 123
第127図　土師器　台付甕 …… 123
第128図　土錘 …… 124
第129図　須恵器　分布 …… 124
第130図　須恵器　高台付碗 …… 124
第131図　須恵器　坏 …… 125
第132図　須恵器　壺 …… 125
第133図　須恵器　台付壺 …… 125
第134図　須恵器　蓋 …… 125
第135図　羽釜 …… 126
第136図　須恵器　皿 …… 126
第137図　灰釉　分布 …… 127
第138図　灰釉　皿 …… 127
第139図　灰釉　高台付碗 …… 128
第140図　灰釉　壺 …… 128
第141図　灰釉　段皿 …… 128
第142図　灰釉　耳皿 …… 128
第143図　緑釉　分布 …… 129
第144図　青磁　分布 …… 129
第145図　A区グリッド出土遺物（1）…… 130
第146図　A区グリッド出土遺物（2）…… 131
第147図　A区グリッド出土遺物（3）…… 132
第148図　A区グリッド出土遺物（4）…… 133
第149図　A区グリッド出土遺物（5）…… 134
第150図　A区グリッド出土遺物（6）…… 135
第151図　A区グリッド出土遺物（7）…… 136
第152図　A区グリッド出土遺物（8）…… 137
第153図　A区グリッド出土遺物（9）…… 138
第154図　A区グリッド出土遺物（10）…… 139
第155図　A区グリッド出土遺物（11）…… 140
第156図　A区グリッド出土遺物（12）…… 141
第157図　A区グリッド出土遺物（13）…… 142
第158図　A区グリッド出土遺物（14）…… 143
第159図　A区グリッド出土遺物（15）…… 144
第160図　A区グリッド出土遺物（16）…… 145
第161図　A区グリッド出土遺物（17）…… 146
第162図　A区グリッド出土遺物（18）…… 147
第163図　A区グリッド出土遺物（19）…… 148
第164図　A区グリッド出土遺物（20）…… 149
第165図　A区グリッド出土遺物（21）…… 150
第166図　A区グリッド出土遺物（22）…… 151
第167図　A区グリッド出土遺物（23）…… 152
第168図　A区グリッド出土遺物（24）…… 153
第169図　A区グリッド出土遺物（25）…… 154
第170図　A区グリッド出土遺物（26）…… 155
第171図　A区グリッド出土遺物（27）…… 156
第172図　古代遺構位置図 …… 157
第173図　D区52号住居と出土遺物 …… 158
第174図　D区53号住居と出土遺物 …… 158
第175図　B区1～3号竪穴遺構 …… 159
第176図　B区土坑 …… 164
第177図　B・C区土坑 …… 165
第178図　C・E区土坑 …… 166
第179図　E区土坑 …… 167
第180図　C・E区土坑出土遺物 …… 167
第181図　B区　溝・土坑・竪穴 …… 170
第182図　B区42号溝・土坑列 …… 171
第183図　C区84・85号溝、755・756号土坑 …… 172
第184図　D区　溝、住居 …… 173
第185図　E区　溝、土坑 …… 174
第186図　E区溝土層断面 …… 175
第187図　E区145号溝側板出土状況 …… 175
第188図　B区溝出土遺物 …… 176
第189図　C・E区溝出土遺物 …… 177
第190図　古代水田遺構位置図 …… 178
第191図　A区水田 …… 178
第192図　B区水田 …… 179
第193図　C区水田 …… 180
第194図　E区水田 …… 180
第195図　D区水田 …… 181
第196図　B～E区グリッド出土遺物 …… 182
第197図　中世土坑位置図 …… 183
第198図　A～D区土坑 …… 184
第199図　E区土坑（1）…… 185
第200図　E区土坑（2）…… 186
第201図　中世溝位置図 …… 187
第202図　B区37号溝 …… 189
第203図　C区　溝 …… 189
第204図　E区　溝 …… 190
第205図　C区溝土層断面 …… 191
第206図　E区溝土層断面 …… 191
第207図　中世1水田位置図 …… 192
第208図　A区　水田 …… 192
第209図　D区　水田 …… 193
第210図　中世2水田位置図 …… 194
第211図　B区　水田 …… 194
第212図　C区　水田 …… 195
第213図　D区　水田 …… 196
第214図　A・D区グリッド出土遺物 …… 196
第215図　近世1復旧溝位置図 …… 198
第216図　B区復旧溝 …… 198
第217図　D区復旧溝と出土遺物 …… 199
第218図　B区59号遺構 …… 200
第219図　D区107号遺構 …… 201
第220図　近世2復旧溝位置図 …… 202
第221図　A区復旧溝と4号溝及び出土遺物 …… 202
第222図　B区復旧溝 …… 203
第223図　C区復旧溝 …… 204
第224図　D区復旧溝 …… 205

第225図　E区復旧溝（1）…… 206
第226図　E区復旧溝（2）と出土遺物 …… 207
第227図　E区54号遺構 …… 208
第228図　D区83号遺構 …… 209
第229図　近世掘立柱建物、土坑位置図 …… 210
第230図　E区36号掘立柱建物 …… 210
第231図　B・C・E区土坑 …… 211
第232図　近世1.水田、溝位置図 …… 212
第233図　A区水田 …… 212
第234図　B区水田と出土遺物・溝 …… 213
第235図　C区水田・溝 …… 214
第236図　D区水田・溝 …… 215
第237図　E区水田・溝 …… 216
第238図　E区水田土層断面 …… 217
第239図　E区石組み …… 218
第240図　近世2.水田、溝位置図 …… 219
第241図　E区南部水田、溝 …… 220
第242図　E区北部水田 …… 221
第243図　B区盛土状遺構 …… 222
第244図　A・B・E区グリッド出土遺物 …… 223
第245図　古墳時代住居出土土器一覧図（1）…… 225
第246図　古墳時代住居出土土器一覧図（2）…… 226
第247図　古墳時代住居出土土器一覧図（3）…… 227
第248図　掘立柱建物配置図（1）…… 228
第249図　掘立柱建物配置図（2）…… 229
第250図　文字資料集成図 …… 230
第251図　漆紙付着資料 …… 231
第252図　凸帯付四耳壺 …… 232
第253図　有孔鍔付鉢分布図 …… 233
第254図　有孔鍔付鉢・台付鉢 …… 233
第255図　土師器　坏分布図 …… 235
第256図　須恵器　碗分布図 …… 235
第257図　土師器一覧図 …… 236
第258図　須恵器　碗一覧図 …… 237
第259図　須恵器　坏分布図 …… 238
第260図　灰釉陶器　一覧図（1）…… 239
第261図　灰釉陶器　一覧図（2）…… 240
第262図　灰釉陶器　一覧図（3）…… 241
第263図　灰釉陶器　一覧図（4）…… 242
第264図　緑釉陶器・タタキ甕・須方 …… 243
第265図　キャスリン台風被災状況 …… 245
第266図　自然科学分析地点 …… 246
第267図　A区23K-8グリッドの土層柱状図 …… 253
第268図　A区23B-7グリッドの土層柱状図 …… 253
第269図　X210-Y220グリッドの土層柱状図 …… 253
第270図　X215-Y230グリッドの土層柱状図 …… 253
第271図　X205-Y235グリッドの土層柱状図 …… 253
第272図　E区基本土層断面における土層柱状図 …… 255
第273図　E区基本土層断面、
As-A検出地点の土層柱状図 …… 255
第274図　福島曲戸遺跡、X205-Y235グリッドにおける
植物珪酸体分析結果 …… 261
第275図　福島曲戸遺跡、X210-Y220グリッドにおける
植物珪酸体分析結果 …… 261
第276図　福島曲戸遺跡、A区23B-7グリッドにおける
植物珪酸体分析結果 …… 262
第277図　福島曲戸遺跡、A区23K-8グリッドにおける
植物珪酸体分析結果 …… 262
第278図　植物珪酸体（プラント・オパール）
の顕微鏡写真（1）…… 263
第279図　植物珪酸体（プラント・オパール）
の顕微鏡写真（2）…… 264
第280図　E区基本土層におけるプラント・オパール
分析結果 …… 265
第281図　植物珪酸体（プラント・オパール）
の顕微鏡写真（3）…… 266
第282図　福島曲戸遺跡、X210-Y220グリッドにおける
花粉ダイアグラム …… 269
第283図　福島曲戸遺跡の花粉・胞子遺体 …… 270

上福島遺跡

第1図　遺跡位置図（1/2,500）…… 324
第2図　基本土層図 …… 325
第3図　As-A細跡と出土遺物 …… 326
第4図　As-B下水田跡 …… 327
第5図　As-B下水田跡土層図 …… 328
第6図　1・2号溝と出土遺物、1号ピット …… 329

表目次

表1　周辺の遺跡一覧表 …… 6．7
表2　検出遺構一覧表 …… 14
表3　福島曲戸遺跡におけるテフラ検出分析結果 …… 251
表4　A区における屈折率測定結果 …… 251
表5　E区におけるテフラ検出分析結果 …… 253
表6　E区における屈折率測定結果 …… 253
表7　福島曲戸遺跡における植物珪酸体分析結果 …… 259
表8　福島曲戸遺跡における植物珪酸体分析結果 …… 259
表9　福島曲戸遺跡におけるプラント・オパール分析結果 …… 264
表10　福島曲戸遺跡における花粉分析結果 …… 268
表11　住居一覧表 …… 270
表12　掘立柱建物一覧表 …… 270
表13　掘立柱建物柱穴一覧表 …… 271～274
表14　土坑一覧表 …… 275～280
表15　溝　計測一覧表 …… 281．282
表16　水田　計測一覧表 …… 283．284
表17　復旧溝　計測一覧表 …… 285．286
表18　遺物観察表 …… 287～319

報 告 書 抄 録

ふ り が な	ふくしままがりど　かみふくしま
書　　名	福島曲戸遺跡　上福島遺跡
副　書　名	主要地方道藤岡・大胡線地方特定道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	第1集
シ リ ー ズ 名	財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告
シリーズ番号	第３０９集
編 集 者 名	原　雅信・石川雅俊
編 集 機 関	財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
編集機関所在地	〒377-8555　群馬県勢多郡北橘村大字下箱田784－2　℡0279－52－2511
発 行 年 月 日	西暦 2002年9月30日

ふ り が な 所 収 遺 跡 名	ふりがな 所 在 地	コ ー ド 市町村	 遺 跡	北　緯 東　経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
ふくしままがりど 福 島 曲 戸 遺 跡	玉村町 字福島			36°18′30″ 139°7′45″	1998年4月 ～2000年8月	11,399,36	藤岡大胡線 道路整備

所収遺跡名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特記事項
福島曲戸遺跡	集　落	奈良・平安	竪穴住居・掘立柱建物	土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・青磁	漆　紙文書
		古墳	竪穴住居・掘立柱建物	土師器	
	井戸・土坑・溝	古墳・奈良平安・中世・近世	井戸・土坑・竪穴状遺構・墓・溝・土師器焼成遺構	土師器・須恵器・陶器・カワラケ	
	生産跡	平安・中世・近世	水田	土師器・須恵器・陶器・カワラケ	
		近世	災害復旧溝	陶器・古銭・煙管	

フク シマ マガリ ド

福島曲戸遺跡

Ⅰ．発掘調査と遺跡の概要

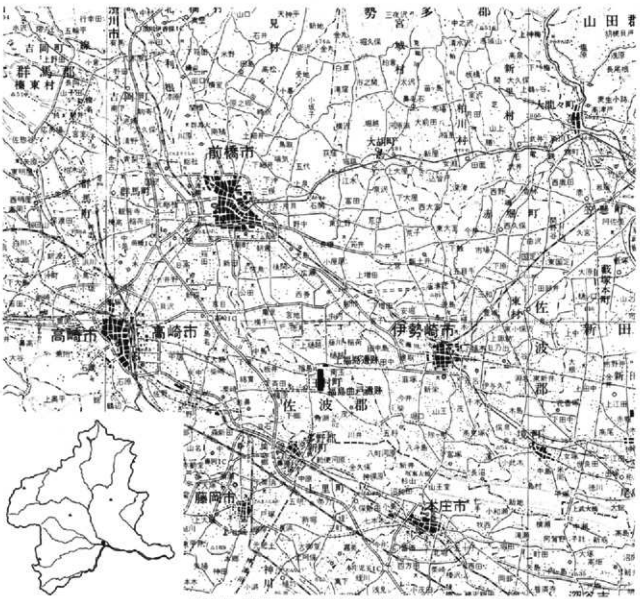
1．調査に至る経過

県道藤岡大胡線は、藤岡市本郷を起基点とし大胡町大胡を終点とする延長23kmの幹線道路である。本道は、玉村町福島橋において高崎伊勢崎線、前橋玉村線と交差し、高崎市、前橋市、伊勢崎市、藤岡市とを結ぶ都市間連絡道路でもある。しかし、本路線の玉村町福島橋付近は、通勤帰宅時には、慢性的な交通渋滞をきたし、その対策、加えて安全な交通環境の整備が強く望まれていた。

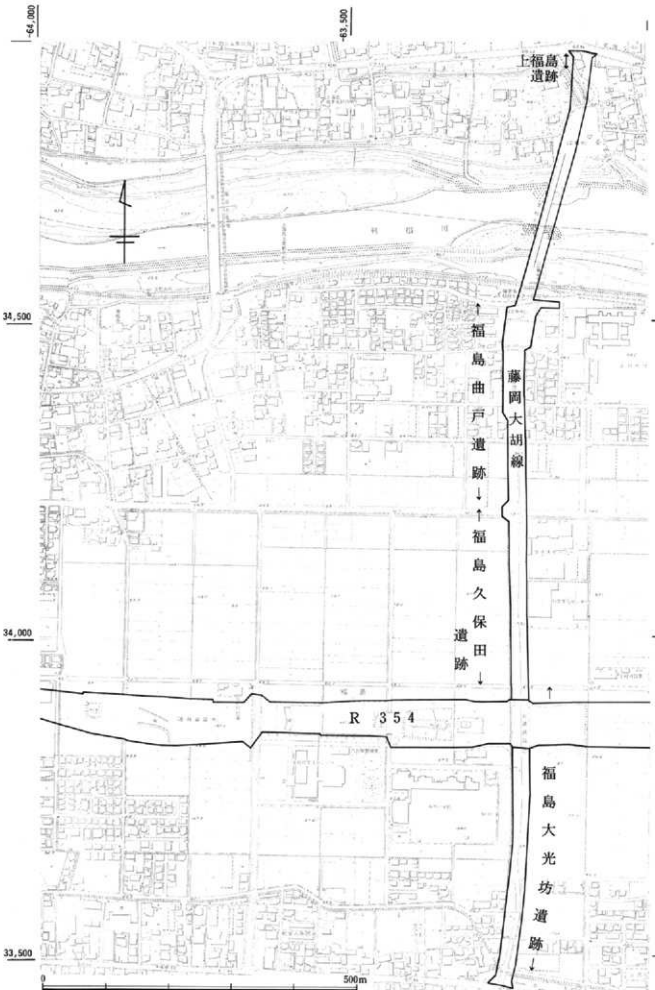
このような状況の下、玉村町上福島から国道354号線の玉村町上飯島までを新しい橋「玉村大橋」を建設し整備しようという事業が県土木部により計画・実施されることとなった。

路線内の埋蔵文化財については、発掘調査に先立つ試掘調査の結果に基づき、利根川際及び堤防下を除く路線内が全面発掘を要する遺跡とされた。

調査は、平成８年度に福島大光坊地区、平成９年度に福島久保田地区、平成10年度に本報告の福島曲戸地区を調査開始し、平成12年度に利根川右岸の調査区域を終了、平成13年度には、利根川左岸の上福島遺跡を調査終了している。



第１図　遺跡位置図(国土地理院1/200,000「宇都宮・長野」)


-66,000
-63,500
34,500
34,000
33,500
上福島遺跡
↑福島曲戸遺跡↓
↑福島久保田遺跡↓
藤岡大胡線
R 354
福島大光坊遺跡↓
0
500m

第2図　路線図

2．周辺の歴史的環境

a．遺跡の立地

福島曲戸遺跡は、群馬県佐波郡玉村町大字福島字曲戸地内に所在する。北緯36°18′30″、東経139°7′45″付近、標高68mである。

福島曲戸遺跡の所在する玉村町は、群馬県の南端部に位置し、神流川や烏川・利根川を隔てて、東は伊勢崎市、西は高崎市、南は藤岡市・新町、埼玉県上里町・本庄市、北は前橋市と接している。

この地域からの眺望は、東から南東方向は関東平野の水田地帯が広がり、南方には秩父山地・関東山地。西方には、観音山丘陵から遠くに妙義山・浅間山を臨む。北西部には榛名山の外輪山が連なり、中央部の中腹より「相馬が原」と呼ばれる扇状地が見える。北方には近年完成した群馬県庁舎が聳え、その奥に榛名山・赤城山の裾野が接し、その間に子持山、更に奥に谷川岳が見える。北北東には裾野の長い赤城山、右奥に日光から足尾山地の山並みが続く。

前橋台地の南端部に立地する玉村町は、低湿地と微高地の違いによる多少の高低差があるものの、全体的には北西から南東方向に緩やかに傾斜する平坦な地形である。南端部は烏川の浸食により一部急崖となっている。河川の影響を受けて形成された地形である。

洪積世後期、利根川によって運ばれた河成堆積物は、前橋市北部を要とした扇状地形を形成し、地下100m程の厚さで砂礫層を残している。さらに、約24,000年前には浅間山の噴火による泥流堆積物が極めて短期間に、この扇状地を覆い尽くした。凝灰角礫岩を含むこの地層は前橋泥流堆積物層と呼ばれ、西は群馬郡南部から高崎市北・東部の平野へ広がり、東は前橋市の東北部から伊勢崎市西部にかけて厚さ10m以上堆積しており、烏川と広瀬川とに挟まれた県央の平野地域の基盤層となっている。この前橋泥流堆積物層の上には、シルト・粘土・砂・泥炭層などによって構成される水成ローム層が堆積している。シルト・泥炭層は水中や湿潤な環境で形成されることから、この時期の前橋台地が湿原状態であったと考えられる。自然科学分析によると、水成ローム層に含まれる泥炭質粘土層は約13,000年前という測定値を示し、現在の1000～1500mの山岳地帯落葉樹林帯を形成する植生が推定できることからウルム氷期に比定されている。

こうして形成された前橋台地は、洪積世後期以降、河川による浸食を免れ沖積地化が進んだが、利根川をはじめとする大小河川が台地上を流路定めずに流れていたため、他の台地とは異なりロームの堆積が殆ど見られない。利根川は中世に至るまで幾度となくその流路を変え、これに影響されるように小河川は前橋台地を刻み続け、後背湿地と微高地とが複雑に入り組んだ地形を形成した。

現在の利根川は、中世の変流後幾度も洪水を引き起こし、天明3（1783）年浅間山噴火の際にはその泥流がこの地域まで達し、多大な被害を及ぼしている。近年でも昭和22年にはキャサリン台風の直撃を受け、大きな被害を被っている。発掘調査によっても、このような自然的営力の影響を受けた痕跡を確認している。福島曲戸遺跡は利根川右岸の、この泥流上に立地している。

第3図　遺跡周辺地形模式図（群馬県史参照）

b．周辺の歴史的環境

旧石器　現在の地形が形成されたのが2万数千年前で、しかも低湿地であった為、人間が居住できる環境ではなかった。故に遺跡は全く発見されていない。

縄文時代　玉村町では縄文時代前期後半の遺構が現在確認されていない。遺物では、草創期、早期なども出土していることから、より古い時期の遺構の存在も予想される。遺跡は数少ない台地の縁辺部に僅かに認められる程度で、集落の確認には至っていない。前橋台地は依然として湿潤な状態が続いていたことから、居住地としての環境には、あまり適していなかったことも考えられる。

弥生時代　縄文時代と同様な様相を呈し、遺跡は少ない。上福島に所在する一万田遺跡では弥生後期の再葬墓が確認されており集落が存在する可能性もある。隣接する前橋台地の縁辺部では中・後期の遺跡が確認され、特に西側の井野川流域は県内で最も弥生文化が進展した地域である。しかし、玉村町の弥生時代遺跡は、極限られた時期に限られた地域に認められるに過ぎない。

古墳時代　4世紀初頭、県内では東海地方の影響を受けた集落遺跡が出現する。遺跡の所在する玉村町地域では、烏川流域の下郷を中心として、隣接する下斉田・八幡原・若宮などに濃密に分布している。弥生時代に栄えた高崎市北部と隣接し深い関わりを推測させる。また、そこから烏川流域に沿って角渕・川井まで分布する。利根川流域では、安定した分布は認められないが、樋越や福島周辺に小規模な集落が出現したものとみられる。4世紀半ば頃、低地に水田を開き、周辺の微高地に集落を拡大する。

奈良・平安時代　6・7世紀に「佐味君」という在地豪族の支配権にあったと推測されている当地域は、奈良時代以降律令制下において中央集権国家が確立されていく中、上野国那波郡に属し、公地公民制による支配体制に組み込まれていった。承平5（935）年に成立した「和名類従抄」によれば、那波郡には七つの郷名が記されている。その内、当遺跡は佐味郷か鞘田郷にあたると考えられるが、どちらかに比定することは現在のところ特定できない。集落遺跡は、微高地上に数多く存在する。また、天仁元（1108）年浅間山の噴火に伴う、降下軽石に埋没した水田が低地を中心に存在するが、集落と重なる部分が多くあり、当時の水田が集落域にも開発を広げていた様子が確認されている。12世紀に玉村保・玉村御厨が存在しており、これらの大開発が、在地開発領主の私領形成と中央貴族・寺社の直轄地確保とが結びついて、私的大土地所有制を確立していった結果であると考えられる。特殊な遺跡として、当遺跡の利根川を挟んで北側に郡衙的要素を持った一万田遺跡、その北東には東山道が検出された砂町遺跡がある。

中世　天仁元（1108）年浅間山の噴火により災害に遭った人々は、As-Bを鋤きこみ再び活動を開始し、古代の条里地割りを踏襲した水田区画を作る。微高地上には周囲に溝を巡らせ、内部に掘立柱建物群の立ち並ぶ屋敷が出現し始める。この様な遺構は環濠遺構群として前橋南部地域から玉村地域にかけてその存在が多数確認されている。この頃に広瀬川低地帯を流れていた利根川が現在の位置に流路を変える。

近世　利根川変流以降、この地域は度重なる水害に遭い、前橋市公田町から佐波郡玉村町にかけて洪水砂を何層も確認している。繰り返された洪水層下からは、その都度水田が作り直された様子が確認でき、洪水層中から複数の水田が検出された。天明3（1783）年浅間山が噴火し、この地にも大量の火山灰を降らせた。人々は火山灰を除去するため溝を掘って灰を埋め込んだり、農地の外に灰掻き山にしたりする等して復旧作業を行った。利根川に接する部分では、この天明泥流を埋没させた復旧溝も確認された。尚、福島曲戸遺跡の対岸に位置する上福島中町遺跡では、この泥流に埋没する屋敷が確認された。

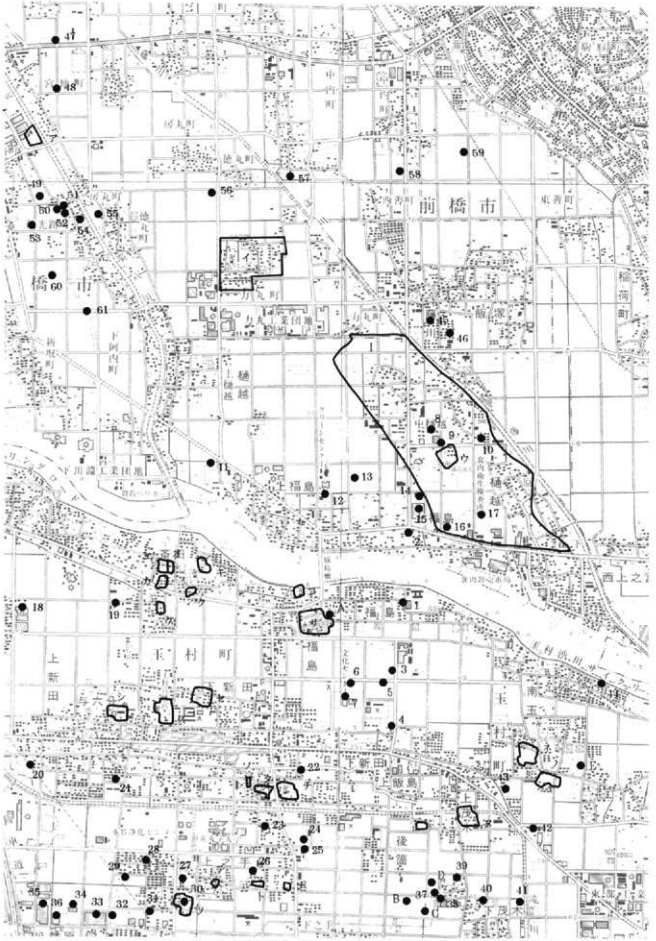
＜参考文献＞

1．『玉村町史』通史編上巻1992

2．『玉村の遺跡』玉村町教育委員会1992

3．『下阿内也也畑遺跡　下阿内前田遺跡』群埋文2001

4．『亀里平塚遺跡・横手宮田遺跡・横手早稲田遺跡・横手南川端遺跡』群埋文2001



第4図　周辺遺跡分布図(国土地理院1：25,000「高崎」「前橋」「大胡」「伊勢崎」

表1　周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	遺跡の概要	参考文献
1	福島曲戸遺跡	玉村町福島	古墳前期住居。Hr-FA水田。平安住居・掘立。As-B下水田。中世水田。近世水田。近世災害復旧遺構。	本書
2	上福島遺跡	玉村町福島	古墳時代溝1条。As-B水田。As-A下畠。	本書
3	福島久保田遺跡	玉村町福島	古墳前期住居。Hr-FA水田。平安住居。As-B下水田。中世居館・水田。近世水田。近世災害復旧遺構。	団『年報』17
4	福島大光坊遺跡	玉村町福島	古墳前期住居・畠、Hr-FA下水田。平安住居。As-B下水田。中世水田。近世水田。近世災害復旧遺構。	団『年報』16・19
5	福島大島遺跡	玉村町福島	Hr-FA下水田・Hr-FA上水田・Hr-FP下水田。平安住居。As-B下水田。中世居館。近世災害復旧溝。	団『年報』16・17
6	福島飯塚遺跡	玉村町福島	古墳前期周溝墓、As-C張水田・Hr-FA下水田・Hr-FP水田。平安大溝、住居、掘立、As-B水田。中世居館、水田。近世災害復旧遺構。	団『年報』18・19
7	福島稲荷木遺跡	玉村町福島	古墳住居。奈良・平安住居。	玉　調査1991『玉村町の遺跡』
8	松原II遺跡	玉村町樋越	古墳・奈良・平安・中世・近代土坑、溝。	玉　調査1988『玉村町の遺跡』
9	松原遺跡	玉村町樋越	古墳・平安・中世・近世土坑、水田、溝。	玉　調査1991『玉村町の遺跡』
10	原成遺跡	玉村町樋越	古墳前期溝。平安住居。	玉　報告書1998
11	柄田原遺跡	玉村町上福島	奈良・平安住居、As-B下水田。江戸畑、水田。	玉　報告書1997
12	金免遺跡	玉村町上福島	As-B水田。	玉　報告書1991
13	砂町遺跡	玉村町上福島	縄文草創期有舌尖頭器。古墳前期溝。奈良遺跡。平安水田。	玉　調査1998～1999 団『年報』18
14	尾柄町II遺跡	玉村町上福島	近世以降土坑、溝。	玉　報告書1992
15	尾柄町遺跡	玉村町上福島	As-B下水田。	玉　報告書1992
16	一万田遺跡	玉村町上福島	弥生後期馬埋墓。平安住居・掘立・柵列。江戸畑。	玉　調査1991『玉村町の遺跡』
17	神人村II遺跡	玉村町樋越	奈良・平安住居、掘立、As-B下水田。	玉　報告書1992
18	中道西遺跡	玉村町上新田	As-B下水田。	玉　報告書1996
19	深町遺跡	玉村町板井	As-B下水田。	玉　調査1988『玉村町の遺跡』
20	上新田地区遺跡群	玉村町上新田	As-B下水田。	玉　報告書1997
21	南東新地遺跡	玉村町上新田	平安井戸、土坑、溝。	玉　報告書1999
22	八街南園遺跡	玉村町下新田	As-B下水田。	玉　調査1989『玉村町の遺跡』
23	中袋遺跡	玉村町上之手	As-B下水田、平安井戸、土坑。	玉　報告書2000
24	出田遺跡	玉村町上之手	平安掘立、井戸、溝。	玉　報告書1999
25	出田II遺跡	玉村町上之手	As-B下水田。	玉　報告書1999
26	上之手立野遺跡	玉村町上之手	奈良・平安住居。	玉　調査1991『玉村町の遺跡』
27	中郷遺跡	玉村町上之手	As-B下水田、住居。	玉　調査1991『玉村町の遺跡』
28	上之手八王子遺跡	玉村町上之手	古墳前期住居。奈良・平安住居、掘立As-B下水田。中世畑。	玉　報告書1991
29	上之手地区遺跡群(1)	玉村町上之手	As-B下水田、平安掘立、土坑、溝。	玉　報告書1999
30	上之手原屋敷遺跡	玉村町上之手	中世屋敷	玉　調査1988『玉村町の遺跡』
31	行人塚V遺跡	玉村町上之手	奈良・平安住居、溝、土坑。	玉　報告書2001
32	上之手地区遺跡群(2)	玉村町上之手	平安掘立、土坑、溝。	玉　報告書1999
33	宇賀遺跡	玉村町手貫	古墳住居。奈良・平安・住居、掘立。中世掘立、井戸、館、土坑。	玉　報告書1999
34	赤城II遺跡	玉村町八幡原	古墳土坑。平安土坑。	玉　報告書1993
35	八幡原赤塚遺跡	玉村町八幡原	古墳住居。	玉　調査1989『玉村町の遺跡』
36	八幡原赤塚II遺跡	玉村町八幡原	奈良住居。As-B下水田。中世掘立、井戸、館。	玉　報告書2000
37	神明II遺跡	玉村町上茂木	As-B下水田。	玉　調査1987『玉村町の遺跡』
38	神明遺跡	玉村町上茂木	As-B下水田。	玉　調査1986『玉村町の遺跡』
39	滝川南遺跡	玉村町上茂木	古墳住居。平安住居、As-B下水田。	玉　報告書1999
40	下茂木地区遺跡群	玉村町上茂木	平安井戸、As-B下水田。	玉　報告書1999
41	下茂木地区遺跡群	玉村町上茂木	As-B下水田。	玉　報告書1999
42	十王堂I、II遺跡	玉村町上茂木	As-B下水田。	玉　報告書2000
43	十王堂III遺跡	玉村町南玉	平安住居。	玉　調査1991『玉村町の遺跡』
44	利根添遺跡	玉村町下之宮	As-A下畠・土手。	玉　報告書1998
45	藤川前遺跡	玉村町藤川	As-B下水田。	玉　報告書1993
46	前通遺跡	玉村町藤川	As-B下水田。	玉　報告書2000
47	東田遺跡	前橋市下佐鳥町	古墳時代前期の土師器出土。	前市　調査1990
48	宮地中田遺跡	前橋市宮地町	As-B下水田。	前市　調査1997
49	西田II遺跡	前橋市鶴光路町	As-B下水田。	前市　前橋市1988
50	西田III遺跡	前橋市鶴光路町	縄文草創期の有舌尖頭器。古墳溝、土坑。As-B下水田、掘立。中・近世の溝。	前市　報告書1999
51	西田IV遺跡	前橋市鶴光路町	As-B下水田。中・近世の溝。	前市　報告書1999
52	西田遺跡	前橋市鶴光路町	As-B下水田。	前市　報告書1999

53	西田遺跡	前橋市鵜光路町	古墳時代As-C混土下水田。Hr-FA下水田。 平安住居、As-B下水田。江戸土坑墓。	団 「年報」17
54	鵜光路稲橋遺跡	前橋市鵜光路町	平安住居、掘立、As-B下水田。中世居館。	団 「年報」17・18
55	笹丸鳥屋遺跡	前橋市笹丸町	古墳前期遺物。As-B下水田。中世居館。	団 「年報」18
56	笹丸仲田遺跡	前橋市笹丸町	縄文早期撚糸文土器、有舌尖頭器。古墳前期住居、水路。 As-C混土。平安住居、掘立。中世居館。	団 「年報」17・18
57	西善尺司遺跡	前橋市西善町	縄文石器ブロック。古墳前期埴輪、Hr-FA下水田。 奈良・平安竪穴住居、As-B下水田。中世居館、火葬墓。	団 報告書2001
58	中内村前遺跡	前橋市中内町	古墳前期埴輪、住居、As-B下水田。中世居館。 奈良・平安住居、As-B下水田。中世居館。	団 「年報」17・18
59	前田遺跡	前橋市東善町	平安住居、As-B下水田。中世居館。	団 「年報」18
60	下阿内壱町畑遺跡	前橋市下阿内町	古墳住居、Hr-FA下水田。As-B下水田。近世災害復旧溝。	団 報告書2001
61	下阿内前田遺跡	前橋市下阿内町	As-C混水田。As-B下水田。近世災害復旧溝構。	団 報告書2001

A	天神古墳	玉村町福島		玉村町遺跡台帳
B	軍配山古墳	玉村町角渕	径約40m、高さ約6mの墳丘残存。墳形不明。4世紀後半と推定。	昭和41年帝室博物館年報 上毛古墳総覧
C	玉村町第3号	玉村町角渕		昭和41年群馬大学調査 上毛古墳総覧
D	経塚(芝根村第10号)	玉村町上茂木	太刀・刀子・鉄鏃・埴輪・土師器・須恵器出土。	上毛古墳総覧記載もれ 昭和41年調査
E	社宮島古墳	玉村町南玉		玉 調査1976

ア	廻阿内古城	前橋市亀里町	文明九(1477)年、上杉顕定築城	
イ	力丸城	前橋市力丸町	15～16世紀力丸氏の居城。近年破壊。	
ウ	阿佐美館	玉村町横瀬	中世館跡。	「群馬県古城塁址の研究」山崎一著
エ	斉田西屋敷	玉村町斉田	中世屋敷跡。	「群馬県古城塁址の研究」山崎一著
オ	斉田東屋敷	玉村町斉田	中世屋敷跡。	「群馬県古城塁址の研究」山崎一著
カ	町田屋敷	玉村町斉田	中世屋敷跡。	「群馬県古城塁址の研究」山崎一著
キ	田口下屋敷	玉村町斉田	中世屋敷跡。	「群馬県古城塁址の研究」山崎一著
ク	田村屋敷	玉村町斉田	中世屋敷跡。	「群馬県古城塁址の研究」山崎一著
ケ	石原屋敷	玉村町斉田	中・近世屋敷跡。	「群馬県古城塁址の研究」山崎一著
コ	宇津木館	玉村町福島	中世屋敷跡。	玉村町史遺跡解説書
サ	福島砦	玉村町福島	中世砦跡。	「群馬県古城塁址の研究」山崎一著
シ	与六屋敷	玉村町与六沙	近世屋敷跡。	「群馬県古城塁址の研究」山崎一著
ス	玉村八幡館	玉村町下新田	中世・近世館跡。中世古墓。	熊谷書3545
セ	玉村館	玉村町下新田	近世館跡。	「群馬県古城塁址の研究」山崎一著
ソ	内田屋敷	玉村町上之手	中世屋敷跡。	「群馬県古城塁址の研究」山崎一著
タ	若下屋敷	玉村町上之手	中世屋敷跡。	
チ	願照寺屋敷	玉村町上之手	中世屋敷跡。	「群馬県古城塁址の研究」山崎一著
ツ	原屋敷	玉村町上之手	中世屋敷跡。	「群馬県古城塁址の研究」山崎一著
テ	東田屋敷	玉村町上之手	中世屋敷跡。	玉村町中世城館跡分布調査
ト	秋山屋敷	玉村町上之手	中世屋敷跡。	玉村町中世城館跡分布調査
ナ	木暮屋敷	玉村町上之手	中世屋敷跡。	玉村町中世城館跡分布調査
ニ	後閑屋敷	玉村町五箇	戦国屋敷跡。	「群馬県古城塁址の研究」山崎一著
ヌ	茂木郎本館(田口屋敷)	玉村町上茂木	中世館跡。	「群馬県古城塁址の研究」山崎一著
ネ	玉村城(南玉原屋敷)	玉村町南玉	中世城跡。	「群馬県古城塁址の研究」山崎一著
ノ	南玉館(原武屋敷)	玉村町南玉	中世館跡。	「群馬県古城塁址の研究」山崎一著

I	玉村郭跡・玉村保相定銘	玉村町横瀬	縄文・埴輪・土師器・須恵器・陶磁器類遺物散布地	「玉村町の遺跡」

※参考文献の略称は下記のとおりである。

県　群馬県教育委員会
団　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
前市　前橋市埋蔵文化財発掘調査団・前橋市教育委員会
玉　玉村町教育委員会

3．調査の方法と経過

a．グリッドの設定（第5図）

県道藤岡大胡線地方特定道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査においては、国家座標に基づき玉村町全域を網羅するように南東隅の座標X＝30,000・Y＝60,000を起点とする10km四方の区画を設定しそれを「地区」と呼称した。

そして、その中を1km四方に分割し、南東隅から北に向けて1～100の番号を平行式に付して「区」（大区画）とした。

次にこの大区画を100m四方に分割し大区画同様に番号を付し、「中グリッド」（中区画）とした。

さらに中区画を5m四方に分割し、「小グリッド」（小区画）と称した。「小グリッド」には南東隅を起点として西方向（X軸方向）にアラビア数字を北方向（Y軸方向）にアルファベットを付した。発掘調査に伴うグリッド名称は、この「小グリッド」を表している。

福島曲戸遺跡は、34地区35区の23・24・25・26中グリッドに位置する。

b．調査区の設定

本遺跡の調査は、調査対象地区を道路または水路によって、南からA～E区と便宜的に区分けした。さらに工事工程や用地買収状況により調査区が分断される場合には、E－2区と適宜細分した。報告ではE区に含め報告している。

c．調査の方法

遺跡地は、住宅地に隣接しているため生活道路を確保して調査を行った。調査区を区分する道路は道路幅が狭い割に車の交通量は多く、また、近接する玉村町立玉村中学校の通学路にもなっているため、調査区への転落防止のためガードフェンスを設置した。

遺跡地は、現利根川の自然堤防上に立地するため、洪水堆積物が厚く堆積しているため、重機により遺構確認面まで掘削した。洪水堆積層は砂質で崩れやすいため、隣接する住宅より十分な距離を持って掘削し、深くなる場合には段をつくって掘削した。

確認された遺構は、中央部に十字に土層確認用のベルトを設定し、その状態を確認した。土坑、溝など小規模な遺構についてはこの限りではない。

遺構名称は、住居・土坑・溝・掘立柱建物など遺構種別ごとに1号から通番を付した。ただし、遺構番号は時間的前後関係を示すものではない。

遺構の記録は図化と写真により行った。遺構の図化は、縮尺20分の1を基本として図化した。特殊な場合はこの限りではない。遺構写真は、モノクロ写真を6×7判および35ミリ1眼レフ、カラー（リバーサル）を35ミリ1眼レフにて撮影した。しかし、広範囲にわたる水田遺構や遺物の分布状況などは業者に委託し、気球による航空写真測量や光波測量などで効率化を図った。状況によっては高所作業車を利用して写真撮影をした。

本遺跡では、複数の火山堆積物や水田遺構が確認されたため自然科学分析を業者委託し、実施した。

d．調査経過

調査は、平成10（1998）年10月1日から着手し、調査計画に従って実施し、平成12（2000）年8月21日に終了している。

調査対象面積は、11,399.36㎡である。

【平成10年度】

平成10年10月。1日より調査開始。重機によりB区の表土掘削。作業員によるB区の遺構確認作業を行い、洪水砂を覆土とする災害復旧溝群等を検出する。

11月。B区において洪水砂を覆土とする災害復旧溝群等を精査。

12月。A区。1・2面遺構確認開始。2・3号溝、洪水砂の復旧溝群及びそれに壊されるAs－A軽石を覆土とする災害復旧溝群を調査。3面遺構確認開始。

B区では、As－A軽石を覆土とする災害復旧溝群を調査する。

E－2区では、重機による表土掘削し、1・2面遺構確認する。

平成11年1月。A区においては、3面畠状遺構検

出。1・2・3面航空写真測量。

B区においては、3面まで重機掘削し遺構確認を開始する

E－2区では、1・2面の天明3年浅間山の噴火に伴う軽石と泥流堆積物を覆土とする災害復旧溝群を確認し調査する。

2月。B区。3面畠状遺構調査。4面近世水田、土坑、溝等調査。5面溝群調査。

E－2区では、1・2面の航空写真測量を行い、次の面のトレンチ調査をする。北東部では、As－B下の水田を調査、続いてFA下水田を調査する。

3月。A区。4面まで重機掘削。近世洪水下水田調査。6面水田調査。

B区。6面水田調査。7面As－B下水田調査開始。E－2区では、北西部4面近世水田調査。6面水田調査。7面As－B下水田調査。9面FA下水田調査。調査終了。

【平成11年度】

4月。A区、7面As－B下水田調査。

B区、7面As－B下水田調査。8面調査において28日、南部分の溝の中から緑釉陶器碗底部3分の1出土。

5月。A区、8面遺構確認するがプランがはっきりせず、トレンチ調査をする。6日の調査において緑釉陶器片出土。28日、南東部に灰分布箇所検出。

B区、6日、南部分の溝の中から緑釉陶器、銅製品片出土。

C区、重機による表土掘削。

6月。A区、8面業者委託によるトータルステーション遺物取り上げ。1号井戸礫集中部調査。

7月。A区、住居調査。3日、雨により水没。23日、刻書紡錘車出土。

C区、1・2面As－A軽石を覆土とする災害復旧溝群を確認する。

8月。A区、住居、土坑、掘立柱建物、1号井戸調査。

9月。A区、土坑、掘立柱建物調査。

C区、1・2面As－A軽石を覆土とする災害復旧溝群を確認する。

E区、重機による表土掘削。

10月。A区、土坑、掘立柱建物調査最終確認。A区調査終了。

C区、3面溝調査。4面64溝調査。5面溝・土坑調査。6面水田調査。

E区、1・2面の天明3年浅間山の噴火に伴う軽石と泥流堆積物を覆土とする災害復旧溝群を確認し調査する。3面、67・68溝、水田畦畔調査。4面近世水田、92溝、1号石組み遺構調査。6面水田、98溝調査。

11月。C区、7面As－B下水田調査。8面、遺物が多く遺物分布図作成。東西に平行に走る84・85溝調査。

E区、4面近世水田、92溝、1号石組み遺構調査。北東部6面水田調査。

12月。C区、9面土坑群調査。調査終了。

E区、北東部6面溝群調査。

1月。D区、重機による表土掘削。1・2面の天明3年浅間山の噴火に伴う軽石を覆土とする災害復旧溝群を確認し調査する。

E区、北東部6面溝群調査。北西部6面畦畔検出。

2月。D区、2面航空写真測量。3面洪水堆積物復旧溝群調査。

E区、6面98溝等溝群調査。

3月。D区、4面近世水田、溝調査。航空写真撮影。

E区、7面As－B下相当調査。畦畔検出できず。航空写真撮影。

【平成12年度】

4月。土器洗浄中にA区8面12住居覆土遺物より石帯検出。

D区、4面近世水田、溝平面実測。5面水田調査。

E区、7面As－B下相当面実測。8面まで重機掘削。溝群調査。

5月。D区、5面水田平面実測。6面まで重機掘削。

※遺構説明会を実施し、説明パンフレッドの配布も行った。

E区、8面溝群調査。9面ＦＡ下水田まで重機掘削し調査。平面図作成。

6月。D区、6面水田調査。7面As－B下水田調査。5日、7面調査中、微高地より古墳時代初頭住居群確認。10面古墳時代初頭住居群調査。

E区、8面溝群調査。9面溝群調査。

7月。D区、10面古墳時代初頭住居群調査。

E区、旧石器試掘。調査終了。

8月。D区、旧石器試掘。調査終了。21日福島曲戸遺跡調査全終了。

e．整理事業の経過

平成13（2001）年4月から平成14（2002）年3月にわたり整理作業を行った。

4月。遺物注記。図面、遺物台帳作成。

5月。遺物取り上げ確認。種別、器種に分類した。遺物整理の課程で、墨書・刻書土器、漆紙文書付着土器が検出された。

6・7・8月。A区の8面の遺物を中心に接合作業・復元作業を行った。
原稿執筆開始。

9月。遺物の写真撮影。遺物実測。

10月。遺物実測。

11月。遺構図トレースを業者委託する。

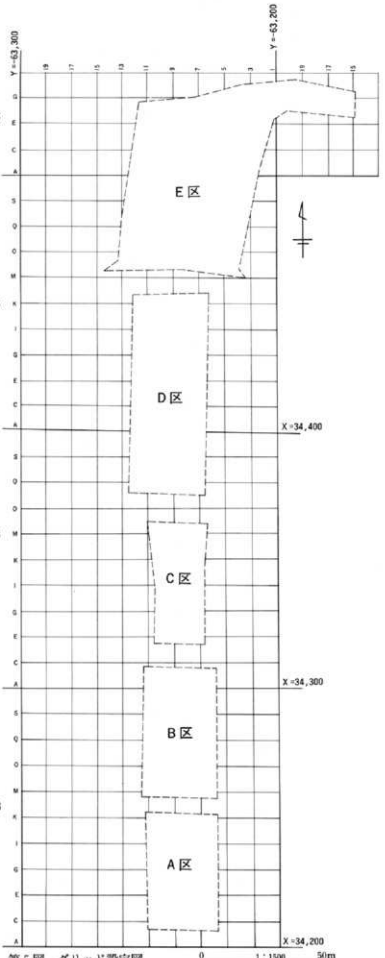
12月。遺物実測図をトレースする。

平成14年1・2月。レイアウト。版下作成。

2月。墨書土器、刻書紡錘車、漆紙文書等文字資料について、国立歴史民俗博物館教授平川　南先生に指導を受けた。

3月。原稿執筆、編集を終える。

平成14年4月。印刷製本に入り、校正を経て平成14年7月19日に報告書を刊行した。



第5図　グリッド設定図

4．遺跡の概要

a．基本土層と確認遺構

福島曲戸遺跡の北を流れる利根川は、中世以降に現在の位置に変流したと考えられている。その「変流」以降利根川は、遺跡周辺地域に洪水による多大な被害を及ぼしている。最近では、昭和22年のカスリン台風により被害を受けている。

このように本遺跡地では、利根川の「変流」以降の洪水層が厚く堆積するとともに、洪水により当時の地表面が押し流されるなどの要因を受けて複雑な土層堆積状況を示している。

以下は、福島曲戸遺跡の基本的な土層の堆積状況である。

第Ⅰ層：現耕作土及び盛土。現水田である箇所には、現耕作土であるⅠb（灰色土）が堆積し、下層には旧耕作土であるⅠc（灰黄褐色土。砂質。鉄分凝縮。）、Ⅰd（灰黄褐色土。灰色砂質土塊少量含む。）が堆積する。圃場整備により削平された箇所はこの限りではない。宅地化された箇所には、Ⅰa（暗褐色土塊と黄橙色土塊の混合層）が盛土され、その下に旧耕作土Ⅰc、Ⅰd等が残存している。

第Ⅱ層：褐色砂質土。昭和22（1947）年のカスリン台風と考えられる洪水災害から復旧した田畠の耕作土。下層上面から田畠を復旧するために掘削した溝群が検出された。

第Ⅲ層：褐色砂質土。As－A混土。天明3（1783）年浅間山噴火による災害復旧後の田畠耕作土。カスリン台風の復旧溝により殆どが攪乱される。層下から天明3（1783）年浅間山噴火による災害復旧のための溝群が検出された。

第Ⅳ層：褐色砂質土。天明3年以前の洪水砂層。Ⅳa、Ⅳb（Ⅳaよりも細砂。）、Ⅳc（Ⅳbを混入するシルト質土）に分層される。利根川に近いE区にのみ堆積する。E区では、この層に覆われた水田、溝が検出された。

第Ⅴ層：黄褐色土。出土遺物、文献資料から寛保2（1742）年の大洪水と推定される洪水層。Va、Vb、Vcの3層に分層される。VaはVc塊を混入する砂質土。洪水復旧後の耕作土。Vbは砂質土、Vcは粘性の強いシルト質土であり、洪水堆積である。Vbの上面から洪水を復旧したと考えられる溝群がD区で検出された。また、この洪水層に覆われた近世水田が検出された。

第Ⅵ層：灰黄褐色土。洪水層。層中、層下に近世の遺物が無く、中世における洪水と考えられる。層厚は、50～100cmで、Ⅵa（明黄褐色土。近世水田の耕作土。Ⅵb塊が混入し、鉄分の凝縮が見られる。）・Ⅵb（粘質土。上部に鉄分凝縮。）・Ⅵc（As－B軽石を僅かに含む粘質土。）に分層される。

第Ⅶ層：Ⅶa（褐灰色土。As－Bを多量に含む。）・Ⅶb（黒褐色土。As－Bを非常に多量に含む。）に分層される。それぞれの上面から水田、溝が部分的に検出された。

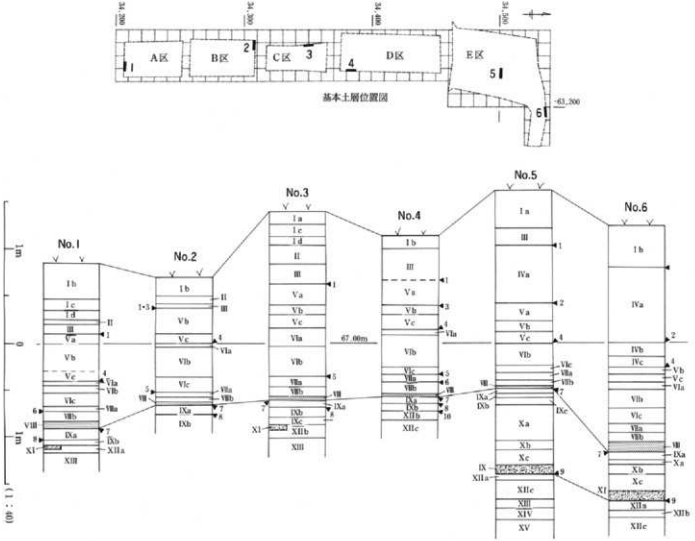
第Ⅷ層：As－B軽石層。下面に灰色火山灰層が薄く堆積する1次堆積である。上部は降灰後の耕作により攪拌される。この層に覆われた水田が検出された。

第Ⅸ層：Ⅸa（黒褐色土。As－B下水田の耕作土。）・Ⅸb（褐灰色土。白色軽石混入。鉄分凝縮。）・Ⅸc（暗赤褐色土。橙色土粒、白色軽石を僅かに混入。）に分層される粘質土。Ⅸcは、C・E区のみに堆積する。A・D区のⅨa層下から古代住居・掘立柱建物跡が検出された。

第Ⅹ層：Ⅹa（にぶい黄褐色土。白色軽石を僅かに混入する細砂質土。）・Ⅹb（灰黄褐色土。鉄分凝縮。）・Ⅹc（にぶい黄褐色土。白色軽石を僅かに混入。粘性に乏しい。）に分層される洪水層。E区のみに堆積する。

第ⅩⅠ層：黄褐色シルト質土。白色軽石混入。テフラ検出分析ではHr－FAに伴って発生した洪水堆積と考えられている。A・B・C区では層厚が薄く、E区では層厚が10～20cmあり、この層に覆われた小区画の水田が検出された。

第ⅩⅡ層：ⅩⅡa（黒色粘質土。As－C白色軽石を混入。）・ⅩⅡb（黒色粘質土。As－C白色軽石の混入なし。粘性はあまり強くなく、しまりなし。）・ⅩⅡc（黒褐色土。白色・黒褐色土粒混入。しまりなし。）・



遺構確認面一覧

確認面	調 査 区	時代	遺　　構
1面	A．B．C．D．E	江戸	浅間A軽石復旧溝
			天明泥流復旧溝
2面	E	江戸	水田．溝．土坑
3面	B．D	江戸	洪水砂復旧溝
4面	A．B．D．E	江戸	水田．土坑
5面	B．C．D	中世	水田．溝．土坑
6面	A．D	中世	水田．溝．土坑
7面	A．B．C．D．E	古代	浅間B軽石埋没水田
8面	A．B．D	古代	住居．掘立．土坑．井戸．溝等
9面	E	古墳	水田
10面	D	古墳	住居．掘立．土坑．溝

第6図　基本土層図

XIIc（黒褐色土。白色・黒褐色土粒混入。しまりなし。）に分層される。E区のXIIa層上面より小区画水田が検出された。D区のXIIb層上面より古墳住居・掘立柱建物跡が検出された。

第XIII層：黄褐色シルト質土。

第XIV層：暗褐色土。As－YP層。

第XV層：灰黄色土。前橋泥流堆積物。

b．遺構の概要

福島曲戸遺跡は、現利根川の自然堤防上に立地している。利根川変流以降は、度重なる洪水層に覆われているが、変流以前は、2万数千年前の浅間山の山体崩壊による泥流堆積物（前橋泥流）と1万数千年前の相馬が原扇状地を形成した榛名山の山体崩壊又は噴火堆積物により台地化された前橋台地上を榛名山方面からの緩斜面上を山麓より発する中小河川により開析された谷地地形の低湿地帯と微高地から成り立っている。

福島曲戸遺跡における遺構の構成は、縄文時代の土坑。古墳時代の竪穴住居・掘立柱建物・土坑・溝・水田。平安時代の竪穴住居・掘立柱建物・土坑・井戸・溝・水田。中世の水田2面、それぞれ、溝、土坑。近世の水田2面。近世の洪水災害を復旧した遺構。天明三年の浅間山の噴火に伴う泥流及び降下軽石による災害を復旧した遺構。それぞれに伴う土坑、溝が検出されている。

縄文時代では、墓壙の可能性のある土坑一基、土器片30点、石鏃15点、打製石斧10点、その他石器17点が出土している。

古墳時代では、前期の竪穴式住居14軒、掘立柱建物1棟とHr－FAに覆われた水田が検出された。前期の集落は、D区中央部の微高地上にあり、集落の範囲は南北には限定されたが、東西には広がる可能性がある。水田は、集落北側のE区から144区画が検出された。

古代では、平安時代の竪穴式住居14軒、掘立柱建物34棟、As－Bに覆われた水田が検出された。平安時代の集落は、A区において検出され、その範囲は東西に伸びる可能性がある。集落から出土した遺物の量は異常である。内容も灰釉陶器、青磁、漆紙が付着した土器、墨書土器、「上野国」等線刻の入った紡錘車など特殊な遺物が検出され、官衙に関係の深い遺構であると考えられる。また、水田は調査区全域から検出されたが、As－B軽石降下後の耕作による攪乱も多く、必ずしも残存状況は良いとは言えない。

中世では、2時期の水田が検出されている。2時期ともその後の耕作による攪乱が多く入り検出は部分的である。B区の64溝、E区の22溝と大きな溝が検出されており、大規模な開発が行われていたことが窺われる。

近世は、利根川変流後の堆積物の多さから検出面が複数となっている。利根川変流後、福島曲戸遺跡地域は、水田として開発されている。水田畦畔は、調査区全域で検出されているが、部分的な検出が多い。次にこの水田は、洪水堆積物により一気に埋もれてしまう。埋まった水田は、B区とD区では溝を掘削して天地返しを行い、耕地を復旧している。A区とC区ではその後の攪乱が深く入り、B・D区のような溝は検出することはできなかった。復旧された耕地は、埋もれた水田区画とは異なり、むしろ天明三年の浅間山噴火の火山災害後に復旧した土地区画に近いと考えられる。E区はそのまま新たな畦畔と水路を設置し水田耕作を継続している。これが近世2面目の水田である。その後再び天災がこの地を襲う。天明三年（1783）浅間山噴火による降下軽石と吾妻川から利根川に流れ込んできた泥流によりこれらの耕作地は埋没してしまう。しかし、この地の人々は再び溝を掘り天地返しを行い、耕地を復旧している。この復旧した痕跡の溝群は、調査区全域から検出されている。このような天地返しによる耕地の復旧は昭和22年のカスリン台風の際にも行われている。

表2　検出遺構一覧表

確認面	調査区	住居	掘立	竪穴	土坑	井戸	溝	水田	復旧溝
1	A						1		4
	B								8
	C								6
	D								16
	E								23
2	E						8	4	
3	B								7
	D								6
	E								
4	A						0	3	
	B				1		3	—	
	C				2		4	—	
	D						3	4	
	E		1		6		6	—	
5	B						1	4	
	C						7	4	
	D							7	
	E						10		
6	A				6			—	
	B				8				
	C				4				
	D				1			7	
	E				15				
7	A							7	
	B							7	
	C							4	
	D							5	
	E							3	
8	A	14	34	7	243	2	12		
	B			3	40		6		
	C				12		2		
	D	2					2		
	E				26		19		
9	E							144	
10	D	14	1		12				
	E				1				

Ⅱ　発掘調査の成果

1．縄文時代の遺構と遺物

a．概要

縄文時代の遺物については土器および石器が調査区全域にわたり出土している。出土量は少なく、土器片が十数点、石器は石斧、石鏃、スクレーパーなどの定型石器も認められるが大半が剝片である。いずれの遺物も他時期の遺構の混在もしくはグリッド出土である。

遺構についても竪穴住居などの明確な検出例は乏しい。その中でD区において古墳時代住居（40号住居）の掘り方調査に伴い土坑が１基検出されている。縄文時代の遺構としてはこの862号土坑のみである。

b．土坑

862号土坑（第７図、ＰＬ42）

25Ｂ－９グリッドに位置し、40号住居の掘り方調査に伴い検出されている。残存状況は住居掘り方により攪乱をうけていることによりあまりよくない。平面形は大型楕円形を呈するものとみられる。

検出状態では不整形となるが、部分的な攪乱によるものだろう。規模は長軸300cm、短軸213cm、深さ18cmである。底面はわずかに起伏を持つがほぼ平坦で、壁はゆるやかに立ち上がる。

なお、この土坑は住居掘り方調査によって検出された遺構である。そのため、当初は住居に伴うものと考えられた。しかし、この住居は底面が20cm前後掘り下げられる掘り方をもち、土坑状の掘り込みは認められていない。さらに、土坑底面から縄文土器が出土していることから縄文時代の遺構と考えられたものである。

土器の出土状況については２点の土器が出土しているが、Ｐ２（深鉢底部）は土坑南端部で倒位状態で検出されている。住居掘り方の影響により原位置を保っているか不明な点もあるが、検出状況からみると墓壙の可能性も考えられる。

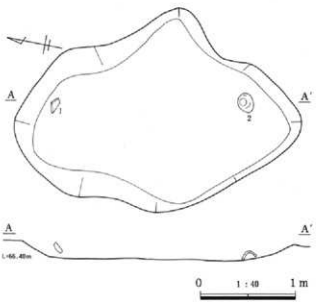
862号土坑出土土器（第８図、ＰＬ42）

遺物は土坑底面に接して２点の土器が出土している。また、接合関係はないがＰ１と同一個体と考えられる口縁部片が土坑埋役土から１点出土している。なお、Ｐ１とＰ２は別個体と思われる。Ｐ１は波状口縁片で、口縁部に沿って微隆起線文が巡り、以下弧状の区画文が施される。縄文はＲＬ横位であるものの施文方位は不規則である。Ｐ２は底部片で、不鮮明だがＰＬが観察される。施文方位は一定せず、条は縦走する部分がある。加曽利Ｅ４式土器である。

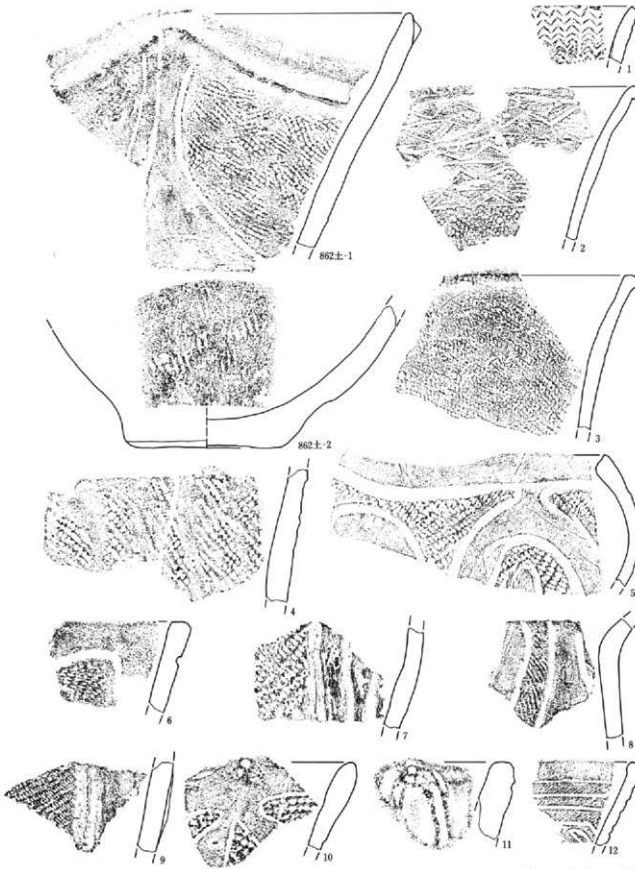
c．グリッド出土土器（第８図１～12、ＰＬ60）

縄文土器については総数30点程出土しているが、大半が小破片であり時期のわかるものは少ない。出土位置は調査区全域におよび、遺跡の主体を占める土師器や須恵器と混在して出土している。遺構としては862号土坑が縄文時代に属するものとして認められるのみである。時期は早期、前期、中期、後期の土器が断片的に確認されることから、周辺において集落の存在も考えられよう。

１は山形押型文土器である。口唇上端に面を形成する。２、３は諸磯ａ式土器である。２は平行山形文により口縁部部文様帯が形成され、胴部はＲＬ横位が施される。３は口唇端部が把握し、ＲＬ横位。４～９は加曽利Ｅ４式土器である。土坑も１基確認されており、出土数量も多い。10は弥名寺式土器、11は堀之内１式土器、12は堀之内２式土器である。



第７図　Ｄ区862号土坑



第8図　D区862号土坑出土遺物とグリッド出土遺物(1)

d　グリッド出土石器　　麻生敏隆

縄文時代の石器が43点出土している。器種は、尖頭器、有舌尖頭器、打製石鏃、石刃、打製石斧、削器、加工痕ある剥片、使用痕ある剥片、石核、くぼみ石である。

尖頭器と考えられる資料は1点出土している。薄手で先端部が鋭く尖っており、最大幅がほぼ中央に位置し側縁が「く」の字状に折れており、基部は平基である。新潟県小瀬ヶ沢遺跡などにみられる木葉形や菱形の打製石鏃に類似していることから、分類が異なる可能性もある。石材はチャートである。

有舌尖頭器は4点出土し、2は細身で返し部が突出する縄文時代草創期を代表するいわゆる「小瀬ヶ沢型」と呼称される資料である。茎部が欠損しており、石材は黒色安山岩である。3～5は側縁がやや内反し平らな返しで茎部が逆三角形である。これらは打製石鏃の一部と捉える考え方もできるが、小型の有舌尖頭器と分類する。石材は黒色頁岩である。

打製石鏃は、その形態から2種に分類される。平基は6の1点のみで、石材は黒色頁岩である。7～13は凹基で、浅い抉りの7～9、深い抉りの10～13に細分される。10は他の資料に比べて両側縁がやや内湾し、脚部がやや外側に広がる形状である。14は先端と基部を欠損しており、形状は不明。石材は黒色頁岩（2～5）、黒色安山岩（6、12、13）、チャート（1、7、9～11、14）である。15は黒曜石の石刃。

打製石斧は未製品を含めて10点出土している。破損による再生加工が加えられることの多い資料であり、本来の形状を保っているかはっきりしないが、現状の形状から短冊形と撥形、それに分銅形に分類される。16・17は頭部に比べて刃部がやや幅広いものの、側縁がほぼ直線であることから短冊形とする。石材は粗粒輝石安山岩と黒色頁岩である。18～20は側縁がほぼ中央で外反することから撥形とする。石材は黒色頁岩（18・19）と粗粒輝石安山岩（20）である。21は刃部が欠損しており、分類不可能である。22は厚手で大型の片刃の撥形である。石材は黒色頁岩である。23・24は分銅型で、石材は黒色頁岩と黒色安山岩である。23は片方を欠損しているものの、肩平に近い剥片を素材として両側縁のほぼ中央のみに小さな抉りが入る特徴的な形状である。24は刃部と頭部、それに左右両側縁側縁の非対称な様子からリダクション（再生）途上の資料とも考えられる。25は礫面が残存する分割した大型の剥片を素材とし、側縁からの調整加工の様子から打製石斧の未製品と判断した。石材は黒色頁岩である。

削器は8点出土した。主として横長剥片の長辺に調整加工を加えている。石材は黒色頁岩（26・27・30～33）と珪質頁岩（29）、黒色安山岩（28）である。

加工痕ある剥片（34～36）は3点とも黒色頁岩。

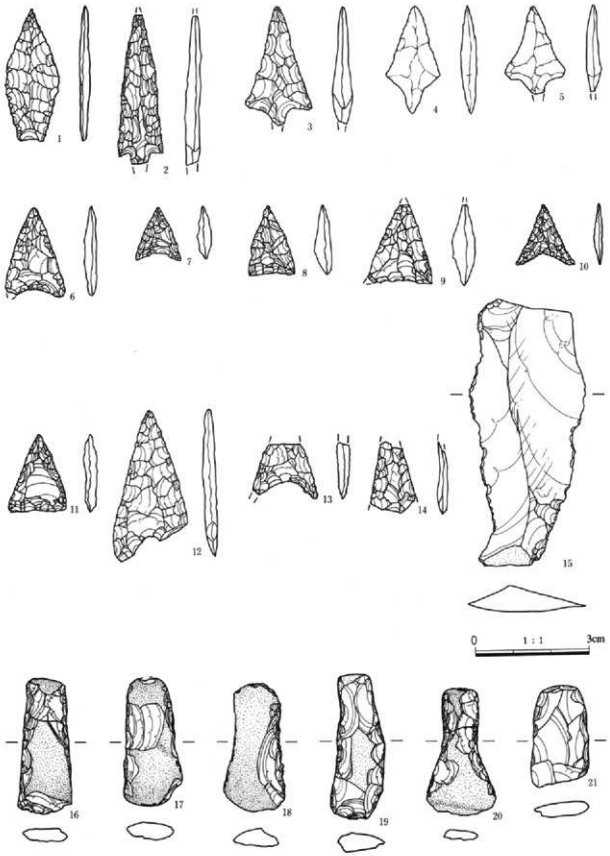
使用痕ある剥片は1点出土し、黒色頁岩である。

石核は5点出土し、分割した礫を素材とし一方向、あるいは周縁から中心に向け求心的な剥離を加えている。黒色頁岩(39～41)と珪質頁岩(42)、砂岩(38)。

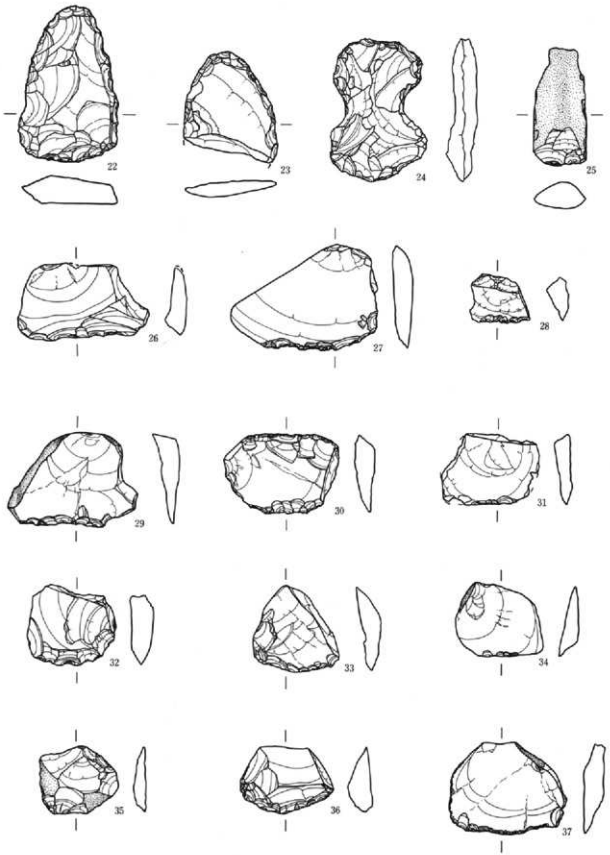
くぼみ石は粗粒安山岩で両側に一個づつ穴が開く。

本遺跡出土の石器の特徴は、縄文時代草創期の存在があげられる。遺跡は、前橋台地上の標高66m前後の、椽名山中腹や扇状地末端の湧水地点から流下する小河川によって形成された、北西から南東方向に延びる微高地上に位置する。前橋台地は浅間山の山体崩壊に伴う堆積物である前橋泥流や前橋泥炭層などから構成され、その形成は前橋泥炭層中に1.3～1.4万年前に降下した浅間板鼻黄色軽石（As－YP）が上位に存在することから、それ以後と考えられている。最近、この地域でも縄文時代草創期の遺構や遺物が検出されており、その形成年代を追証している。遺跡としては、前橋市徳丸仲田遺跡での竪穴住居と推定される窪み遺構や隆線文土器や有舌尖頭器、尖頭器などの石器群、前橋市西善尺司遺跡や高崎市元島名瓦井遺跡・同市岩鼻坂上北遺跡の有舌尖頭器があげられる。

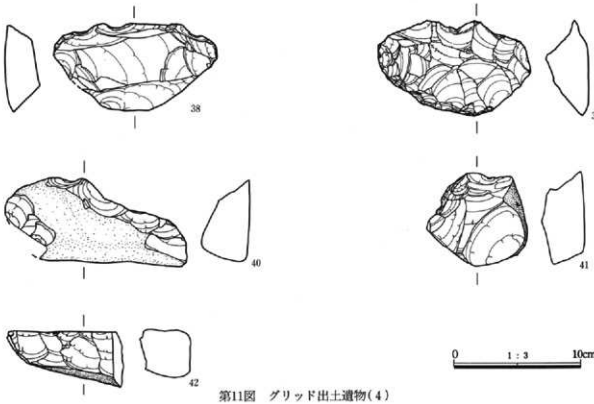
次に、分銅型の打製石斧については、その出現時期は群馬では縄文時代中期後半から後期に限られ、特に23のように両側縁のほぼ中央のみに小さな抉りが入る資料は、後期前半に限定される特徴的な形状である。



第9図　グリッド出土遺物(2)



第10図　グリッド出土遺物(3)



第11図　グリッド出土遺物(4)

2．古墳時代の遺構と遺物

a．概要

D区10面において古墳時代の集落を確認した。この検出面は第7面浅間B軽石埋没水田耕土下にあたり、同水田面においても古墳時代土器の出土が認められた。遺構群はD区中央部に存在する微高地上に存り、南および北側については限定されるものの東および西側には集落の広がりが認められる。検出遺構は竪穴住居14軒、掘立柱建物1棟、大型土坑2基、井戸2基、土坑12基などを中心とする。他にE区で1基土坑が認められた。

b．竪穴住居

14軒の竪穴住居のうち3軒については調査区縁辺部における部分的確認にとどまる。他11軒については良好な状態で検出されている。各住居は平面形および柱穴配置に規格性が看取できることから次のような分類が可能である。

平面形は次のA～Fの6形態をみることができる。

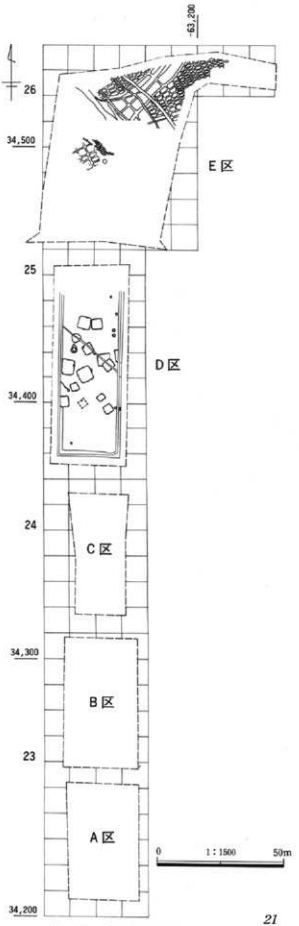
• 平面形A

460×440cm前後の平面規模で短軸長軸比が1.1：1程度を示すほぼ方形を呈する住居。42号住居、49号住居が該当する。いずれも床面積は17m²前後である。やや床面積が大きいが47号住居も含まれる。また、西端部が調査区外であるが確認された形態の比較から44号住居も類するとみられる。なお、これらの住居は重複がない。

• 平面形B

560×520cm前後の平面規模で短軸長軸比が1.1：1程度を示すほぼ方形を呈する住居。46号住居、48号住居が該当する。床面積は26m²前後である。

なお、48号住居と49号住居は重複関係にあり、49号住居が新しい。また、46号住居と47号住居は新旧関係は把握されていないが接した位置にあることから時間的前後関係をもつ。このことからみると平面形Aと平面形Bは時間的関係をもつものと考えられ、48号－49号住居の重複例から平面形Aが平面形Bより新しいものと判断できる。



第12図　古墳時代遺構位置図

・平面形C

640×625cmの平面規模で、長軸短軸比はほぼ1：1を示し、方形を呈する。同期住居中最も大きい。40号住居が該当する。

・平面形D

685×545cmの平面規模で、長軸短軸比は1.3：1を示し、長方形を呈する。41号住居が該当する。床面積は31.42m²で、40号住居に近い規模をもち検出された住居では大形に属する。

・平面形E

370×350cm前後の平面規模で、長軸短軸比は1.1：1程度を示す。床面積は10m²前後の小規模な住居である。45号・51号住居が該当する。

・平面形F

330×260cmの平面規模で、確認された住居中最も小さい。長軸短軸比は1.3：1で長方形平面を呈し、平面形Dと相似形の関係にある。50号住居が該当する。

柱穴構成が確認された住居は前記平面形A～Dに含まれる8軒である。これらの住居には次のIおよびIIの柱穴配置が認められる。

・柱穴配置I

240×240cmの柱間規模で、住居対角線上に配置される。41号・42号・44号・47号・48号・49号住居に認められる。

・柱穴配置II

300×260cmの柱間規模で、40号および46号住居に認められる。

なお、40号住居は掘り方調査に伴い柱穴配置IIIも確認されていることから、柱穴配置IからIIへの建て替えもしくは拡張が行われたものとみられる。

40号住居（第14・15図、PL3・64）

位置　25B－9グリッド

重複　住居下に縄文土坑（862号）が存在する。

長軸方位　N－25°－W

形態　平面形C　　柱穴配置II。掘り方調査により柱穴配置Iも確認されていることから、建て替えもしくは拡張が行われたものとみられる。

規模　640×625cm　　床面積　32.50m²

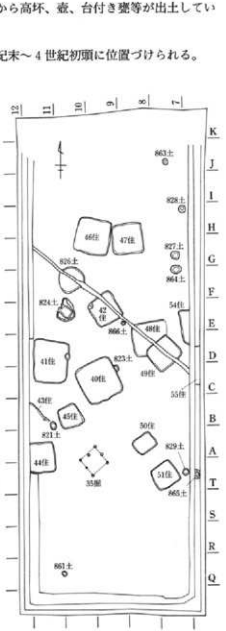
炉　住居中央やや北東寄りに炭化物、焼土集中部が認められる。掘り込みはなく、床面上に設定される。また、住居縁辺に焼土の散布がブロック状に認められるが焼失住居の痕跡は乏しい。

床　掘り方埋土上面に硬質面が形成され、良好な床面が検出されている。

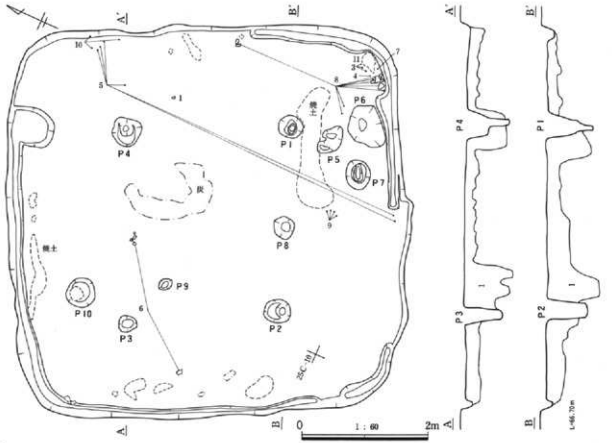
掘り方　床面下40cm前後掘り込まれ、ロームブロックを含む黒褐色土により埋土される。

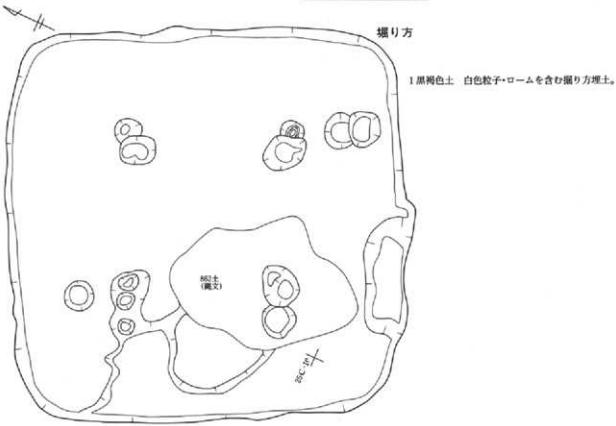
遺物　床面から高坏、壺、台付き甕等が出土している。

時期　3世紀末～4世紀初頭に位置づけられる。

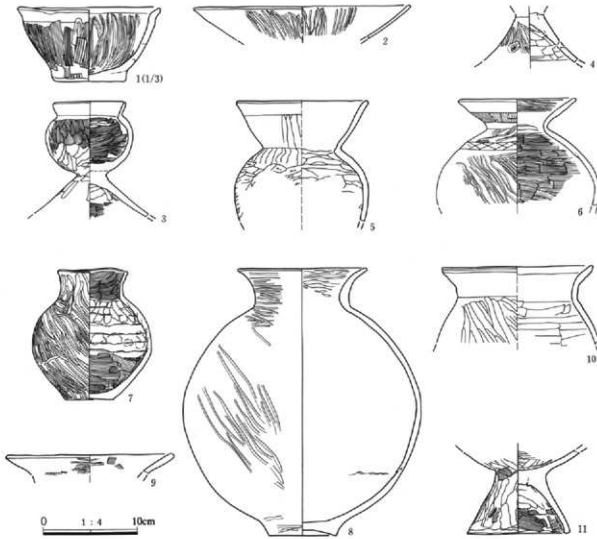


第13図　住居配置図（D区）（1：600）





第14図　D区40号住居



第15図　D区40号住居出土遺物

41号住居（第16・17図、ＰＬ４・64・65）

位置　25Ｃ－10グリッド

長軸方位　Ｎ－2°－Ｅ

形態　平面形Ｄ　　柱穴配置Ⅰ

規模　685×545cm　　床面積　31.42㎡

炉　住居中央やや東よりに焼土、灰の集中部が認められた。掘り込みはなく、床面状に設置される。

床　掘り方埋土上面に硬質面が形成される。縁辺部はやや軟弱であるが、柱穴範囲内は良好な床面が検出されている。

掘り方　西側部に土坑状の掘り方が認められる。

遺物　完形土器が北西側に集中する傾向がある。

時期　3世紀末～4世紀初頭に位置づけられる。

42号住居（第18図、ＰＬ5・65）

位置　25Ｅ－9

グリッド重複　209号溝に切られる。

長軸方位　Ｎ－32°－Ｗ

形態　平面形Ａ　　柱穴配置Ⅰ

規模　455×420cm　　床面積　16.48㎡

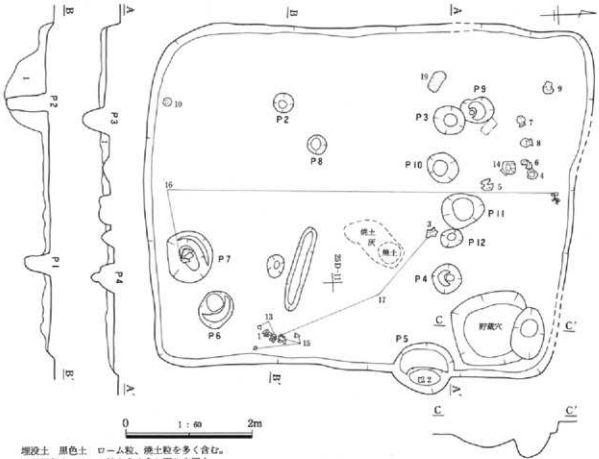
炉　不明

床　掘り方埋土上面に硬質面が形成される。住居西隅に貯蔵穴とみられる土坑が存在する。

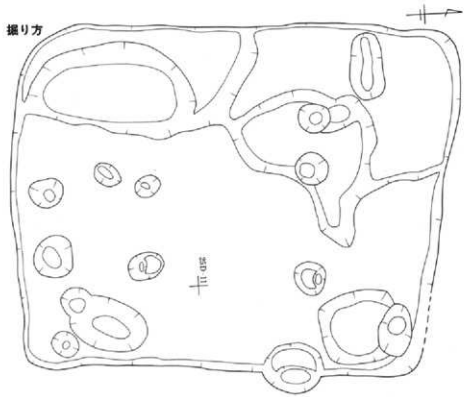
掘り方　1辺250cm、深さ30cm前後の方形の掘り込みが認められる。

遺物　高坏、壺、甕等が埋没土中から出土している。

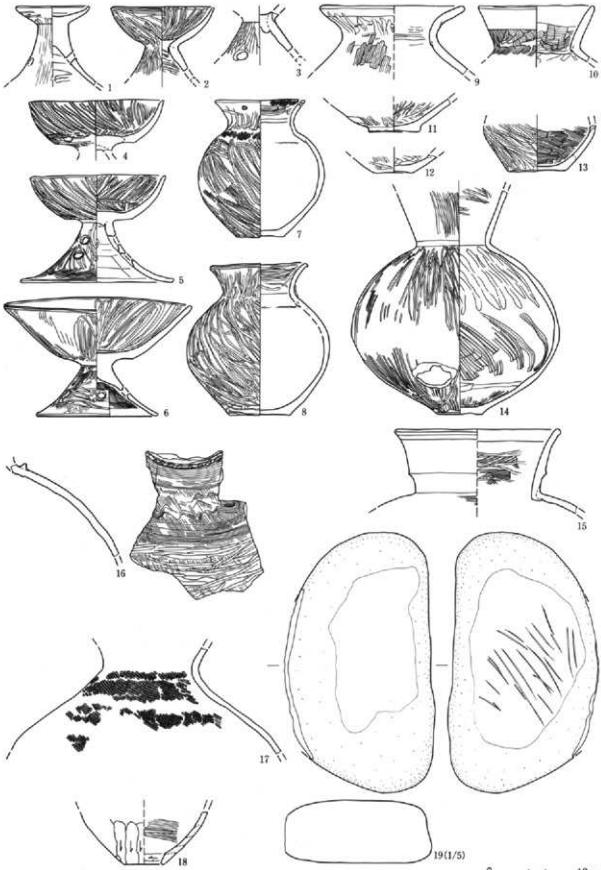
時期　3世紀末～4世紀初頭に位置づけられる。



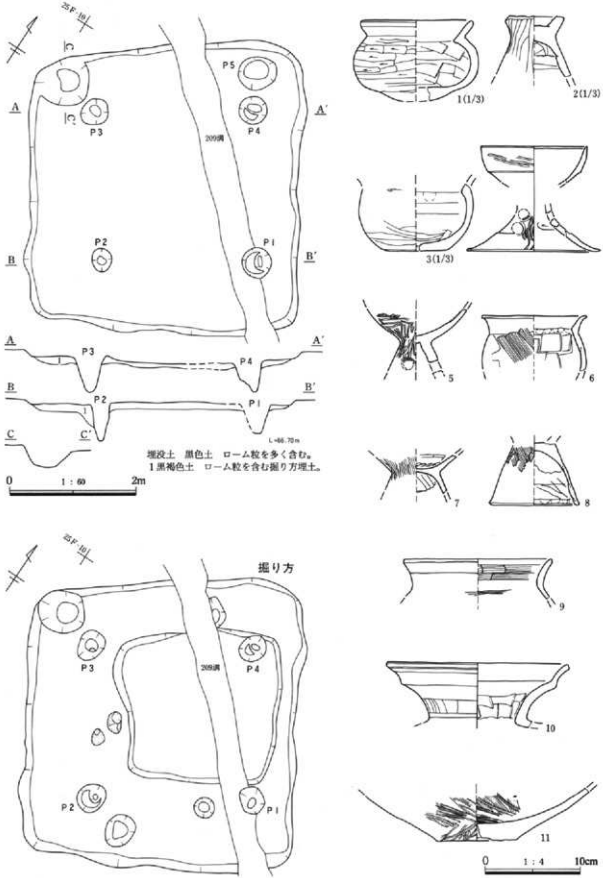
埋設土　黒色土　ローム粒、焼土粒を多く含む。
1黒褐色土　ローム粒を多く含む掘り方埋土。



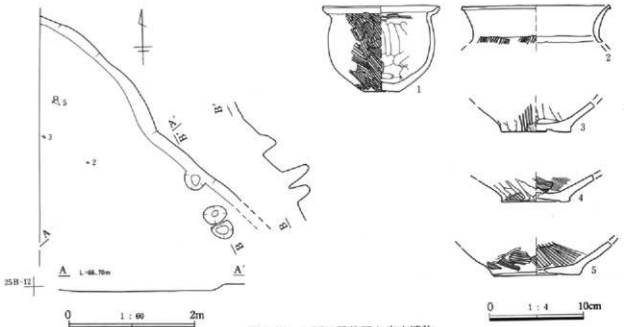
第16図　D区41号住居



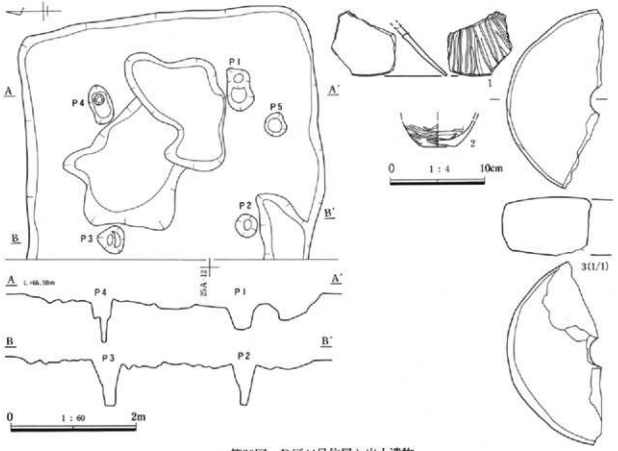
第17図　D区41号住居出土遺物



第18図　D区42号住居と出土遺物



第19図　D区43号住居と出土遺物



第20図　D区44号住居と出土遺物

43号住居（第19図、ＰＬ５・65）

位置　25Ｂ－11グリッド

調査区西端部において確認された住居で、部分的検出にとどまる。また、南側についても傾斜部にあたり平面形状は把握できていない。床面はやや軟弱であるが、甕、小型甕等が直上から出土している。

時期　４世紀初頭に位置づけられる。

45号住居（第21図、ＰＬ６・65）

位置　25Ｂ－10グリッド

長軸方位　Ｎ－27°－Ｅ

形態　平面形Ｅ　　柱穴は確認されていない。

規模　365×340cm　　床面積　10,34㎡

炉　部分的に焼土、炭化物の散布は認められたが、炉については検出されていない。

床　掘り方埋土上面に硬質面が形成されている。ほぼ水平で良好な床面が検出された。

掘り方　深さ20～30cm程度の不定形な土坑状の掘り込みが認められる。

遺物　床面に接して台付き甕、高坏、刀子等が出土。

時期　４世紀初頭に位置づけられる。

44号住居（第20図、ＰＬ５・65）

位置　24Ｔ－11グリッド

形態　平面形Ａ　　柱穴配置Ｉ

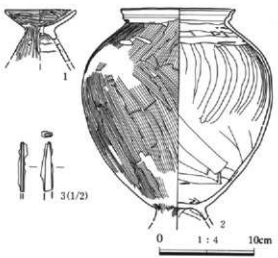
規模、床面積については住居西側が調査区外のため不明であるが、47号住居と比較すると平面形、柱穴配置ともほぼ同一規模であることものと判断される。

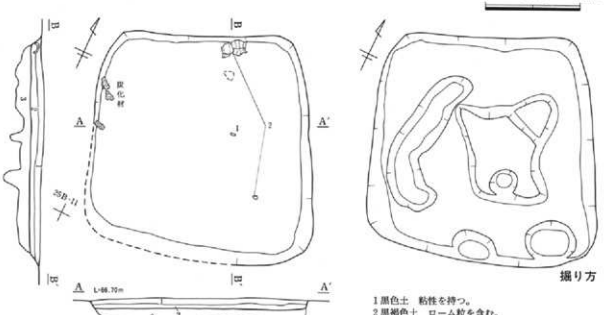
床　床面はほとんど残存せず、掘り方が検出されている。そのため炉についても不明である。

掘り方　中央部に不定形な土坑状の掘り込みが認められる。

遺物　掘り方から土器片、土製紡錘車が出土。

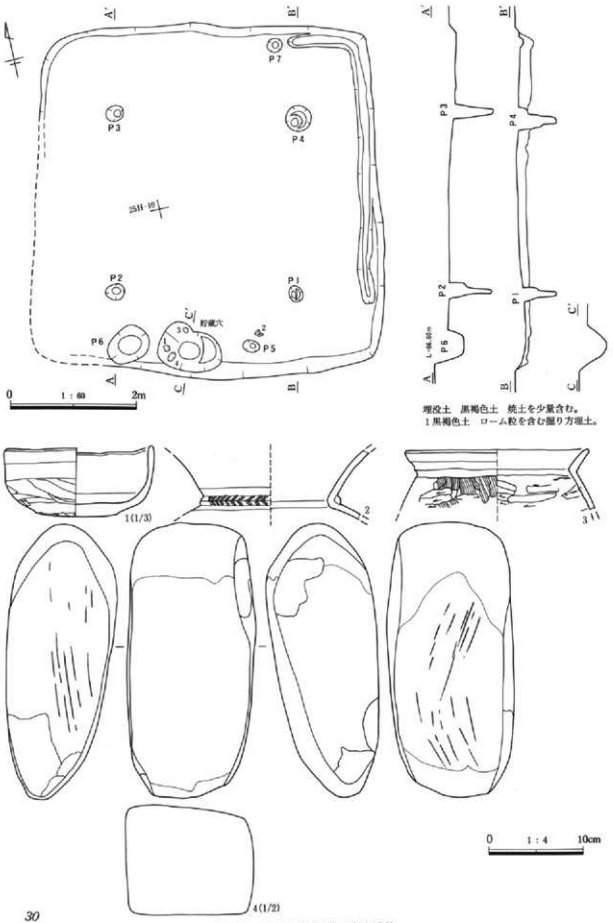
時期　４世紀初頭に位置づけられる。





1黒色土　粘性を持つ。
2黒褐色土　ローム粒を含む。
3黒色土　ロームブロックを含む掘り方埋土。

第21図　Ｄ区45号住居と出土遺物



第22図　D区46号住居と出土遺物

46号住居（第22図、ＰＬ８・66）

位置　25Ｇ－９グリッド

長軸方位　Ｎ－11°－Ｅ

形態　平面形Ａ　　柱穴配置Ⅰ

規模　570×530cm　　床面積　26.51㎡

炉　住居中央～西半部の床面が遺失しているため、炉も不明である。

床　住居東半部において良好な床面が検出されたが、西半部では残存状態が悪く掘り方のみの確認であった。なお、壁についても西側部は遺失し、西南隅付近はほとんど残存しない。

掘り方　床面下を20cm前後掘り下げている。土坑状の掘り込みは認められない。

遺物　住居残存状態があまりよくないため、出土遺物は少ない。鉢、壺、甕などとともに砥石が貯蔵穴を中心に出土している。

時期　４世紀

47号住居（第23・24図、ＰＬ７・66）

位置　25Ｇ－８グリッド

長軸方位　Ｎ－４°－Ｗ

形態　平面形Ａ　　柱穴配置Ⅰ

規模　485×480cm　　床面積20.42㎡

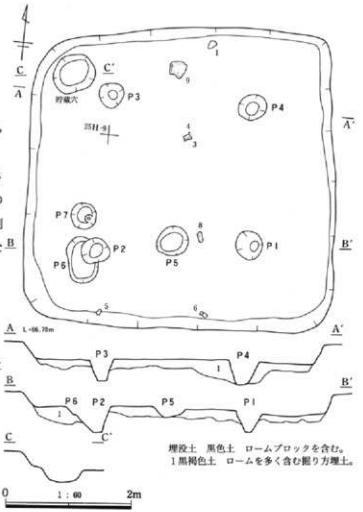
炉　不明。焼土集中部および床面上の赤化部などは認められていない。

床　掘り方埋土上面に硬化面が形成される。床面はほぼ平坦で、周溝は認められない。北西隅付近には貯蔵穴とみられる径60cm、深さ20cmの土坑がある。

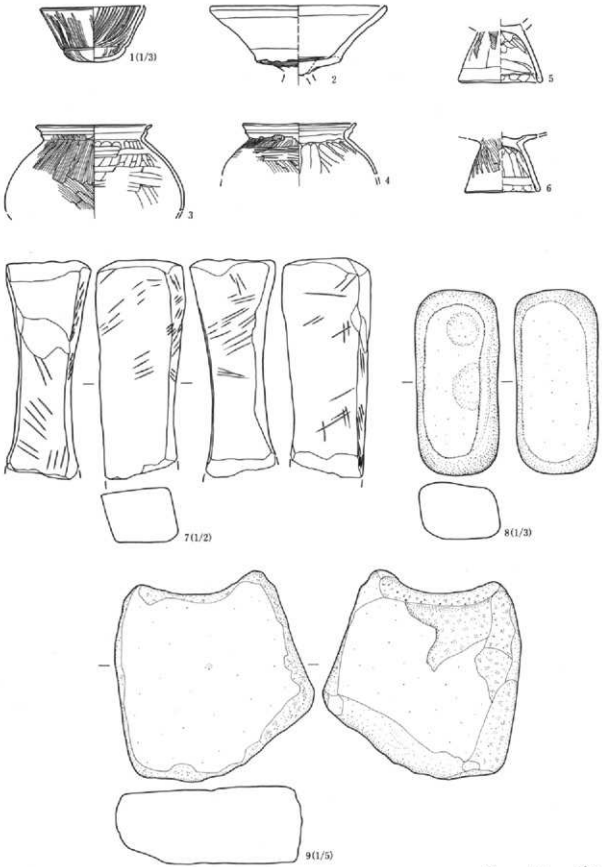
掘り方　床面下を15～30cm程度不規則に掘り下げられる。土坑状の掘り込みは認められない。

遺物　土器は埋没土下層から床面にかけて出土する。完形もしくは大形品はなく、いずれも破片である。また、住居北側中央には幅30cm、厚さ12cmの扁平礫が床面上で検出されている。

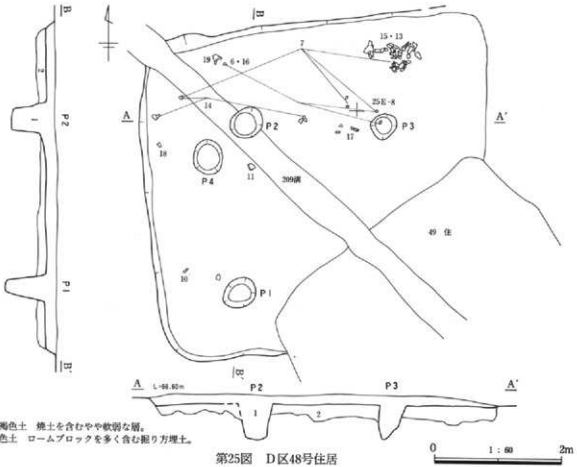
時期　４世紀



第23図　Ｄ区47号住居



第24図　D区47号住居出土遺物



第25図　D区48号住居

48号住居（第25・26図、ＰＬ８・67）

位置　25Ｄ－７グリッド

長軸方位　Ｎ－83°－Ｅ

形態　平面形Ｂ　　柱穴配置Ⅰ

規模　(5.60)×5.20m　　床面積（25.26㎡）

重複　48号住居→49号住居→209号溝

炉　住居中央に209号溝が掘り込まれることもあり炉は不明である。

床　住居中央部を主として良好な床面が検出されている。なお、縁辺部については硬質面が認められずやや軟弱な面となっている。

掘り方　床面下15cm前後掘り下げられ、ロームブロックを含む暗褐色土により埋土される。なお、上面には床面となる硬質面が形成される。

遺物　高坏、壺、鉢、甕、台付き甕等とともに土製の支脚状製品もある。いずれも床面からの出土。

時期　４世紀前半

49号住居（第27図、ＰＬ８・67）

位置　25Ｃ－７グリッド

長軸方位　Ｎ－50°－Ｅ

形態　平面形Ａ　　柱穴配置Ⅰ（北側の２柱穴について未確認となるが、確認された柱穴位置から推定）。

規模　455×430cm　　床面積　17.04㎡

重複　48号住居→49号住居→209号溝

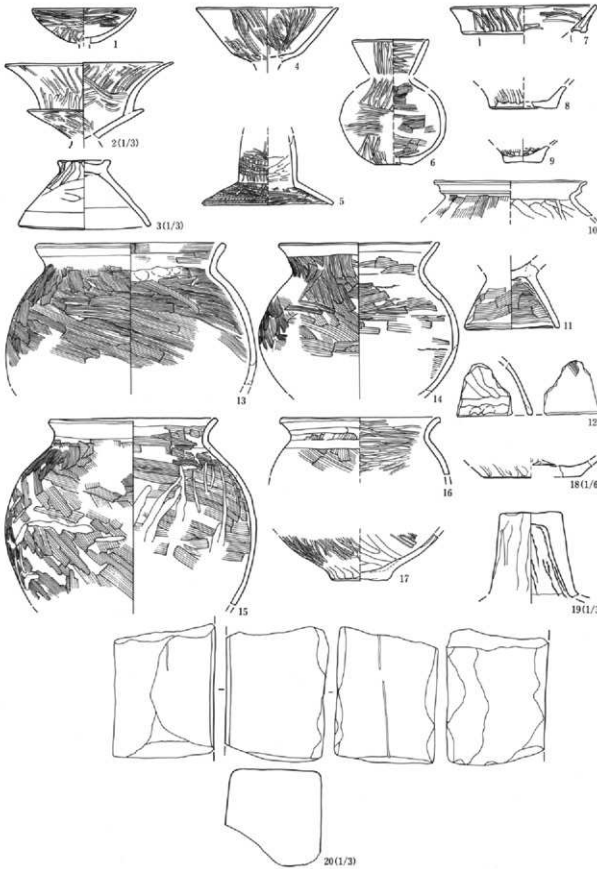
炉　住居中央に209号溝が掘り込まれることもあり炉は不明。

床　住居中央部分は良好な床面が検出されているが縁辺部はやや軟弱な面となっている。

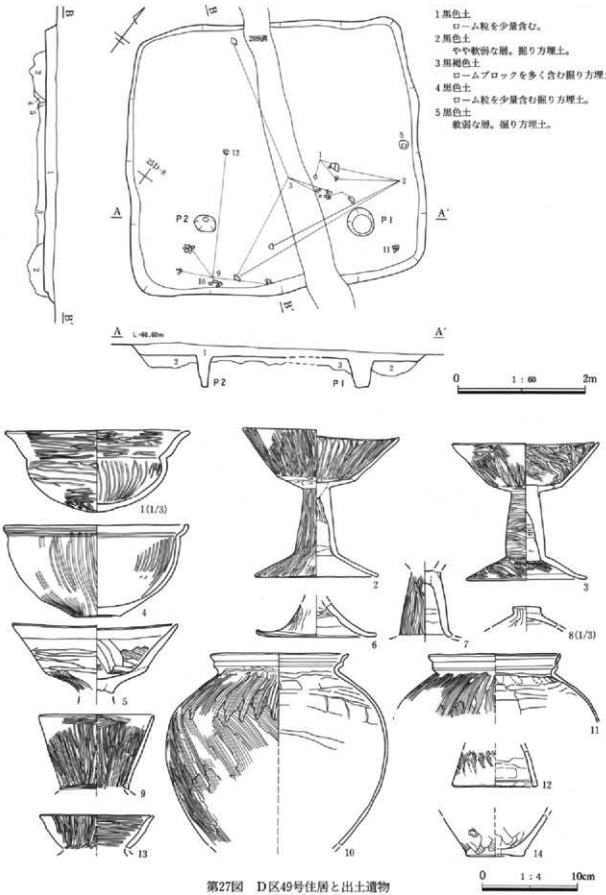
掘り方　中央部分は床面下10cm前後、縁辺部は20cm前後と周辺部がやや深い掘り方をもつ。南西隅には大形自然礫が認められた。

遺物　鉢、高坏、甕および蓋等が床面から出土する。

時期　４世紀



第26図　D区48号住居出土遺物



第27図　D区49号住居と出土遺物

50号住居（第28図、ＰＬ９・68）

位置　28Ａ－８グリッド

長軸方位　Ｎ－55°－Ｅ

形態　平面形Ｆ　　柱穴　床面および掘り方において計６穴が確認された。やや不規則であるが配置からＰ３～Ｐ６の４本構成が考えられる。

規模　330×260cm　　床面積　7.24m²

炉　不明

床　掘り方埋土上面に硬質面が形成される。

掘り方　全体的に10cm前後掘り下げられるが、東西側にやや深めの掘り込みが認められる。

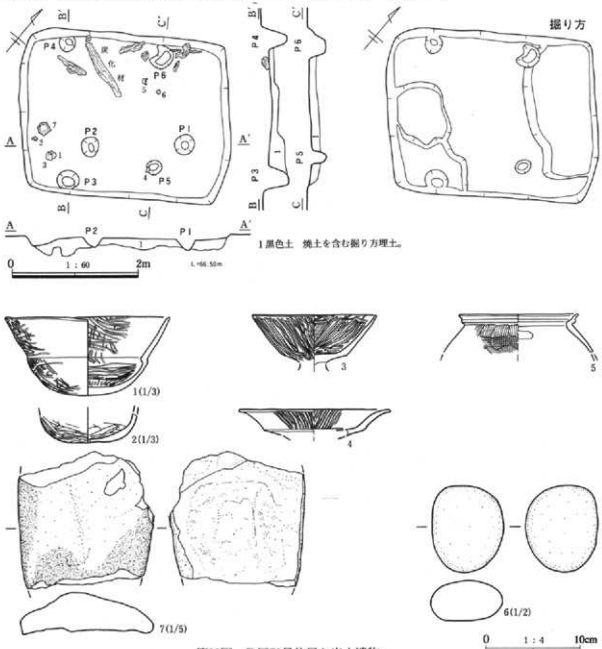
遺物　床面から坏、高坏、甕等とともに被熱礫の出土もみられる。

時期　４世紀前半

その他　北壁に接して炭化材が確認された。壁や床面等に被熱の痕跡は認められていないが焼失住居の可能性がある。炭化材は出土位置からみて柱材と考えられる。

51号住居（第29図、ＰＬ８）

位置　24Ｔ－７グリッド



第28図　Ｄ区50号住居と出土遺物

長軸方位　N－58°－E

形態　平面形E

柱穴　住居中央北西寄りに径30cm、深さ20cmの小穴が検出されている。柱穴の可能性のあるものはこの1穴のみであるため柱穴構造は不明である。

規模　3.90×3.75m　　床面積　12.36m²

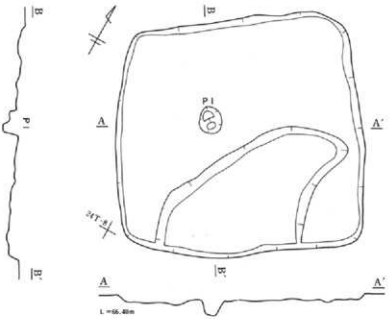
炉　不明

床　床面はほとんど遺失している。

掘り方　全体に不規則な掘り方をもち、南側部分に不定形な土坑状の浅い掘り込みが認められる。

遺物　埋没土中から土器小破片がわずかに出土。

時期　4世紀



第29図　D区51号住居

54号住居（第30図、ＰＬ7・68）

位置　25D－6グリッド

検出状況　D区東壁部側において確認されたもので住居西端部のみの部分的な調査にとどまる。

また、北西隅部に攪乱を受けているため、より住居の残存状態を不良にしている。

形態　部分的確認のため平面形状は把握できないが検出部分の南北長を計測すると5.30mあり、今回調査した住居と比較すると平面形Bに該当する規模となる。炉、柱穴も検出部分では未確認である。

床　一部に床面と観察される硬質面が確認された。

掘り方　ロームブロックを含む黒褐色土により埋土されるが、調査範囲が些少のため明確な掘り方は把握できなかった。

遺物　ほぼ完形の台付甕が床面上で横倒状態で出土したほか、鉢、高坏、壺等の破片が床面から出土している。

時期　4世紀

55号住居（第31図、ＰＬ68）

位置　25C－6グリッド

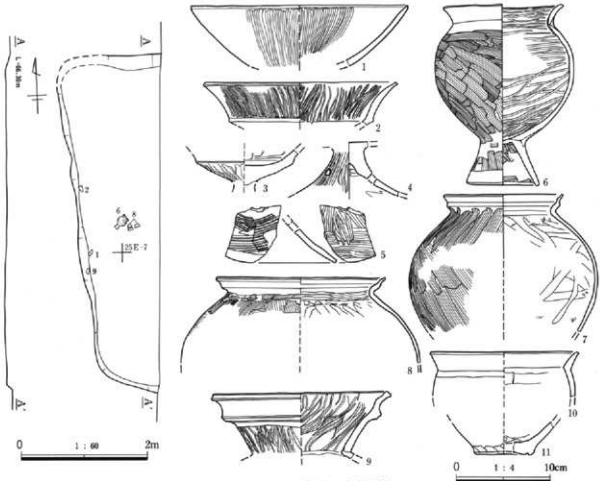
検出状況　D区東壁部において確認された。調査に伴う排水溝掘削の際、壁面に住居断面が観察されたことにより検出した遺構である。そのため、遺構の大半が遺失しており、平面形や規模などは把握できていない。炉、柱穴等も未確認である。

床　平面では未確認であるが、土層断面により床面が確認されている。

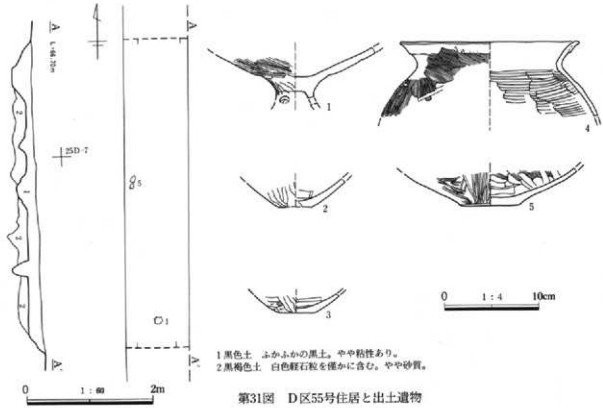
掘り方　土層断面により確認されている。

遺物　高坏、甕等が出土している。

時期　4世紀



第30図　D区54住居と出土遺物



1 黒色土　ふかふかの黒土。やや粘性あり。
2 黒褐色土　白色軽石粒を僅かに含む。やや砂質。

第31図　D区55号住居と出土遺物

c．掘立柱建物（第32図、ＰＬ９）

位置　24Ｆ－９グリッド

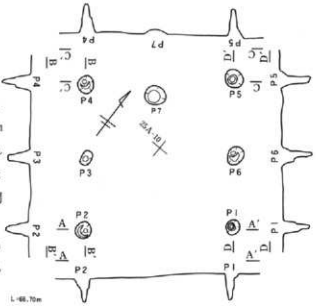
主軸方位　Ｎ－51°－Ｅ

規模　320×320cm

柱間　２間×１間。確認柱穴は東側、西側で２間、南側、北側で１間である。柱間は東西側で１間160cmである。しかし、北側中央付近にはやや位置がずれるが小穴が認められる。深さが10cmと浅く他柱穴とは大きな相違があり、伴うものか疑問もあるが２間×２間となる可能性もあろう。

柱穴　径30cm前後、深さ60cm前後である。いずれもほぼ円形で、下半部は柱埋設用の掘り込みが認められ二段の掘り方となる。

時期　遺物の出土はないが検出状況から古墳時代のものと考えられる。

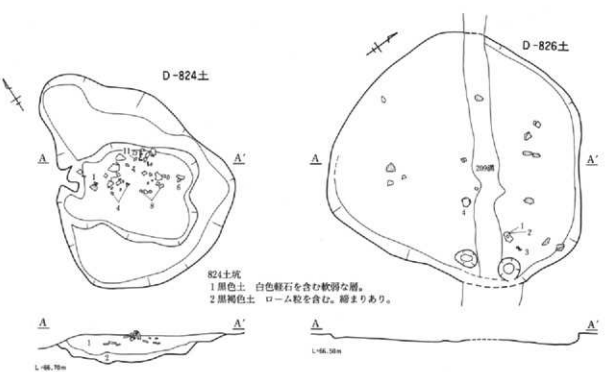


第32図　Ｄ区35号掘立柱建物　0　1：80　2ｍ

ｄ．土坑

古墳時代の土坑として確認したのは13基であり、Ｄ区12基、Ｅ区１基となる。

Ｄ区の土坑群は集落に伴うものであろう。形態は径４ｍ前後の大型土坑２基、径１ｍ前後の楕円形平面で、浅い鍋底状断面の土坑６基、径１ｍ以上で深さも１ｍ前後を測る土坑４基の３種類が認められる。重複例は１例と少なく、土坑１基が住居を切っている。各土坑は住居群の縁辺に分布する傾向が看取される。大型土坑は２基が並んで住居間にあり、鍋底



第33図　Ｄ区824・826号土坑

状断面を呈する土坑は散在し、深さ1m前後の土坑は調査区西側に偏在している。土坑の性格については不明な部分が多いが、深さ1m前後の土坑については井戸の可能性がある。

824号土坑（第33・36図、PL10・69）

25E－10グリッドに位置する。長径372cm、短径250cm、深さ45cmを測る。平面形は不整形で、重複遺構の可能性もあるが調査では確認されていない。中央が一段深くなるがやはり不定形で、底面は起伏をもつ。土器片を主として多数の遺物が検出されているが、ほとんどが埋没土上層からの出土である。

828号土坑（第33・36図、PL10・69）

25F－10グリッドに位置する。長径395cm、短径390cm、深さ18cmの不整方形を呈する。824号土坑に北接し、中央部を209号溝により切られる。確認段階では平面形状や遺物の出土等から住居の可能性を考えたが、他の検出住居と構造が相違することから大型土坑として調査を進めた。東寄りに小穴が2ヶ所確認されているが、この土坑に伴うものかについては不明である。底面は軟弱で起伏をもつ。土器片、礫等の出土が確認されている。

821号土坑（第34・36図、PL10・68）

25B－11グリッドに位置する。長径112cm、短径98cm、深さ40cmの楕円形を呈する。鍋底状断面の底面には礫とともに高坏、甕等が出土している。

823号土坑（第34・36図、PL10・68）

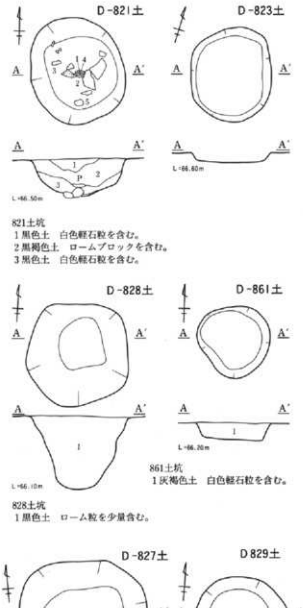
25C－9グリッドに位置する。長径100cm、短径85cm、深さ10cmを測る。楕円形平面で浅い鍋底状断面を呈する。埋没土から土錘1点が出土している。40号住居を切って掘り込まれている。

827号土坑（第34・36図、PL11・69）

25G－7グリッドに位置する。長径135cm、短径122cm、深さ53cmを測る。隅丸方形に近い楕円形平面を呈する。微高地縁辺にあり、土坑内には湧水が著しいことから井戸の可能性が考えられる。

828号土坑（第34図、PL11）

25H－6グリッドに位置する。径110cmのやや不整円形を呈する。深さは78cmを測り、土坑内には湧



第34図　D区821・823・827～829・861号土坑

水が著しい。微高地縁辺にあり井戸の可能性が考えられる。

829号土坑（第34図、ＰＬ11）

24Ｔ－７グリッドに位置する。径100cmの円形平面で、深さは19cmの鍋底状断面を呈する。出土遺物は認められないが、埋没土上層には焼土、炭化物、灰が含まれる。

861号土坑（第34図、ＰＬ11）

24Ｑ－10グリッドに位置する。径75cm、深さ18cmの不整円形平面を呈する。Ｄ区南側の低地部にあり他土坑とは分布が相違する。

863号土坑（第35図、ＰＬ11）

25Ｊ－７グリッドに位置する。長径90cm、短径70cmの楕円形平面で、深さ10cmを測る鍋底状断面を呈する、微高地縁辺にあり、出土遺物は認められない。

864号土坑（第35・36図、ＰＬ11・69）

25Ｆ－７グリッドに位置する。長径160cm、短径125cmの大型楕円形平面で、深さは63cmを測る。微高地縁辺にあり、827号土坑に南接する。土坑内には湧水が著しく、井戸の可能性が考えられる。

865号土坑（第35・36図、ＰＬ11・69）

24Ｔ－６グリッドに位置する。調査区西端で検出された土坑で部分的確認にとどまる。推定径は140cm深さは100cmを測る。断面形は底面から筒状に立ち上がり、上半部はゆるやかに広がりをもつ。土坑内には湧水が著しい。井戸の可能性が考えられる。埋没土から高坏が出土している。

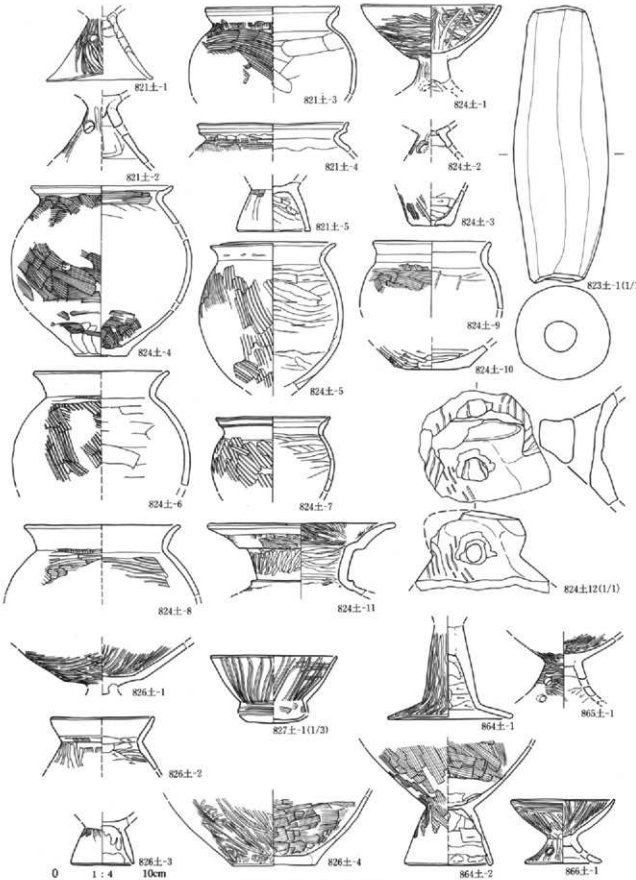
866号土坑（第35・36図、ＰＬ11・69）

25Ｅ－８グリッドに位置する。長径70cm、短径60cm、深さ10cmを測る。楕円形平面で、浅い鍋底状断面を呈する。埋没土から高坏の出土が認められる。

811号土坑（第35図、ＰＬ41）

25Ｓ－８グリッドに位置する。長径180cm、短径150cm、深さ20cmを測る。不整楕円形平面で鍋底状断面を呈する。この土坑のみＥ区で検出されたものである。出土遺物は認められないが、検出状況から古墳時代に属するものと判断された。

第35図　Ｄ区863～866・Ｅ区811号土坑



第36図　D区土坑出土遺物

e．水田（第38図、ＰＬ．51）

調査区の北端、Ｅ区においてのみ検出された。Ｅ区は、現利根川堤防の南際に位置する。現在は、利根川変流後の度重なる洪水により、変流以前の旧地形は分からない状態である。

水田遺構は、As—Ｂ下水田面から約90cm下で検出した。上部には古代の溝群が存在し、低地部分では良好な畦畔が検出されたが、Ｄ区の微高地に近づくにつれ攪乱を受け検出されていない。

遺構は、白色軽石を含む褐色シルト質土の下から検出された。この褐色シルト質土は、Hr－FA泥流に相当すると考えられる。この層は、水田遺構が検出された部分では、厚さ約18cmで堆積している。

泥流上面は、泥流到達後どの程度の時間差かは不明であるが、耕作が行われた痕跡が認められる。また。その他の全調査区でもこの泥流の堆積が認められたが、堆積が薄く部分的に残存しているのみである。

水田面の傾斜は、Ｄ区に微高地があり、そこから北東に傾斜している。高低差は約106cmである。Ｄ区微高地上では、３世紀後半から４世紀初頭にかけての集落、竪穴式住居14軒、掘立柱建物址１棟が検出されている。

畦畔は、縦方向の畦畔が水田面の傾斜に沿って、N—57°—Eで走向している。

水田区画は、１ｍを越える２本の大畦畔の間に挟まれた部分と、それ以外の部分では大きく異なっている。

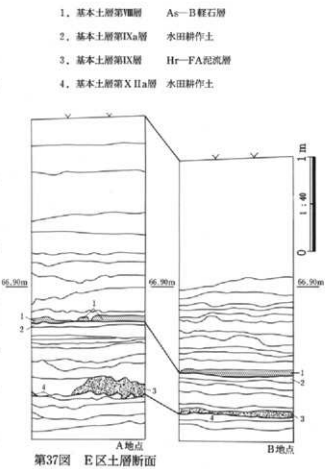
比較的大きな畦畔の間に挟まれた部分では、６枚の水田面を確認した。区画の全容の判明したものは34号水田区画と35号水田区画である。長軸14m、短軸４ｍ程度の大きな区画となっている。その他の区画は、後世の溝による攪乱及び調査区外に至るため、区画の全容を判明するにいたっていない。

比較的大きな畦畔の間に挟まれた部分の北側及び南側では、北部には31枚の水田面、南部には94枚の水田面を、西部では、13枚の水田面を確認し、大半の区画の全容が判明した。区画規模は、長軸2.3m、短軸１ｍ程度の小さな区画で、「小区画水田」と呼ばれているものである。その区画は、北東にいくにつれ、つまり低地にいくにつれ、より小さい区画になるという特徴がみられる。

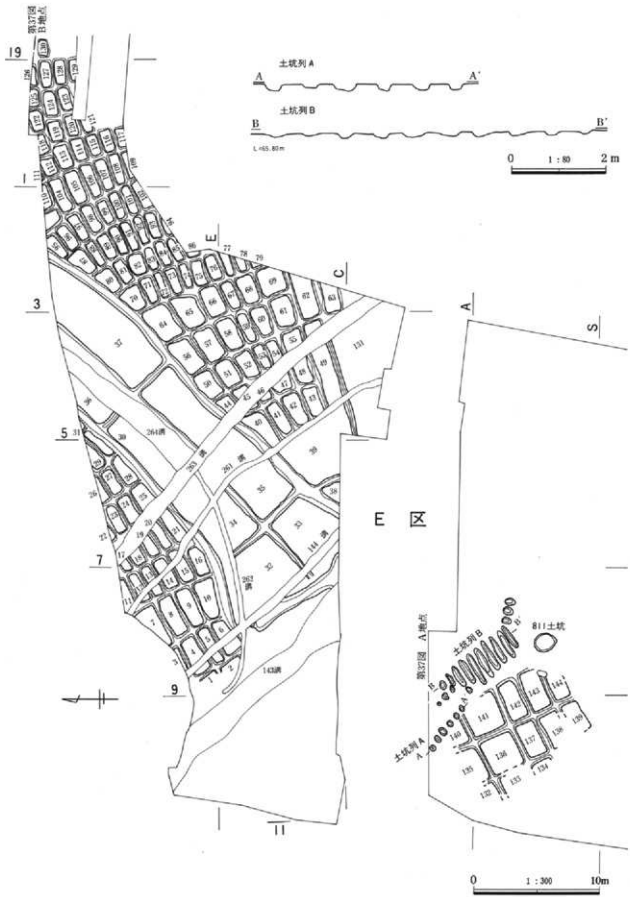
検出水田遺構すべてにおいて、水口は検出されなかった。掛け流しによる水稲栽培の可能性があるが部分的に上部の攪乱を受けていることもあり、断定するに至るほどの確証は得られていない。

水田耕作土は、夾雑物が少なく、黒色の粘性の強いシルト質土である。軽石を含んでおり、その軽石はAs—Cに相当すると考えられる。

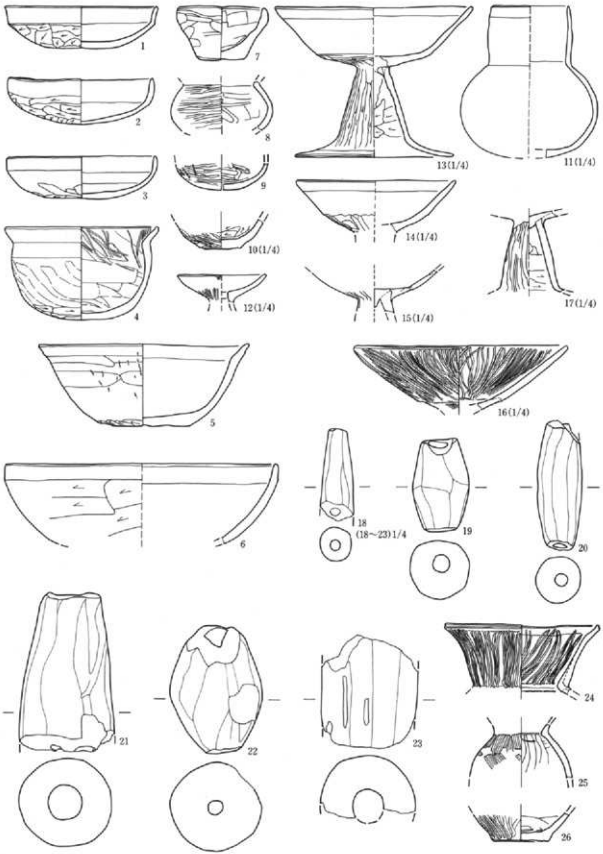
水田遺構に関連する可能性のある遺構として、Ｅ区西部分中央25Ｔ－８グリッド付近に土坑列が検出されている。その軸が水田畦畔と同様であること、路の補修痕とも考えられるが、上部に硬化面が見られないことから、水田に伴う遺構と判断した。耕作痕である可能性が高いと考えられる。



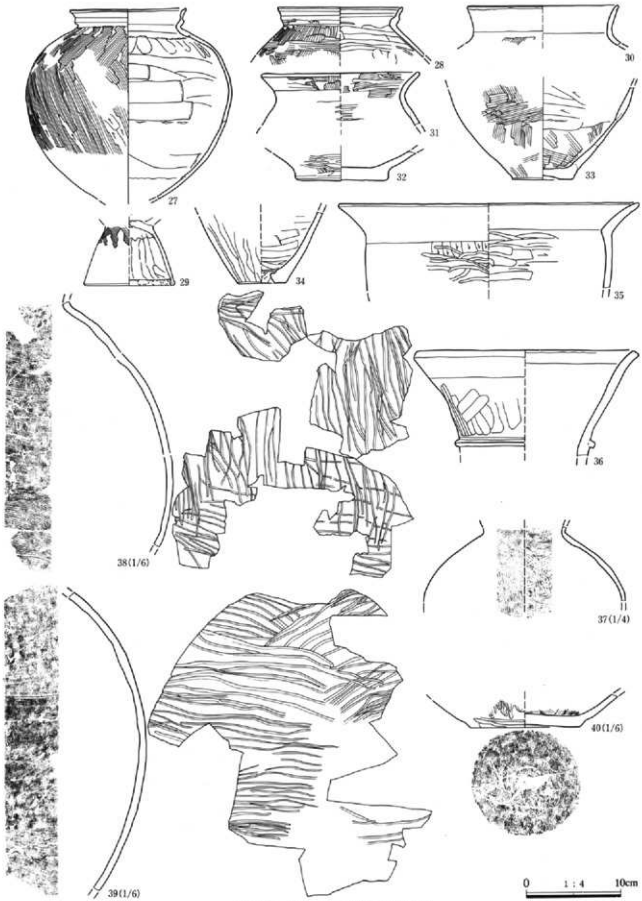
第37図　Ｅ区土層断面



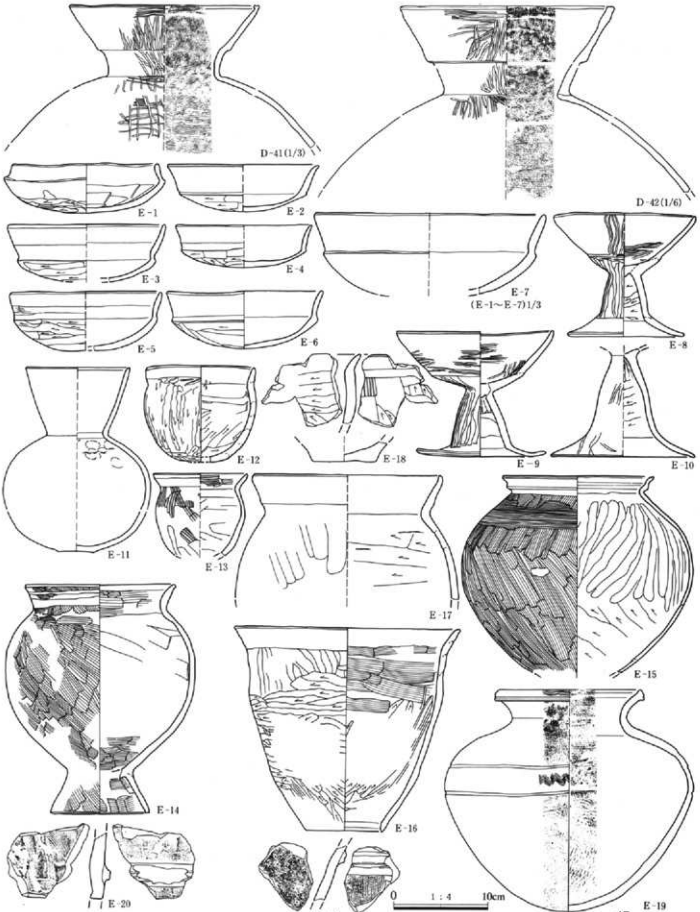
第38図　E区水田・811号土坑・土坑列A・B



第39図　D区グリッド出土遺物(1)



第40図　D区グリッド出土遺物(2)



第41図　D区グリッド(3)・E区グリッド出土遺物

3．古代の遺構と遺物

（1）A区

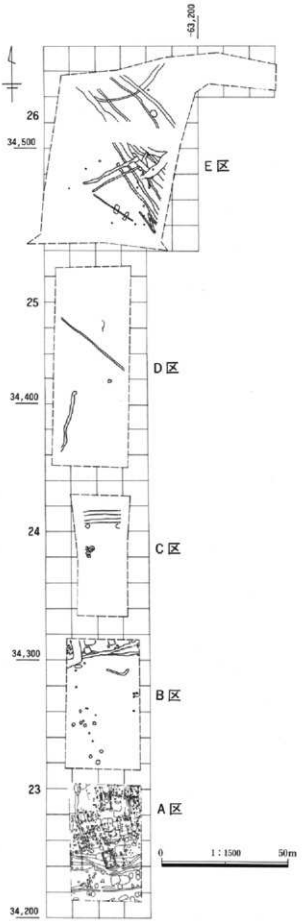
a．調査の状況

この遺跡は発掘調査の実施に際し、現道を基準にA区からE区に調査区を設定して実施している。それぞれの調査区は近接しているものの、確認できる遺構面および被覆層は複雑な状況を呈している。その中で、As-B層は共通するものであり同層埋没水田も確認されている。各区ともAs-B埋没水田下の調査を行うことで1108年以前のほぼ同時期の遺構面が検出できる可能性があることになる。

その結果、A区において9世紀代を中心とする集落が検出された。B区からE区にかけては同時期の遺構は溝や土坑などが確認されるが住居および掘立柱建物群はほぼA区に限られる。また、土器類の出土状況についても量的差異は明瞭でA区がその大半を占めている。このことから古代集落（居住域）はA区から北側には広がりをもたないことがわかる。なを、A区南側については福島久保田遺跡として発掘調査が実施されているが集落の広がりは認められていない。北・南側の調査状況およびA区の遺構遺物検出状況から、この集落については東もしくは西側にさらに広がりもつことは明らかである。

A区ではAs-B埋没水田の調査時から他調査区に比し多くの遺物出土が認められていたため集落の存在が予想された。その関係から遺構検出面の確認を目的に土層断面の観察を先行した。しかし、As-B埋没水田耕土およびその下層についても黒褐色土の堆積が認められ、遺物はこの黒褐色土層から出土するが、重畳する状況は遺物廃含層のような状態を示すものである。

さらに、遺構確認面については同様の黒褐色土中に存在するものとみられ、カマドと考えられる焼土や灰および構築材などもこの土層内に認められる。そのため遺構については土層断面によっても把握しにくい状態であった。このことから基本土層Ⅸ層中に当時の生活面が形成され、以降の水田耕作により上層が攪乱されたものと考えられる。



第42図　古代遺構位置図

b．遺構の検出状況

A区で確認された遺構は竪穴住居14軒、掘立柱建物34棟、井戸2基、竪穴遺構7基、土坑228基、溝12条である。

竪穴住居はいずれも残存状況は不良である。焼土、などが認められることでカマドの存在をとらえることができる程度である。平面形も不明確な部分を含み、床面についても以後の水田耕作による攪乱および水の影響により硬化面はほとんど失われている。

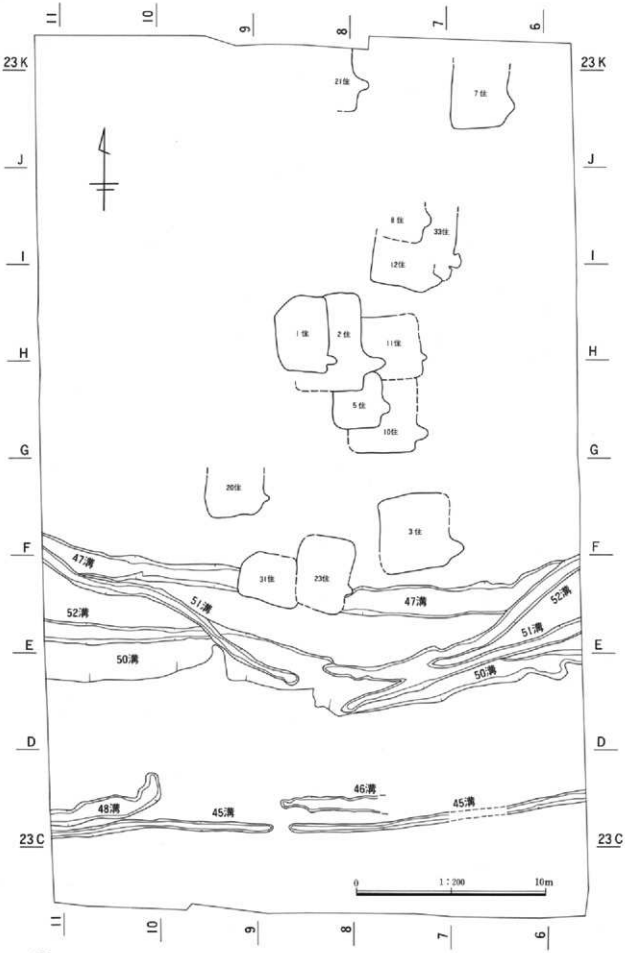
掘立柱建物は規模の比較から8形態に分類することが可能で、同形態のものが同地点で重複する傾向が認められる。なお、集中的に存在する土坑の大半は掘立柱建物を構成するものとみられる柱穴であり、立て替え等を含めさらに棟数の増加も考慮しなければならない。今回の調査区では単純な柱間構造の建物が中心であるが、隣接する東・西側にあってはさらに規模の大きい建物の存在も想定できよう。

井戸は石組み井戸と素堀井戸が1基づつ確認された。いずれも井戸内からの遺物出土はほとんどないが、1号井戸は周囲の礫部から集中的な検出があり特徴的である。なお、それぞれの井戸に上屋の可能性を考えたが、確定はできない。

A区南半部に東西に走行する溝群があるが、住居、掘立柱建物および土坑群などはこの溝群を境とするように以北に集中している。B区南端部にも東西に走行する265溝があるが、この溝が集落の北辺を境するものかもしれない。

以下、遺構ごとに報告していく。

第43図　遺構位置図（A区）



第44図　住居配置図(A区)

c．竪穴住居

1号住居（第45・46図、ＰＬ12・73）

位置　23Ｇ－８グリッド

重複　２号住居→１号住居（古→新）

主軸方位　Ｎ－95°－Ｅ

形態　横長長方形の平面形を呈す。北西隅は攪乱により不整形となっている。

規模　390cm×270cm　　床面積　8.63㎡

カマド　東壁南寄りに付設される。焼土、灰の集中が認められた。

床　床面はほとんど残存せず、掘り方が検出されている。

掘り方　底面全体に起伏があるが、定型的な掘り込みは認められない。

遺物　土師器坏、刀子等が埋没土中より出土する。

時期　９世紀中頃

2号住居（第45・46図、ＰＬ12・73）

位置　23Ｇ－７グリッド

重複　２号住居→1号住居

主軸方位　Ｎ－90°－Ｅ

形態　横長長方形の平面形を呈す。

規模　500cm×350cm　　床面積（19.96㎡）

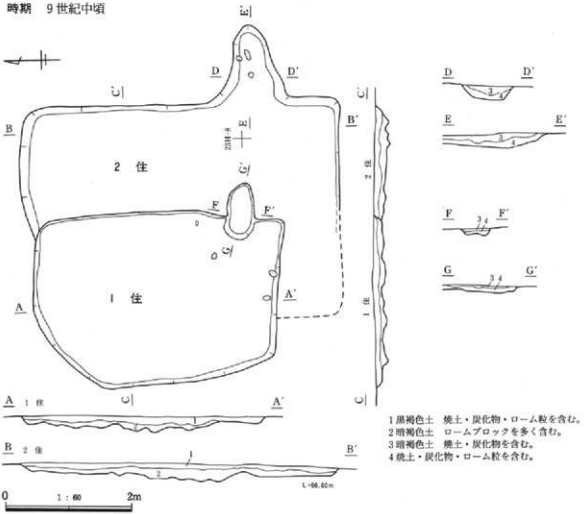
カマド　東壁南寄りに付設される。使用面は不明であるが焼土、灰の集中が認められた。

床　床面はほとんど残存せず、掘り方が検出されている。

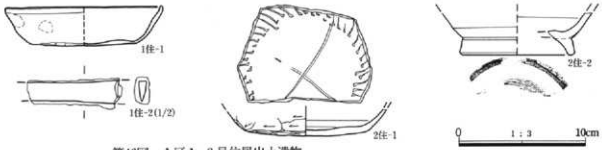
掘り方　底面全体に起伏があるが、定型的な掘り方は認められない。

遺物　暗文土師器、須恵器椀等が埋没土中から出土。

時期　９世紀前半



第45図　Ａ区１・２号住居



第46図　A区1・2号住居出土遺物

3号住居（第47図、PL12・73）

位置　23E－6グリッド

重複　3号住居→7・12号掘立柱建物

主軸方位　N－88°－E

形態　方形の平面形を呈する。

規模　380cm×360cm　　床面積　13.20m²

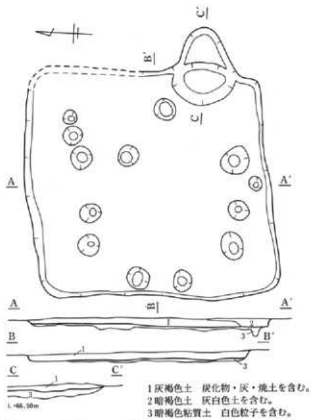
カマド　東壁南寄りに付設される。構築材である礫が一部残存する。

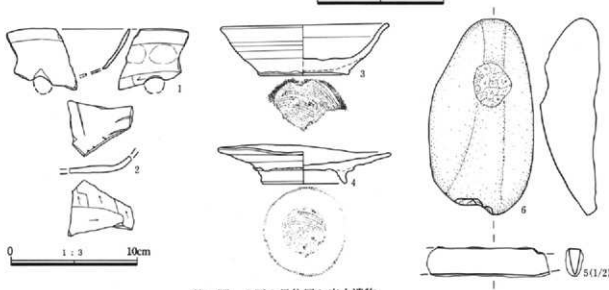
床　暗褐色粘質土による掘り方埋土上面にやや硬質な面が検出された。

掘り方　床面下5cm～10cm程度掘り込まれる。径30cm前後、深さ20cm前後の小穴が複数認められるが住居に伴うものかについては不明である。

遺物　穿孔ある土師器坏や須恵器皿が出土している。

時期　9世紀中頃





第47図　A区3号住居と出土遺物

7号住居（第48図、ＰＬ12・73）

位置　23Ｊ－６グリッド

重複　７号住居→○号掘立柱建物

主軸方位　Ｎ－92°－Ｅ

形態　横長長方形の平面を呈するが、北側が調査区外のため全体形状は不明

規模　不明×235cm　　床面積　計測不可

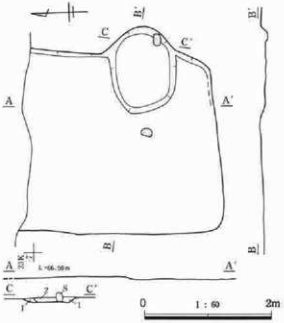
カマド　東壁南寄りに付設される。壁に構築材である礫が残存する。

床　床面は認められない。住居の残存も不良で掘り方が部分的に確認される程度である。

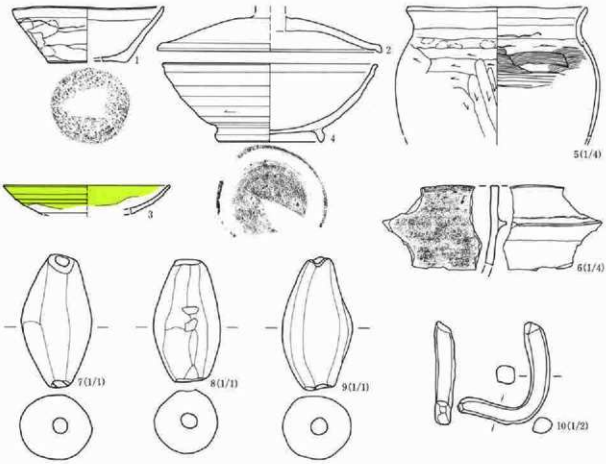
掘り方　遺構面の大半が遺失し、掘り方の部分的確認により住居形状が確認されている。

遺物　灰釉陶器、羽釜等が埋没土中から出土。

時期　９世紀後半



1 黒色灰層　明褐灰色粘質土粒を少量含む。
2 明褐灰色粘質土　暗褐色土粒を僅かに灰・焼土粒を少量含む。



第48図　Ａ区７号住居と出土遺物

8号住居（第49図、ＰＬ12・74）

位置　23Ｉ－７グリッド

重複　12号住居と重複する位置にあるが残存状況が不良のため新旧関係は確認できない。

主軸方位　Ｎ－92°－Ｅ

形態　部分的確認のため平面形態は不明

規模　不明

カマド　焼土、灰の集中によりカマド掘り方が検出された。残存状況は不良で南東隅の壁が一部確認されたのみである。

床　確認されていない。

掘り方　南東隅の掘り方がわずかに確認されたのみである。

遺物　須恵器椀、灰釉陶器等が埋没土中から出土。

時期　９世紀後半

12号住居（第50図、ＰＬ13・74）

位置　23Ｈ－７グリッド

重複　８号住居と重複する位置にあるが残存状況が不良のため新旧関係は確認できない。

33号住居→12号住居

主軸方位　Ｎ－92°－Ｅ

形態　住居南側のみの検出のため平面形は不明

規模　東西長310cm

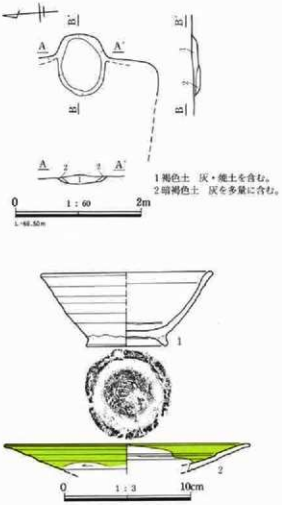
カマド　焼土、炭化物の集中により検出したが、掘り方のみが確認された。東南隅に接して付設される。

床　確認されていない。

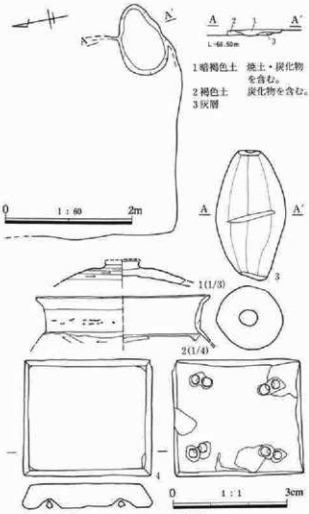
掘り方　掘り方が部分的に残存ずる程度である。

遺物　須恵器蓋、コの字甕、巡方が埋没土から出土。

時期　９世紀中頃



第49図　Ａ区８号住居と出土遺物



第50図　Ａ区12号住居と出土遺物

5号住居（第51・52図、ＰＬ12・73）

位置　23Ｇ－７グリッド

重複　10号住居→11号住居→５号住居→２号住居

主軸方位　Ｎ－92°－Ｅ

形態　やや横長の長方形を呈する。

規模　290cm×250cm　　床面積（6.33㎡）

カマド　東壁中央やや南寄りに付設される。

床　床面とみられる硬質面は確認されていない。検出面は掘り方と考えられる。

掘り方　部分的に起伏をもつが、土坑状の掘り込み等は認められない。

遺物　暗文土師器、須恵器皿等が埋没土中から出土。

時期　９世紀後半

10号住居（第51・52図、ＰＬ13・74）

位置　23Ｇ－７グリッド

重複　10号住居→11号住居→５号住居

主軸方位　Ｎ－90°－Ｅ

形態　横長長方形の平面形を呈する。

規模　不明×345cm　　床面積　計測不可

カマド　東壁南寄りに付設される。

床　床面とみられる硬質面は確認されていない。

掘り方　底面は起伏をもつが、土坑状の掘り込み等は認められない。

遺物　暗文土師器、コの字甕等が埋没土中から出土。

時期　９世紀中頃

11号住居（第51・52図、ＰＬ13・74）

位置　23Ｇ－７グリッド

重複　10号住居→11号住居→５号住居→２号住居

主軸方位　Ｎ－90°－Ｅ

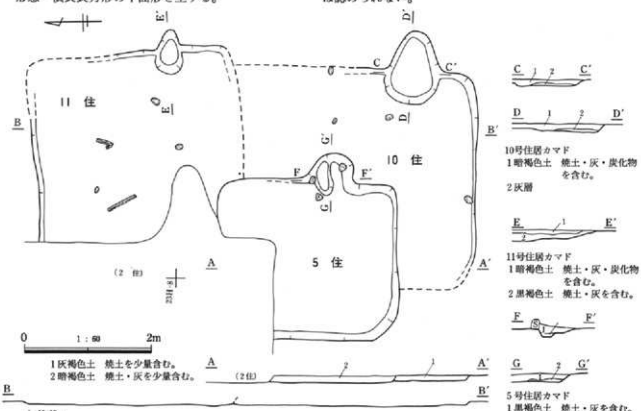
形態　西側に重複住居があり平面形は不明である。

規模　不明×330cm　　床面積　計測不可

カマド　東壁南寄りに付設される。焼土、灰および粘土ブロックが散布する。

床　床面とみられる硬質面は確認されていない。

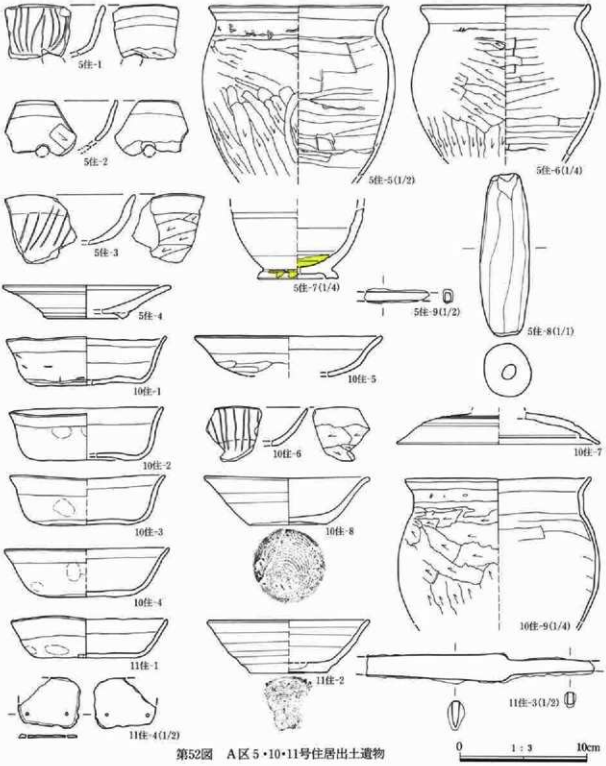
掘り方　底面は起伏をもつが、土坑状等の掘り込みは認められない。



第51図　Ａ区５・10・11号住居

遺物　銅製巡方、刀子等が埋没土中から出土。

時期　9世紀中頃



第52図　A区5・10・11号住居出土遺物

20号住居（第53図、ＰＬ13・74）

位置　23Ｆ－８グリッド

重複　20号住居→３・15号掘立柱建物

主軸方位　Ｎ－90°－Ｅ

形態　南側のみの検出のため平面形は不明

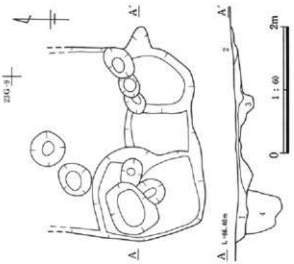
規模　東西長300cm

カマド　東壁南寄りに付設される。焼土の集中が確認されたが、掘り方のみの残存である。

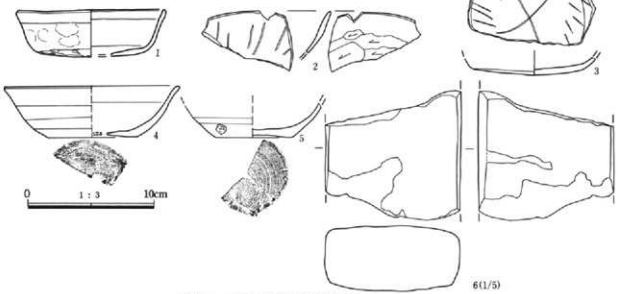
床　床面は残存せず、掘り方のみが確認された。

掘り方　土坑状の掘り込みが認められるが、住居北側については不明である。

遺物　暗文土師器、須恵器坏等が埋没土中から出土。



1 褐色土　炭化物を含む。
2 焼土を多量に含む。
3 暗褐色土　灰白色土・ロームを含む。
4 褐色土（３号掘立柱穴）



第53図　Ａ区20号住居と出土遺物

21号住居（第54・55図、ＰＬ13・75）

位置　23Ｊ－７グリッド

重複　21号住居→８・24・25㎡号掘立柱建物

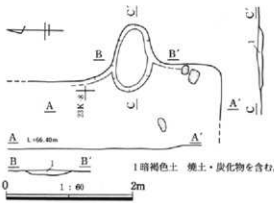
主軸方位　Ｎ－94°－Ｅ

形態　カマドおよび南東隅部のみの確認のため平面形は不明

規模　不明

カマド　焼土が集中するが、掘り方のみが確認された。東壁南寄りに付設される。

床　残存しない。

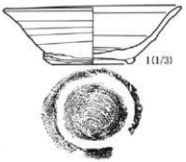


第54図　Ａ区21号住居

掘り方　カマド周辺部の掘り方が一部検出されたが痕跡程度である。

遺物　須恵器椀が埋没土中から出土している。

時期　9世紀中頃



第55図　A区21号住居出土遺物

23号住居（第56図、ＰＬ13・75）

位置　23Ｅ－８グリッド

重複　31号住居→23号住居、６・９・12号掘立柱建物

主軸方位　Ｎ－97°－Ｅ

形態　横長長方形平面を呈するが、残存状況が不良のため部分的に歪みが認められる。

規模　390cm×290cm　　面積　9.34㎡

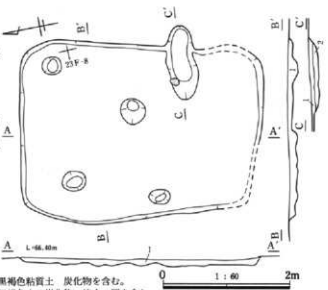
カマド　東壁南寄りに付設される。焼土、炭化物の集中が確認されたが使用面は残存せず、掘り方のみ検出している。

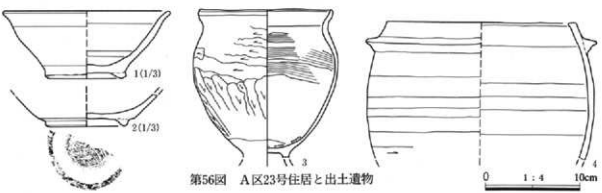
床　床面は残存せず、掘り方のみ確認した。

掘り方　底面全体に不規則な起伏が検出されたが、土坑状の定型的な掘り込みは認められない。

遺物　コの字壊、羽釜等が埋没土中から出土。

時期　9世紀後半





第56図　A区23号住居と出土遺物

31号住居（第57図、ＰＬ13・75）

位置　23Ｅ－８グリッド

重複　31号住居→23号住居、６・９号掘立柱建物

主軸方位　Ｎ－102°－Ｅ

形態　縦長長方形平面を呈するが、残存状況が不良のため一部歪みが認められる。

規模　300cm×250cm　　面積　6.70㎡

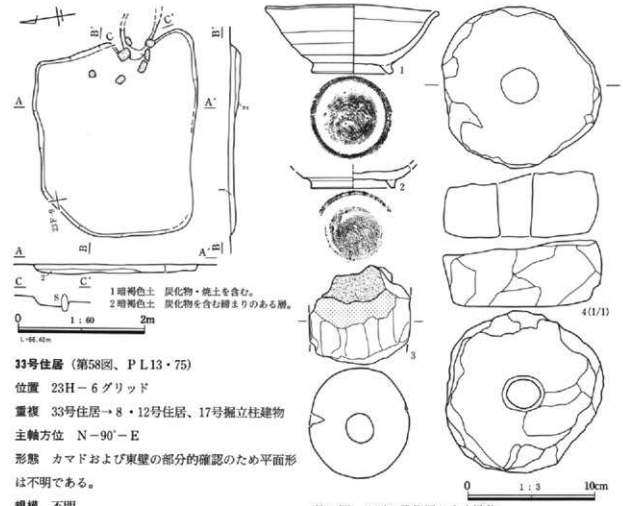
カマド　東壁中央南寄りに付設される。焚き口部には構造材である礫が残存する。なお、端部は23号住居により切られている。

床　床面は残存せず、掘り方のみ検出された。

掘り方　底面に不規則な起伏が確認された。土坑状の掘り込みは認められない。

遺物　須恵器椀、羽口等が埋没土中から出土。

時期　9世紀中頃



第57図　A区31号住居と出土遺物

33号住居（第58図、ＰＬ13・75）

位置　23Ｈ－６グリッド

重複　33号住居→８・12号住居、17号掘立柱建物

主軸方位　Ｎ－90°－Ｅ

形態　カマドおよび東壁の部分的確認のため平面形は不明である。

規模　不明

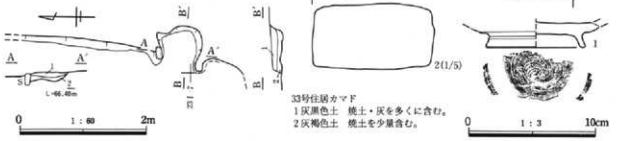
カマド　東壁南寄りに付設される。焼土の集中が確認され、袖部には構造材である礫が検出された。使用面は残存せず掘り方のみが認められた。

床　残存しない。

掘り方　検出部分は掘り方の痕跡であり、全体は不明である。

遺物　須恵器椀等が埋没土中から出土。

時期　９世紀中頃



第58図　A区33号住居と出土遺物

d．掘立柱建物

計34棟が確認できた。A区全域には柱穴とみられる土坑が多数検出されていることから、さらに棟数の増加もしくは柵列なども考慮される。

報告する34棟については、発掘調査時に確認されたものに加えて資料整理の過程で図上で立棟したものも含まれる。そのため、掘立柱建物を構成する柱穴について一部未検出の例もあるが、確認されている他例の規則的な配置から建物構成を推定している。なお、竪穴住居と重複する場合はいずれの掘立柱建物もより時期は古いとの調査所見を得ている。

掘立柱建物は重複例が多く、同規格の建物がほぼ同地点に建替えられたような状態を示している。集中するものでは6棟ないし7棟の重複例があり、これが建替え回数の推定の参考になるだろう。

建物規模別についてみると次のようになる。

掘立柱建物A

3間×4間規模の掘立柱建物。3号、4号掘立柱建物の2棟が確認されている。両棟は同規模であり、長軸方位をほぼ一定に重複する。

掘立柱建物B

2間×3間規模の掘立柱建物で、14棟確認された。規模はそれほど大きな相違はないものの、比較すると次の5形態が認められる。

a．7号、12号掘立柱建物の2棟が該当する。両棟は長軸方向をほぼ一定に重複する。

b．1号、2号、22号、24号掘立柱建物の4棟が該当する。2棟づつ近接して2ヶ所に分布する。

なお、11号掘立柱建物としたものについてもbに類する規模といえる。しかし、検出された柱穴が南側および東側のみであり、北・西側には全く認められていないことから、保留しておきたい。

c．6号、13号、16号掘立柱建物の3棟が該当する。長軸方向を異にしながら散在分布を示す。

d．9号、10号掘立柱建物の2棟が該当する。長軸方向をほぼ同様に散在分布する。

e．14号、25号、26号掘立柱建物の3棟が該当する。2ヶ所に分布し、1ヶ所では長軸方向をほぼ同様に2棟が重複する。

掘立柱建物C

2間×2間の掘立柱建物で、17棟確認された。調査区北側に偏在し、2ヶ所に集中分布する傾向が認められる。特に調査区北東側では重複が著しい。なお、17軒中8については中央部にも柱穴が検出されており、総柱となる。他掘立柱建物についても未検出であるが、総柱の掘立柱建物と考えられる。規模により次のa、bの2形態が認められる。さらに、aおよびbは主たる分布域を異にしている。

a．360cm×400cm前後の規模をもつ。5号、8号、15号、20号、27号、29号、30号掘立柱建物の7棟が該当する。北西側に4軒重複し、他3軒は散在分布する。

b．300cm×400cm前後の規模をもつ。17号、18号、19号、21号、23号、28号、31号、32号、33号、34号掘立柱建物の10棟が該当する。調査区北東側で7軒重複し、他は散在分布する。

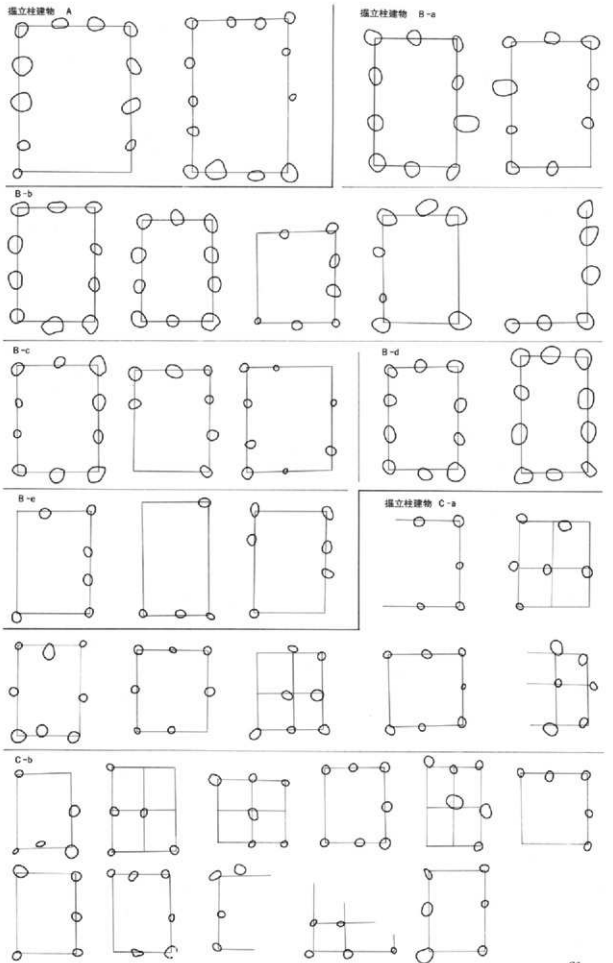
他遺構との分布状況を比較してみると、土坑群については柱穴の可能性のある円形土坑は掘立柱建物群とほぼ同様の分布を示す傾向が認められる。このことは、同様地点での建て替えないし重複する建物が存在することを推定させる。

大型の土坑については明確ではないものの、掘立柱建物間に分布する傾向がある。

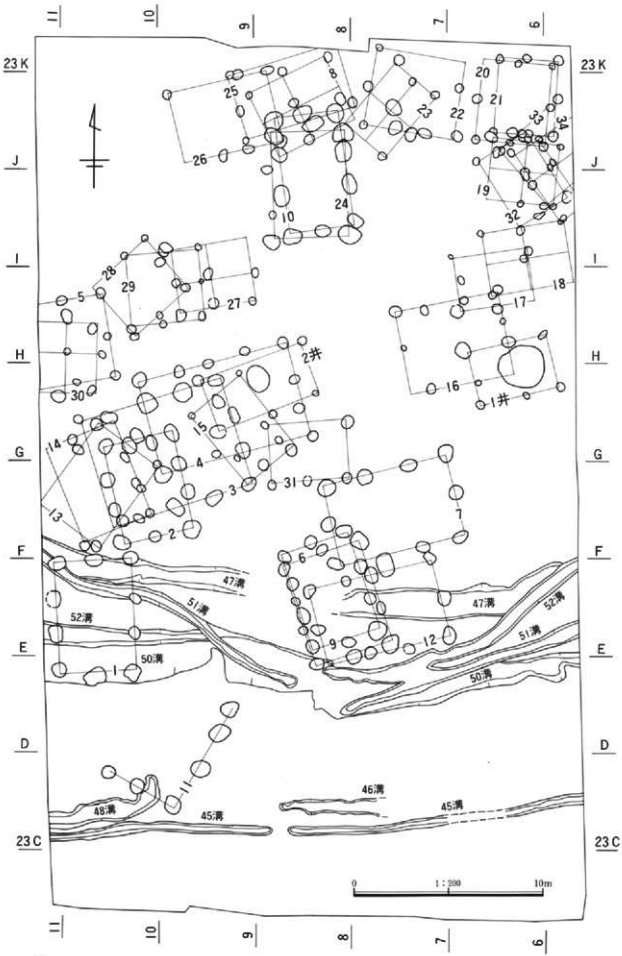
また、竪穴については、掘立柱建物群の外縁部に分布する傾向が認められる。

なお、図上で掘立柱建物の検討を行っている際、1号および2号井戸周囲にも建物と考えられる柱穴が認められた。位置からそれぞれ上屋の存在を想定したが、確定はできない。特に1号井戸のものは掘立柱建物Cのbに該当することから、上屋としての可能性と共に別遺構の可能性も考慮しておきたい。2号井戸上屋と想定したものは他掘立柱建物に例がなく建物として認定できるかについて問題もある。これについては可能性の指摘にとどめておきたい。

以下、34棟の掘立柱建物について概要を報告していきたい。



付図1　掘立柱建物　分類一覧図



第59図　掘立柱建物配置図（A区）

1号掘立柱建物（第62図）

23D－10グリッドに位置する。桁行3間、梁行2間の規模で、掘立柱建物B—cに該当する。桁行長は570cmで、柱間は190cm、梁行長は360cmで柱間は180cmを計測する。掘立柱建物との重複はないが、2号および13号掘立柱建物などと北接する。桁行方位はN－3°－Wを示す。

2号掘立柱建物（第63・94図、PL76）

23F－9グリッドに位置する。桁行3間、梁行2間の規模で、掘立柱建物B—bに該当する。桁行長は525cmで、柱間は175cm、梁行長は360cmで、柱間は180cmを計測する。桁行方位はN－12°－Wを示す。P4から須恵器坏、P5から土師器坏、P9から須恵器碗が出土している。3・4・13・14号掘立柱建物と重複する。

3号掘立柱建物（第60図）

23F－9グリッドに位置する。梁行4間、桁行3間の規模で、掘立柱建物Aに該当する。桁行長は740cm、梁行長は555cmで、柱間いずれも185cmを計測する。桁行方位はN－75°－Eを示す。なお、西側柱穴3ヶ所（P8～P10）については未検出である。2・4・13・14・15号掘立柱建物と重複する。

4号掘立柱建物（第61・94図、PL76）

23G－8グリッドに位置する。桁行4間、梁行3間の規模で、掘立柱建物柱Aに該当する。桁行長は780cmで、柱間は195cm、梁行長は480cmで、柱間は160cmを計測する。桁行方位はN－70°－Eを示す。南側柱穴1ヶ所（P7）は未検出である。P8から土師器坏、須恵器壺、P12から鉢が出土している。2・3・13・15号掘立柱建物と重複する。

5号掘立柱建物（第77図）

23G－10グリッドに位置する。桁行2間、梁行2間の規模で、掘立柱建物C－aに相当する。桁行長は420cmで、柱間は210cm、梁行長は420cm（推定）。東側は調査区外のため柱穴は確認できていない。28・30号掘立柱建物と重複する。

6号掘立柱建物（第64・94図、PL76）

23E－7グリッドに位置する。桁行3間、梁行2間の規模で、掘立柱建物B－cに該当する。桁行長540cmで柱間180cm、梁行420cmで柱間210cmを計測する。桁行方位はN－19°－Eを示す。P1から土師器坏、P5から土師器鉢が出土している。7・9・12号掘立柱建物と重複する。

7号掘立柱建物（第65図）

23F－6グリッドに位置する。桁行3間、梁行2間の規模で、掘立柱建物B－cに該当する。桁行長は660cmで、柱間は220cm、梁行長400cmで、柱間は200cmを計測する。南東隅の柱穴位置にやや歪みがある。桁行方位はN－76°－Eを示す。6・9・12号掘立柱建物と重複する。

8号掘立柱建物（第78・94図、PL14・76）

23J－7グリッドに位置する。桁行2間、梁行2間で建物中央部にも柱穴をもち、掘立柱建物C－aに相当する。桁行長は440cm、柱間は220cm、梁行長は360cmで、柱間は180cmを計測する。桁行方位はN－64°－Eを示す。P7から須恵器碗が出土している。南東隅および南西隅の柱穴は未確認で、10・23・24・25・26号掘立柱建物と重複する。

9号掘立柱建物（第66図）

23E－7グリッドに位置する。桁行3間、梁行2間の規模で、掘立柱建物B－dに該当する。桁行長は510cm、梁行長は340cmで柱間はいずれも170cmを計測する。6・7・12号掘立柱建物と重複する。

10号掘立柱建物（第67図、PL14）

23I－7グリッドに位置する。桁行3間、梁行2間の規模で、掘立柱建物B－dに該当する。桁行長は570cmで、柱間は190cm、梁行長は360cmで、柱間

は180cmを計測する。8・23・24・25・26号掘立柱建物と重複する。

11号掘立柱建物（第76・94図、PL76）

23C－9グリッドに位置する。桁行3間、梁行2間の掘立柱建物の可能性が考えられたが、北および西側の柱穴は全く認められていない。南・東側柱穴配列からみると掘立柱建物B－bに相当する規模をもつが、建物となるか塀のような構造物を考えるものかについては確定できない。計測値は、桁行長は560cm、柱間185cmで、梁行長400cm、柱間200cmとなる。P4から須恵器碗とともに底部縁辺に穿孔する台付き鉢が出土している。

12号掘立柱建物（第68図）

23E－6グリッドに位置する。桁行3間、梁行2間の規模で、掘立柱建物B－aに該当する。桁行長630cm、梁行長420cmで、柱間はいずれも210cmを計測する。なお、南西隅柱穴P6は未検出である。6・7・9号掘立柱建物と重複する。

13号掘立柱建物（第69・94図、PL76）

23F－9グリッドに位置する。桁行3間、梁行2間の規模で、掘立柱建物B－cに該当する。桁行長510cm、柱間170cmで、梁行長380cm、柱間190cmを計測する。P5から須恵器蓋が出土している。なお、南西側の3柱穴（P7～P9）については未検出である。2・3・4・14号掘立柱建物と重複する。

14号掘立柱建物（第70・94図、PL76）

23F－10グリッドに位置する。桁行3間、梁行2間の規模で、掘立柱建物B－eに該当する。桁行長525cm、柱間175cmで、梁行長370cm、柱間185cmを計測する。P2ら須恵器碗が出土している。南側中央、北西隅および西側の柱穴については未検出である。2・3・13号掘立柱建物と重複

15号掘立柱建物（第79・94図、PL76）

23G－8グリッドに位置する。桁行2間、梁行2間の規模で、掘立柱建物C－aに該当する。桁行長480cm、柱間240cmで、梁行長320cm、柱間160cmを計測する。中央の柱穴は未検出である。北および南側中央柱穴は位置がやや内側に歪む。P4から須恵器鉢底部が出土している。3・4・31号掘立柱建物と重複する。

16号掘立柱建物（第71図）

23G－6グリッドに位置する。桁行3間、梁行2間の規模で、掘立柱建物B－cに該当する。桁行長540cm、柱間180cmで、梁行長440cm、柱間220cmを計測する。南西隅柱穴P5は位置がやや歪み、南東隅柱穴は1号井戸と重複しているため不明である。17・18号掘立柱建物と重複する。

17号掘立柱建物（第80・94図、PL76）

23H－6グリッドに位置する。桁行2間、梁行2間の規模で、掘立柱建物C－bに該当する。桁行長400cm、柱間200cmで、梁行長280cm、柱間140cmを計測する。北側中央および東側2柱穴は未検出である。また、西側中央P6は位置がやや内側に歪む。P4から土師器坏が出土している。なお、建物中央部に柱穴は未確認である。16・18号掘立柱建物と重複する。

18号掘立柱建物（第81・94図、PL76）

23H－5グリッドに位置する。桁行2間、梁行2間の規模で建物中央部に柱穴をもつ。掘立柱建物C－dに該当する。桁行長440cm、柱間220cmで、梁行長320cm、柱間160cmを計測する。西側中央、南側中央および東側に未確認の柱穴が4穴ある。P1から土師器坏が出土している。16・17・32・34号掘立柱建物と重複する。

19号掘立柱建物（第82・94図、PL76）

23I－5グリッドに位置する。桁行2間、梁行2間の規模で建物中央部に柱穴をもつ。掘立柱建物C

－dに該当する。桁行長380cm、柱間190cmで、梁行長320cm、柱間160cmを計測する。東側中央および西側隅・中央の3柱穴は未確認である。北西隅P7から須恵器坏が出土している。20・21・32・33・34号掘立柱建物と重複する。

20号掘立柱建物（第83図）

23J－6グリッドに位置する。桁行2間、梁行2間の規模で、掘立柱建物C－aに該当する。桁行長は420cm、柱間210cmで、梁行長360cm、柱間180cmを計測する。北西隅の柱穴については未確認であり、建物中央部の柱穴はについても未検出となっている。19・21・32・33・34号掘立柱建物と重複する。

21号掘立柱建物（第84・94図、PL76）

23J－5グリッドに位置する。桁行2間、梁行2間の規模で、掘立柱建物C－bに該当する。桁行長は380cm、柱間190cmで、梁行長320cm、柱間160cmを計測する。西側中央の柱穴が未確認であり、建物中央部の柱穴についても未検出である。桁行方位はN－4°－Eを示す。P5から土師器坏が出土している。19・20・32・33・34号掘立柱建物と重複する。

22号掘立柱建物（第72図）

23J－6グリッドに位置する。桁行3間、梁行2間の規模で、掘立柱建物B－bに該当する。桁行長480cm、柱間160cm、梁行400cm、柱間200cmを計測する。北側柱穴（P1・9・10）が未検出である。桁行方位はN－80°－Wを示す。23号掘立柱建物と重複する。

23号掘立柱建物（第85・94図、PL76）

23J－7グリッドに位置する。桁行2間、梁行2間の規模で、建物中央部に柱穴をもつ。掘立柱建物C－bに該当する。桁行長420cm、柱間210cmで、梁行長260cm、柱間130cmを計測する。南・西側については3ヶ所の柱穴が未確認である。P9から土師器坏片が出土している。桁行方位はN－41°－Eを示す。8・22・24号掘立柱建物と重複する。

24号掘立柱建物（第73図）

23I－7グリッドに位置する。桁行3間、梁行2間の規模で、掘立柱建物B－bに該当する。桁行長は560cm、柱間185cmで、梁行長400cm、柱間200cmを計測する。東側中央、南側中央の柱穴については未確認である。桁行方位はN－6°－Wを示す。8・10・23・25・26号掘立柱建物と重複する。

25号掘立柱建物（第74図）

23J－7グリッドに位置する。桁行3間（推定）、梁行2間の規模で、掘立柱建物B－eに該当する。桁行長560cmで、梁行長340cm、柱間170cmを計測する。北側、東側、南側の6ヶ所の柱穴について未確認である。桁行方位はN－73°－Eを示す。8・10・24・26号掘立柱建物と重複する。

26号掘立柱建物（第75図）

23J－8グリッドに位置する。桁行3間、梁行2間の規模で、掘立柱建物B－eに相当する。桁行長は520cmで、柱間は170cm、梁行長は360cmで、柱間は180cmを計測する。南西隅および北・西・東辺にそれぞれ1穴づつ未確認の柱穴がある。桁行方位はN－78°－Eを示す。8・10・24・25号掘立柱建物と重複する。

27号掘立柱建物（第86図）

23H－8グリッドに位置する。桁行2間、梁行2間の規模で、建物中央部に柱穴をもつ。掘立柱建物C－aに相当する。桁行長は380cmで、柱間は190cm、梁行長は360cmで、柱間は180cmを計測する。なお、北東隅および北辺の2柱穴は未確認である。

28号掘立柱建物（第87・94図、PL76）

23H－9グリッドに位置する。桁行2間、梁行2間の規模で、掘立柱建物C－bに相当する。桁行長は380cmで、柱間は190cm、梁行長は320cmで、柱間

は160cmを計測する。西隅および接する3柱穴は未確認である。なお、建物中央部の柱穴についても検出されていない。東辺中央のP2から須恵坏が出土している。桁行方位はN－48°－Eを示す。5・27・29号掘立柱建物と重複する。

29号掘立柱建物（第88図）

23H－9グリッドに位置する。桁行2間、梁行2間の規模で、掘立柱建物C－aに相当する。桁行2間、梁行2間の規模で、掘立柱建物C－aに相当する。桁行長は380cmで、柱間は190cm、梁行長は360cmで、柱間は180cmを計測する。西辺中央の柱穴は未確認である。なお、建物中央部についても柱穴は未確認である。桁行方位はN－85°－Eを示す。27・28号掘立柱建物と重複する。

30号掘立柱建物（第89図）

23G－10グリッドに位置する。西側部が調査区外のため全形は不明であるが他掘立柱建物例との比較から、桁行長380cmで、柱間は190cm、梁行長は360cmで、柱間は180cmと推定される。柱穴位置にやや歪みが認められるが、掘立柱建物C－aに相当する。なお、建物中央部に柱穴をもつ。桁行方位はN－88°－Wを示す。5号掘立柱建物と重複する。

31号掘立柱建物（第90図）

23F－8グリッドに位置する。桁行2間、梁行2間の規模で、掘立柱建物C－bに相当する。桁行長は400cmで、柱間は200cm、梁行長は280cmであるが両辺とも中央の柱穴が未確認である。推定柱間は140cm。なお、北辺中央および建物中央部の柱穴も未確認となっている。桁行方位はN－86°－Eを示す。4・7・15号掘立柱建物と重複する。

32号掘立柱建物（第91図）

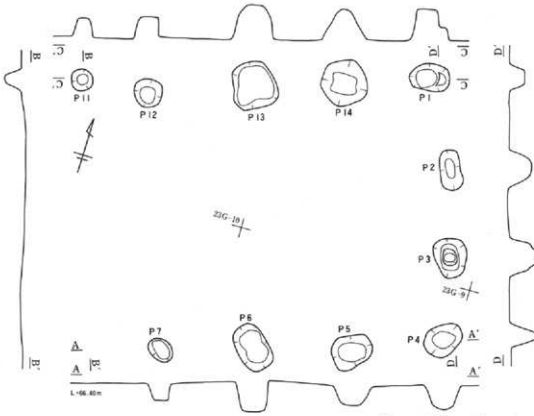
23I－5グリッドに位置する。桁行2間、梁行2間の規模で、掘立柱建物C－bに相当する。桁行長は400cmで、柱間は200cm、梁行長は280cmで、柱間は140cmを計測する。南西隅、西辺中央の柱穴が未確認である。また、建物中央部の柱穴も未確認となっている。桁行方位はN－32°－Wを示す。18・19・20・21・33・34号掘立柱建物と重複する。

33号掘立柱建物（第92図）

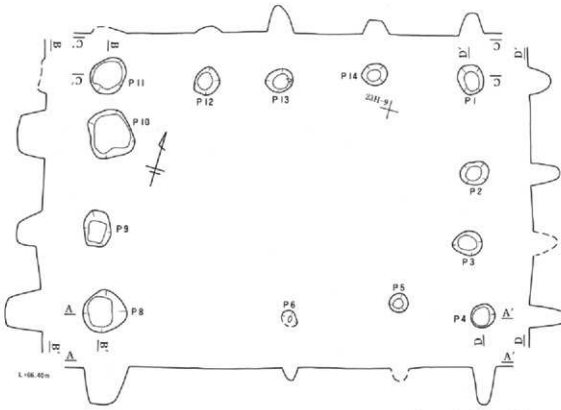
23I－5グリッドに位置する。建物西半部が調査区外のため、確認できる柱穴は西辺側と北側の4柱穴のみである。この柱穴配置を他掘立柱建物例と比較すると2間×2間の建物規模とみられ、桁行長380cmで、柱間は190cm、梁行長は240cmで、柱間は120cmと推定される。桁行方位はN－49°－Eを示す。19・20・21・32・34号掘立柱建物と重複する。

34号掘立柱建物（第93・94図、PL76）

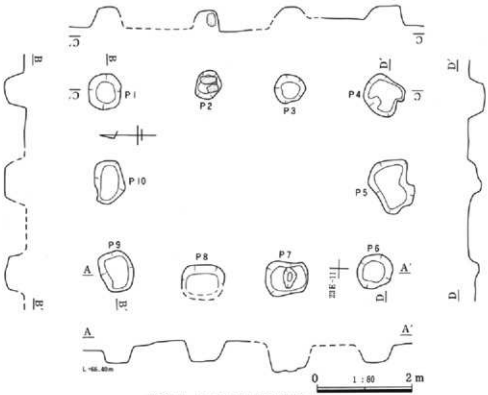
23I－5グリッドに位置する。建物西半部が調査区外のため全形は不明である。確認された柱穴は西辺部、北辺中央および建物中央部の5柱穴である。他掘立柱建物例と比較すると2間×2間規模で、掘立柱建物C－bに相当するとみられる。推定計測値は桁行長440cmで、柱間は220cm、梁行長320cmで、柱間は160cmとなる。桁行方位はN－55°－Eを示す。19・20・21・32・33号掘立柱建物と重複する。



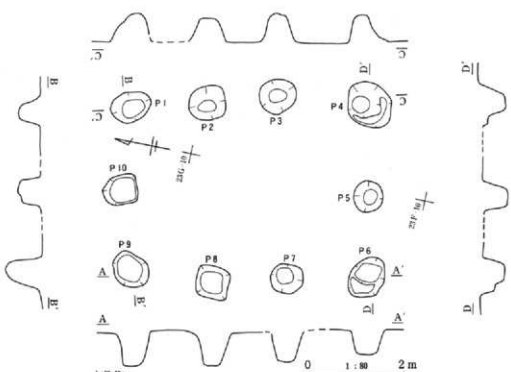
第60図　A区3号掘立柱建物



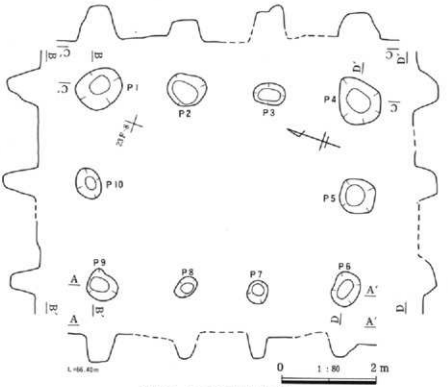
第61図　A区4号掘立柱建物



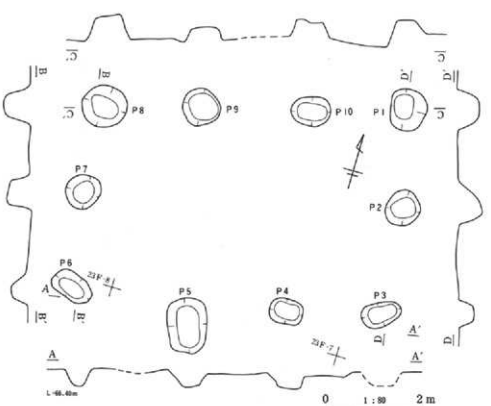
第62図　A区1号掘立柱建物



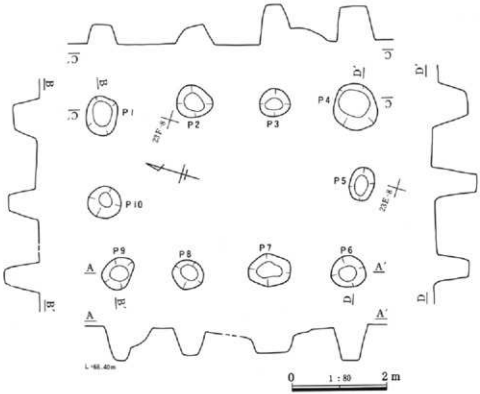
第63図　A区2号掘立柱建物



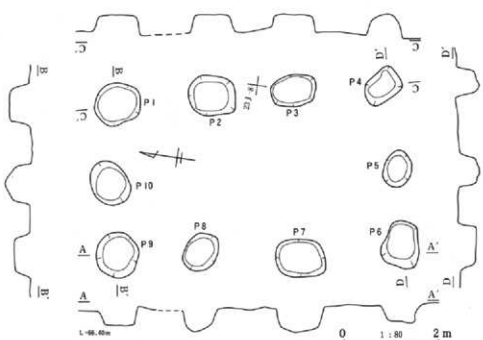
第64図　A区6号掘立柱建物



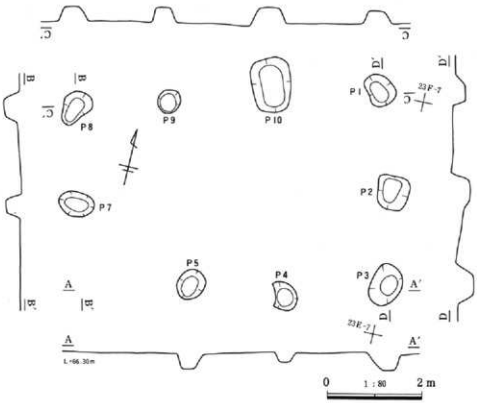
第65図　A区7号掘立柱建物



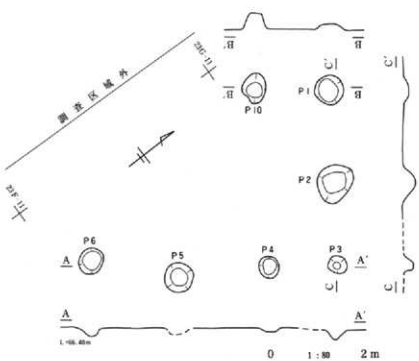
第66図　A区9号掘立柱建物



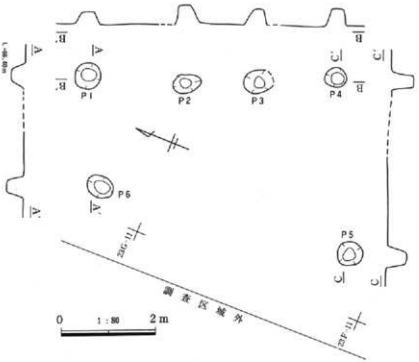
第67図　A区10号掘立柱建物



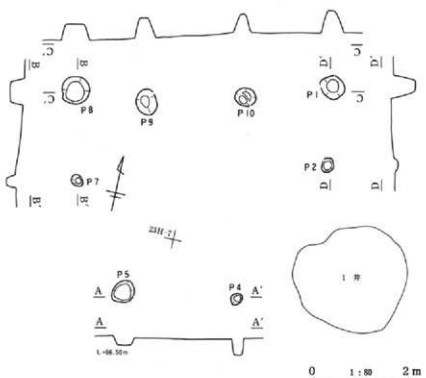
第68図　A区12号掘立柱建物



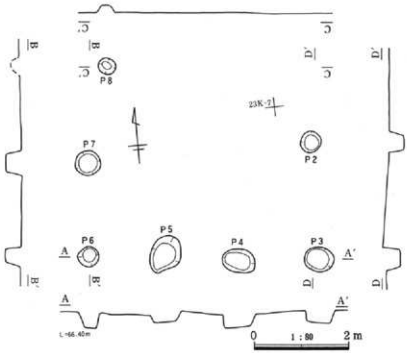
第69図　A区13号掘立柱建物



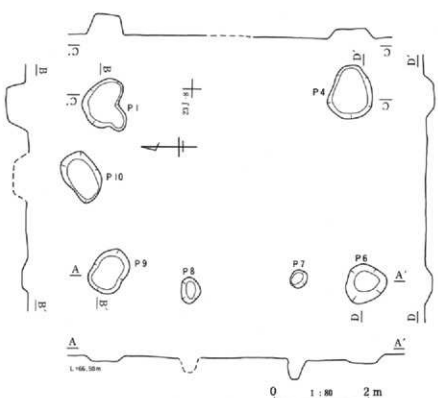
第70図　A区14号掘立柱建物



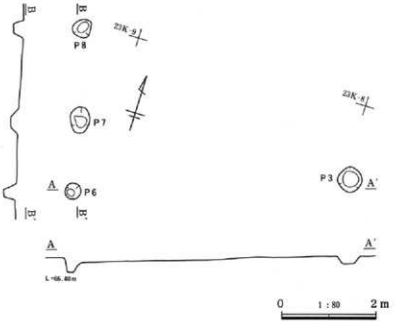
第71図　A区16号掘立柱建物



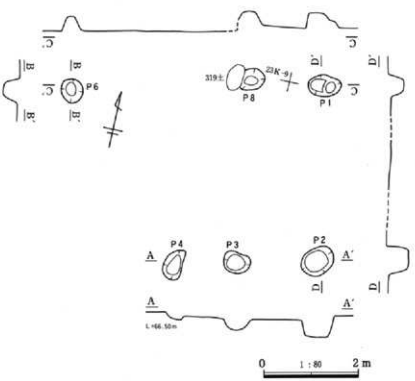
第72図　A区22号掘立柱建物



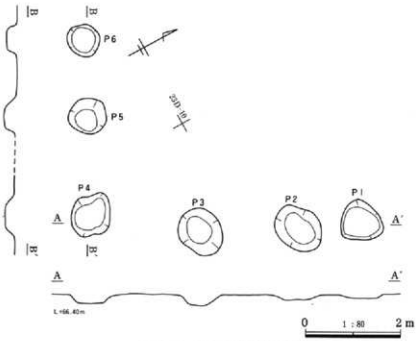
第73図　A区24号掘立柱建物



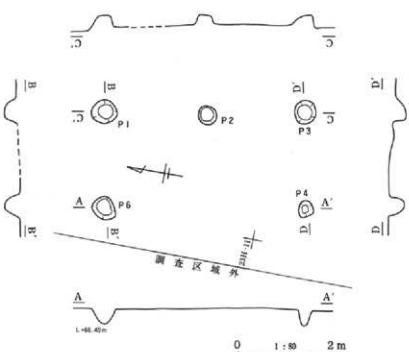
第74図　A区25号掘立柱建物



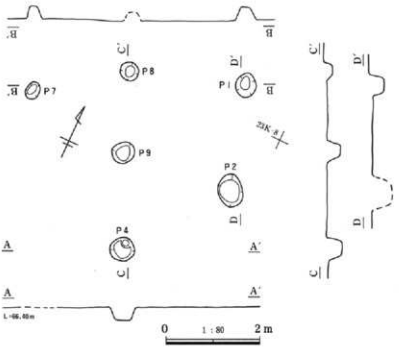
第75図　A区26号掘立柱建物



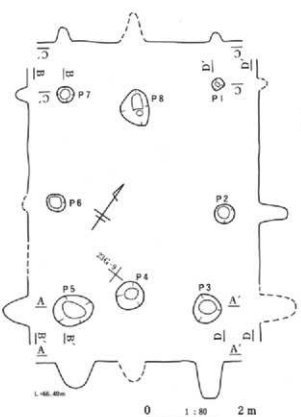
第76図　A区11号掘立柱建物



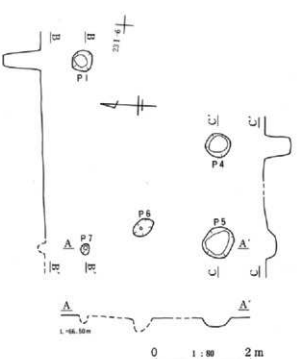
第77図　A区5号掘立柱建物



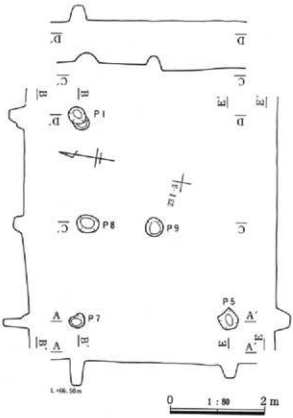
第78図　A区8号掘立柱建物



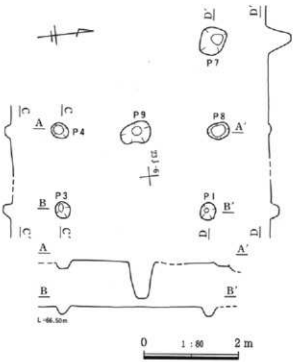
第79号　A区15号掘立柱建物



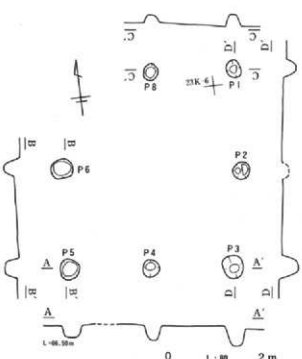
第80図　A区17号掘立柱建物



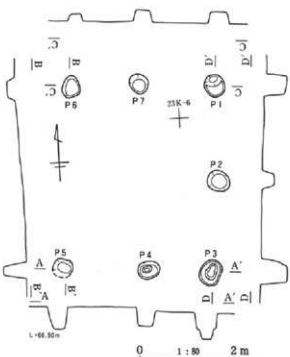
第81図　A区18号掘立柱建物



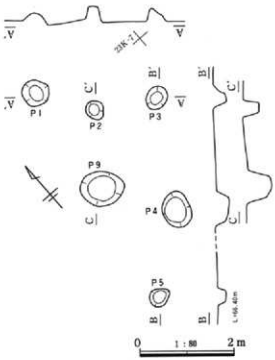
第82図　A区19号掘立柱建物



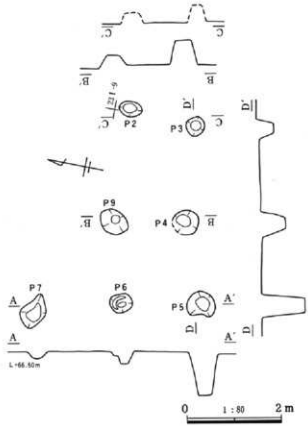
第83図　A区20号掘立柱建物



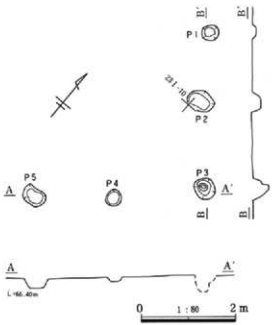
第84図　A区21号掘立柱建物



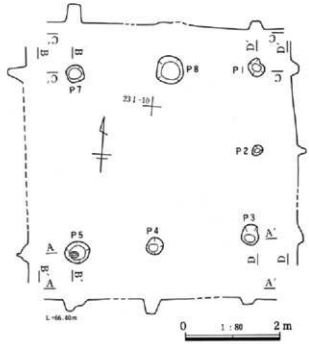
第85図　A区23号掘立柱建物



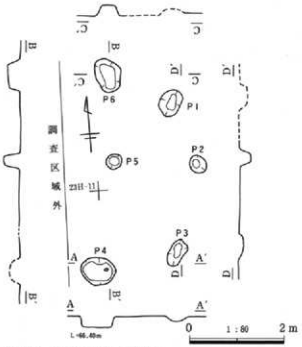
第86図　A区27号掘立柱建物



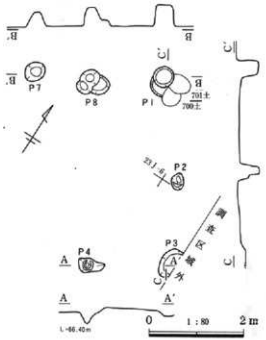
第87図　A区28号掘立柱建物



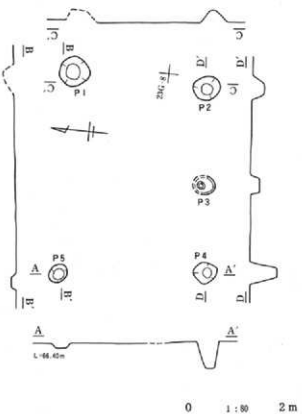
第88図　A区29号掘立柱建物



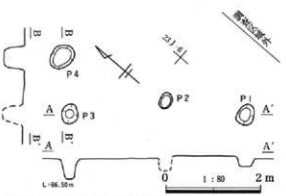
第89図　A区30号掘立柱建物



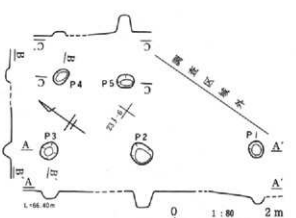
第91図　A区32号掘立柱建物



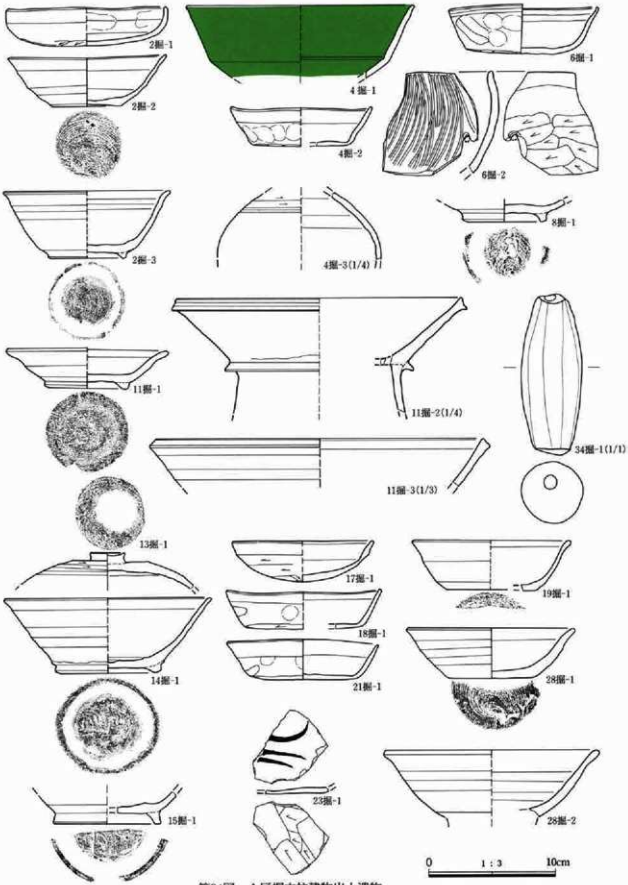
第90図　A区31号掘立柱建物



第92図　A区33号掘立柱建物



第93図　A区34号掘立柱建物



第94図　A区掘立柱建物出土遺物

e．竪穴遺構

竪穴遺構としたものは7基である。平面形は方形を基本とするが、確認深が浅く形態が不規則なものも認められる。

分布状態をみると調査区であるA区縁辺部に位置し、多数確認されている土坑群とは分布域を異にする傾向が看取される。掘立柱建物群とも近接するものの、やや位置に相違がある。また、分布地点が3ヶ所にわかれる状態も認められる。さらにその3ヶ所についても2基づつ竪穴遺構が存在し、特徴的な分布状態を示している。12号竪穴・19号竪穴、13号竪穴・16号竪穴および15号竪穴・18号竪穴が各地点に分布するが、いずれも重複している。

平面規模は1辺4m前後から2m前後と遺構ごとに差が認められる。底面はやや起伏をもつものが多く、内部施設に伴う遺構はみられない。また、焼土などについても確認されていない。

11号竪穴（第96図、PL15）

A区南端に位置し、98号土坑に切られる。

12号竪穴（第96・97図、PL15・77）

19号竪穴を掘り込む。底部穿孔の壺が出土する。

13号竪穴（第96・97図、PL15・77）

A区東端に位置し、土師器坏、須恵器壺が出土。

15号竪穴（第96・97図、PL15・77）

A区北端部に位置し須恵器碗、台付甕、土錘出土。

16号竪穴（第96・97図、PL15・77）

13竪穴に南接し、土師器坏、須恵器碗・蓋が出土。

18号竪穴（第96図、PL15）

15竪穴と重複するが新旧関係は不明である。

19号竪穴（96・98図、PL15・77・78）

やや大型で出土遺物も多い。土師器・須恵器類とともに底部縁辺に小穴を穿孔する台付鉢が出土する。

f．土坑

土坑は遺構台帳番号で866号土坑まで記録されている。しかし、発掘調査時および資料整理時の確認により掘立柱建物を構成する柱穴として認識できるものや遺構とはならないものなどが存在することにより欠番が生じている。そのため土坑として報告する遺構数は計379基となっている。

土坑は調査区全域に分布するが、大半はA区8面（奈良・平安時代）で確認されている。

以下、その概要を報告する。

A区8面において竪穴住居や掘立柱建物、井戸および溝などと重複しながら計228基の土坑が確認された。ほとんどの土坑について出土遺物などが認められず所属時期に関し有効な情報が得られない。しかし、7面（As－B埋没水田）下から検出されていることや周辺から大量の8・9世紀代の遺物が出土していることからみるとほぼ同時期の遺構であるものと判断できる。

また、竪穴住居と重複するものはいずれも土坑の構築時期が古いとの調査所見を得ている。

各土坑は平面形および断面形などの形態的な特徴から次ような分類が可能である。

A、楕円形平面を示す土坑

径20～50cm程度の規模の土坑で検出された土坑の多数を占める。楕円形平面であるが長径と短径の差が少なくほぼ円形のものも含む。

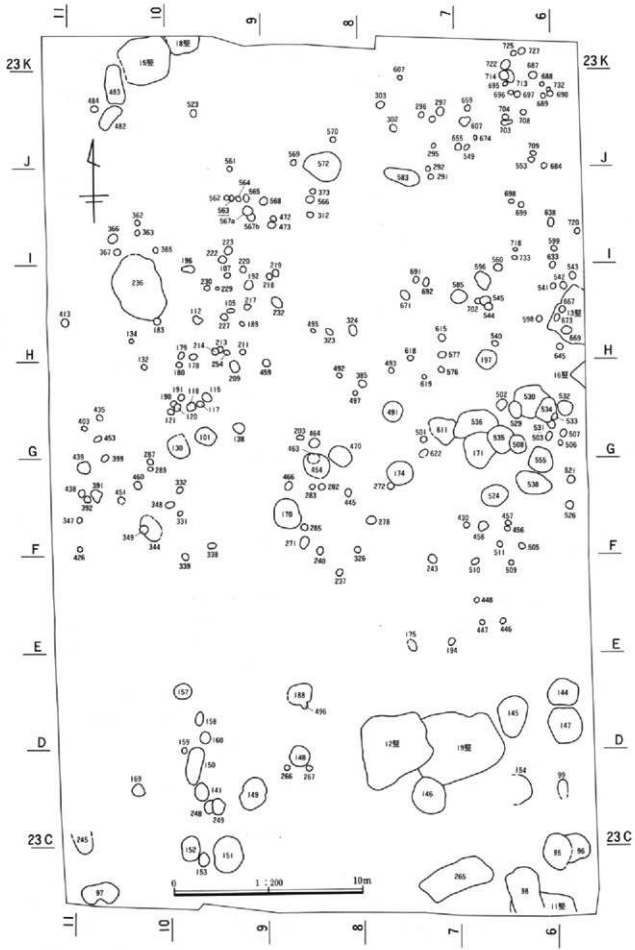
なお、断面形状によりさらに次の1および2が認められる。

1．円筒状断面となるもの

この土坑には土層断面に柱痕が観察できる例や底面に柱痕状のくぼみが認められる例がある。また掘立柱建物を構成する柱穴とも規模、形態に共通性も看取できる。また、分布も掘立柱建物群と重複する。このような点から「A－1」に含まれる土坑は柱穴と考えておきたい。しかし、規則的な配置や構造については確認できないため補助的な柱もしくは柵列の一部として機能したものかもしれないが性格は不明な部分が多い。

2．鍋底状断面となるもの

底面から壁面にかけて弧状に連続する断面形状を示し、確認深は浅いものが多い。浅い柱穴の可能性も考えられるが、その痕跡は認められていない。1の土坑との断面形状の差異が明瞭であることから、



第95図　竪穴遺構と土坑配置図（A区）

A—2として報告しておく。

B，不整円形平面を示す土坑

径100cm前後の規模をもつ土坑で、底面もやや起伏がある。確認深も浅いものが多く、壁の立ち上がりの傾斜はゆるやかである。Bに分類される土坑はA区全域に分布するが、南東側に偏在する傾向も看取できる。この土坑の性格については明らかではない。しかし、平面形および底面の形状から判断すると複数回の掘り込み、埋土が行われた結果生じたものとの推定できる。このことを前提に考えれば貯蔵もしくは廃棄物処理用の土坑とも考えることもできるだろう。

95号土坑（第99・110図、ＰＬ78）

23Ｂ－５グリッドに位置する。長径190cm、短径143cm、深さ24cmを測る。平面形は大型楕円形で、土師器坏が出土している。土坑Ｂに該当する。

96号土坑（第99図）

23Ｂ－５グリッドに位置する。長径(160cm)、短径143m、深さ15cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。土坑Ｂに該当する。

97号土坑（第99図）

23Ｂ－10グリッドに位置する。長径194cm、短径108cm、深さ24cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。土坑Ｂに該当する。

98号土坑（第99図、ＰＬ17）

23Ｂ－６グリッドに位置する。長径—m'、短径159m、深さ15cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。土坑Ｂに該当する。

99号土坑（第99図）

23Ｃ－５グリッドに位置する。長径(78cm)、短径50m、深さ18cmを測る。平面形は楕円形を呈する。土坑Ｂに該当する。

101号土坑（第99図）

23Ｇ－９グリッドに位置する。長径107cm、短径87cm、深さ22cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。土坑Ｂに該当する。

105号土坑（第99図）

23Ｈ－９グリッドに位置する。長径43cm、短径22cm、深さ15cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

土坑Ａ－２に該当する。

107号土坑（第99図）

23Ｈ－９グリッドに位置する。長径29cm、短径27cm、深さ26cmを測る。平面形は円形を呈する。

土坑Ａ－１に該当する。

112号土坑（第99・100図、ＰＬ17・78）

23Ｈ－９グリッドに位置する。長径52cm、短径48cm、深さ42cmを測る。平面形は楕円形で、須恵器碗が出土している。土坑Ａ－１に該当する。

115号土坑（第99図、ＰＬ17）

23Ｇ－９グリッドに位置する。長径55cm、短径42cm、深さ37cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

土坑Ａ－１に該当する。

117号土坑（第99図、ＰＬ17）

23Ｇ－９グリッドに位置する。長径40cm、短径31cm、深さ35cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

土坑Ａ－１に該当する。

118号土坑（第99図、ＰＬ18）

23Ｇ－９グリッドに位置する。長径44cm、短径43cm、深さ16cmを測る。平面形は円形を呈する。

土坑Ａ－１に該当する。

120号土坑（第99図、ＰＬ18）

23Ｇ－９グリッドに位置する。長径39cm、短径37cm、深さ21cmを測る。平面形は円形を呈する。

土坑Ａ－１に該当する。

121号土坑（第99図、ＰＬ18）

23Ｇ－９グリッドに位置する。長径33cm、短径31cm、深さ19cmを測る。平面形は円形を呈する。

土坑Ａ－１に該当する。

130号土坑（第99図）

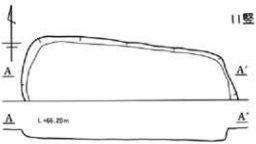
23Ｇ－９グリッドに位置する。長径120cm、短径103cm、深さ36cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。

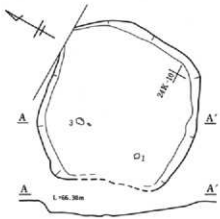
土坑Ｂに該当する。

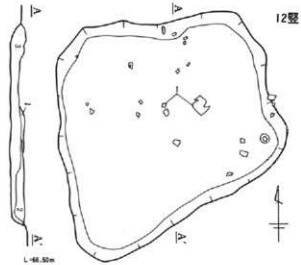
132号土坑（第99図、ＰＬ18）

23Ｇ－10グリッドに位置する。長径34cm、短径26cm、深さ24cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

土坑Ａ－１に該当する。







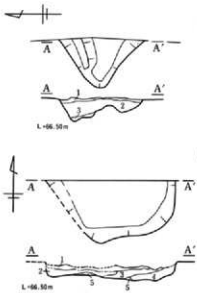
12号
1 褐色土　やや粘質。
2 暗褐色土　浅黄橙色粘土ブロックを少量含む。
3 暗灰褐色土　白色軽石・淡黄色ローム粒を少量含む。砂混じり粘性あり。

13号
1 黒褐色土　焼土粒・炭化物粒含む。
2 黒褐色土　粘質を持つ。
3 黒色土　褐色土ブロックを含む。

16号
1 黒褐色土　焼土・炭化物を含む。
2 黒褐色土　土器片多く包含する。
3 黒褐色土　黒色ブロック含む。

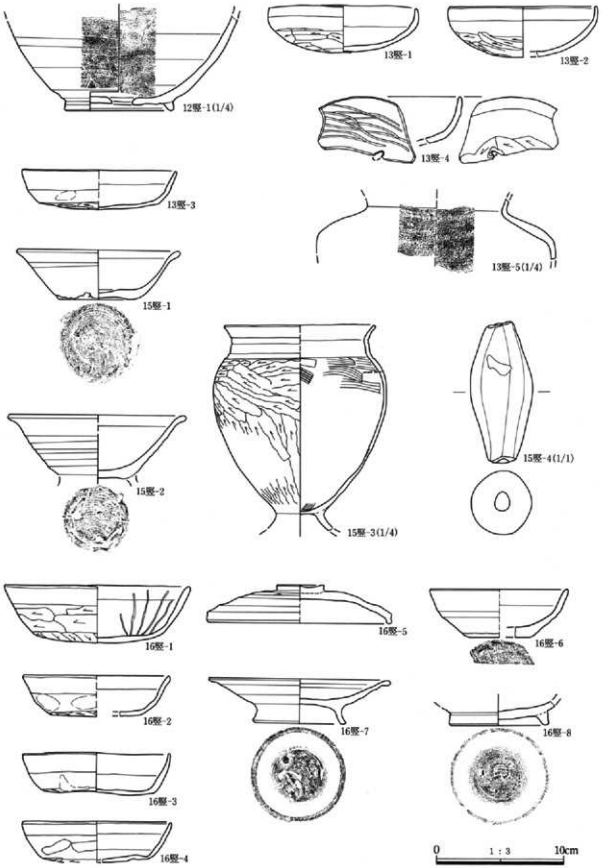
18号
1 暗褐色土　ローム粒を少量含む。
2 暗褐色土　ローム粒含む粘性土。
3 暗褐色土　ローム・砂を含む。
4 暗褐色土　砂・炭化物を含む。
5 暗褐色土　ロームブロックを多く含む。

19号
1 黒色土　土器片を多く包含する。
2 灰褐色土　粘質を持つ。

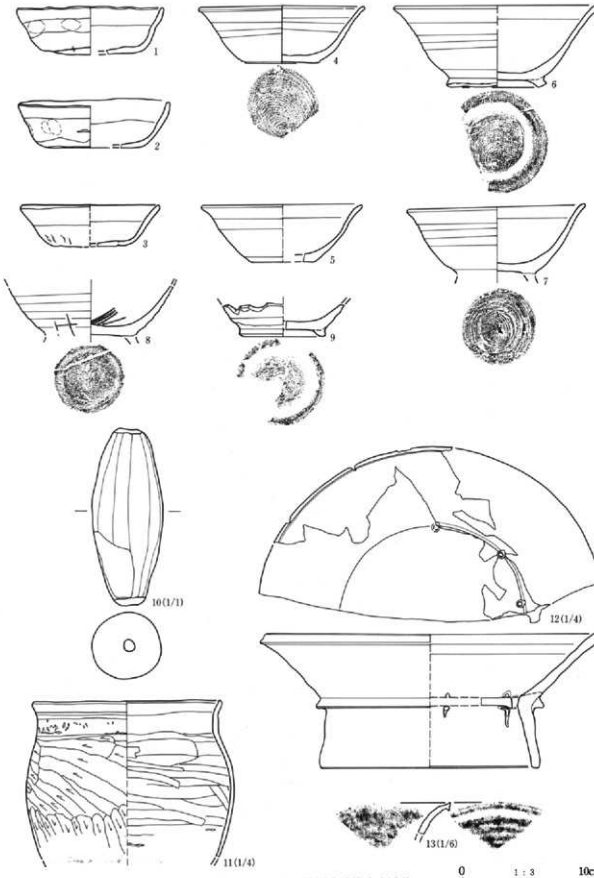


第96図　A区11～13・15・16・18・19号竪穴遺構

0　1:60　2m



第97図　A区12・13・15・16号竪穴遺構出土遺物



第98図　A区19号竪穴遺構出土遺物

134号土坑（第99図、ＰＬ18）
23Ｈ－10グリッドに位置する。長径23cm、短径18cm、深さ21cmを測る。平面形は楕円形を呈する。土坑Ａ－１に該当する。

138号土坑（第99図）
23Ｇ－９グリッドに位置する。長径58cm、短径53cm、深さ56cmを測る。平面形は楕円形を呈する。土坑Ａ－１に該当する。

141号土坑（第99図、ＰＬ18）
23Ｃ－９グリッドに位置する。長径91cm、短径71cm、深さ18cmを測る。平面形は楕円形を呈する。土坑Ｂに該当する。

144号土坑（第100・110図、ＰＬ18・78）
23Ｄ－５グリッドに位置する。長径155cm、短径136cm、深さ12cmを測る。平面形は大型楕円形で、土師器坏が出土している。土坑Ｂに該当する。

145号土坑（第100図）
23Ｄ－６グリッドに位置する。長径195cm、短径160cm、深さ26cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。土坑Ｂに該当する。

146号土坑（第100・110図、ＰＬ18・78）
23Ｃ－７グリッドに位置する。長径199cm、短径172cm、深さ28cmを測る。平面形は大型楕円形で、土師器坏と須恵器碗が出土している。
土坑Ｂに該当する。

147号土坑（第100図、ＰＬ18）
23Ｄ－５グリッドに位置する。長径182cm、短径172cm、深さ16cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。土坑Ｂに該当する。

148号土坑（第100図、ＰＬ18）
23Ｃ－８グリッドに位置する。長径118cm、短径110cm、深さ15cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。土坑Ｂに該当する。

149号土坑（第100図、ＰＬ19）
23Ｃ－９グリッドに位置する。長径165cm、短径119cm、深さ14cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。土坑Ｂに該当する。

150号土坑（第100図、ＰＬ19）
23Ｃ－９グリッドに位置する。長径190cm、短径73cm、深さ7cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。土坑Ｂに該当する。

151号土坑（第100図、ＰＬ19）
23Ｂ－９グリッドに位置する。長径185cm、短径155cm、深さ25cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。土坑Ｂに該当する。

152号土坑（第100図、ＰＬ19）
23Ｂ－９グリッドに位置する。長径121cm、短径96cm、深さ20cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。
土坑Ｂに該当する。

154号土坑（第100図、ＰＬ19）
23Ｃ－６グリッドに位置する。長径150cm、短径—cm、深さ18cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。土坑Ｂに該当する。

157号土坑（第100図、ＰＬ19）
23Ｄ－９グリッドに位置する。長径94cm、短径80cm、深さ20cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ｂに該当する。

158号土坑（第100図、ＰＬ19）
23Ｄ－９グリッドに位置する。長径70cm、短径40cm、深さ14cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

159号土坑（第100図、ＰＬ19）
23Ｃ－９グリッドに位置する。長径34cm、短径29cm、深さ22cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

153号土坑（第101図、ＰＬ19）
23Ｂ－９グリッドに位置する。長径65cm、短径49cm、深さ29cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

160号土坑（第101図、ＰＬ20）
23Ｄ－９グリッドに位置する。長径58cm、短径53cm、深さ23cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

169号土坑（第101図、ＰＬ20）
23Ｃ－10グリッドに位置する。長径67cm、短径64cm、深さ22cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

土坑A－1に該当する。

170号土坑（第101図、PL20）

23F－8グリッドに位置する。長径163cm、短径133cm、深さ21cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。土坑Bに該当する。

171号土坑（第101・110図、PL20・79）

23F－6グリッドに位置する。長径182cm、短径(182cm)、深さ27cmを測る。平面形は大型楕円形で、須恵器坏が出土している。土坑Bに該当する。

174号土坑（第101図、PL20）

23F－7グリッドに位置する。長径133cm、短径125cm、深さ20cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。土坑Bに該当する。

175号土坑（第101図、PL20）

23E－7グリッドに位置する。長径63cm、短径41cm、深さ19cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

土坑A－1に該当する。

176号土坑（第101図、PL20）

23H－9グリッドに位置する。長径40cm、短径31cm、深さ12cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

土坑A－1に該当する。

179号土坑（第101図、PL20）

23H－9グリッドに位置する。長径41cm、短径31cm、深さ19cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

土坑A－1に該当する。

180号土坑（第101図、PL20）

23G－9グリッドに位置する。長径30cm、短径28cm、深さ10cmを測る。平面形は円形を呈する。

土坑A－1に該当する。

183号土坑（第101図、PL20）

23H－10グリッドに位置する。長径36cm、短径34cm、深さ41cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

土坑A－1に該当する。

188号土坑（第101図、PL21）

23D－8グリッドに位置する。長径123cm、短径110cm、深さ18cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。土坑Bに該当する。

189号土坑（第101図）

23H－9グリッドに位置する。長径27cm、短径19cm、深さ10cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

190号土坑（第101図、PL21）

23G－9グリッドに位置する。長径32cm、短径(24cm)、深さ20cmを測る。平面形は円形を呈する。

土坑A－1に該当する。

191号土坑（第101図、PL21）

23G－9グリッドに位置する。長径34cm、短径32cm、深さ25cmを測る。平面形は円形を呈する。

土坑A－1に該当する。

192号土坑（第101図、PL21）

23H－9グリッドに位置する。長径50cm、短径38cm、深さ10cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

土坑A－2に該当する。

194号土坑（第101図、PL21）

23E－7グリッドに位置する。長径36cm、短径32cm、深さ21cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

土坑A－1に該当する。

196号土坑（第101図）

23H－9グリッドに位置する。長径67cm、短径31cm、深さ42cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

土坑A－1に該当する。

197号土坑（第101・110図、PL21・79）

23G－6グリッドに位置する。長径104cm、短径100cm、深さ78cmを測る。平面形は大型楕円形で、土師器坏が出土している。土坑Bに該当する。

203号土坑（第101図、PL21）

23G－8グリッドに位置する。長径42cm、短径29cm、深さ17cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

土坑A－1に該当する。

209号土坑（第102図）

23G－9グリッドに位置する。長径67cm、短径47cm、深さ51cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

土坑A－1に該当する。

211号土坑（第102図）

23H－9グリッドに位置する。長径28cm、短径27cm、深さ9cmを測る。平面形は円形を呈する。

土坑A－1に該当する。

213号土坑（第102図）
23H－9グリッドに位置する。長径(33cm)、短径33cm、深さ15cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－1に該当する。
214号土坑（第102図）
23H－9グリッドに位置する。長径40cm、短径33cm、深さ39cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－1に該当する。
217号土坑（第102図、PL21）
23H－9グリッドに位置する。長径34cm、短径27cm、深さ40cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－1に該当する。
218号土坑（第102図、PL21）
23H－8グリッドに位置する。長径37cm、短径30cm、深さ39cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－1に該当する。
219号土坑（第102図、PL21）
23H－8グリッドに位置する。長径42cm、短径34cm、深さ32cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－1に該当する。
220号土坑（第102図、PL21）
23H－9グリッドに位置する。長径34cm、短径30cm、深さ22cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－1に該当する。
222号土坑（第102図、PL22）
23I－9グリッドに位置する。長径46cm、短径42cm、深さ54cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－1に該当する。
223号土坑（第102図、PL22）
23I－9グリッドに位置する。長径40cm、短径36cm、深さ34cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－1に該当する。
227号土坑（第102図、PL22）
23H－9グリッドに位置する。長径39cm、短径32cm、深さ25cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－1に該当する。
229号土坑（第102図、PL22）
23H－9グリッドに位置する。長径18cm、短径14cm、深さ17cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－1に該当する。
230号土坑（第102図、PL22）
23H－9グリッドに位置する。長径34cm、短径22cm、深さ17cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－2に該当する。
232号土坑（第102図、PL22）
23H－8グリッドに位置する。長径65cm、短径45cm、深さ48cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－1に該当する。
237号土坑（第102図、PL22）
23E－8グリッドに位置する。長径38cm、短径35cm、深さ26cmを測る。平面形は円形を呈する。
土坑A－1に該当する。
240号土坑（第102図、PL23）
23F－8グリッドに位置する。長径36cm、短径34cm、深さ27cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－1に該当する。
243号土坑（第102図）
23E－7グリッドに位置する。長径45cm、短径42cm、深さ33cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－1に該当する。
245号土坑（第102図）
23B－10グリッドに位置する。長径－cm、短径96cm、深さ13cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Bに該当する。
248号土坑（第102図）
23C－9グリッドに位置する。長径71cm、短径(35cm)、深さ18cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Bに該当する。
249号土坑（第102図）
23C－9グリッドに位置する。長径85cm、短径71cm、深さ15cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Bに該当する。
254号土坑（第102図）
23H－9グリッドに位置する。長径33cm、短径(25cm)、深さ19cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－1に該当する。

265号土坑（第102・110図、ＰＬ79）
23Ｂ－６グリッドに位置する。長径344cm、短径148cm、深さ12cmを測る。平面形は大型楕円形で、須恵器甕口縁部が出土している。土坑Ｂに該当する。

266号土坑（第102図）
23Ｃ－８グリッドに位置する。長径29cm、短径21cm、深さ29cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

267号土坑（第102図）
23Ｃ－８グリッドに位置する。長径29cm、短径26cm、深さ26cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

271号土坑（第102図、ＰＬ22）
23Ｆ－８グリッドに位置する。長径58cm、短径42cm、深さ44cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

272号土坑（第102図、ＰＬ23）
23Ｆ－７グリッドに位置する。長径37cm、短径33cm、深さ22cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

276号土坑（第102図、ＰＬ23）
23Ｆ－７グリッドに位置する。長径48cm、短径42cm、深さ25cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

282号土坑（第102図、ＰＬ23）
23Ｆ－８グリッドに位置する。長径34cm、短径31cm、深さ25cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

283号土坑（第102図、ＰＬ23）
23Ｆ－８グリッドに位置する。長径27cm、短径24cm、深さ32cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

285号土坑（第102図、ＰＬ23）
23Ｆ－８グリッドに位置する。長径37cm、短径32cm、深さ21cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－２に該当する。

287号土坑（第102図、ＰＬ23）
23Ｆ－10グリッドに位置する。長径32cm、短径30cm、深さ20cmを測る。平面形は円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

289号土坑（第102図、ＰＬ23）
23Ｆ－10グリッドに位置する。長径27cm、短径26cm、深さ19cmを測る。平面形は円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

291号土坑（第102図、ＰＬ23）
23Ｉ－７グリッドに位置する。長径25cm、短径24cm、深さ24cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

292号土坑（第102図）
23Ｉ－７グリッドに位置する。長径28cm、短径24cm、深さ22cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

295号土坑（第102図、ＰＬ23）
23Ｊ－７グリッドに位置する。長径34cm、短径33cm、深さ40cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

296号土坑（第102図）
23Ｊ－７グリッドに位置する。長径34cm、短径28cm、深さ16cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

297号土坑（第102・110図、ＰＬ23・79）
23Ｊ－７グリッドに位置する。長径47cm、短径44cm、深さ30cmを測る。平面形は楕円形で、須恵器坏が出土している。土坑Ａ－１に該当する。

302号土坑（第102図）
23Ｊ－７グリッドに位置する。長径46cm、短径41cm、深さ14cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

303号土坑（第102・110図、ＰＬ79）
23Ｊ－７グリッドに位置する。長径43cm、短径38cm、深さ18cmを測る。平面形は楕円形で、石製紡錘車が出土している。土坑Ａ－１に該当する。

312号土坑（第102図、ＰＬ24）
23Ｉ－８グリッドに位置する。長径28cm、短径23cm、深さ36cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

323号土坑（第102図、ＰＬ24）
23Ｈ－８グリッドに位置する。長径40cm、短径29cm、深さ41cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

324号土坑（第102図、ＰＬ24）
23Ｈ－８グリッドに位置する。長径51cm、短径39cm、深さ34cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

326号土坑（第102図、ＰＬ24）
23Ｆ－８グリッドに位置する。長径31cm、短径26cm、深さ24cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

331号土坑（第103図、ＰＬ24）
23Ｆ－９グリッドに位置する。長径31cm、短径31cm、深さ55cmを測る。平面形は円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

332号土坑（第103図、ＰＬ24）
23Ｆ－９グリッドに位置する。長径35cm、短径33cm、深さ27cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

338号土坑（第103図、ＰＬ24）
23Ｆ－９グリッドに位置する。長径38cm、短径30cm、深さ17cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

339号土坑（第103図、ＰＬ24）
23Ｅ－９グリッドに位置する。長径34cm、短径29cm、深さ31cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

344号土坑（第103図）
23Ｆ－10グリッドに位置する。長径133cm、短径95cm、深さ15cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。
土坑Ｂに該当する。

347号土坑（第103図、ＰＬ24）
23Ｆ－10グリッドに位置する。長径30cm、短径30cm、深さ35cmを測る。平面形は円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

348号土坑（第103図、ＰＬ24）
23Ｆ－９グリッドに位置する。長径48cm、短径35cm、深さ36cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

349号土坑（第103図）
23Ｆ－10グリッドに位置する。長径41cm、短径41cm、深さ15cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

362号土坑（第104図、ＰＬ25）
23Ｉ－10グリッドに位置する。長径27cm、短径26cm、深さ12cmを測る。平面形は円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

363号土坑（第104図、ＰＬ25）
23Ｉ－10グリッドに位置する。長径26cm、短径22cm、深さ14cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

365号土坑（第104図、ＰＬ25）
23Ｉ－10グリッドに位置する。長径28cm、短径24cm、深さ26cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

366号土坑（第104図）
23Ｉ－10グリッドに位置する。長径53cm、短径47cm、深さ10cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－２に該当する。

367号土坑（第104図、ＰＬ25）
23Ｉ－10グリッドに位置する。長径34cm、短径34cm、深さ７cmを測る。平面形は円形を呈する。
土坑Ａ－２に該当する。

373号土坑（第104図）
23Ｉ－８グリッドに位置する。長径25cm、短径22cm、深さ48cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

385号土坑（第104図、ＰＬ25）
23Ｇ－７グリッドに位置する。長径42cm、短径41cm、深さ27cmを測る。平面形は円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

391号土坑（第104図）
23Ｆ－10グリッドに位置する。長径71cm、短径45cm、深さ26cmを測る。平面形は不整形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

392号土坑（第104図）
23F－10グリッドに位置する。長径39cm、短径35cm、深さ20cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－1に該当する。

399号土坑（第104図）
23G－10グリッドに位置する。長径37cm、短径31cm、深さ12cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－1に該当する。

403号土坑（第104図）
23G－10グリッドに位置する。長径29cm、短径25cm、深さ32cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－1に該当する。

413号土坑（第104図、PL25）
23H－11グリッドに位置する。長径42cm、短径34cm、深さ32cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－1に該当する。

426号土坑（第104図、PL25）
23F－10グリッドに位置する。長径30cm、短径25cm、深さ29cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－1に該当する。

430号土坑（第104図）
23F－6グリッドに位置する。長径33cm、短径30cm、深さ30cmを測る。平面形は円形を呈する。
土坑A－1に該当する。

435号土坑（第104図、PL25）
23G－10グリッドに位置する。長径30cm、短径30cm、深さ10cmを測る。平面形は円形を呈する。
土坑A－1に該当する。

438号土坑（第104図、PL25）
23F－10グリッドに位置する。長径37cm、短径33cm、深さ40cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－1に該当する。

439号土坑（第104図、PL25）
23F－10グリッドに位置する。長径68cm、短径59cm、深さ40cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－1に該当する。

445号土坑（第104図、PL26）
23F－8グリッドに位置する。長径36cm、短径27cm、深さ36cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－1に該当する。

446号土坑（第104図、PL26）
23E－6グリッドに位置する。長径34cm、短径33cm、深さ16cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－2に該当する。

447号土坑（第104図、PL26）
23E－6グリッドに位置する。長径24cm、短径23cm、深さ16cmを測る。平面形は円形を呈する。
土坑A－1に該当する。

448号土坑（第104図、PL26）
23E－6グリッドに位置する。長径19cm、短径26cm、深さ25cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－1に該当する。

451号土坑（第104図、PL26）
23F－10グリッドに位置する。長径38cm、短径32cm、深さ23cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－2に該当する。

453号土坑（第104図、PL26）
23G－10グリッドに位置する。長径40cm、短径28cm、深さ31cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－2に該当する。

456号土坑（第104図）
23F－6グリッドに位置する。長径25cm、短径23cm、深さ15cmを測る。平面形は円形を呈する。
土坑A－1に該当する。

457号土坑（第104図）
23F－6グリッドに位置する。長径27cm、短径23cm、深さ11cmを測る。平面形は円形を呈する。
土坑A－1に該当する。

458号土坑（第104図）
23F－6グリッドに位置する。長径50cm、短径47cm、深さ15cmを測る。平面形は円形を呈する。
土坑A－1に該当する。

454号土坑（第105図、PL26）
23F－8グリッドに位置する。長径143cm、短径114cm、深さ51cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。
土坑Bに該当する。

459号土坑（第105図、ＰＬ26）
23Ｇ－８グリッドに位置する。長径52cm、短径45cm、深さ69cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

460号土坑（第105図）
23Ｆ－10グリッドに位置する。長径45cm、短径35cm、深さ20cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

463号土坑（第105図）
23Ｆ－８グリッドに位置する。長径58cm、短径（53cm）、深さ19cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

464号土坑（第105図、ＰＬ26）
23Ｇ－８グリッドに位置する。長径53cm、短径46cm、深さ86cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

466号土坑（第105図、ＰＬ27）
23Ｆ－８グリッドに位置する。長径44cm、短径37cm、深さ27cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

470号土坑（第105・110図、ＰＬ27・79）
23Ｆ－８グリッドに位置する。長径113cm、短径97cm、深さ16cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。
土坑Ｂに該当する。

472号土坑（第105図）
23Ｉ－８グリッドに位置する。長径27cm、短径20cm、深さ36cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

473号土坑（第105図）
23Ｉ－８グリッドに位置する。長径38cm、短径32cm、深さ38cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

482号土坑（第105図、ＰＬ27）
23Ｊ－10グリッドに位置する。長径147cm、短径72cm、深さ33cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。
土坑Ｂに該当する。

483号土坑（第105図、ＰＬ27）
23Ｊ－10グリッドに位置する。長径198cm、短径90cm、深さ25cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。
土坑Ｂに該当する。

484号土坑（第105図、ＰＬ27）
23Ｊ－10グリッドに位置する。長径38cm、短径30cm、深さ27cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

491号土坑（第105図）
23Ｇ－７グリッドに位置する。長径103cm、短径98cm、深さ19cmを測る。平面形は大型円形を呈する。
土坑Ｂに該当する。

492号土坑（第105図、ＰＬ27）
23Ｇ－８グリッドに位置する。長径29cm、短径25cm、深さ40cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

493号土坑（第105図、ＰＬ27）
23Ｇ－７グリッドに位置する。長径27cm、短径23cm、深さ22cmを測る。平面形は円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

495号土坑（第105図）
23Ｈ－８グリッドに位置する。長径23cm、短径20cm、深さ45cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

496号土坑（第105図）
23Ｄ－８グリッドに位置する。長径31cm、短径（26cm）、深さ13cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

497号土坑（第105図、ＰＬ27）
23Ｇ－８グリッドに位置する。長径30cm、短径24cm、深さ24cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

502号土坑（第105図、ＰＬ27）
23Ｇ－６グリッドに位置する。長径55cm、短径37cm、深さ9cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

503号土坑（第105図、ＰＬ27）
23Ｇ－６グリッドに位置する。長径45cm、短径29cm、深さ14cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

506号土坑（第105図、ＰＬ28）
23Ｇ－５グリッドに位置する。長径25cm、短径22cm、深さ10cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

507号土坑（第105図、ＰＬ28）
23Ｇ－５グリッドに位置する。長径38cm、短径33cm、深さ29cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

510号土坑（第105図）
23Ｅ－６グリッドに位置する。長径38cm、短径27cm、深さ21cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

501号土坑（第106図）
23Ｇ－７グリッドに位置する。長径29cm、短径28cm、深さ34cmを測る。平面形は円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

505号土坑（第106図）
23Ｆ－６グリッドに位置する。長径33cm、短径31cm、深さ25cmを測る。平面形は円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

508号土坑（第106図）
23Ｇ－６グリッドに位置する。長径101cm、短径80cm、深さ26cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。
土坑Ｂに該当する。

509号土坑（第106図）
23Ｅ－６グリッドに位置する。長径24cm、短径22cm、深さ10cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

511号土坑（第106図）
23Ｆ－６グリッドに位置する。長径28cm、短径25cm、深さ24cmを測る。平面形は円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

521号土坑（第106図）
23Ｆ－５グリッドに位置する。長径39cm、短径31cm、深さ12cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

523号土坑（第106図）
23Ｊ－９グリッドに位置する。長径34cm、短径31cm、深さ20cmを測る。平面形は円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

524号土坑（第106図、ＰＬ28）
23Ｆ－６グリッドに位置する。長径132cm、短径114cm、深さ18cmを測る。平面形は大型楕円形で、土師器坏が出土している。土坑Ｂに該当する。

526号土坑（第106図）
23Ｆ－5グリッドに位置する。長径42cm、短径37cm、深さ38cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

529号土坑（第106図、ＰＬ28）
23Ｇ－６グリッドに位置する。長径82cm、短径65cm、深さ20cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ｂに該当する。

530号土坑（第106・110図、ＰＬ28・79）
23Ｇ－６グリッドに位置する。長径180cm、短径160cm、深さ12cmを測る。平面形は大型楕円形で、土師器坏が出土している。土坑Ｂに該当する。

531号土坑（第106・110図、ＰＬ28・79）
23Ｇ－５グリッドに位置する。長径40cm、短径33cm、深さ10cmを測る。平面形は楕円形で、土師器坏が出土している。土坑Ａ－１に該当する。

532号土坑（第106・110図、ＰＬ28・79）
23Ｇ－５グリッドに位置する。長径81cm、短径76cm、深36cmを測る。平面形は楕円形で、須恵器蓋が出土している。土坑Ｂに該当する。

533号土坑（第106・110図、ＰＬ28・79）
23Ｇ－５グリッドに位置する。長径36cm、短径28cm、深さ16cmを測る。平面形は楕円形で、土師器坏が出土している。土坑Ａ－１に該当する。

534号土坑（第106・110図、ＰＬ28・79）
23Ｇ－５グリッドに位置する。長径124cm、短径92cm、深さ15cmを測る。平面形は大型楕円形で、土師器坏が出土している。土坑Ｂに該当する。

535号土坑（第106図）
23Ｇ－６グリッドに位置する。長径128cm、短径125cm、深さ18cmを測る。平面形は大型隅丸方形を呈する。土坑Ｂに該当する。

536号土坑（第106図）
23G－6グリッドに位置する。長径230cm、短径（143cm）、深さ31cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。土坑Bに該当する。

538号土坑（第106図）
23F－6グリッドに位置する。長径181cm、短径113cm、深さ17cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。土坑Bに該当する。

540号土坑（第107図、PL28）
23H－6グリッドに位置する。長径28cm、短径26cm、深さ18cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－1に該当する。

541号土坑（第107図、PL28）
23H－5グリッドに位置する。長径32cm、短径28cm、深20cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－1に該当する。

542号土坑（第107図、PL28）
23H－5グリッドに位置する。長径36cm、短径36cm、深さ23cmを測る。平面形は円形を呈する。
土坑A－1に該当する。

543号土坑（第107図、PL29）
23H－5グリッドに位置する。長径40cm、短径36cm、深さ32cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－1に該当する。

544号土坑（第107図、PL29）
23H－6グリッドに位置する。長径36cm、短径33cm、深さ12cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－1に該当する。

545号土坑（第107図、PL29）
23H－6グリッドに位置する。長径60cm、短径52cm、深35cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－1に該当する。

549号土坑（第107図）
23J－6グリッドに位置する。長径34cm、短径23cm、深さ15cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－1に該当する。

553号土坑（第107図）
23J－6グリッドに位置する。長径37cm、短径29cm、深さ17cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－1に該当する。

555号土坑（第107図）
23F－6グリッドに位置する。長径133cm、短径123cm、深さ43cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。
土坑Bに該当する。

560号土坑（第107図、PL29）
23H－6グリッドに位置する。長径42cm、短径38cm、深30cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－1に該当する。

561号土坑（第107図、PL29）
23I－9グリッドに位置する。長径24cm、短径22cm、深さ25cmを測る。平面形は円形を呈する。
土坑A－1に該当する。

562号土坑（第107図、PL29）
23I－9グリッドに位置する。長径25cm、短径23cm、深さ20cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－1に該当する。

563号土坑（第107図、PL29）
23I－9グリッドに位置する。長径31cm、短径30cm、深さ40cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－1に該当する。

564号土坑（第107図、PL29）
23I－9グリッドに位置する。長径32cm、短径25cm、深14cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－1に該当する。

565号土坑（第107図、PL29）
23I－9グリッドに位置する。長径30cm、短径26cm、深さ16cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－1に該当する。

566号土坑（第107図、PL29）
23I－8グリッドに位置する。長径38cm、短径35cm、深さ31cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑A－1に該当する。

567a号土坑（第107図、PL29）
23I－9グリッドに位置する。長径50cm、短径50cm、深28cmを測る。平面形は円形を呈する。
土坑A－1に該当する。

567b号土坑（第107図、ＰＬ29）
23Ｉ－９グリッドに位置する。長径45cm、短径44cm、深さ44cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

568号土坑（第107図、ＰＬ29）
23Ｉ－８グリッドに位置する。長径40cm、短径37cm、深さ19cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

569号土坑（第107図、ＰＬ30）
23Ｊ－８グリッドに位置する。長径31cm、短径29cm、深さ24cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

570号土坑（第107図）
23Ｊ－８グリッドに位置する。長径28cm、短径27cm、深28cmを測る。平面形は円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

572号土坑（第107図、ＰＬ30）
23Ｉ－８グリッドに位置する。長径194cm、短径149cm、深さ25cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。
土坑Ｂに該当する。

576号土坑（第107図）
23Ｇ－７グリッドに位置する。長径28cm、短径27cm、深さ11cmを測る。平面形は円形を呈する。
土坑Ａ－２に該当する。

583号土坑（第107図、ＰＬ30）
23Ｉ－７グリッドに位置する。長径188cm、短径62cm、深23cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。
土坑Ｂに該当する。

596号土坑（第107図）
23Ｈ－６グリッドに位置する。長径98cm、短径70cm、深さ16cmを測る。平面形は不整形を呈する。
土坑Ｂに該当する。

577号土坑（第108図、ＰＬ30）
23Ｈ－７グリッドに位置する。長径35cm、短径31cm、深さ18cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

585号土坑（第108図）
23Ｈ－６グリッドに位置する。長径94cm、短径73cm、深さ18cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ｂに該当する。

598号土坑（第108図、ＰＬ30）
23Ｈ－６グリッドに位置する。長径29cm、短径25cm、深さ12cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

599号土坑（第108図）
23Ｉ－５グリッドに位置する。長径30cm、短径24cm、深25cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

607号土坑（第108図）
23Ｊ－７グリッドに位置する。長径28cm、短径19cm、深さ10cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

609号土坑（第108図、ＰＬ30）
23Ｊ－６グリッドに位置する。長径58cm、短径46cm、深さ58cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

611号土坑（第108図）
23Ｇ－７グリッドに位置する。長径143cm、短径125cm、深さ６cmを測る。平面形は不整形を呈する。
土坑Ｂに該当する。

615号土坑（第108図、ＰＬ30）
23Ｈ－７グリッドに位置する。長径37cm、短径33cm、深25cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

618号土坑（第108図、ＰＬ30）
23Ｇ－７グリッドに位置する。長径30cm、短径30cm、深さ13cmを測る。平面形は円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

619号土坑（第108図、ＰＬ30）
23Ｇ－７グリッドに位置する。長径23cm、短径22cm、深さ29cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

622号土坑（第108図）
23Ｇ－７グリッドに位置する。長径51cm、短径42cm、深さ６cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－２に該当する。

633号土坑（第108図、ＰＬ31）
23Ｈ－５グリッドに位置する。長径38cm、短径32cm、深さ19cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

638号土坑（第108図）
23Ｉ－５グリッドに位置する。長径46cm、短径30cm、深さ16cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

645号土坑（第108図、ＰＬ31）
23Ｈ－５グリッドに位置する。長径36cm、短径32cm、深43cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

655号土坑（第108図、ＰＬ31）
23Ｊ－６グリッドに位置する。長径37cm、短径34cm、深さ24cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

659号土坑（第108図）
23Ｊ－６グリッドに位置する。長径31cm、短径24cm、深さ21cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

667号土坑（第108図、ＰＬ31）
23Ｈ－５グリッドに位置する。長径34cm、短径32cm、深13cmを測る。平面形は円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

669号土坑（第108図）
23Ｈ－５グリッドに位置する。長径52cm、短径43cm、深さ38cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

671号土坑（第108図、ＰＬ31）
23Ｈ－７グリッドに位置する。長径56cm、短径36cm、深さ15cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

673号土坑（第108図、ＰＬ31）
23Ｈ－５グリッドに位置する。長径38cm、短径28cm、深22cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

674号土坑（第108図、ＰＬ31）
23Ｊ－６グリッドに位置する。長径26cm、短径14cm、深さ20cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

680号土坑（第108図、ＰＬ31）
23Ｊ－７グリッドに位置する。長径23cm、短径18cm、深さ26cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

684号土坑（第108図、ＰＬ31）
23Ｉ－６グリッドに位置する。長径28cm、短径22cm、深34cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

687号土坑（第108図、ＰＬ31）
23Ｊ－６グリッドに位置する。長径38cm、短径31cm、深さ14cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

688号土坑（第108図、ＰＬ32）
23Ｊ－６グリッドに位置する。長径25cm、短径20cm、深さ27cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

689号土坑（第109図）
23Ｊ－６グリッドに位置する。長径24cm、短径22cm、深12cmを測る。平面形は円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

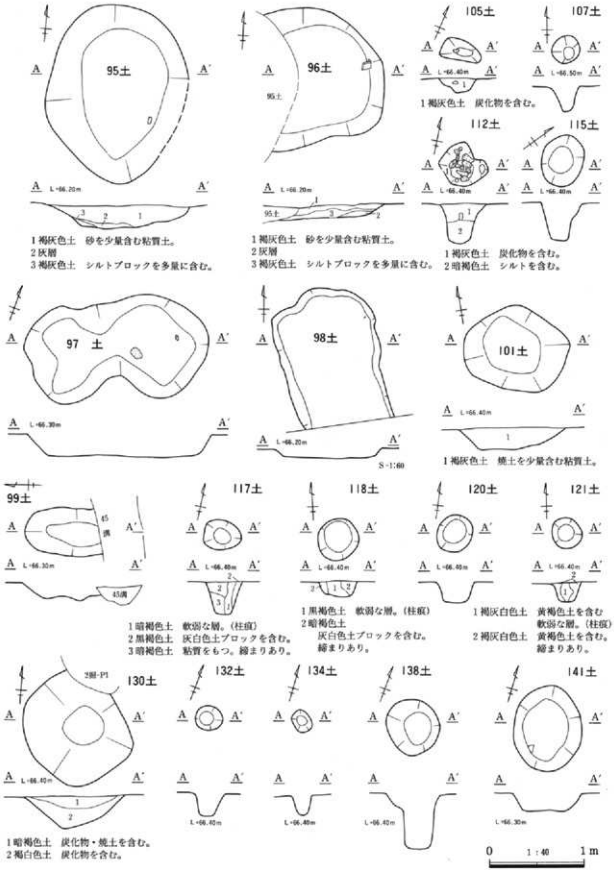
690号土坑（第109図、ＰＬ32）
23Ｊ－５グリッドに位置する。長径32cm、短径27cm、深さ44cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

691号土坑（第109図、ＰＬ32）
23Ｈ－７グリッドに位置する。長径38cm、短径28cm、深さ46cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

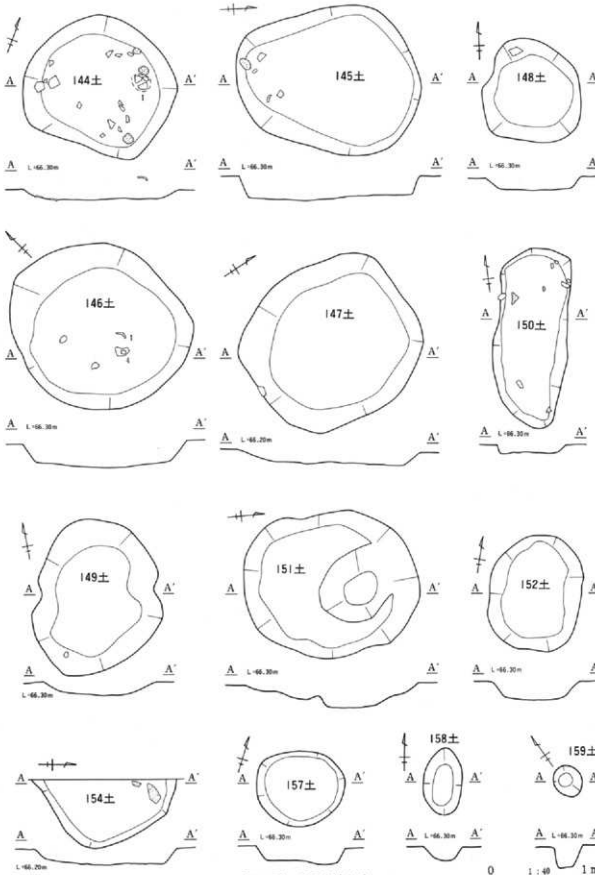
692号土坑（第109図、ＰＬ32）
23Ｈ－７グリッドに位置する。長径45cm、短径28cm、深49cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

695号土坑（第109図、ＰＬ32）
23Ｊ－６グリッドに位置する。長径25cm、短径20cm、深さ21cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。

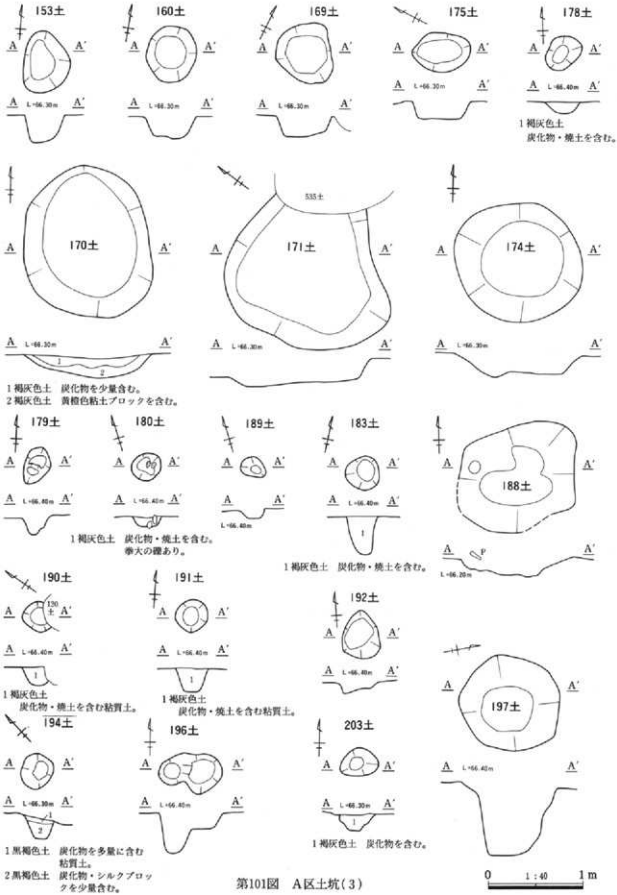
696号土坑（第109図、ＰＬ32）
23Ｊ－６グリッドに位置する。長径30cm、短径24cm、深さ31cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。
697号土坑（第109図、ＰＬ32）
23Ｊ－６グリッドに位置する。長径33cm、短径33cm、深15cmを測る。平面形は円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。
698号土坑（第109図、ＰＬ32）
23Ｉ－６グリッドに位置する。長径22cm、短径18cm、深さ５cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。
699号土坑（第109図、ＰＬ32）
23Ｉ－６グリッドに位置する。長径27cm、短径26cm、深さ8cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。
702号土坑（第109図、ＰＬ32）
23Ｈ－６グリッドに位置する。長径33cm、短径28cm、深さ10cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。
703号土坑（第109図、ＰＬ33）
23Ｊ－６グリッドに位置する。長径52cm、短径23cm、深さ46cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。
704号土坑（第109図、ＰＬ33）
23Ｊ－６グリッドに位置する。長径31cm、短径28cm、深さ18cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。
708号土坑（第109図、ＰＬ33）
23Ｊ－６グリッドに位置する。長径28cm、短径24cm、深さ20cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。
709号土坑（第109図、ＰＬ33）
23Ｊ－６グリッドに位置する。長径33cm、短径22cm、深さ28cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。
713号土坑（第109・110図、ＰＬ33・79）
23Ｊ－６グリッドに位置する。長径71cm、短径47cm、深さ５cmを測る。平面形は楕円形で、土錘が出土している。土坑Ｂに該当する。
714号土坑（第109図、ＰＬ33）
23Ｊ－６グリッドに位置する。長径52cm、短径46cm、深さ32cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。
718号土坑（第109図、ＰＬ33）
23Ｉ－６グリッドに位置する。長径18cm、短径15cm、深さ11cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。
720号土坑（第109図）
23Ｉ－５グリッドに位置する。長径32cm、短径26cm、深さ22cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。
722号土坑（第109図、ＰＬ33）
23Ｋ－６グリッドに位置する。長径56cm、短径46cm、深さ66cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。
725号土坑（第109図、ＰＬ33）
23Ｋ－６グリッドに位置する。長径28cm、短径28cm、深さ12cmを測る。平面形は円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。
727号土坑（第109図、ＰＬ33）
23Ｋ－６グリッドに位置する。長径38cm、短径33cm、深さ12cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。
733号土坑（第109図）
23Ｉ－６グリッドに位置する。長径22cm、短径18cm、深さ22cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。
734号土坑（第109図、ＰＬ33）
23Ｊ－６グリッドに位置する。長径22cm、短径18cm、深さ10cmを測る。平面形は楕円形を呈する。
土坑Ａ－１に該当する。
236号土坑（第109図、ＰＬ22）
23Ｈ－10グリッドに位置する。長径347cm、短径239cm、深さ28cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。
土坑Ｂに該当する。


95土
1 褐灰色土　砂を少量含む粘質土。
2 灰層
3 褐灰色土　シルトブロックを多量に含む。
96土
1 褐灰色土　砂を少量含む粘質土。
2 灰層
3 褐灰色土　シルトブロックを多量に含む。
105土
1 褐灰色土　炭化物を含む。
107土
112土
115土
1 褐灰色土　炭化物を含む。
2 暗褐色土　シルトを含む。
97 土
98土
S=1:60
101土
1 褐灰色土　焼土を少量含む粘質土。
99土
45溝
117土
1 暗褐色土　軟弱な層。(柱痕)
2 黒褐色土　灰白色土ブロックを含む。
3 暗褐色土　粘質をもつ。締まりあり。
118土
1 黒褐色土　軟弱な層。(柱痕)
2 暗褐色土
灰白色土ブロックを含む。
締まりあり。
120土
1 褐灰白色土　黄褐色土を含む
軟弱な層。(柱痕)
2 褐灰白色土　黄褐色土を含む。
締まりあり。
121土
28H-P1
130土
1 暗褐色土　炭化物・焼土を含む。
2 褐白色土　炭化物を含む。
132土
134土
138土
141土
0　1:40　1 m

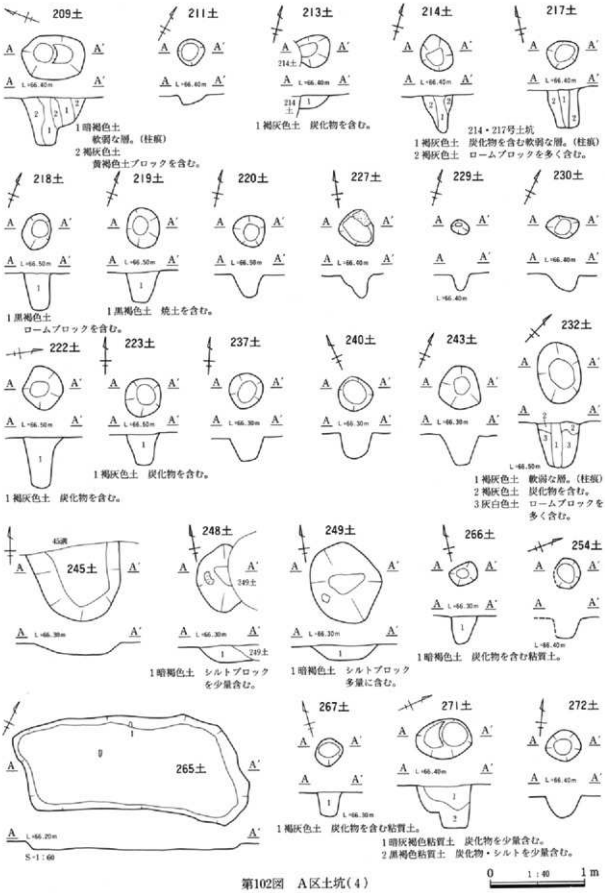
第99図　A区土坑(1)


144土
145土
148土
146土
147土
150土
149土
151土
152土
154土
157土
158土
159土
A
A'
L=66.30m
L=66.20m
0
1:40
1m

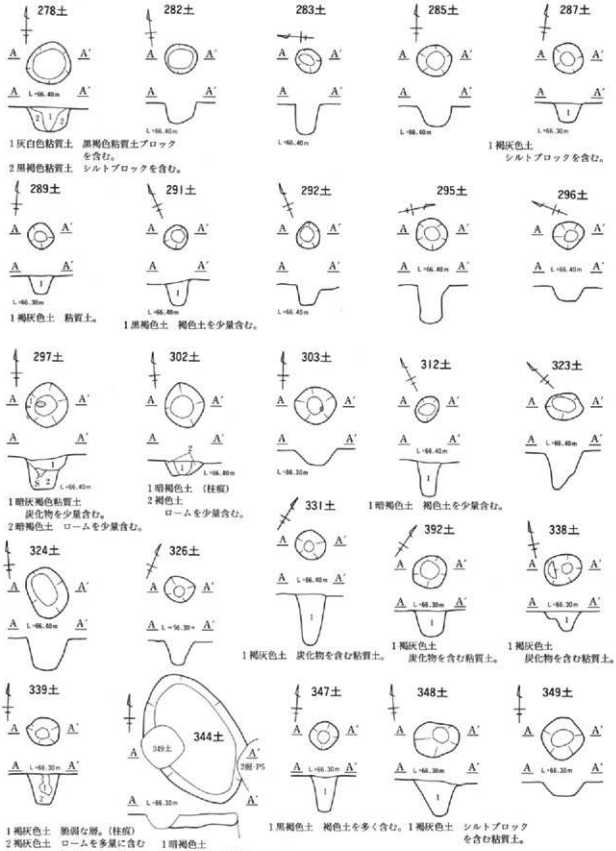
第100図　A区土坑(2)


153土
160土
169土
175土
178土
1 褐灰色土
炭化物・焼土を含む。
170土
171土
535土
174土
1 褐灰色土　炭化物を少量含む。
2 褐灰色土　黄橙色粘土ブロックを含む。
179土
180土
189土
183土
188土
1 褐灰色土　炭化物・焼土を含む。
赤火の跡あり。
1 褐灰色土　炭化物・焼土を含む。
190土
191土
192土
1 褐灰色土
炭化物・焼土を含む粘質土。
1 褐灰色土
炭化物・焼土を含む粘質土。
197土
194土
196土
203土
1 黒褐色土　炭化物を多量に含む
粘質土。
2 黒褐色土　炭化物・シルクブロッ
クを少量含む。
1 褐灰色土　炭化物を含む。
0　1:40　1m

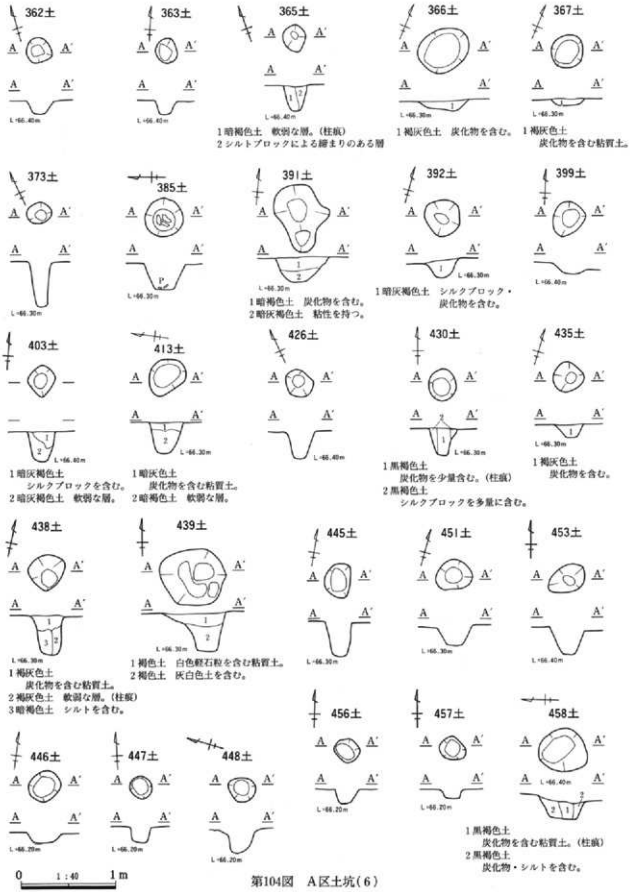
第101図　A区土坑(3)


209土
1暗褐色土 軟弱な層。(柱痕)
2褐灰色土 黄褐色土ブロックを含む。
211土
213土
1褐灰色土 炭化物を含む。
214土
214・217号土坑
1褐灰色土 炭化物を含む軟弱な層。(柱痕)
2褐灰色土 ロームブロックを多く含む。
217土
218土
1黒褐色土 ロームブロックを含む。
219土
1黒褐色土 焼土を含む。
220土
227土
229土
230土
222土
1褐灰色土 炭化物を含む。
223土
1褐灰色土 炭化物を含む。
237土
240土
243土
232土
1褐灰色土 軟弱な層。(柱痕)
2褐灰色土 炭化物を含む。
3灰白色土 ロームブロックを多く含む。
245土
248土
1暗褐色土 シルトブロックを少量含む。
249土
1暗褐色土 シルトブロックを多量に含む。
266土
1暗褐色土 炭化物を含む粘質土。
254土
265土
S=1:60
267土
1褐灰色土 炭化物を含む粘質土。
271土
1暗灰褐色粘質土 炭化物を少量含む。
2黒褐色粘質土 炭化物・シルトを少量含む。
272土
0 1:40 1m

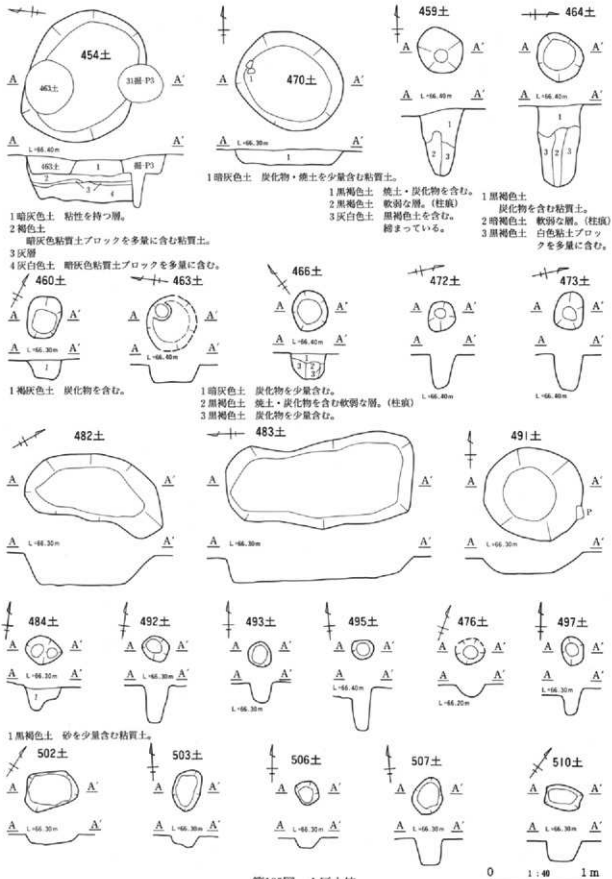
第102図 A区土坑(4)


278土
1 灰白色粘質土　黒褐色粘質土ブロックを含む。
2 黒褐色粘質土　シルトブロックを含む。
282土
283土
285土
287土
1 褐灰色土　シルトブロックを含む。
289土
1 褐灰色土　粘質土。
291土
1 黒褐色土　褐色土を少量含む。
292土
295土
296土
297土
1 暗灰褐色粘質土　炭化物を少量含む。
2 暗褐色土　ロームを少量含む。
302土
1 暗褐色土　(柱痕)
2 褐色土　ロームを少量含む。
303土
312土
1 暗褐色土　褐色土を少量含む。
323土
324土
326土
331土
1 褐灰色土　炭化物を含む粘質土。
392土
1 褐灰色土　炭化物を含む粘質土。
338土
1 褐灰色土　炭化物を含む粘質土。
339土
1 褐灰色土　脆弱な層。(柱痕)
2 褐灰色土　ロームを多量に含む細まりのある層。
344土
3号土
3号・P5
1 暗褐色土　褐色土を多く含む。
347土
1 黒褐色土　褐色土を多く含む。
348土
1 褐灰色土　シルトブロックを含む粘質土。
349土
0　1:40　1m

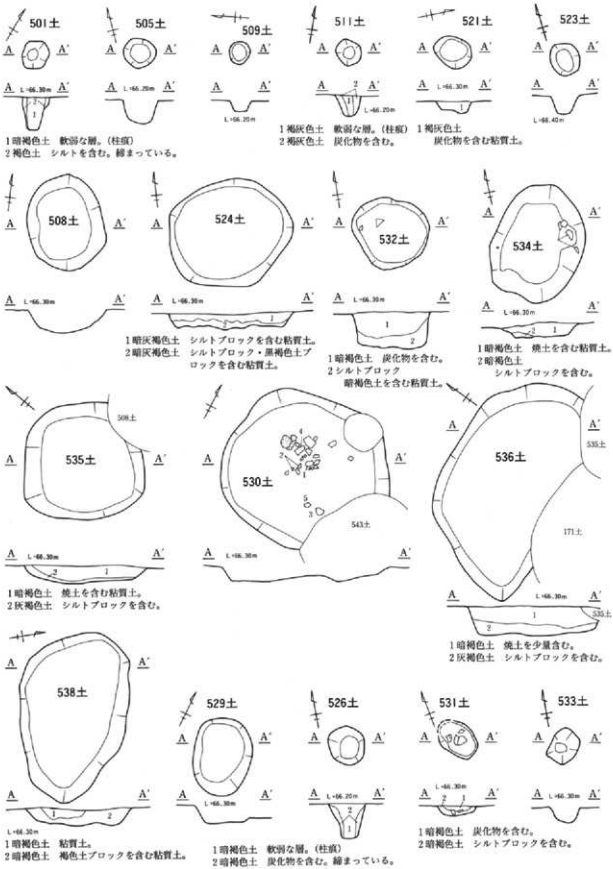
第103図　A区土坑(5)


362土
363土
365土
1暗褐色土　軟弱な層。(柱痕)
2シルトブロックによる締まりのある層
366土
1褐灰色土　炭化物を含む。
367土
1褐灰色土
炭化物を含む粘質土。
373土
385土
391土
1暗褐色土　炭化物を含む。
2暗灰褐色土　粘性を持つ。
392土
1暗灰褐色土　シルクブロック・
炭化物を含む。
399土
403土
1暗灰褐色土
シルクブロックを含む。
2暗灰褐色土　軟弱な層。
413土
1暗灰色土
炭化物を含む粘質土。
2暗褐色土　軟弱な層。
426土
430土
1黒褐色土
炭化物を少量含む。(柱痕)
2黒褐色土
シルクブロックを多量に含む。
435土
1褐灰色土
炭化物を含む。
438土
1褐灰色土
炭化物を含む粘質土。
2褐色土　軟弱な層。(柱痕)
3暗褐色土　シルトを含む。
439土
1褐色土　白色経石粒を含む粘質土。
2褐色土　灰白色土を含む。
445土
451土
453土
456土
457土
458土
1黒褐色土
炭化物を含む粘質土。(柱痕)
2黒褐色土
炭化物・シルトを含む。
446土
447土
448土
0　1:40　1m

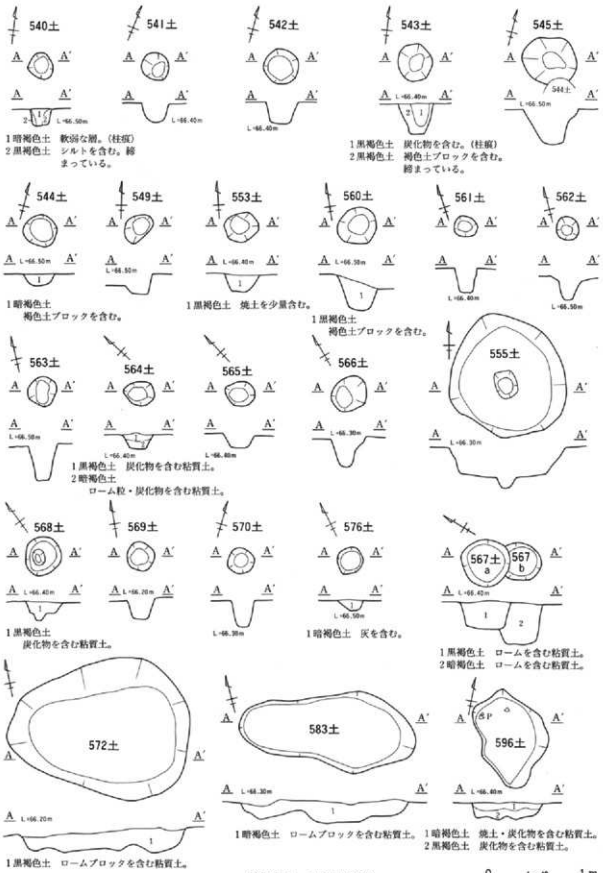
第104図　A区土坑(6)


454土
463土
31層-P3
L=66.40m
1暗灰色土　粘性を持つ層。
2褐色土
暗灰色粘質土ブロックを多量に含む粘質土。
3灰層
4灰白色土　暗灰色粘質土ブロックを多量に含む。
470土
L=66.30m
1暗灰色土　炭化物・焼土を少量含む粘質土。
459土
L=66.40m
1黒褐色土　焼土・炭化物を含む。
2黒褐色土　軟弱な層。(柱痕)
3灰白色土　黒褐色土を含む。
締まっている。
464土
L=66.40m
1黒褐色土
炭化物を含む粘質土。
2暗褐色土　軟弱な層。(柱痕)
3黒褐色土　白色粘土ブロックを多量に含む。
460土
L=66.30m
1褐灰色土　炭化物を含む。
463土
L=66.40m
466土
L=66.40m
1暗灰色土　炭化物を少量含む。
2黒褐色土　焼土・炭化物を含む軟弱な層。(柱痕)
3黒褐色土　炭化物を少量含む。
472土
L=66.40m
473土
L=66.40m
482土
L=66.30m
483土
L=66.30m
491土
P
L=66.30m
484土
L=66.30m
492土
L=66.30m
493土
L=66.30m
495土
L=66.40m
476土
L=66.20m
497土
L=66.30m
1黒褐色土　砂を少量含む粘質土。
502土
L=66.30m
503土
L=66.30m
506土
L=66.30m
507土
L=66.30m
510土
L=66.30m
0　1:40　1m

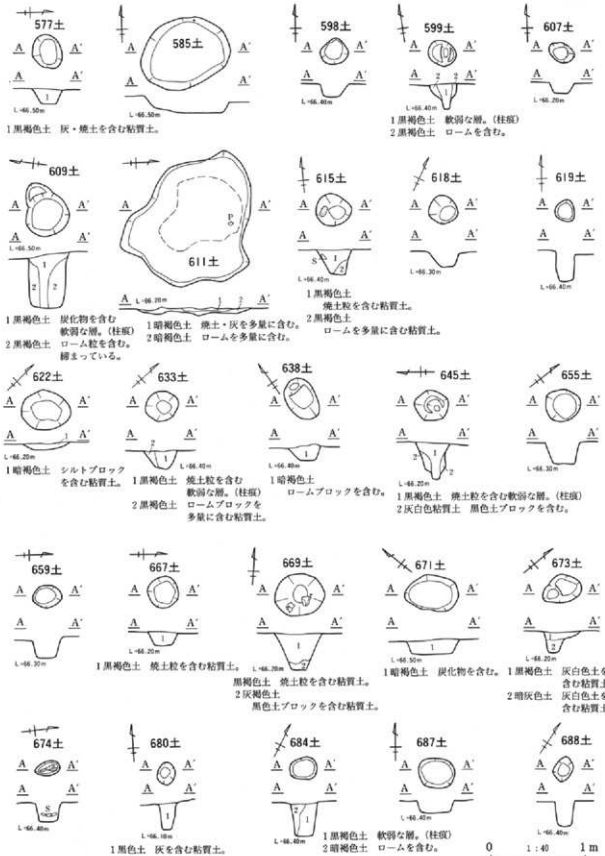
第105図　A区土坑


501土
1暗褐色土　軟弱な層。(柱痕)
2褐色土　シルトを含む。締まっている。
505土
509土
511土
1褐灰色土　軟弱な層。(柱痕)
2褐灰色土　炭化物を含む。
521土
1褐灰色土
炭化物を含む粘質土。
523土
508土
524土
1暗灰褐色土　シルトブロックを含む粘質土。
2暗灰褐色土　シルトブロック・黒褐色土ブロックを含む粘質土。
532土
1暗褐色土　炭化物を含む。
2シルトブロック
暗褐色土を含む粘質土。
534土
1暗褐色土　焼土を含む粘質土。
2暗褐色土
シルトブロックを含む。
535土
1暗褐色土　焼土を含む粘質土。
2灰褐色土　シルトブロックを含む。
530土
543土
536土
171土
535土
1暗褐色土　焼土を少量含む。
2灰褐色土　シルトブロックを含む。
538土
1暗褐色土　粘質土。
2暗褐色土　褐色土ブロックを含む粘質土。
529土
526土
1暗褐色土　軟弱な層。(柱痕)
2暗褐色土　炭化物を含む。締まっている。
531土
533土
1暗褐色土　炭化物を含む。
2暗褐色土　シルトブロックを含む。
0　1:40　1m

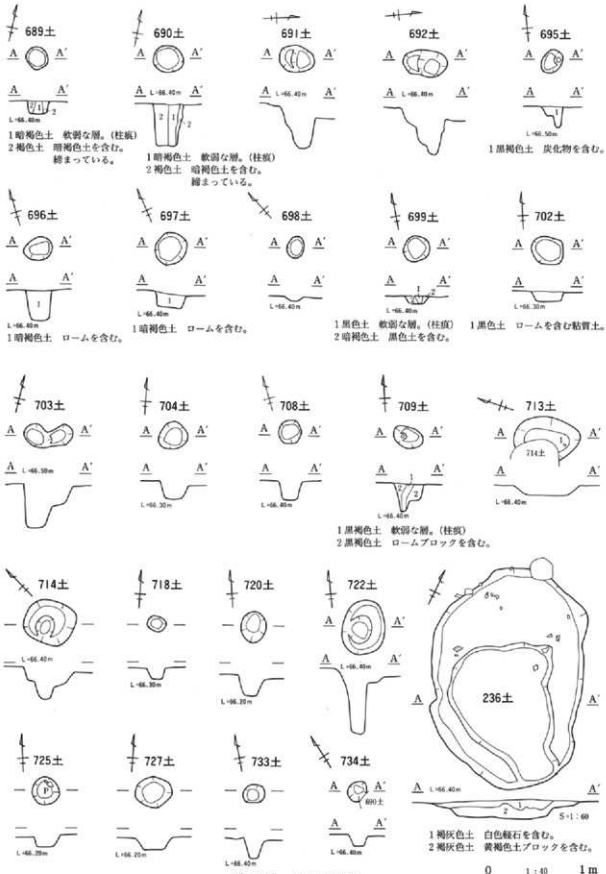
第106図　A区土坑(8)


540土
1 暗褐色土　軟弱な層。(柱痕)
2 黒褐色土　シルトを含む。締まっている。
541土
542土
543土
1 黒褐色土　炭化物を含む。(柱痕)
2 黒褐色土　褐色土ブロックを含む。締まっている。
545土
544土
544土
1 暗褐色土　褐色土ブロックを含む。
549土
553土
1 黒褐色土　焼土を少量含む。
560土
1 黒褐色土　褐色土ブロックを含む。
561土
562土
563土
564土
565土
566土
555土
1 黒褐色土　炭化物を含む粘質土。
2 暗褐色土　ローム粒・炭化物を含む粘質土。
568土
1 黒褐色土　炭化物を含む粘質土。
569土
570土
576土
1 暗褐色土　灰を含む。
567土 a
567 b
1 黒褐色土　ロームを含む粘質土。
2 暗褐色土　ロームを含む粘質土。
572土
1 黒褐色土　ロームブロックを含む粘質土。
583土
1 暗褐色土　ロームブロックを含む粘質土。
596土
1 暗褐色土　焼土・炭化物を含む粘質土。
2 黒褐色土　炭化物を含む粘質土。
0　1:40　1 m

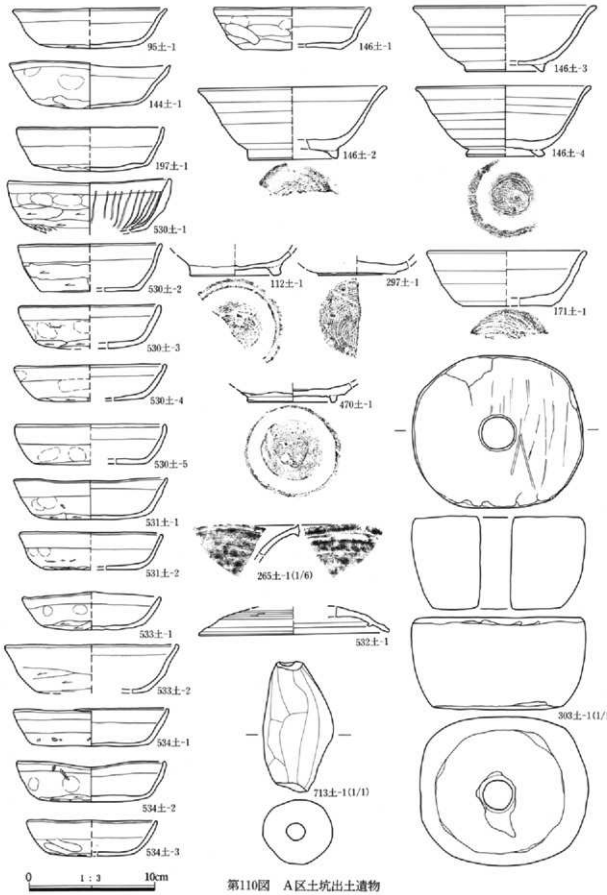
第107図　A区土坑(9)



第108図　A区土坑(10)



第109図　A区土坑(11)

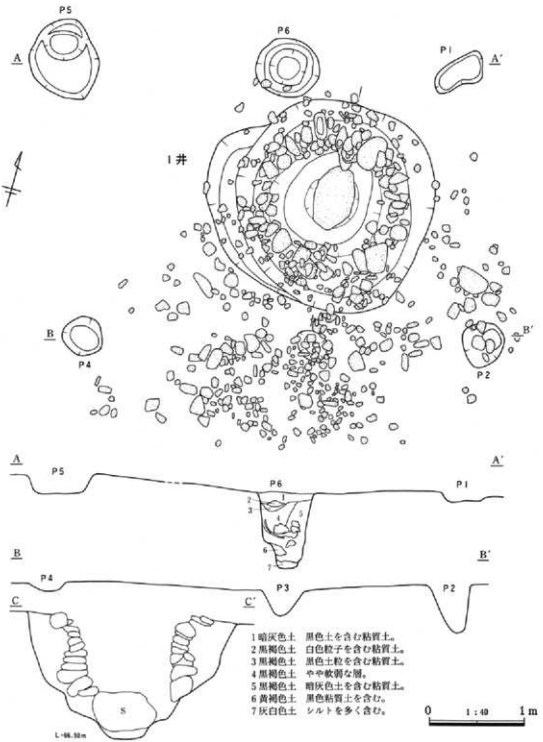


第110図　A区土坑出土遺物

g．井戸

1号井戸（第111・113～117図、ＰＬ16・80～82）

扁平な礫を主とした石組み井戸である。石組みは上端径100cm、下端径80cmであり確認面から80cm程度積まれ、以下底面まで40cmは素掘りとなる。石組みは、ほぼ円形に積み上げられる。石組み部分は径220cm前後の掘り方をもつ。底面には長径65cm、厚さ40cmを測る大形礫が認められた。井戸廃絶後に投棄されたものであろうか、詳細は不明である。また、周囲には南側を中心に礫の集中出土が確認された。石

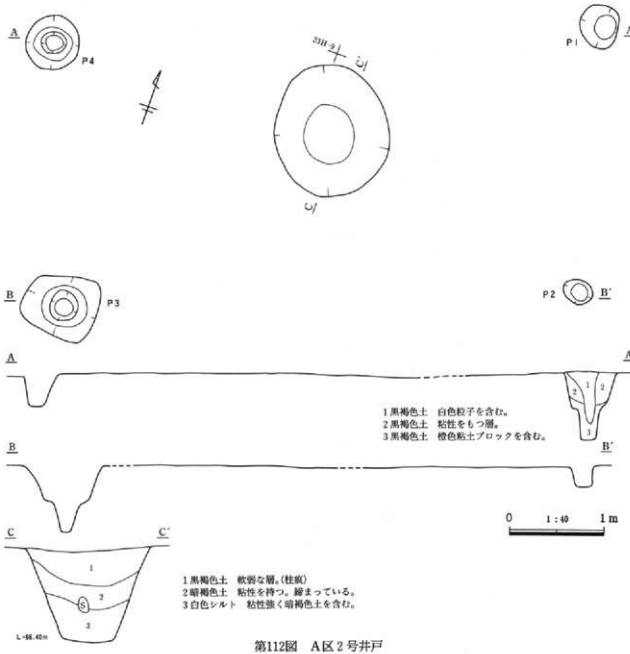


第111図　A区1号井戸

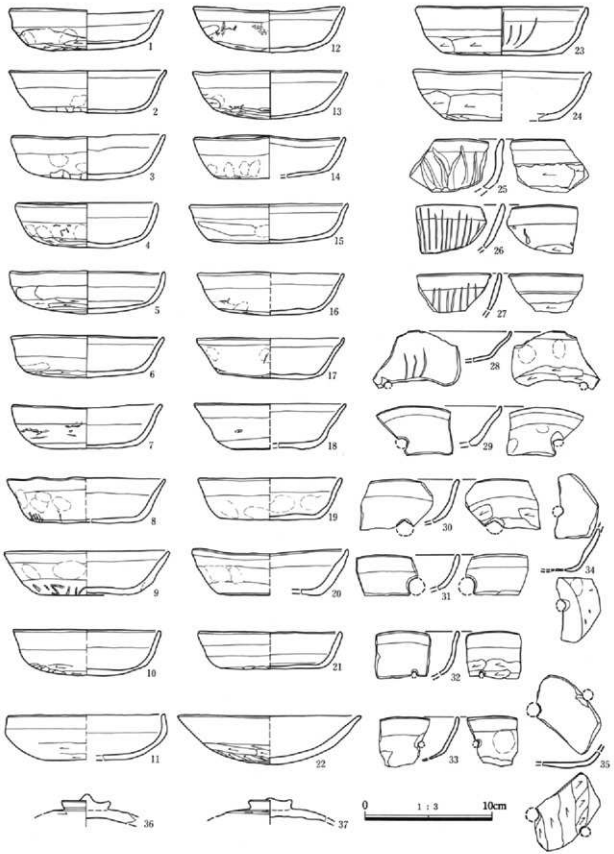
敷き状の施設が井戸に付設されていた可能性もあるが上層の水田耕作による撹乱の影響もあり、現位置での構造は把握できていない。出土遺物は井戸内ではなく、この礫群を中心に礫と混在するような状態で検出されている。なお、周囲の小ピットから上屋に伴う柱穴配置も推定できる。各ピットの深度などが不規則であり確定できないが可能性を指摘しておきたい。規模は420×300cm、2間1間となる。

2号井戸（第112・117図、PL16・79）

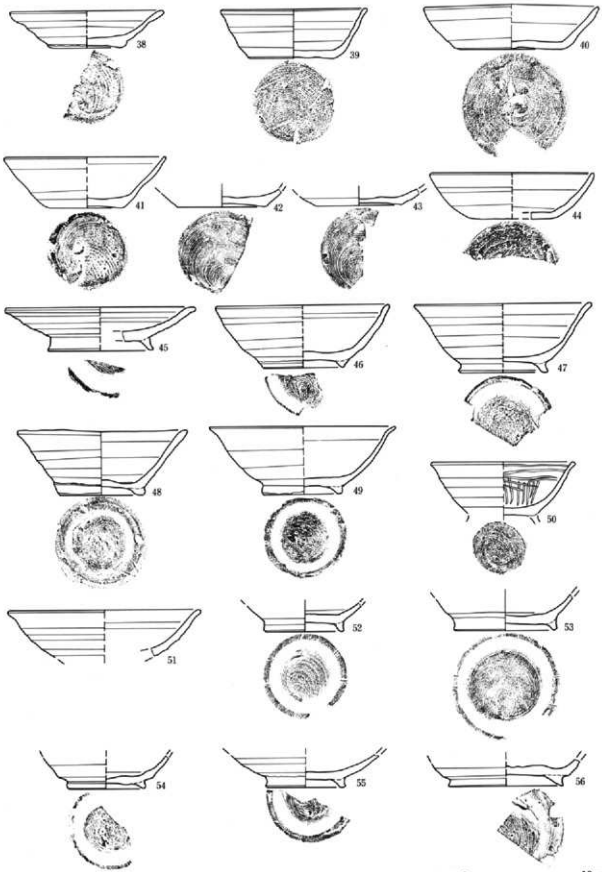
口径120cm、底径50cm、深さ100cmの素掘りの井戸である。1号井戸からおよそ12m西に位置する。2号井戸についても周囲に分布するピットの存在から上屋の想定が可能である。規模は540×270cmを計測する。井戸内からは土器類、土錘、紡錘車および礫等が出土しているが量的には少ない。なお、木製品等の有機質遺物については認められていない。



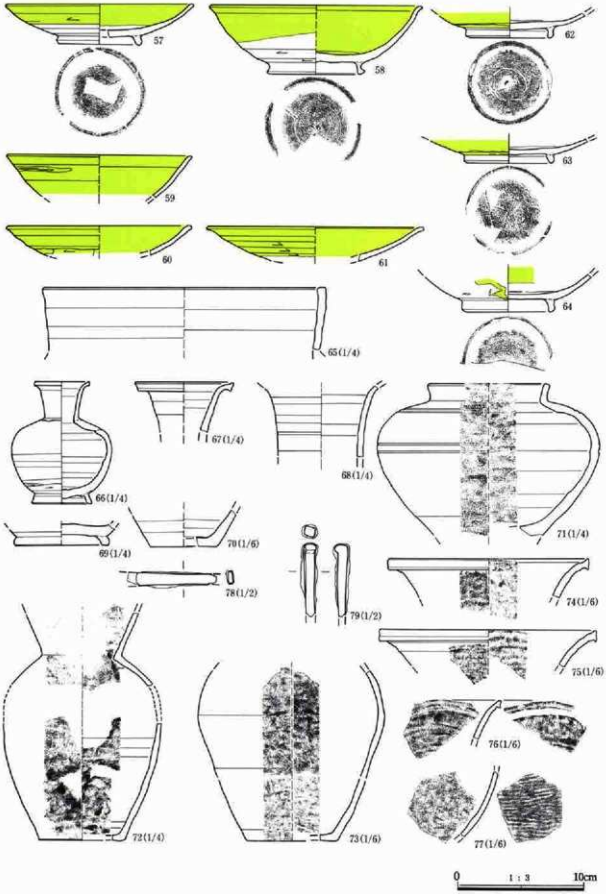
第112図　A区2号井戸



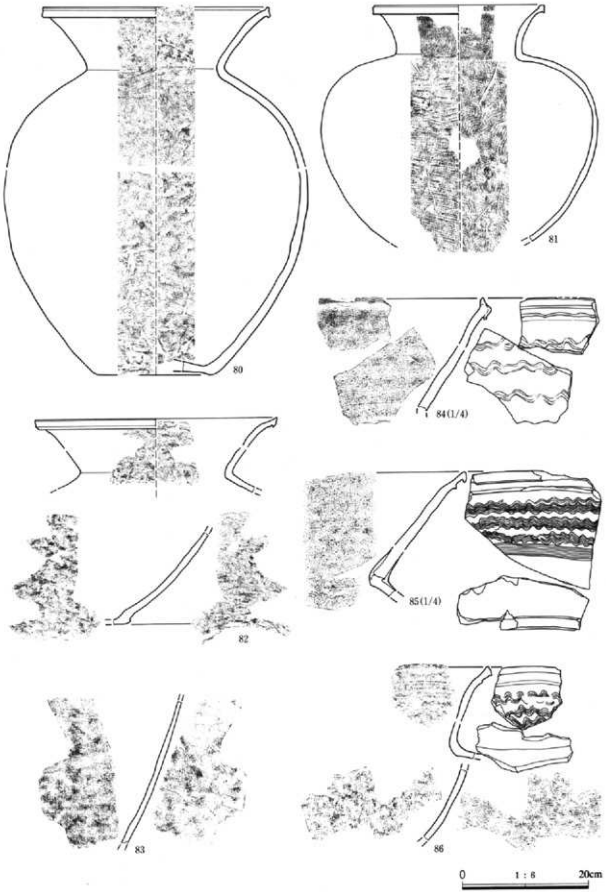
第113図　A区1号井戸出土遺物(1)



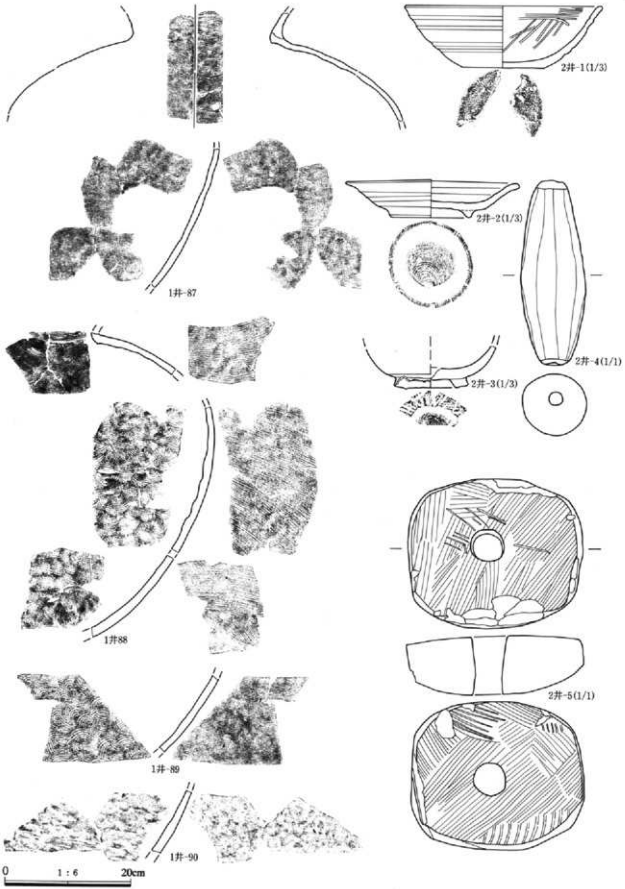
第114図　A区1号井戸出土遺物(2)



第115図　A区1号井戸出土遺物(3)



第116図　A区1号井戸出土遺物(4)



第117図　A区1号井戸(5)・2号井戸出土遺物

h．溝

As－B下水田耕土下で検出した。合計12条の溝を検出した。いずれの遺構も基本土層第X層上面で確認されたものである。溝上部は、水田耕作のため攪乱されている。ただ、55・56号溝は埋没土が異なり時期が遡る可能性を残しているが、遺物が無いため判断することができない。

出土遺物は、8世紀後半のものが確認されるが少数であり、9世紀後半から10世紀前半のものが主体である。

45号溝（第118～120図、ＰＬ46・83）

23Ｃ－5グリッドで検出。27.8mを検出し、両端とも調査区外に至る。国家座標に近似し東西に走向する。傾斜はない。溝幅は、ほぼ一定の51cmである。23Ｃ－9グリッド付近で土橋状に80cmほど途切れている。断面形状は逆台形で深さ22cmである。

46号溝（第118～120、図ＰＬ83）

23Ｃ－7グリッドで検出した。全長5.2m、幅65cm、深さ4cmである。東西に走向する。西から東に次第に幅が拡縮しながら広くなる。傾斜はない。断面形状は逆台形である。

47号溝（第118～121、図ＰＬ44・83）

23Ｅ－5グリッドで検出した。26.6mを検出し両端は調査区外に至る。国家座標に近似し、中央部23Ｅ－8グリッド付近で南に湾曲しながら東西方向に走向する。50溝に平行して走向する。傾斜はなく、幅128cm、深さ32cm、断面形状逆台形である。

48号溝（第118・119図）

23Ｃ－10グリッドで検出した。6.2mを検出し西端は調査区外に至る。国家座標に近似し東西方向に走向し、23Ｃ－10グリッドで北に直角に曲がる。傾斜なく、幅90cm、深さ15cm、断面形状丸底である。

49号溝（第118・119図）

23Ｂ－7グリッドで検出。4.2mを検出し南端は調査区外に至る。北東から南西に走向している。幅56cm、深さ20cm、断面形状逆台形である。片側が深い。

50号溝（第118・119・121図、ＰＬ44・83）

23Ｄ－5グリッドで検出した。28.6mを検出し両端は調査区外に至る。国家座標に近似し、中央部23Ｅ－8グリッド付近で南に僅かに湾曲しながら東西方向に走向する。47号溝に平行して走向する。幅97cm、深さ15cm、断面形状逆台形である。

51号溝（第118・119・121、図ＰＬ44・83）

23Ｅ－5グリッドで検出した。30.2mを検出する。北西から南東に蛇行しながら走向し、23Ｅ－8グリッド付近で北東方向に走向を変える。その間約3m途切れている。両端とも調査区外にいたる。屈曲している23Ｅ－8グリッドに向かって緩やかに傾斜し、幅67cm、深さ25cm、断面形状逆台形である。

52号溝（第118・119・121、図ＰＬ44・83）

23Ｅ－5グリッドで検出。29.6m検出し両端は調査区外に至る。西から国家座標に近似する東方向に走向し、51号溝に達したところで、その続きは確認できなくなる。そして23Ｅ－9グリッドから再び確認され、南に湾曲しながら北東方向に伸びる。傾斜無し。幅62cm、深さ7cm、断面形状逆台形である。

53号溝（第118・119図、ＰＬ83）

23Ｆ－9グリッドで検出した。全長26.7m、幅86cm、深さ12cm、断面形状逆台形である。23Ｋ－11グリッド付近から始まり、北から南に走向し、23Ｈ－10グリッド付近で南南東に方向をかえる。溝幅は拡縮しながら23Ｆ－10グリッド付近で終息する。北から南に傾斜している。

54号溝（第118・119・121、図ＰＬ83）

23Ｈ－11グリッドで検出した。2.4m検出し西は調査区外、東は53号溝に切られる。西から東に走向する。幅106cm、深さ14cm、断面形状逆台形である。埋土中に多量の炭化物混入する。

55号溝（第118・119図）

23Ｉ－6グリッドで検出した。全長7m、幅54cm、深さ19cm、断面形状V字形である。北から南に走向する。

56号溝（第118・119）

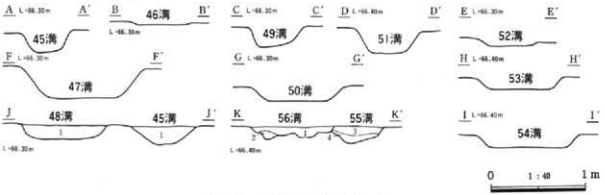
23Ｉ－6グリッドで検出した。全長4.2m、幅88cm、深さ13cmである。南北に傾斜無く走向する。

A 区

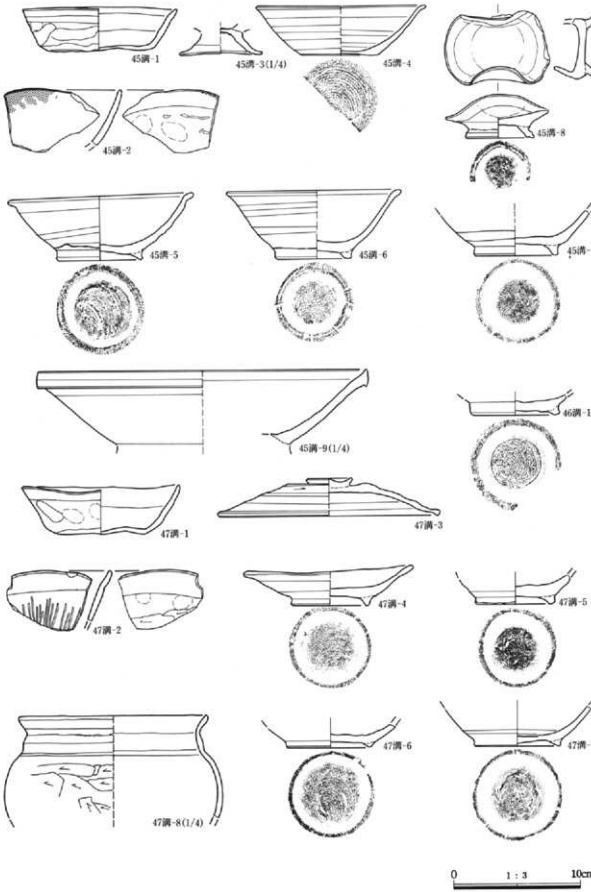
53溝
54溝
56溝 55溝
K K'
51溝
52溝
47 溝
52溝
51溝
50 溝
50 溝
48溝
46溝
45 溝
49溝
11
9
7
K
I
G
E
23C
0 1 : 300 10m

45溝
1 暗灰色土　粘質土。
48溝
1 暗灰色土　粘質土。
55・56溝
1 黒褐色土　焼土・灰を少量含む。
2 黒褐色土　ロームブロックを含む。
3 黒褐色土　焼土・灰・ロームを含む。
4 黒褐色土　ローム粒を含む。

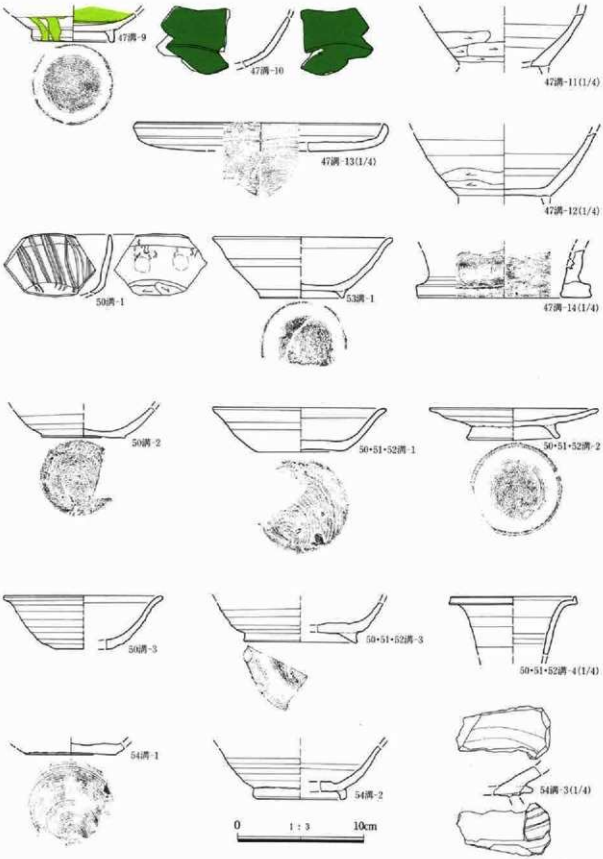
第118図　溝配置図（A区）



第119図　A区45～56号溝土層断面



第120図 A区溝出土遺物(1)



第121図　A区溝出土遺物(2)

i．遺物包含層

A区の調査において、古代の遺物包含層から99,756点に及ぶ遺物破片が検出された。これらの遺物は、As－B下水田調査時点から、水田耕土中に多数の遺物が確認されていた。

調査は、As－B下水田調査終了後、土層確認用のベルトを残しながら、水田耕土を薄く削っていくように行った。遺物は、主にAs－B下水田耕土中から検出され、縄文、古墳、古代の遺物が検出されたが、大多数は平安時代の遺物、土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、青磁である。

ここでは、遺物包含層中の古代の遺物破片を数量化し、分布状況を図示した。破片数は、当然器種ごとにかなりの差ができるので、安易に器種間での分布差を比較することはできない。しかし、耕作に攪拌されたとはいえ、分布の濃淡によりある器種がもともとどの場所にあったかは推定できる。As－B下水田耕土下からは、多数の掘立柱建物、竪穴住居、土坑、ピットが検出されており、遺物の分布と遺構を関連させて考えることにより、遺構の性格を推定する手掛かりになる資料になると考える。

【全遺物分布状況】（第123図）

総破片数：99,756片が出土した。特に密に分布するグリッドは、23G－9グリッドが13,597片、23E－7グリッドが9,446片、23F－9グリッドが9,130片であった。

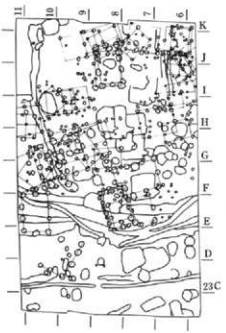
これらに準じて23D－7が5,000片台、23G－6、23F－6グリッドが4,000片台の分布が見られる。

遺構の状況は、23G－9・23F－9グリッドには3号・4号掘立柱建物址を代表として、周辺に柱穴が集中的に存在している。

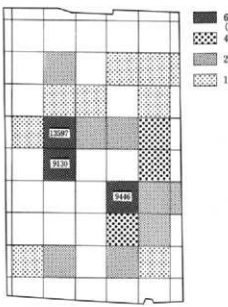
23E－7グリッドにも同様に6号・7号・9号・12号などの掘立柱建物が集中している地点である。23G－6、23F－6グリッドには、北部分に1号井戸が検出されている。また、比較的大きな規模の不定形な土坑が検出されている。

【土師器分布状況】（第124図）

土師器は、全遺物総数71,088片が検出されている。特に密に分布するグリッドは、23G－9グリッドが



第122図　古代A区遺構配置



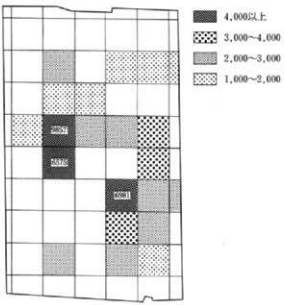
第123図　包含層遺物分布

9,857片、23E－7グリッドが6,981片、23F－9グリッドが6,575片であった。これらに準じて23D－7、23G－6、23F－6グリッドが3,000片台の分布を見せる。

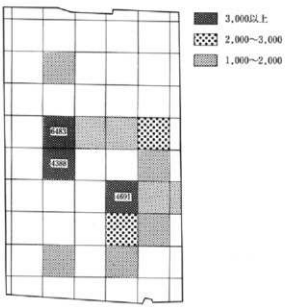
分布の状況は、全遺物の分布状況と一致している。出土器種は、坏、甕、台付甕、である。

坏（第125図）

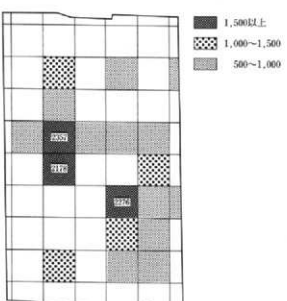
総数45,435片が出土した。特に密に分布するグリッドは、23G－9グリッドが6,483片、23E－7グリッドが4,691片、23F－9グリッドが4,388片であった。これらに準じて23D－7、23G－6グリッドが2,000片台の分布を見せる。



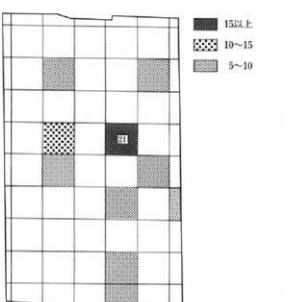
第124図　土師器　分布



第125図　土師器　坏



第126図　土師器　甕



第127図　土師器　台付甕

分布の状況は、全遺物の分布状況と一致している。

成形手法により次の特徴を持つものが認められる。

器壁が薄く、体部はだらしなく広がり立ち上がる。口縁部には、幅狭く横撫でを施し、体部外面にユビオサエの痕跡を残す。底部は、粘土紐を巻いた痕跡が残され未調整であり底部の縁辺にのみ撫でが認められるもの。

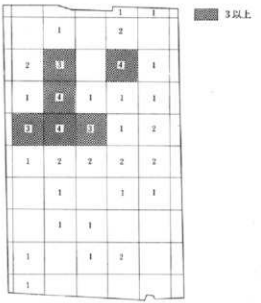
器形は前述のものに似るが、底部はヘラ削りしてあるもの。

器壁厚く体部やや内湾しながら立ち上がる。器高は低い。口縁部の横撫では、体部半ばまで達し、下半はユビオサエか又は撫でで調整している。底部は全面ヘラ削りされているもの。

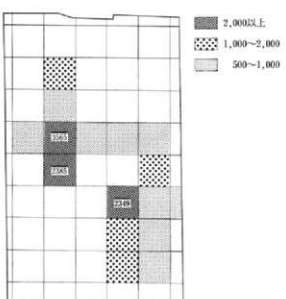
器壁厚く体部が直線的に急角度で立ち上がる。器高は高い。口縁部横撫でで底部～体部3分の2程度までヘラ削りされているもの。

甕（第126図）

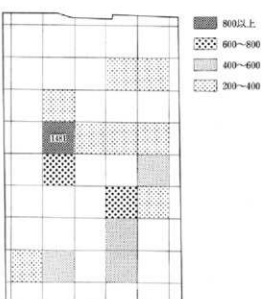
総数25,422片が出土した。特に密に分布するグリッドは、23G－9グリッドが3,357片、23E－7グリッドが2,276片、23F－9グリッドが2,178片であった。これらに準じて23C－9、23D－7、23F－6、23I－9グリッドが1,000片台の分布を見せる。



第128図　土　錘



第129図　須恵器　分布



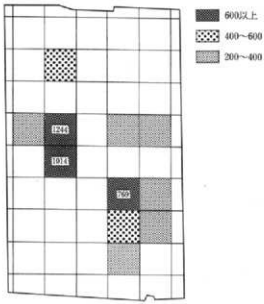
第130図　須恵器　高台付椀

分布の状況は、全遺物の分布状況と一致している。「コの字」の甕が主体をなす。肩が張るもの、口縁部が最大径になるもの、器壁が厚くなり「コの字」の区画が不明瞭になるものなどが特徴的な器形である。

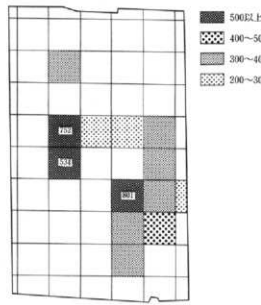
台付甕（第127図）

総数153片が出土した。出土数は少ない。特に密に分布するグリッドは23G－7グリッドで、21片集中して分布している。これに準じて23G－9グリッドに10片代の分布を見せる。

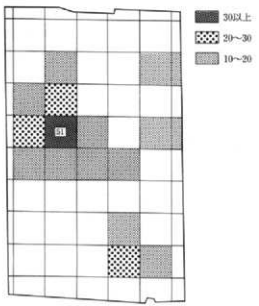
遺構の状況は、23G－7グリッド周辺は住居が重なり合って検出された箇所である。



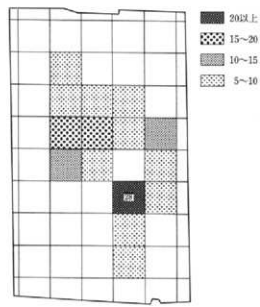
第131図　須恵器　坏



第132図　須恵器　甕



第133図　須恵器　台付壺



第134図　須恵器　蓋

基本的に甕と同じ傾向の特徴をみせる。

土錘（第128図）

総数59個出土した。出土数は少ない。特に23H－9付近に多く分布する。

管状のもの、中心部ふくらみ、端がすぼまるタイプのもの、ストローのように細長いもの、著しく大きいものに特徴が分かれる。

【須恵器分布状況】（第129図）

全総数：27,359片出土した。特に密に分布するグリッドは、23G－9グリッドが3,565片、23F－9グリッドが2,385片、23E－7グリッドが2,349片であった。

これらに準じて23C－7・23D－7・23F－6・23I－9グリッドに1,000片台の分布が見られる。

分布の状況は、全遺物の分布状況と一致している。

出土器種は、高台付椀、坏、甕、壺、蓋、羽釜、皿が出土している。

高台付椀（第130図）

総数9,734片が出土した。特に密に分布するグリッドは、23G－9グリッドが突出している。1,481片である。

これらに準じて23E－7・23F－9グリッドに700片台の分布が見られる。

特徴は、すべて回転糸切り後高台を貼り付けている。高台の特徴は、台形状で高台内端が接地するものが殆どである。他に先端が丸みを帯び三角形になるもの、先端丸みを帯び細長く伸びるものがある。

平底坏（第131図）

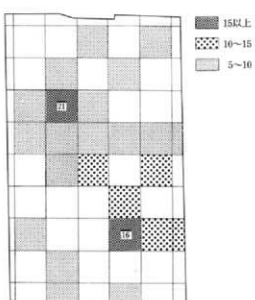
総数8,174片出土した。特に密に分布するグリッドは、23G－9グリッドが1,244片、23F－9グリッドが1,014片、23E－7グリッドが769片であった。

これらに準じて23D－7・23I－9グリッドに400片台の分布が見られる。

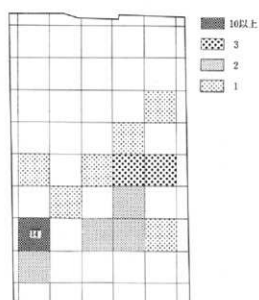
焼成で軟質のものと硬質のものに分けられる。形態では、腰部に丸みを持ち、体部上半は外反し開くもの。体部が直線的に立ち上がり開くものとがある。どちらのタイプも底径の大きいものと小さいものが存在している。前者に軟質、後者に硬質のものが多い傾向にある。

甕（第132図）

総数8,375片出土した。特に密に分布するグリッドは、23E－7グリッドが801片、23G－9グリッドが752片、23F－9グリッドが534片であった。



第135図　羽　釜



第136図　須恵器　皿

これらに準じて23D－6グリッドに400片台の分布が見られる。大型品なので破片が広範囲に広がり、接合されてもそのものが本来どこに位置していたかを特定することは困難である。

壺（第133図）

総数431片出土した。特に密に分布するグリッドは、23G－9グリッドが突出している。51片である。

これらに準じて23G－10・23H－9・23C－7グリッドに20片台の分布が見られる。

特徴は、肩の張らない丸みを帯びた、最大径が上部にくる胴部を持った高台付の長頸壺が主体となる。頸部と胴部は、胴部に粘土紐を貼り付けそこに頸部を接合する「三段構成」となっている。また、特殊な例として突帯付四耳壺が出土した。短頸のものと長頸のものの2個体ある。

蓋（第134図）

総数202片出土した。特に密に分布するグリッドは、23E－7グリッドが突出している。28片である。

これらに準じて23G－8・23G－9グリッドに15～20片台の分布が見られる。出土数は少ない。

特徴は、環状のつまみを付し、口唇部が下方に屈曲するものが殆どで、内面に短く内傾するかえりを持つものが1個体出土した。

羽釜（第135図）

総数274片出土した。特に密に分布するグリッドは、23H－9グリッドが21片、23D－7グリッドが16片であった。

これらに準じて23D－5・23D－6・23E－7・23F－6・23F－8グリッドに10～15片台の分布が見られる。

皿（第136図）

総数35片出土している。出土数は少ない。特に密に分布するグリッドは、23D－10グリッドが14片であった。

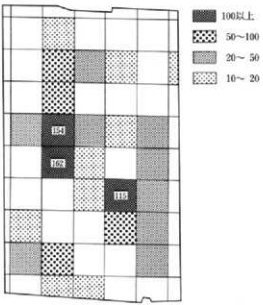
調査区の南半分に偏って分布している。

【灰釉陶器分布状況】（第137図）

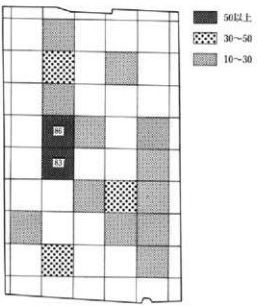
全総数1,195片が出土した。特に密に分布するグリッドは、23F－9グリッドが162片、23G－9グリッドが154片、23E－7グリッドが115片であった。

これらに準じて23H－9・23I－9グリッドに60片台、23C－9・23D－7グリッドに50片台の分布が見られる。

分布の状況は、全遺物の分布状況と一致している。



第137図　灰釉　分布



第138図　灰釉　皿

出土器種は、皿、椀、壺、段皿、耳皿、輪花碗が出土した。

皿（第138図）

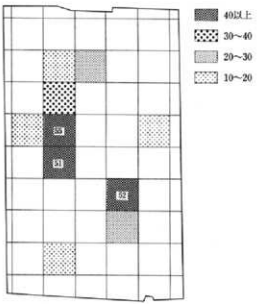
総数561片が出土した。特に密に分布するグリッドは、23G－9グリッドが86片、23F－9グリッドが83片であった。

これらに準じて23E－7・23I－9グリッドが40片台、23C－9グリッドが30片台の分布が見られる。

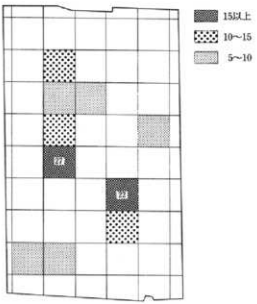
三日月高台、釉漬け掛けのものが主体。

椀（第139図）

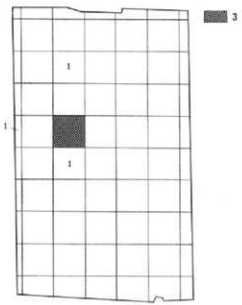
総数246片出土した。特に密に分布するグリッドは、23G－9グリッドが55片、23E－7グリッドが52片、



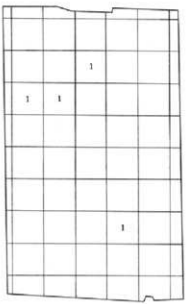
第139図　灰釉　高台付椀



第140図　灰釉　壺



第141図　灰釉　段皿



第142図　灰釉　耳皿

23F－9グリッドが51片であった。これらに準じて23H－9グリッドに30片台分布が見られる。

高台は、やや間延びした三日月高台、角高台、丸みを帯びた先端をもつやや高めの高台を持つもの（このタイプは深めの碗になる）が出土した。釉は全て漬け掛けである。

壺（第140図）

総数155片出土した。特に密に分布するグリッドは、23F－9グリッドが27片、23E－7が22片であった。これらに準じて23D－7・23G－9・23I－9グリッドに10～15片台の分布が見られる。

段皿（第141図）

総数6片出土した。出土数は少ない。特に密に分布するグリッドは、23G－9グリッドである。

耳皿（第142図）総数4片出土した。出土数が少ないため、出土傾向についての特徴は特に見いだせない。ただ、3点が23H－9グリッド付近に、ややまとまっている。

【緑釉陶器分布状況】（第143図）

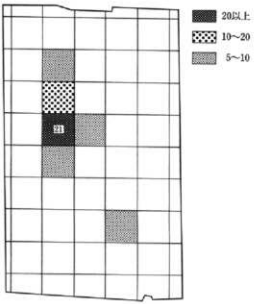
器種は、稜椀と段皿が出土している。また、印刻花紋のはいる破片も出土している。

総数114片出土がし、特に密に分布するグリッドは、23G－9グリッドで、21片分布している。

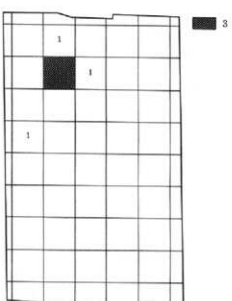
【青磁分布状況】（第144図）

総数6片が出土している。23I－9に3片分布し、その他の破片もこのグリッド近くに分布している。

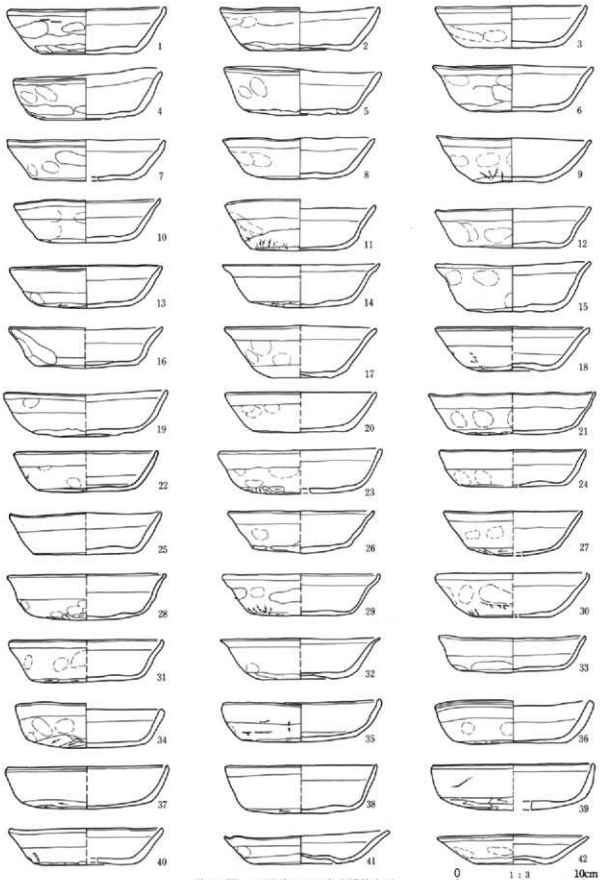
同一固体と考えられる椀である。特徴としては、蛇の目高台で、釉は薄くオリーブ灰を呈し、焼成は、還元、硬質。胎土は灰色で緻密である。



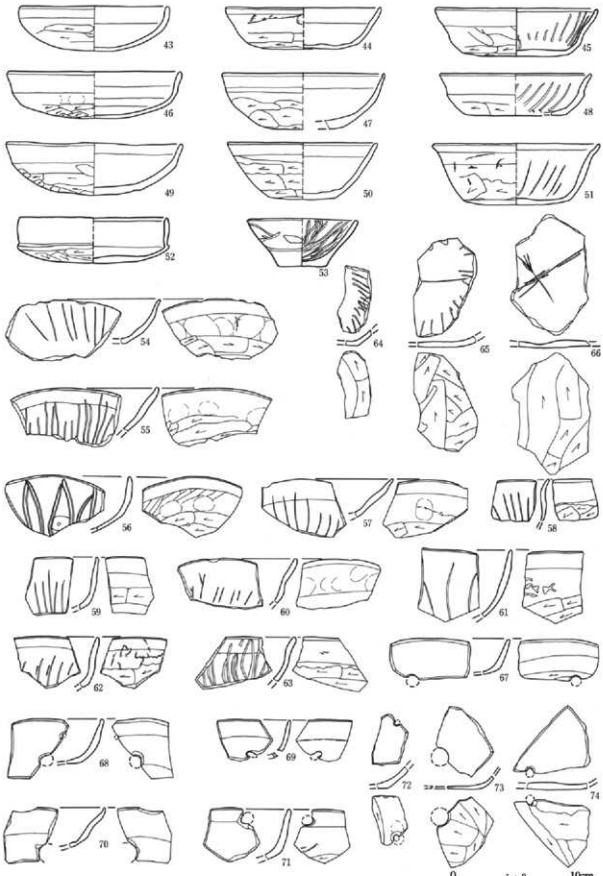
第143図　緑釉　分布



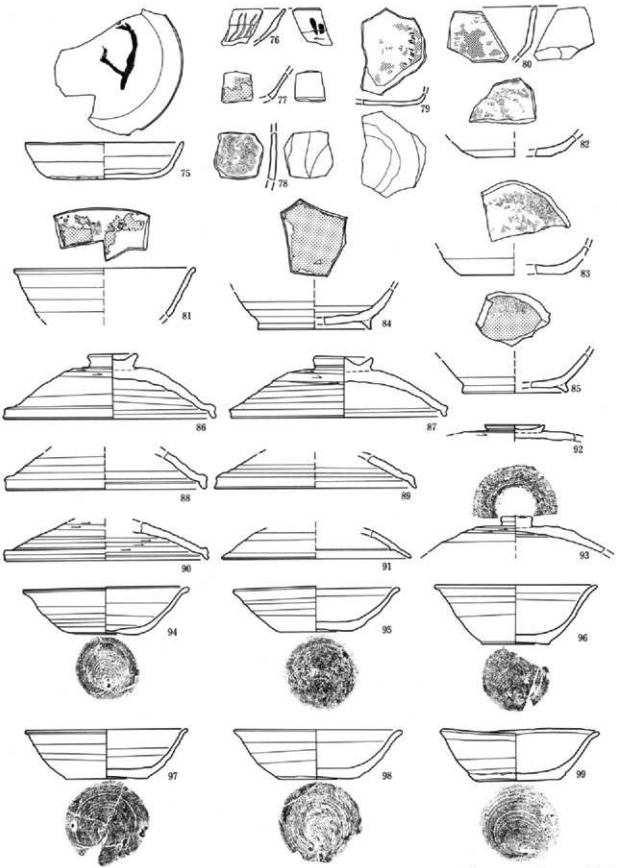
第144図　青磁　分布



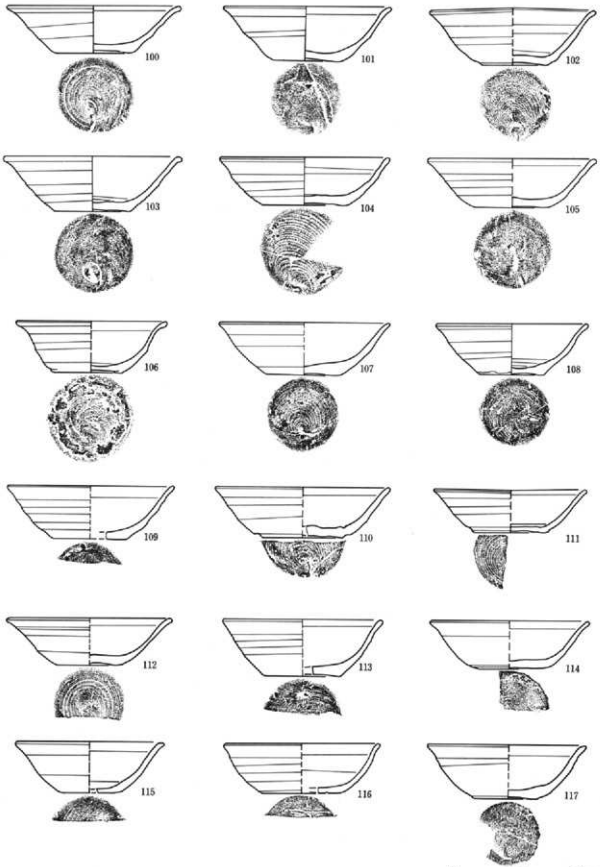
第145図　A区グリッド出土遺物(1)



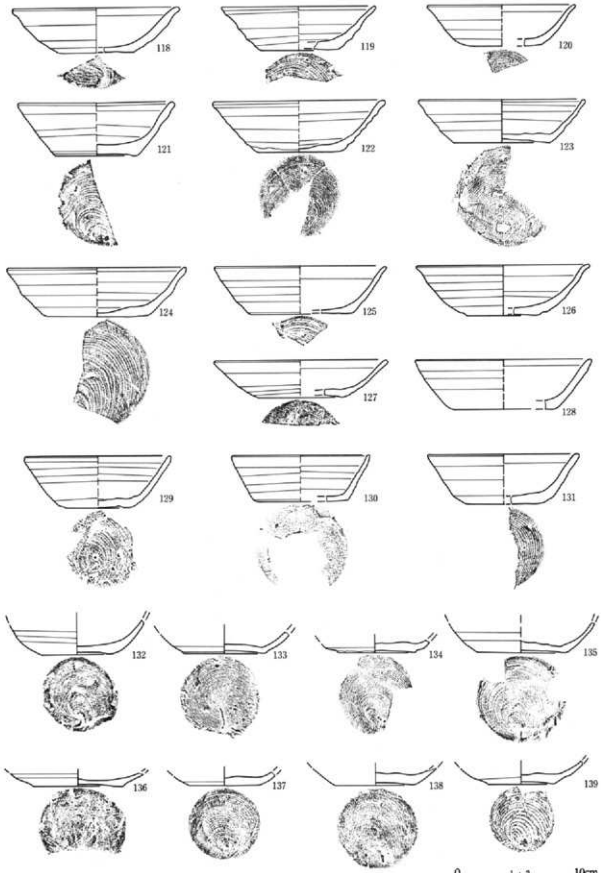
第146図　A区グリッド出土遺物(2)



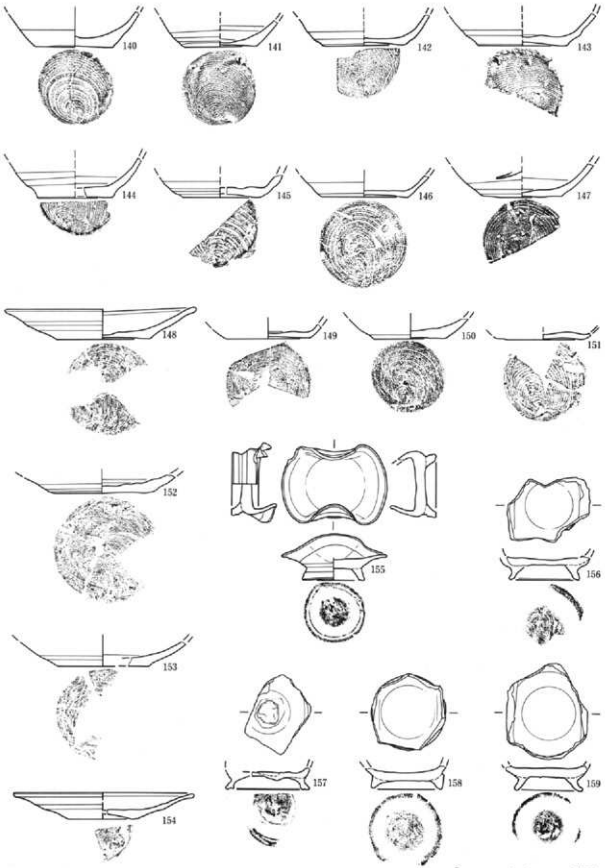
第147図　A区グリッド出土遺物(3)



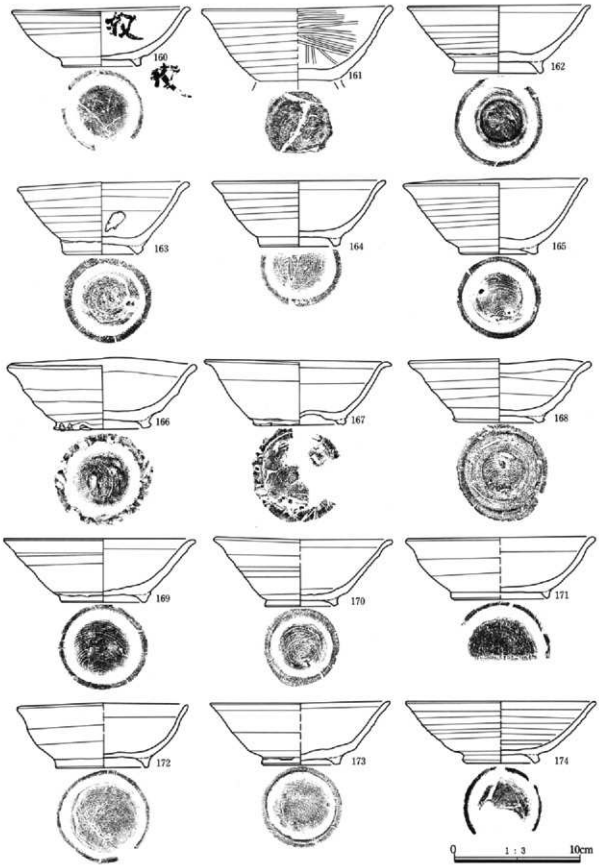
第148図　A区グリッド出土遺物(4)



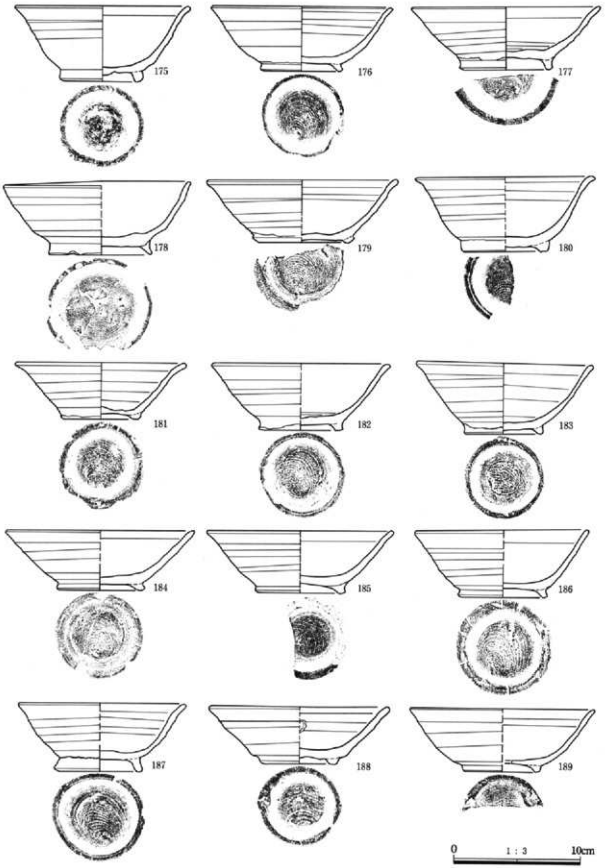
第149図　A区グリッド出土遺物(5)



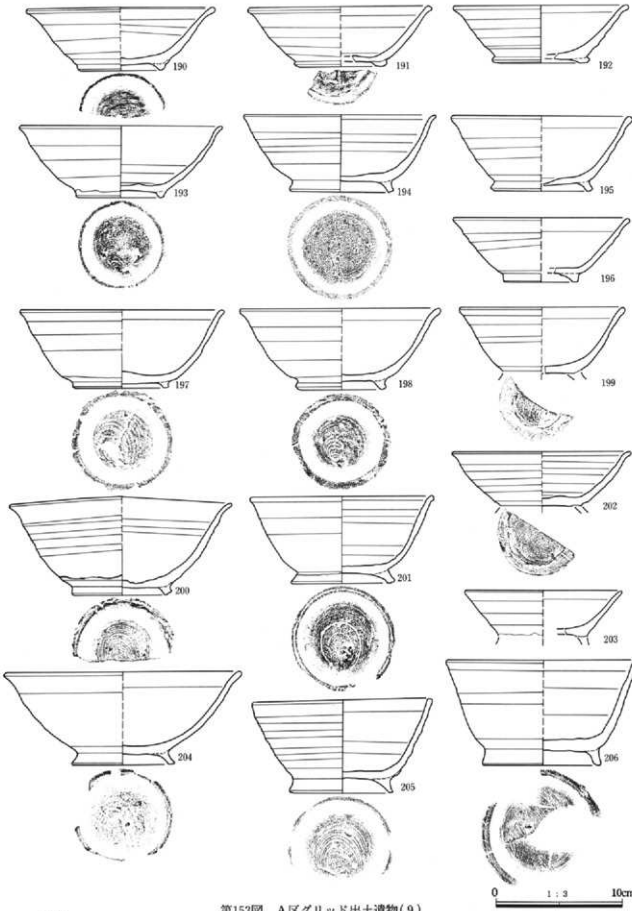
第150図　A区グリッド出土遺物(6)



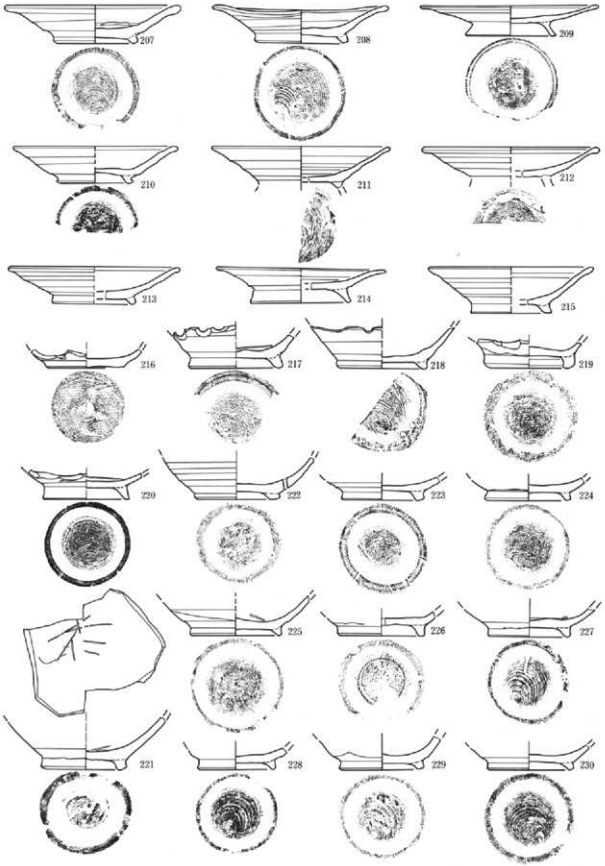
第151図　A区グリッド出土遺物(7)



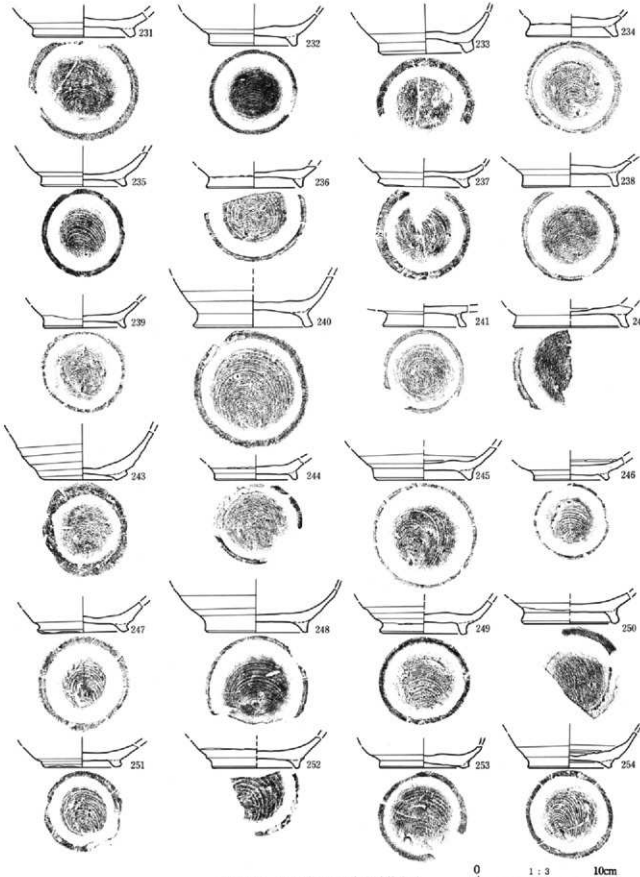
第152図　A区グリッド出土遺物(8)



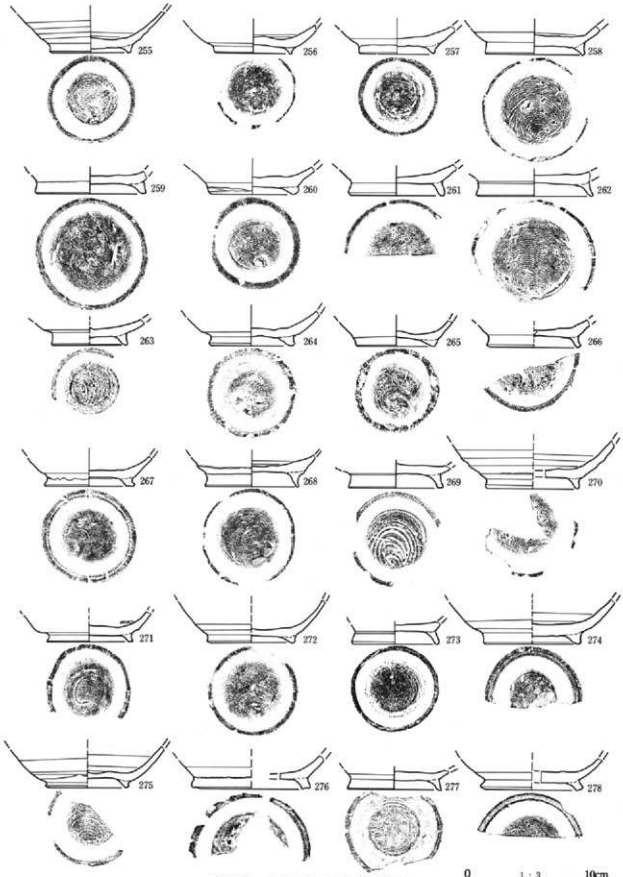
第153図　A区グリッド出土遺物(9)



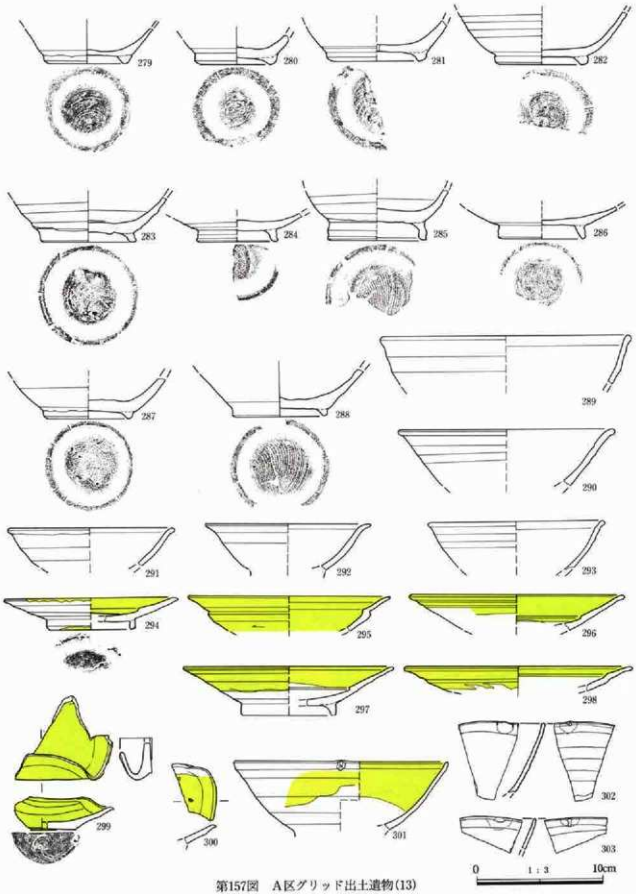
第154図　A区グリッド出土遺物(10)



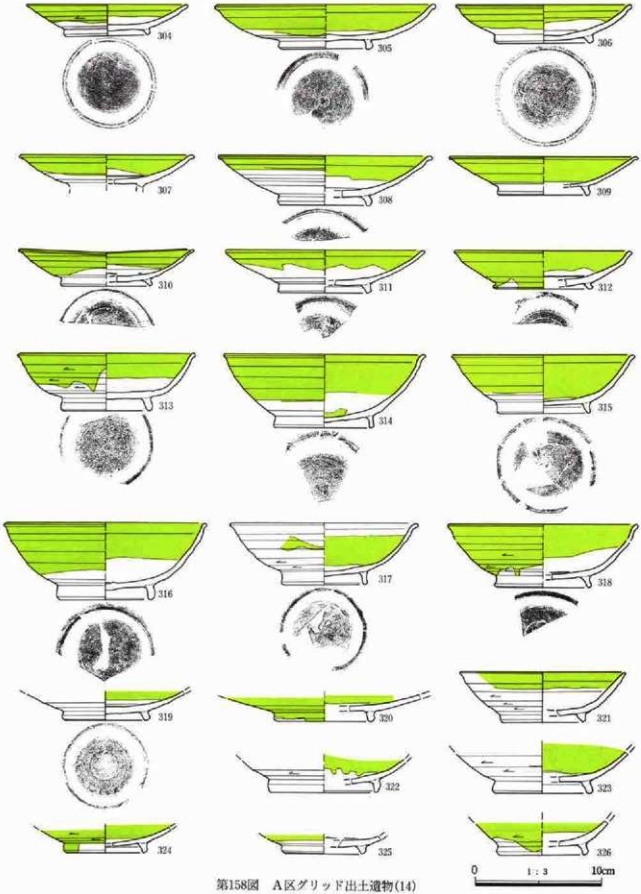
第155図　A区グリッド出土遺物(11)



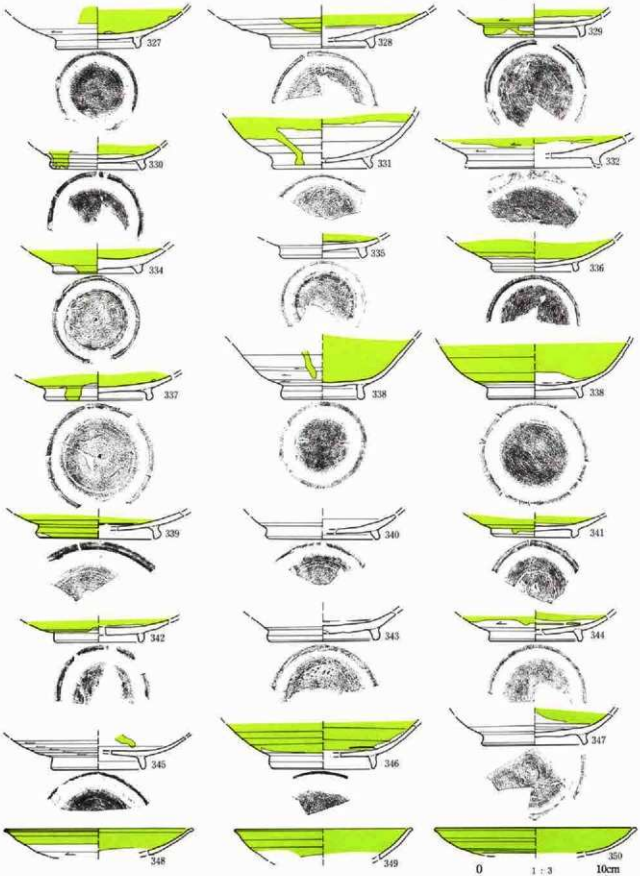
第156図　A区グリッド出土遺物(12)



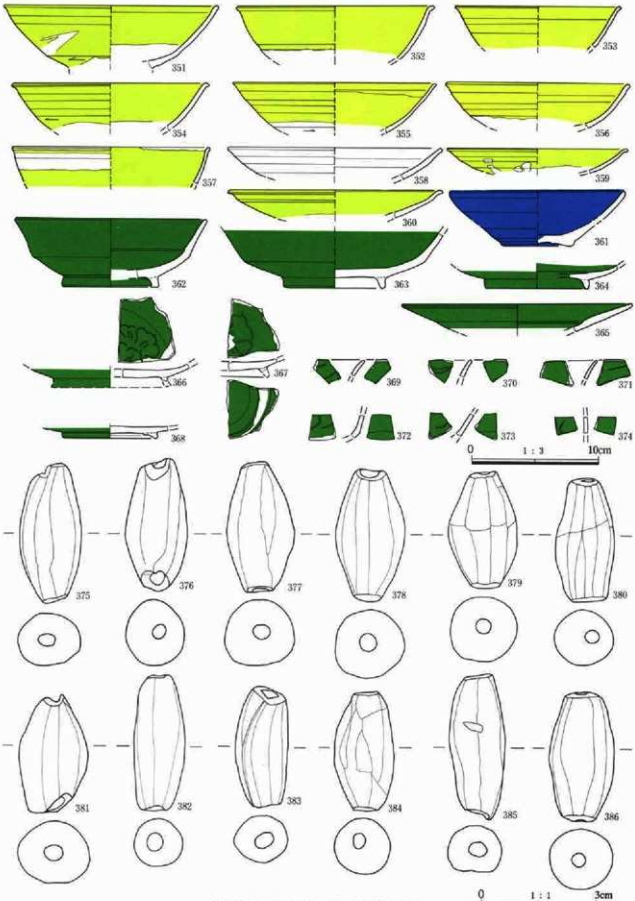
第157図　A区グリッド出土遺物(13)



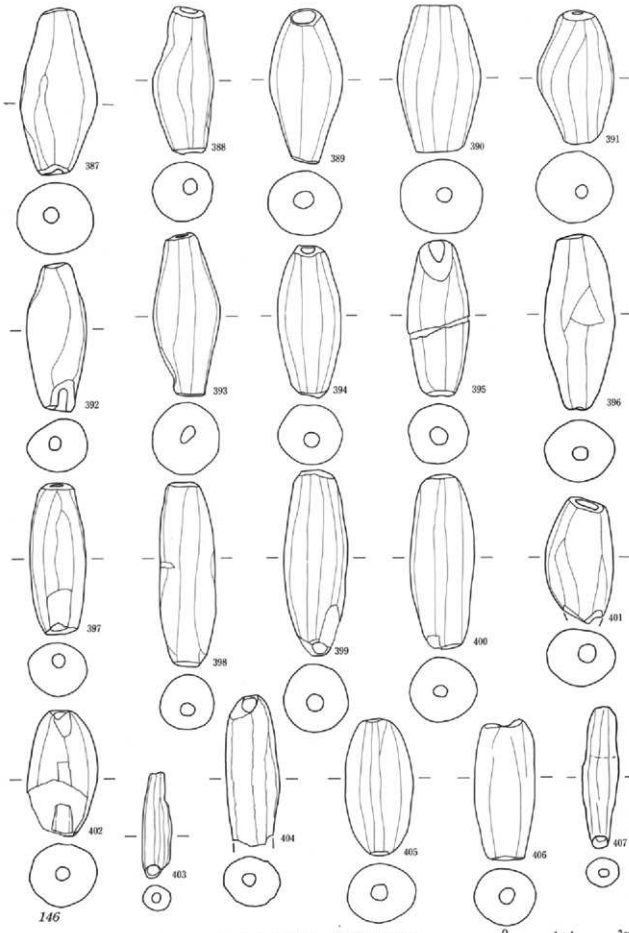
第158図　A区グリッド出土遺物(14)



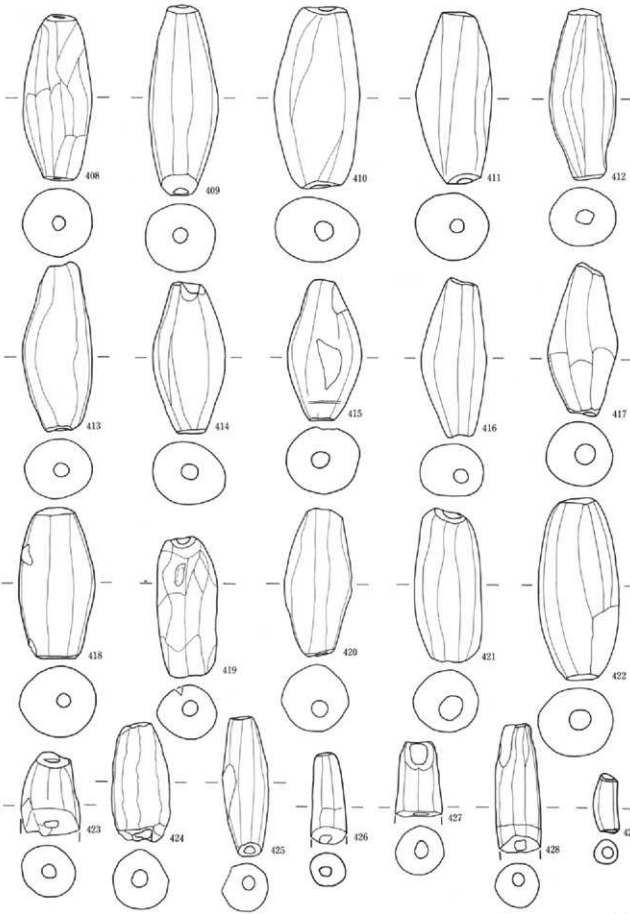
第159図　A区グリッド出土遺物(15)



第160図　A区グリッド出土遺物(16)

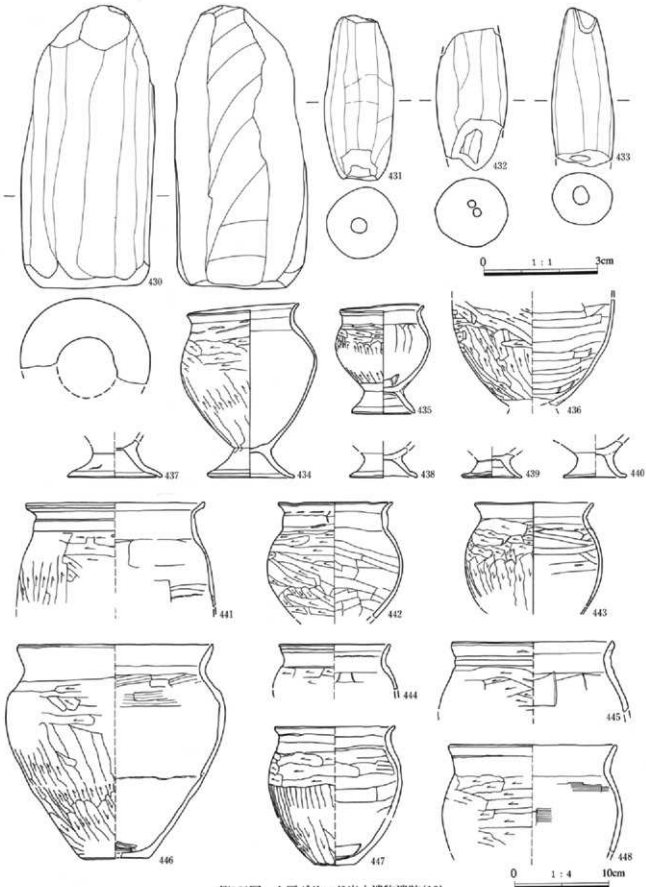


第161図　A区グリッド出土遺物(17)

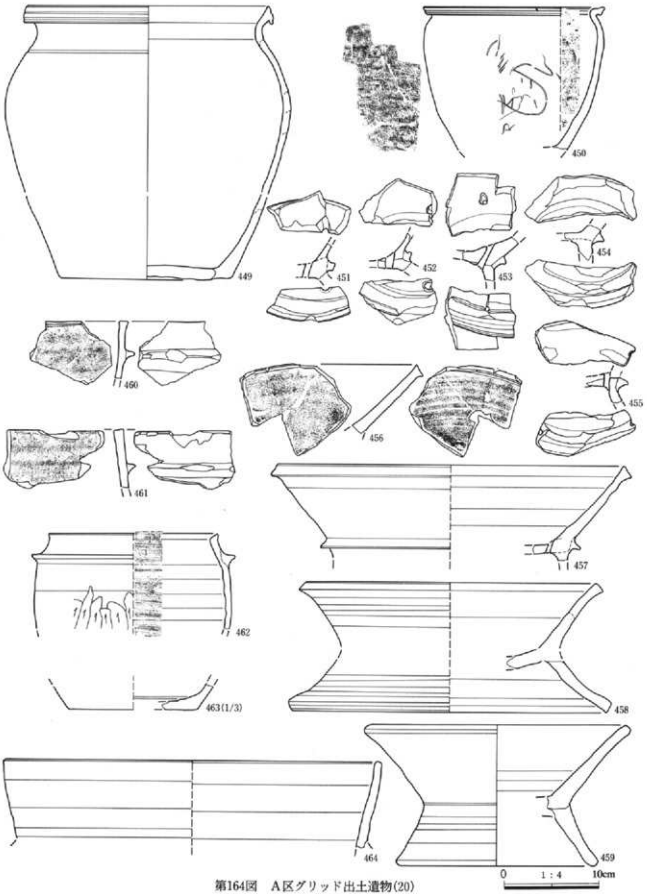


第162図　A区グリッド出土遺物(18)

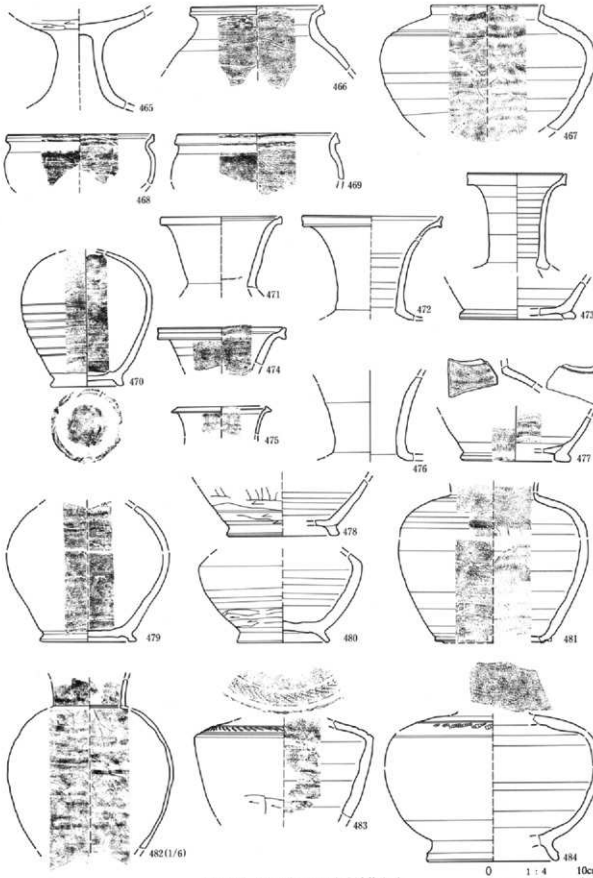
0　1：1　3cm



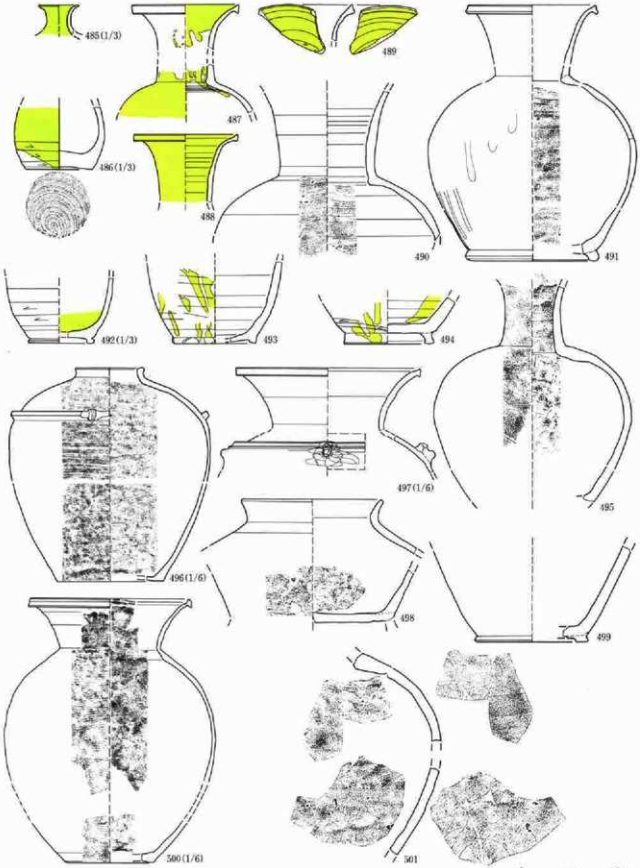
第163図　A区グリッド出土遺物遺跡(19)



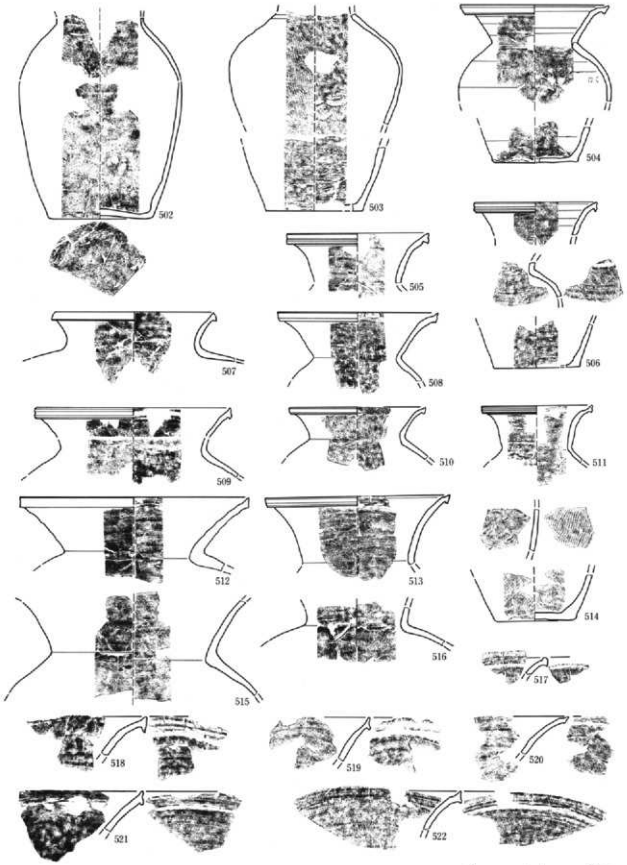
第164図　A区グリッド出土遺物(20)



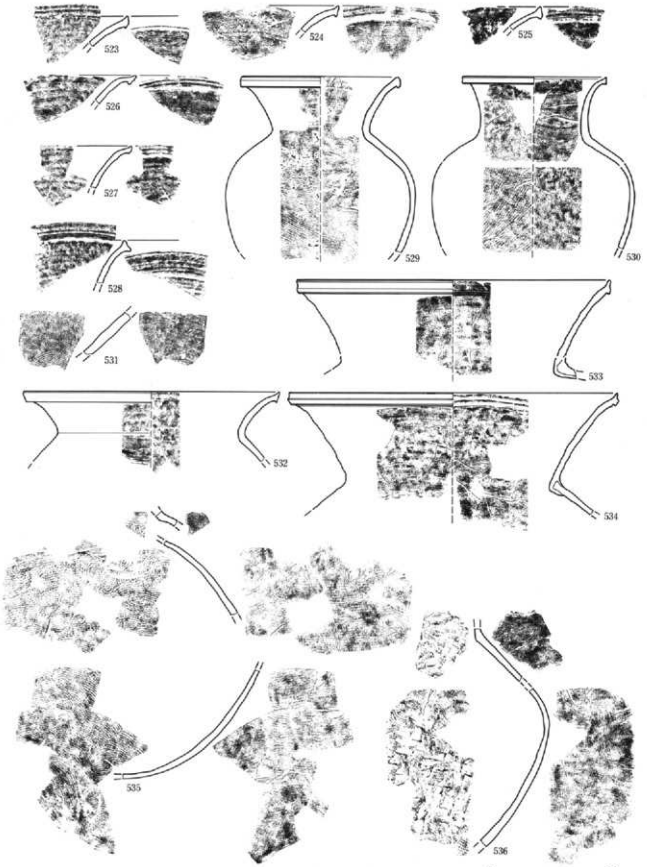
第165図　A区グリッド出土遺物(21)



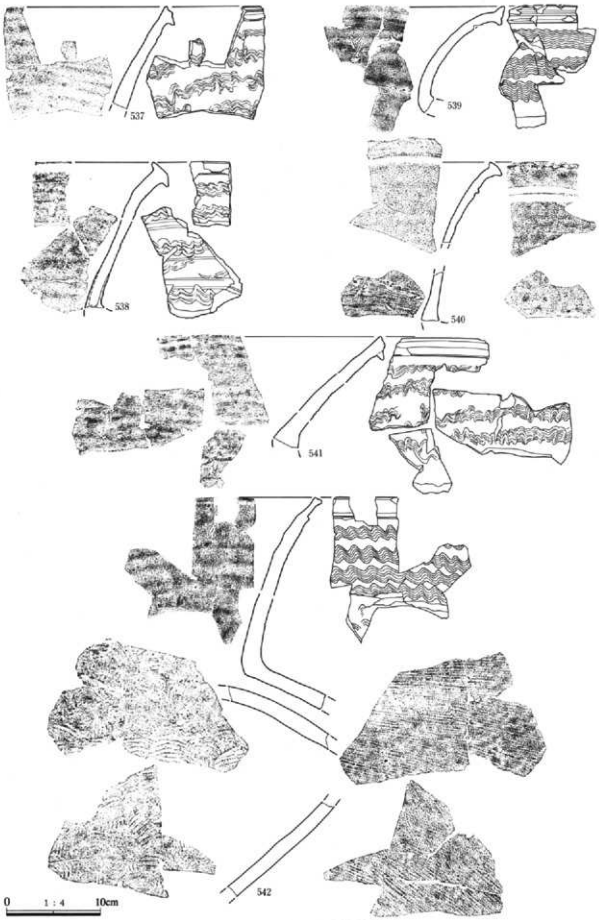
第166図　A区グリッド出土遺物(22)



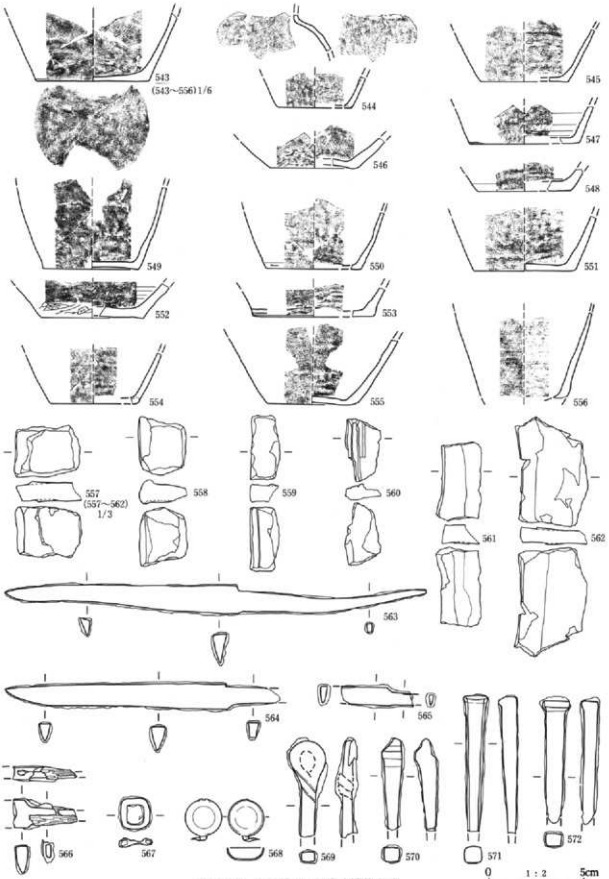
第167図　A区グリッド出土遺物(23)



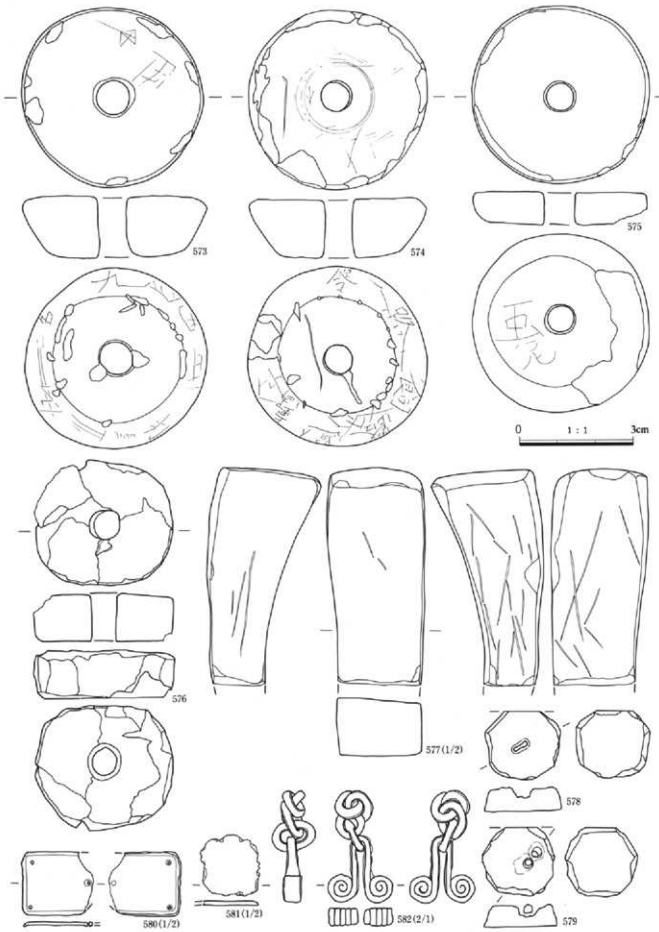
第168図　A区グリッド出土遺物(24)



第169図　A区グリッド出土遺物(25)



第170図　A区グリッド出土遺物(26)



第171図　A区グリッド出土遺物(27)

(2) B・C・D・E区

a. 遺構の検出状況

古代の遺構、遺物についてはA区において集中的に検出されている。遺構の構成および遺物の出土状態などから一定のまとまりをもつものとしてA区を個別に報告した。

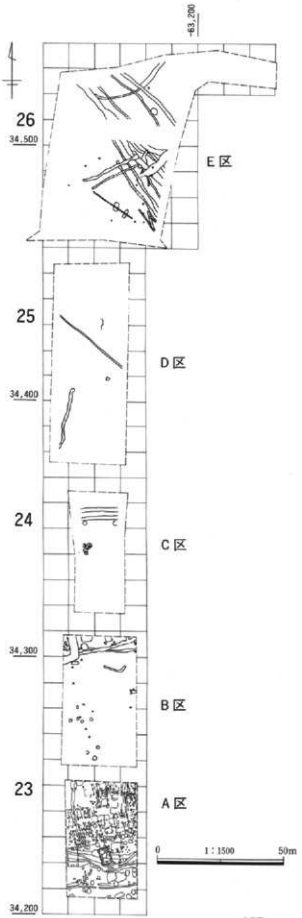
しかし、古代に関連する遺構、遺物はA区ばかりではなく、調査区全域に出土が確認されている。遺物出状態をみると、A区の遺物の集中出土に比較し、散在傾向を示している。また、遺構についても土坑および溝がほとんどであり、住居や掘立柱建物などの遺構はほとんどみられない。

遺構、遺物の検出面はAs－B埋没水田の耕土下にあり、耕作による攪乱も著しいものとみられる。検出遺構は住居2軒、竪穴遺構3基、土坑74基、溝27条である。

なお、溝の一部からは古墳時代遺物の出土例もあり、流れ込みもしくは同位置における溝の継続性を示すものともいえる。

住居はD区において2軒検出されている。2軒とも古墳時代を中心とする遺構群の調査に伴って確認されたものであり、残存状況は極めて不良であった。両住居とも焼土や灰および炭化物の集中散布が確認されるとともに土師器類の出土があり、このことから、住居カマドの可能性を考慮し住居として調査を進めている。しかし、住居平面形や床面およびカマド形態も把握にいたらず、住居としての積極的な根拠に乏しいことも事実である。調査状況から判断して古代の遺構であるといえる。残存は不良だが、住居の可能性が高い遺構として報告しておく。

竪穴遺構としたものは3基あり、B区北側に偏在している。方形区画の一部ともみられる42号溝の東側に位置している。土坑はB区で40基、C区で12基、E区で22基が確認された。とくに注目されるものは、焼土、炭化物、灰が集中する土坑である。A区においても1基確認されているが、いずれも埋没時の堆積ではなく、土坑内で燃焼により形成されたものとみられる。以下、遺構ごとに概要を報告する。



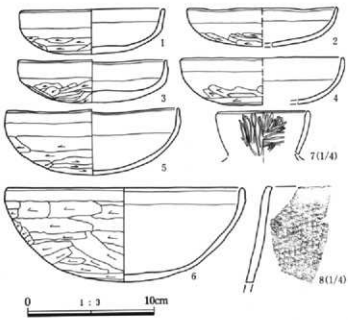
第172図　古代遺構位置図

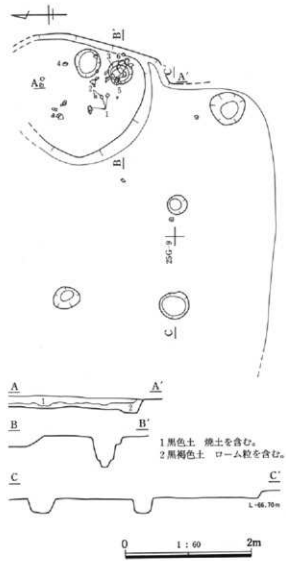
b．竪穴住居

52号住居（第173図、ＰＬ75）

位置　25Ｇ－８グリッド

検出状態　古墳時代の遺構群の確認に伴い検出された遺構である。As―Ｂ埋没水田の耕土下において古墳時代の遺構群および遺物類を中心に検出されているが、同一面にて焼土の集中部と土師器坏類を主とした９世紀代の土器の出土が認められた。47号住居に接した位置にあるが、住居の全形は把握できていない。検出状況から住居カマド部の掘り方が一部残存しているものと思われる。壁および床面については水田耕作などにより消失したものと考えられる。



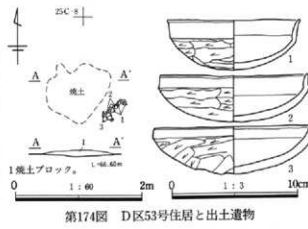


第173図　Ｄ区52号住居と出土遺物

53号住居（第174図、ＰＬ75）

位置　25Ｂ－８グリッド

検出状態　52号住居と同様に古墳時代遺構確認に伴い検出された遺構である。やはり焼土の集中と土師器坏類の出土が認められた。焼土集中部および周辺の調査により遺構の性格についての把握に努めたが焼土の集中以外の痕跡は認められていない。この部分には古墳時代遺物も認められず、９世紀代の土器が特徴的に出土している。このことから古代の遺構としてとらえた。住居の積極的な根拠については乏しいが、カマドの痕跡の可能性を考慮した。



第174図　Ｄ区53号住居と出土遺物

c．竪穴遺構

竪穴遺構としたものは3基であり、いずれもB区に位置している。As－B層埋没水田耕土下で検出した遺構であり、残存状況はあまり良好とはいえない。遺構形態はA区検出のものと同様であり、この時期に伴う遺構形態であるといえよう。平面形は方形を基本とし、確認深は浅く底面は起伏をもつ。上層での耕作による攪乱により竪穴遺構上部は失われたために、確認深が浅くなるものであろう。しかし、同面で検出される土坑には浅深の差はあるが、ある程度の深度を持つものも多く含まれる。さらにA区竪穴遺構も確認深は浅いことから、この種の遺構の特徴の一端となるように思われる。

分布をみると、B区北側に偏在する。A区でもみられるが、この遺構は近接して分布する傾向がある。この3基については北側には広がりをもたないようで、C区には確認されていない。

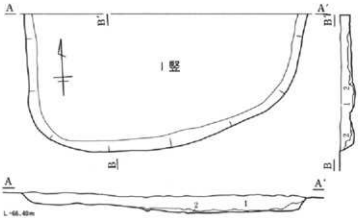
竪穴遺構がある地点には、方形区画溝、東西に走行する溝などがある。東西方向の溝とは重複関係から竪穴遺構が新しい。方形区画溝とは時間的関係は不明である。

1号竪穴遺構（第175図、PL14）

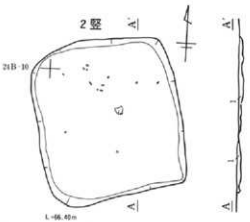
24B－9グリッドに位置する。北半部は現水路下のため不明であり、東西長は450cmで深さ20cm前後を測る。方形平面を呈し、底面には起伏をもつ。埋没土中から土師器、須恵器の小片が出土している。

2号竪穴遺構（第175図、PL14）

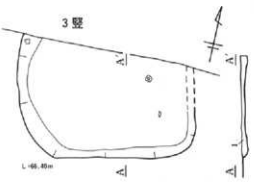
24A－9グリッドに位置する。重複関係はないが、1号竪穴遺構に北接する。A区でも竪穴遺構が2基が接する、もしくは重複するように存在していた状態と共通するあり方を示している。長軸250cm、短軸230cm、深さ10cmで、やや小形であるが整った方形平面を呈する。底面は起伏をもち、平坦にするような掘り方は行われていないようである。埋没土中から土師器、須恵器小片が出土している。



1 褐灰色土　白色粒子を含む。
2 灰褐色土　ローム粒を含む。



1 黒褐色土　白色粒子を含む。



1 暗灰色土　白色粒子・ローム粒を含む。

第175図　B区1～3号竪穴遺構

3号竪穴遺構（第175図、ＰＬ15）

24Ｂ－７グリッドに位置する。北半部は現水路下のため不明である。東西長は280cm、深さ10cmで、底面は起伏をもつ。埋没土中から土師器、須恵器小片が出土している。

ｄ．土坑

Ｂ区からＥ区にかけて検出された土坑は計74基である。Ｂ区で40基、Ｃ区で12基、Ｅ区で22基となるが、分布状況は概して散発的となっている。各土坑については出土遺物等が乏しく所属時期について有効な情報を得られていない。しかし、As—Ｂ層埋没水田耕土下において検出されることから、Ａ区での確認状況と同様であり時期的にも相当するものと考えられる。

Ｂ区では調査区南西部に集中する傾向がみられる。位置からみて南接するＡ区の土坑群との関係も考えられるが、Ａ区遺構群はＢ区南端部にある265号溝を境として分布状況を異にすることが伺える。このようにみるとＢ区土坑群はＡ区と一連のものとはいえないかもしれない。

Ｃ区ではあまり広がりをもたず、重複土坑が点的な分布を示す。

Ｅ区には重複する溝群の間に点在する。これら溝群は概ね水路と考えられるが、土坑群も溝群に伴う遺構と思われる。土坑の用途については不明であるが、溝掘削作業時もしくは溝の渡河用施設などが考えられよう。

以下、各区における土坑の概要を報告しておく。

Ｂ区

38号土坑（第176図、ＰＬ34）

24Ｂ－８グリッドに位置する。長径85cm、短径75cm、深さ25cmを測る。平面形は楕円形で、逆台形断面を呈する。

39号土坑（第176図、ＰＬ34）

24Ｂ－７グリッドに位置する。長径45cm、短径35cm、深さ10cmを測る。平面形は楕円形を呈する。断面は鍋底状で底面は起伏がある。

40号土坑（第176図、ＰＬ35）

24Ａ－５グリッドに位置する。長径78cm、短径64cm、深さ20cmを測る。平面形は楕円形で、断面は逆台形を呈する。

42号土坑（第176図、ＰＬ35）

23Ｔ－10グリッドに位置する。長径72cm、短径63m、深さ18cmを測る。平面形は楕円形で、断面は逆台形を呈する。

43号土坑（第176図、ＰＬ35）

23Ｒ－５グリッドに位置する。東端部は調査区外であるが、長径は推定232cm、短径113m、深さ11cmを測る。平面形は楕円形を呈し大型であるが、確認深は浅い。

44号土坑（第176図、ＰＬ35）

23Ｒ－６グリッドに位置する。長径43cm、短径28cm、深さ12cmを測る。平面形は楕円形で、断面は逆台形を呈し、底面はやや丸みをもつ。

45号土坑（第176図、ＰＬ35）

23Ｒ－６グリッドに位置する。長径30cm、短径28cm、深さ19cmを測る。平面形はほぼ円形で、中央に小穴が認められる。柱穴とみられる。

46号土坑（第176図、ＰＬ35）

23Ｒ－６グリッドに位置する。長径53cm、短径49cm、深さ19cmを測る。平面形は円形で、西端に小穴が認められ、柱穴と思われる。

47号土坑（第176図、ＰＬ35）

23Ｏ－10グリッドに位置する。長径146cm、短径112cm、深さ19cmを測る。平面形は大型楕円形で、須恵器椀が出土している。

48号土坑（第176図、ＰＬ35）

23Ｐ－９グリッドに位置する。長径128cm、短径114cm、深さ20cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。

49号土坑（第176図、ＰＬ35）

23Ｐ－10グリッドに位置する。長径75cm、短径61cm、深さ18cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

50号土坑（第176図、ＰＬ35）

23Ｏ－９グリッドに位置する。長径115cm、短径105

cm、深さ15cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。

51号土坑（第176図、ＰＬ36）

23Ｐ－10グリッドに位置する。長径112cm、短径90cm、深さ14cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。

52号土坑（第176図）

23Ｑ－10グリッドに位置する。長径107cm、短径74cm、深さ19cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。

54号土坑（第176図、ＰＬ36）

23Ｑ－９グリッドに位置する。長径33cm、短径30cm、深さ13cmを測る。平面形は円形を呈する。

55号土坑（第176図、ＰＬ36）

23Ｑ－９グリッドに位置する。長径34cm、短径30cm、深さ11cmを測る。平面形は円形を呈する。

56号土坑（第176図、ＰＬ36）

23Ｐ－９グリッドに位置する。長径27cm、短径25cm、深さ９cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

58号土坑（第176図、ＰＬ36）

23Ｏ－９グリッドに位置する。長径59cm、短径47cm、深さ28cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

59号土坑（第176図、ＰＬ36）

23Ｎ－９グリッドに位置する。長径50cm、短径40cm、深さ10cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

60号土坑（第176図、ＰＬ36）

23Ｍ－９グリッドに位置する。長径121cm、短径75cm、深さ７cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。

61号土坑（第177図、ＰＬ36）

23Ｍ－８グリッドに位置する。長径146cm、短径110cm、深さ16cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。

63号土坑（第177図、ＰＬ36）

24Ａ－７グリッドに位置する。長径172cm、短径35cm、深さ14cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。

67号土坑（第177図、ＰＬ37）

23Ｔ－10グリッドに位置する。長径270cm、短径120cm、深さ25cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。

68号土坑（第176図、ＰＬ37）

23Ｑ－６グリッドに位置する。長径45cm、短径37cm、深さ12cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

69号土坑（第177図、ＰＬ37）

23Ｌ－８グリッドに位置する。長径180cm、短径162cm、深さ32cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。

72号土坑（第176図、ＰＬ37）

24Ｂ－５グリッドに位置する。長径(95cm)、短径60cm、深さ30cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

73号土坑（第176図、ＰＬ37）

23Ｒ－10グリッドに位置する。長径77cm、短径61cm、深さ14cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

74号土坑（第177図、ＰＬ37）

23Ｔ－10グリッドに位置する。長径56cm、短径48cm、深さ47cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

75号土坑（第176図）

24Ｂ－11グリッドに位置する。長径19cm、短径19cm、深さ40cmを測る。平面形は円形を呈する。

76号土坑（第177図）

24Ｂ－11グリッドに位置する。長径120cm、短径115cm、深さ８cmを測る。平面形は大型不整形を呈する。

77号土坑（第177図）

24Ｂ－11グリッドに位置する。長径19cm、短径(17cm)、深さ15cm。平面形は楕円形を呈する。

78号土坑（第177図）

24Ｂ－11グリッドに位置する。長径48cm、短径38cm、深さ5cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

79号土坑（第177図）

24Ｂ－11グリッドに位置する。長径26cm、短径22cm、深さ5cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

80号土坑（第177図）

24Ａ－11グリッドに位置する。長径22cm、短径18cm、深さ4cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

81号土坑（第177図）

24Ａ－11グリッドに位置する。長径51cm、短径(22cm)、深さ18cm。平面形は楕円形を呈する。

83号土坑（第177図）

24Ａ－11グリッドに位置する。長径51cm、短径33cm、深さ11cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

86号土坑（第177図）

24Ａ－11グリッドに位置する。長径31cm、短径(15cm)、深さ12cm。平面形は楕円形を呈する。

87号土坑（第177図）

24A－11グリッドに位置する。長径47cm、短径(24cm)、深さ8cm。平面形は楕円形を呈する。

90号土坑（第177図）

24A－11グリッドに位置する。長径28cm、短径(16cm)、深さ8cm。平面形は楕円形を呈する。

91号土坑（第177図）

24A－11グリッドに位置する。長径(36cm)、短径(21cm)、深さ10cm。平面形は楕円形を呈する。

C区

755号土坑（第177図、PL38）

24K－7グリッドに位置する。長径165cm、短径(84cm)、深さ6cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。

756号土坑（第177図）

24K－9グリッドに位置する。長径160cm、短径132cm、深さ11cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。

758号土坑（第177図）

24I－9グリッドに位置する。長径135cm、短径(57cm)、深さ32cm。平面形は楕円形を呈する。

759号土坑（第177・180図、PL79）

23H－9グリッドに位置する。長径168cm、短径87m、深さ45cmを測る。平面形は大型楕円形で、土師器坏を出土している。

765号土坑（第177図）

24I－9グリッドに位置する。長径102cm、短径73cm、深さ32cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。

760号土坑（第178・180図、PL38・79）

24I－9グリッドに位置する。長径170、短径(150cm)、深さ23cmを測る。平面形は大型隅丸方形で、土師器坏を出土している。

762号土坑（第178図、PL38）

24I－9グリッドに位置する。長径(75cm)、短径90cm、深さ82cm。平面形は隅丸方形を呈する。

764号土坑（第178図、PL38）

24I－9グリッドに位置する。長径118cm、短径96cm、深さ96cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。

767号土坑（第178図）

24I－9グリッドに位置する。長径238cm、短径174cm、深さ34cmを測る。平面形は大型隅丸方形を呈する。

768号土坑（第178図）

24I－9グリッドに位置する。長径67cm、短径(60cm)、深さ24cm。平面形は楕円形を呈する。

769号土坑（第178図）

24I－9グリッドに位置する。長径142cm、短径(93cm)、深さ21cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。

770号土坑（第178図、PL38）

24I－9グリッドに位置する。長径100cm、短径72cm、深さ102cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。

E区

13号土坑（第178・180図、PL38・78）

26C－4グリッドに位置する。長径268cm、短径258cm、深さ58cmを測る。平面形は大型円形で、須恵器碗を出土している。

20号土坑（第178図、PL39）

26E－4グリッドに位置する。長径56cm、短径61cm、深さ47cmを測る。平面形は円形を呈する。

790号土坑（第178図、PL40）

25S－9グリッドに位置する。長径61cm、短径35cm、深さ16cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

791号土坑（第178図、PL40）

25Q－11グリッドに位置する。長径31cm、短径30m、深さ5cmを測る。平面形は円形を呈する。

796号土坑（第178図）

25R－4グリッドに位置する。長径(63cm)、短径60m、深さ6cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

797号土坑（第178図、PL40）

25R－4グリッドに位置する。長径28cm、短径26cm、深さ8cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

801号土坑（第178図、PL40）

25R－5グリッドに位置する。長径42cm、短径36cm、

深さ11cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

804号土坑（第178図）

25N－5グリッドに位置する。長径33cm、短径25cm、深さ10cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

812号土坑（第178図、PL41）

25S－8グリッドに位置する。長径85cm、短径50cm、深さ30cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

816号土坑（第178図、PL41）

25T－5グリットに位置する。長径168cm、短径131cm、深さ32cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。

815号土坑（第179図、PL41）

25N－5グリッドに位置する。長径55cm、短径38cm、深さ15cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

817号土坑（第179図、PL41）

25T－4グリッドに位置する。長径(42cm)、短径40cm、深さ30cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

830号土坑（第179図、PL41）

25T－4グリッドに位置する。長径40cm、短径37cm、深さ10cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

831号土坑（第179図、PL41）

25R－5グリッドに位置する。長径105cm、短径84cm、深さ50cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。

832号土坑（第179図、PL41）

25O－5グリッドに位置する。長径53cm、短径47cm、深さ19cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

838号土坑（第179図、PL41）

25R－5グリッドに位置する。長径70cm、短径52cm、深さ18cmを測る。平面形は円形を呈する。

839号土坑（第179図、PL41）

25S－5グリッドに位置する。長径160cm、短径125cm、深さ18cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。

842号土坑（第179図、PL42）

25N－7グリッドに位置する。長径57cm、短径38cm、深さ11cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

843号土坑（第179図、PL42）

25O－6グリッドに位置する。長径—cm、短径107cm、深さ68cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

844号土坑（第179図、PL42）

25O－6グリッドに位置する。長径—cm、短径95cm、深さ80cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

845号土坑（第179図、PL42）

25O－6グリッドに位置する。長径—cm、短径99cm、深さ76cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

846号土坑（第179図、PL42）

25O－6グリッドに位置する。長径—cm、短径115cm、深さ80cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

847号土坑（第179図、PL42）

25P－7グリッドに位置する。長径—cm、短径172cm、深さ96cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

848号土坑（第179図、PL42）

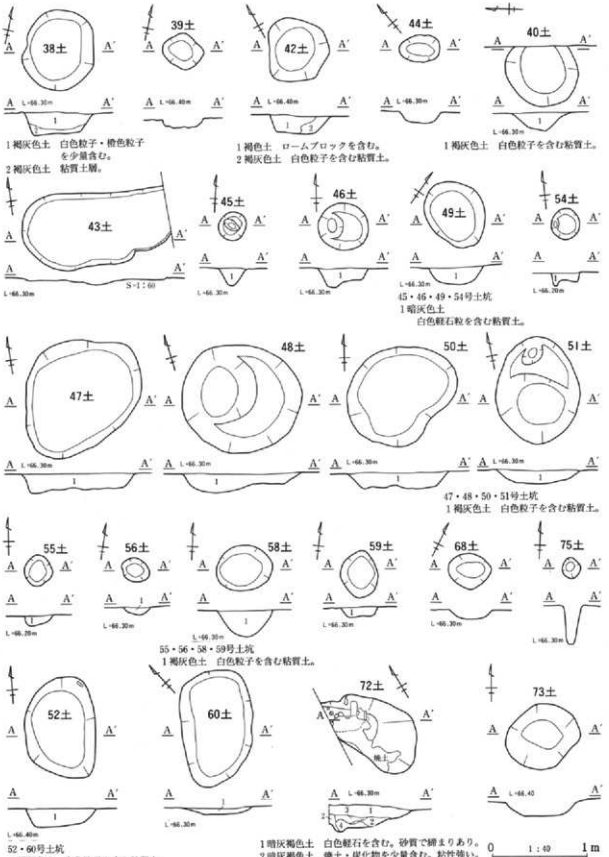
25O－7グリッドに位置する。長径—cm、短径196cm、深さ95cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

849号土坑（第179図、PL42）

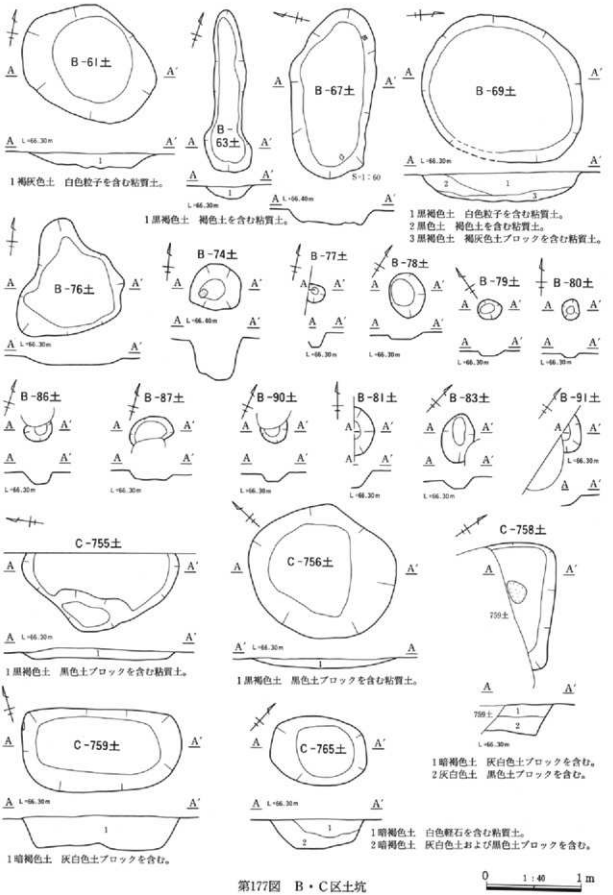
25P－5グリッドに位置する。長径46cm、短径45cm、深さ44cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

850号土坑（第179図、PL42）

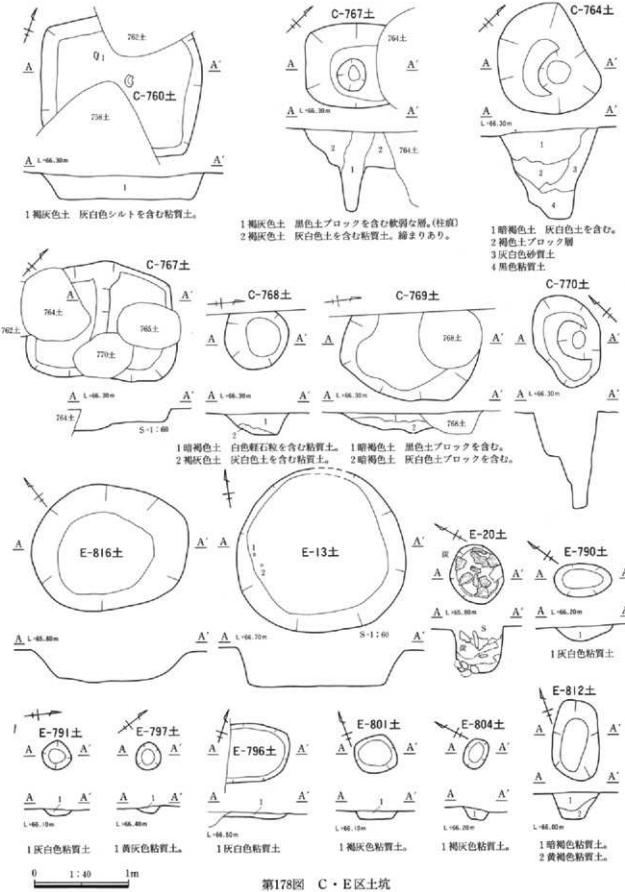
25S－4グリッドに位置する。長径38cm、短径31cm、深さ19cmを測る。平面形は楕円形を呈する。


38土
1 褐灰色土　白色粒子・橙色粒子を少量含む。
2 褐灰色土　粘質土層。
39土
42土
1 褐色土　ロームブロックを含む。
2 褐灰色土　白色粒子を含む粘質土。
44土
40土
1 褐灰色土　白色粒子を含む粘質土。
43土
S=1:60
45土
46土
49土
54土
45・46・49・54号土坑
1 暗灰色土
白色軽石粒を含む粘質土。
47土
48土
50土
51土
47・48・50・51号土坑
1 褐灰色土　白色粒子を含む粘質土。
55土
56土
58土
59土
68土
75土
55・56・58・59号土坑
1 褐灰色土　白色粒子を含む粘質土。
52土
60土
72土
73土
52・60号土坑
1 褐灰色土　白色粒子を含む粘質土。
1 暗灰褐色土　白色軽石を含む。砂質で締まりあり。
2 暗灰褐色土　焼土・炭化物を少量含む。粘性強い。
3 焼土ブロック
4 炭化物ブロック　炭化材含む。
0　1:60　1m

第176図　B区土坑


B-61土
1 褐灰色土　白色粒子を含む粘質土。
B-63土
1 黒褐色土　褐色土を含む粘質土。
B-67土
S=1:60
B-69土
1 黒褐色土　白色粒子を含む粘質土。
2 黒色土　褐色土を含む粘質土。
3 黒褐色土　褐灰色土ブロックを含む粘質土。
B-76土
B-74土
B-77土
B-78土
B-79土
B-80土
B-86土
B-87土
B-90土
B-81土
B-83土
B-91土
C-755土
1 黒褐色土　黒色土ブロックを含む粘質土。
C-756土
1 黒褐色土　黒色土ブロックを含む粘質土。
C-758土
759土
1 暗褐色土　灰白色土ブロックを含む。
2 灰白色土　黒色土ブロックを含む。
C-759土
1 暗褐色土　灰白色土ブロックを含む。
C-765土
1 暗褐色土　白色軽石を含む粘質土。
2 暗褐色土　灰白色土および黒色土ブロックを含む。
0　1:40　1m

第177図　B・C区土坑


C-760土
C-767土
C-764土
C-768土
C-769土
C-770土
E-816土
E-13土
E-20土
E-790土
E-791土
E-797土
E-796土
E-801土
E-804土
E-812土
1 褐灰色土　灰白色シルトを含む粘質土。
1 褐灰色土　黒色土ブロックを含む軟弱な層。(柱痕)
2 褐灰色土　灰白色土を含む粘質土。締まりあり。
1 暗褐色土　灰白色土を含む。
2 褐色土ブロック層
3 灰白色砂質土
4 黒色粘質土
1 暗褐色土　白色軽石粒を含む粘質土。
2 褐灰色土　灰白色土を含む粘質土。
1 暗褐色土　黒色土ブロックを含む。
2 暗褐色土　灰白色土ブロックを含む。
1 灰白色粘質土
1 灰白色粘質土
1 黄灰色粘質土。
1 灰白色粘質土
1 褐灰色粘質土。
1 褐灰色粘質土。
1 暗褐色粘質土。
2 黄褐色粘質土。
0　1:40　1m

第178図　C・E区土坑

815土
1 褐色土　白色軽石粒を含む砂質層。

817土
1 褐灰色土　黒褐色土を含む粘質土。

830土
1 黄褐色土　褐色土を含むシルト質層。

832土

850土

831土

838土
枕

842土
1 黒褐色土　軟弱な層。(柱痕)
2 黒褐色土　締まっている。

839土

848土　847土
S=1:60

846土　845土　844土　843土
S=1:60

849土
1 灰白色土　黒褐色土ブロックを含む砂質層。
2 黒褐色土　砂質層。

0　1:40　1m

第179図　E区土坑

第180図　C・E区土坑出土遺物

e．溝

いずれの溝もAs－B下水田耕土である基本土層第Ⅸa層下から検出された。9世紀後半から10世紀にかけての遺物を中心に出土している。

B区では、39・40・41・42・44・265溝を検出した。

39号溝（第181図、P L48）

24B－5グリッドで検出した。22.8mを確認し、西北西から東北東に溝幅は拡縮しながら直線的に傾斜しながら走向する。幅97cm、深さ20cm、断面形状逆台形である。

40号溝（第181図、P L48）

24A－5グリッドで検出した。22.2mを確認し、東端は調査区外、西端は42号溝に切られる。西から東に傾斜、走向し、南北に緩やかに湾曲している。幅104cm、深さ16cmである。

41号溝（第181図、P L46）

23T－6グリッドで検出した。全長9.6m、幅41cm、深さ11cm、断面形状丸底である。西北西から東南東に傾斜、走向し、23T－7グリッド付近において北東に屈曲する。

42号溝（第181・182・188図、P L43・84）

23T－10グリッドで検出した。12.6mを確認し、両端は調査区外に至る。24A－11グリッド付近から東に直進し、24A－10グリッド付近で北に直角に曲がって走向する。屈曲する24A－10グリッド付近が低くなっている。幅324cm、深さ50cm、断面形状逆台形である。底面は平に整えられている。

出土遺物は、9世紀後半から10世紀の遺物が中心である。L字状に曲がっていることから、特殊な意味を持つ地域を区画している溝である可能性が高い。北西方向にその本体が存在すると考えられる。

44号溝（第181図）

24B－6グリッドで検出した。80cmを確認した。北北東から南南東に走向する。39号溝に合流している。同時期の遺構と考えられる。幅25cm、深さ30.5cmで、掘削工具痕を残す。

265号溝（第181・188図、P L84）

23L－5グリットで検出した。全長14.6m、幅154cm、深さ31cmを確認するが、両端、片方の立ち上がり部分は調査区外に至る。国家座標に近似し、西から東に傾斜、走向する。

C区では、平行して国家座標に近似し東西に走向する84・85号溝が検出された。この2条の溝は、As－B下水田の耕土下から検出された。これらの遺構は道路遺構と考えられる。しかし、溝と溝の間に硬化面は認められない。遺構の上部は攪乱されているためと考えられる。溝の中心から中心までの距離は3mである。

84号溝（第183図、P L48）

24L－7グリッドで検出する。全長13mが検出され、国家座標に近似し東西方向に走向し、西端、東端とも調査区外にいたる。幅160cm、深さ18cmであり、断面形状は2段の逆台形である。傾斜なし。

85号溝（第183・189図、P L48・84）

24K－7グリッドで検出する。全長12.8mが検出され、国家座標に近似し東西方向に走向し、西端、東端とも調査区外にいたる。幅120cm、深さ19cmであり、断面形状は不定形であるが、南側には中段があり緩やかに立ち上がっている。溝は直線的で整っている。底面の傾斜はない。

D区では、209・211号溝を検出した。

209号溝（第184図）

25C－7グリッドで検出した。31.8mを確認し、両端は調査区外に至る。北西から北東に傾斜、走向し、幅37cm、深さ29cm、断面形状丸底である。

211号溝（第184図）

24Q－11グリッドで検出した。24m確認され、南端は調査区外に至る。北北東から南南西へ走向し、幅90cm、深さ22cmである。

E区では、計18条を検出した。

141号溝（第185・186図、P L50）

25T－3グリットで検出した。11.2m確認し、両端は調査区外に至る。北東から湾曲しながら東に傾斜し、走向している。幅169cm、深さ36cm、断面形状逆台形である。

142号溝（第185・186・189図、P L50・84）

25R－5グリッドで検出した。全長12.8m、幅311cm、深さ71cmである。北東から南西へ傾斜し、走向する。断面形状は逆台形で、片側立ち上がり緩やかになる。8世紀後半からの遺物を出土している。

143号溝（第185・186・189図、PL49・50・84）

25R－3で検出した。51.8mを確認し、両端は調査区外に至る。北西から南東へ傾斜、走向する。幅300cm、深さ76cm、断面形状逆台形である。7世紀からの遺物が出土している。

144号溝（第185・186図、PL49）

25R－3グリッドで検出した。42.2mを確認し、両端調査区外に至る。北西から南東へ傾斜、走向する。幅113cm、深さ56cm、断面形状逆台形。

145号溝（第185・186図、PL49・50）

25R－9グリッドで検出。全長23.8m、幅94～138cm、深さ14cm、断面形状逆台形である。南西から北東へ傾斜、走向する。中央部から側板出土。

153号溝（第185・186図、PL49）

25O－7グリッドで検出した。全長18.4m、幅47cm、深さ17cm、断面形状逆台形である。北西から南東へ傾斜、走向する。

159号溝（第185・186図）

25N－4グリッドで検出した。全長10.8m、幅42cm、深さ23cm、断面形状逆台形である。北西から北東へ走向し、傾斜はない。

163号溝（第185・186図）

25Q－9グリッドで検出した。全長20.4m、幅40cm、深さ14cm、断面形状片側に中断のある逆台形である。南西から北東へ傾斜、走向する。

168号溝（第185・186・189図、PL50・84）

25O－4グリッドで検出した。27.4m確認し、南端は調査区外に至る。北西から南東へ傾斜、走向する。幅89cm、深さ29cm、溝幅は拡縮する。

170号溝（第185・186図）

25T－5グリッドで検出した。12.8m認し、北端は調査区外、南端は144号溝に切られている。幅99cm、深さ25cm、断面形状逆台形である。北西から南東へ走向し、傾斜はない。

175号溝（第185・186・189図、PL84）

25N－4グリッドで検出した。全長3.4m、幅41cm、深さ17cm、断面形状逆台形である。北西から南東へ高低差5cmで傾斜し、走向する。

176号溝（第185・186・189図、PL50・84）

25N－4グリッドで検出した。全長7.8m、幅63cm、深さ15cm、断面形状逆台形である。北北西から南南東へ傾斜無く走する。

193号溝（第185・186図）

25Q－4グリッドで検出した。全長7.6m、幅35cm、深さ17cm、断面形状逆台形である。南東から北西へ傾斜し、東に湾曲しながら走向する。

206号溝（第185図、PL50）

25O－4グリッドで検出した。全長33.4m、幅110cm、深さ34cm、断面形状逆台形である。北西から南東へ傾斜し、走向する。

221号溝（第185・186・189図、PL84）

25P－3グリッドで検出した。全長19.2m、幅62cm、深さ25cm、断面形状逆台形である。北北西から南南東に向かって、西へ湾曲し傾斜無く走向。

261号溝（第185図）

26B－4グリッドで検出した。全長28.6m、幅48cm、深さ8cm、断面形状逆台形である。北西から南東へ向かって、北東に湾曲しながら高低差13cmで傾斜しながら走向している。

262号溝（第185図）

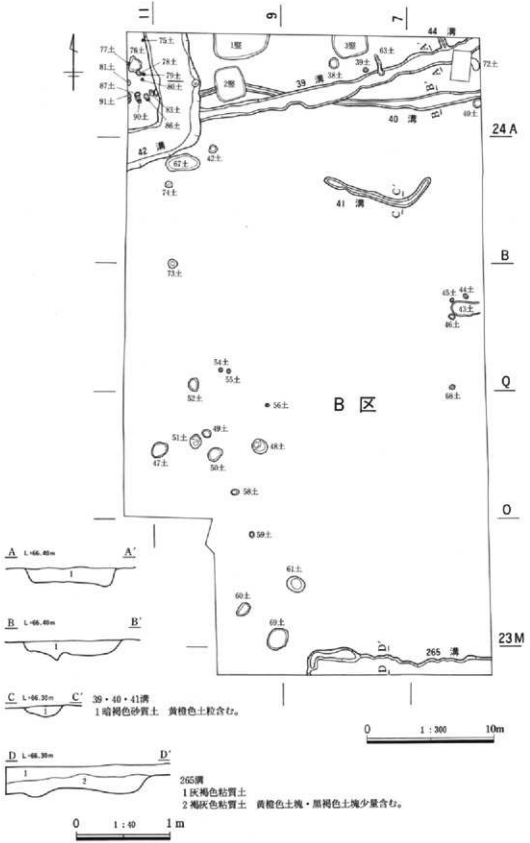
26D－8グリッドで検出した。全長20.1m、幅32cm、深さ9cm、断面形状台形である。西から東北東へむかって、南に湾曲しながら高低差15cmで傾斜しながら走向している。

263号溝（第185図）

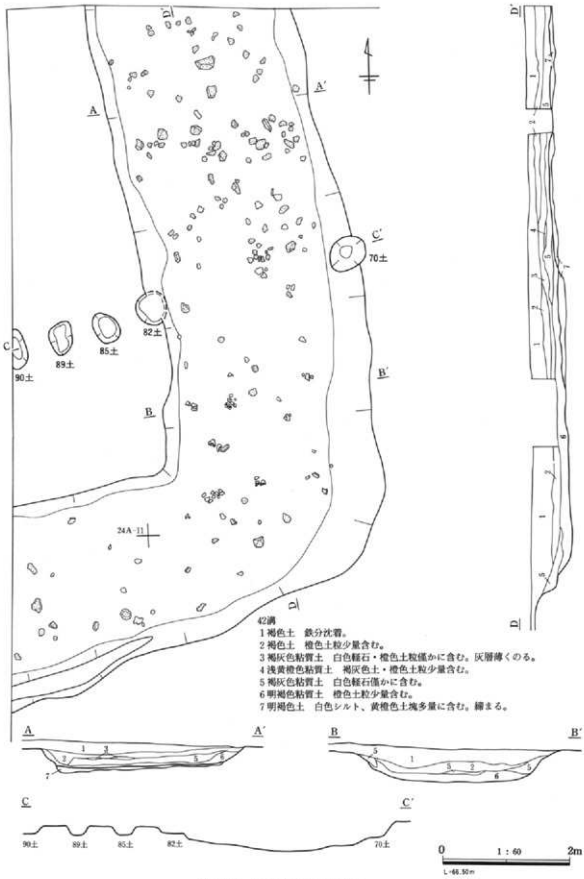
26B－2グリッドで検出した。全長28.6m、幅128cm、深さ35cm、断面形状逆台形である。北西から南東へ高低差7cmで傾斜しながら走向している。

264号溝（第185図）

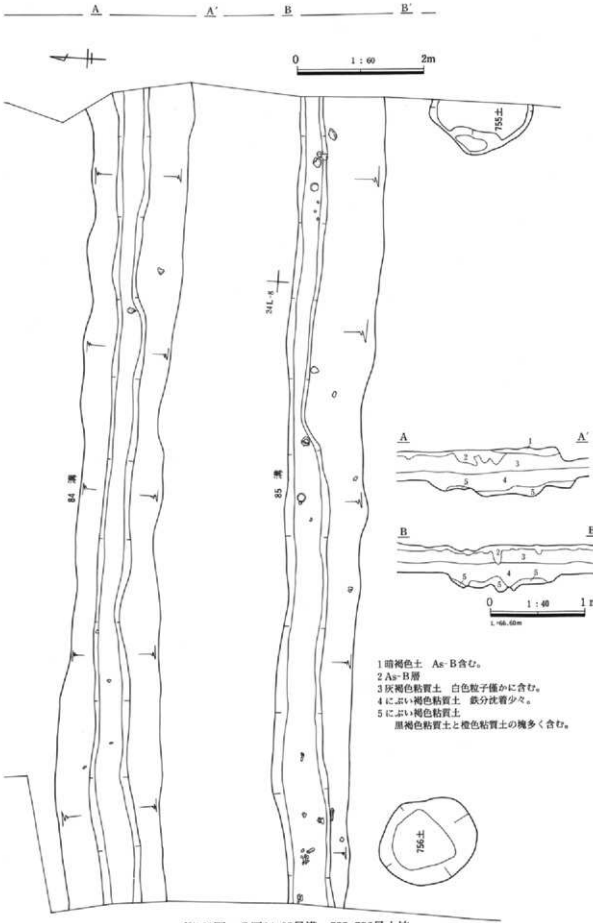
26E－5グリッドで検出した。全長12.6m、幅182cm、深さ49cm、断面形状逆台形である。南西から北東へ高低差4cmで傾斜しながら走向している。



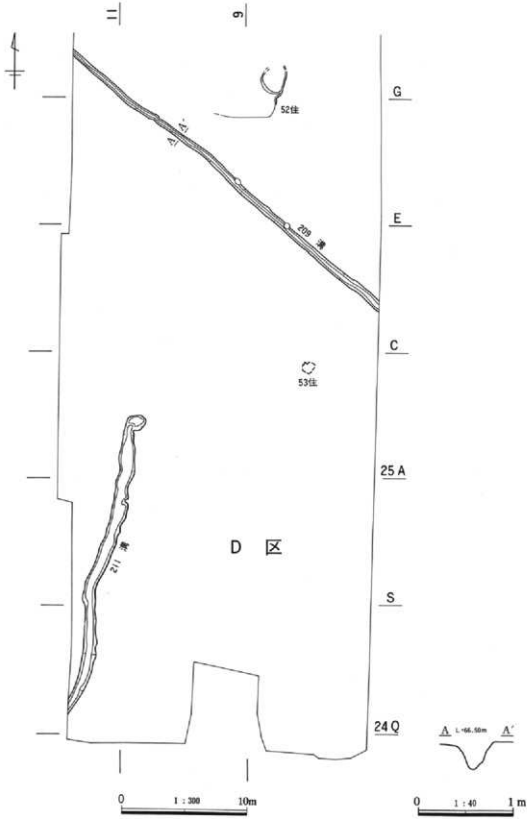
第181図　B区溝・土坑・竪穴



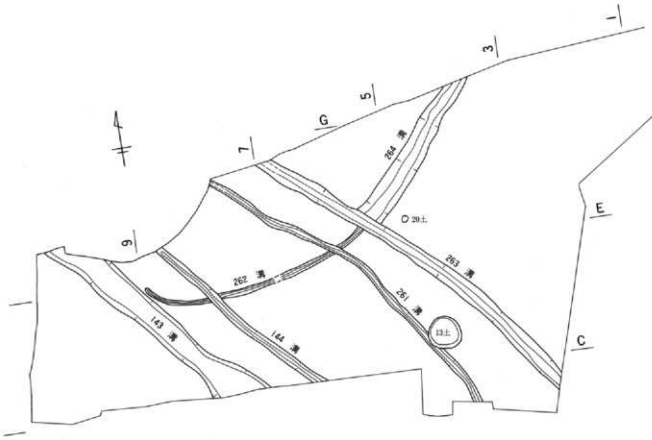
第182図　B区42号溝・土坑列



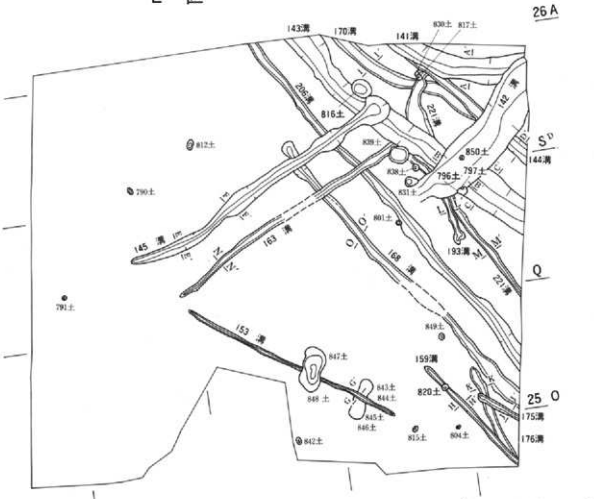
第183図　C区84・85号溝、755・756号土坑



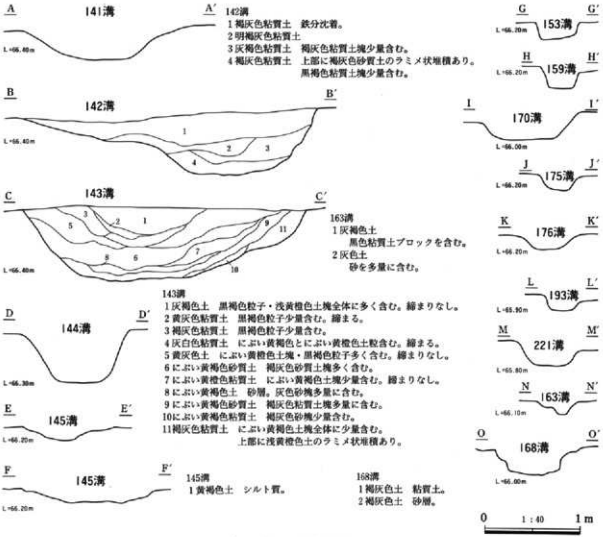
第184図　D区 溝・住居



E 区



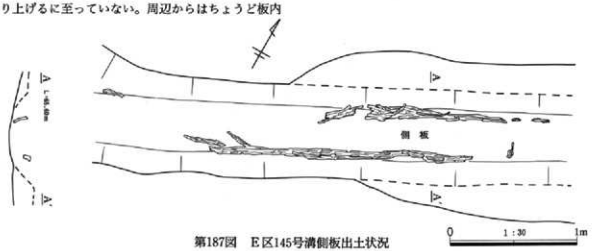
第185図 E区 溝・土坑



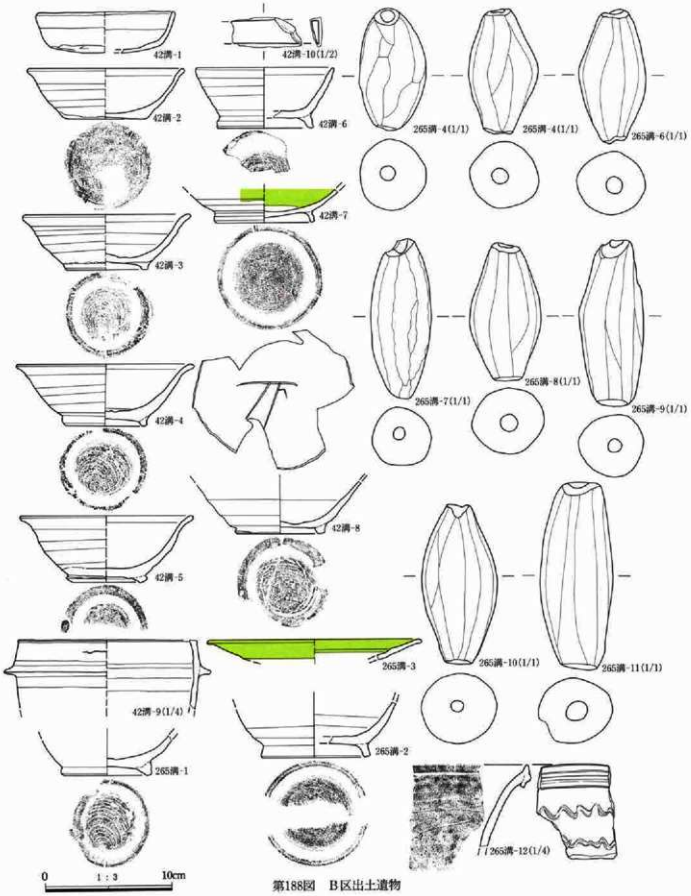
第186図　E区溝土層断面

145号溝側板出土状態（第187図、PL50）

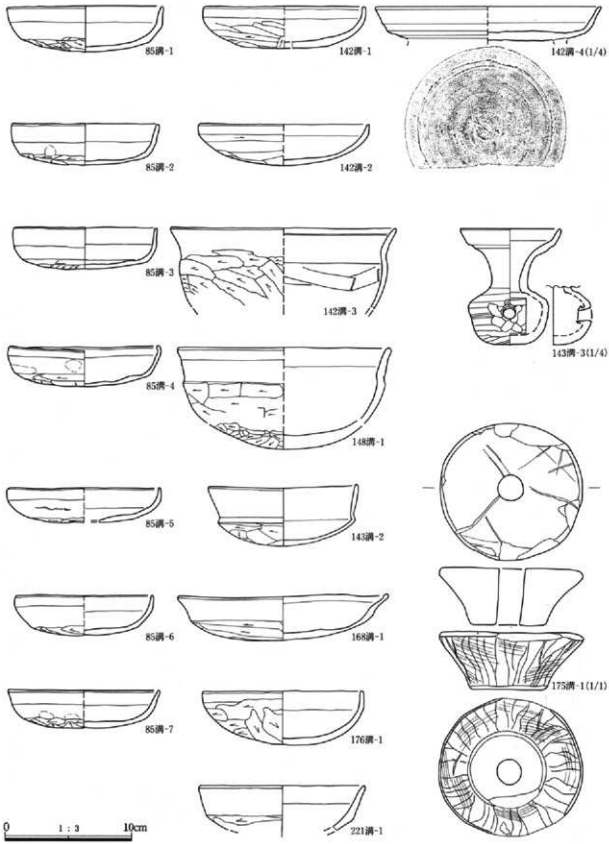
145号溝中央部、25S－6グリッド付近において、3mにわたって側板が出土した。残存状況が悪く取り上げるに至っていない。周辺からはちょうど板内側の延長線上に杭が検出されており、板を杭でおさえていたと考えられる。



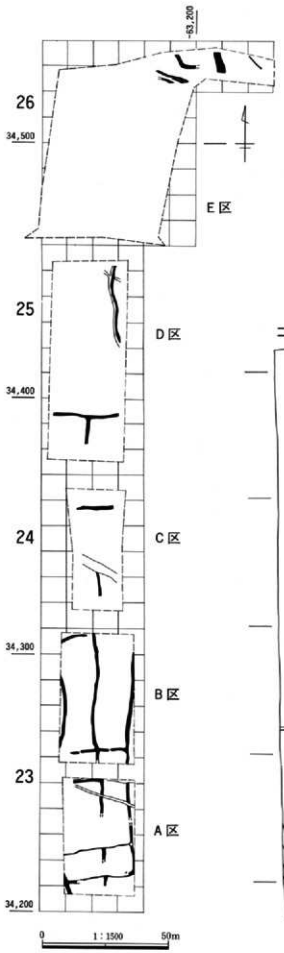
第187図　E区145号溝側板出土状況



第188図　B区出土遺物



第189図　C・E区溝出土遺物



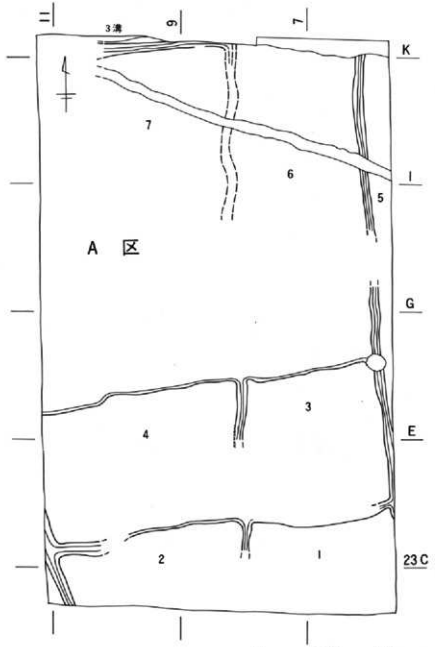
第190図　古代水田遺構位置図

f．水田

A・B・C・D・E区においてAs－B層直下から遺構が検出された。被覆層であるAs－B軽石層は、層厚が薄いところでは1cmに満たない部分もあり、「B混土」形成時に大半が攪乱され、かろうじて残ったものと考えられる。

水田耕土は、夾雑物の少ない粘性の強い黒褐色土である。基本土層Ⅸa層に相当する。

A区では、7枚の水田区画が検出された。中央部は微高地頂上部にあたり、上部の耕作と考えられる

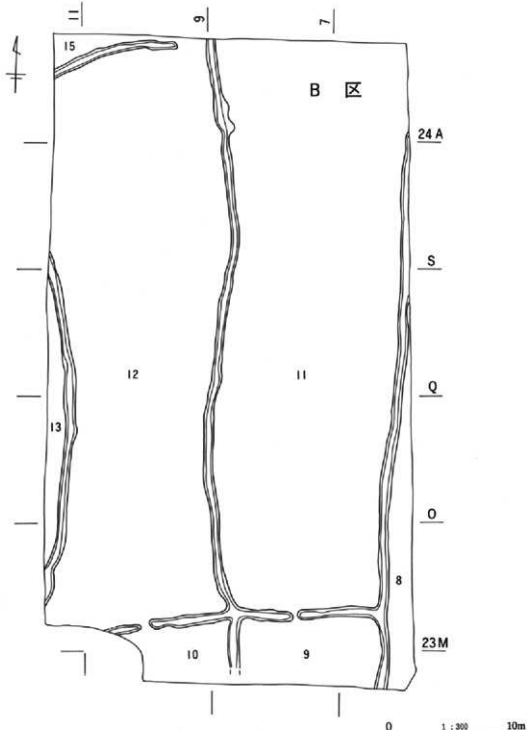


第191図　A区水田

攪乱により良好な畦畔を検出することができなかった。7枚の区画のうち3・4号水田は、東西に長い長方形を呈する。面積はそれぞれ122.8m²・158.3m²である。その他の区画の形状は、判断することができない。

畦畔は、南北畦畔、東西畦畔とも国家座標に近似する走向になっている。規模は、下幅約40cm、高さ約2cmを測る。1・2・3・4号水田は、段差により区画している可能性がある。

水田面は、北から南に、そして西から東に傾斜し、



第192図　B区水田

6・7号水田と3・4号水田の高低差は約10cm、3・4号水田と1・2号水田は約7cmとなり他の区画の高低差よりも大きくなっており、土地の傾斜の大きさが区画の形状変化にも影響を及ぼしているものと考えられる。

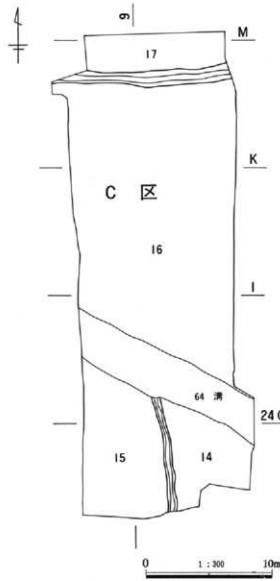
B区では、7枚の区画が検出された。そのうち、11・12号水田は、ほぼ区画の全容がわかる。この2区画の形状は南北に長い長方形を呈し、面積は、650.2㎡・539.5㎡となっている。12号溝には北の畦畔東隅に水口一箇所、南畦畔中央に一箇所あり、水は15号→12号→10号へ流れるように設置されている。11号水田には、南畦畔中央に水口が一ヶ所あり、水は9号水田へ流れていくよう設置されている。

畦畔は、南北・東西の畦畔とも国家座標に近似し走向する。下幅約60cm、高さ約4cmを測る。畦畔の間隔は、東西畦畔は約45m、南北畦畔は約12mである。

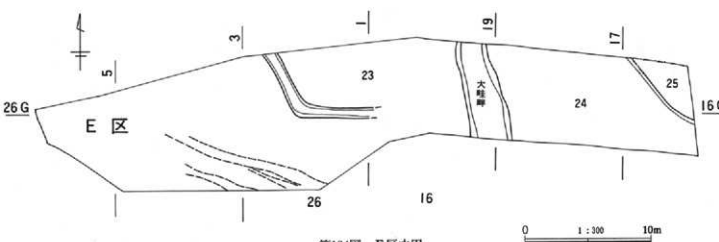
水田面の傾斜は、北と南で5cm程度になり、緩やかである。

C区では、4枚の区画が検出された。中央部には上面からの攪乱が大きく入り、区画の形状を判断することができない。

畦畔は、2本検出され、国家座標に近似した走向になっている。14・15号水田間の南北畦は、下幅約60cm、高さ約4cmある。16・17号水田間の東西畦は、下幅約1.3m、高さ5cmと比較的大きなものが検出された。



第193図　C区水田



第194図　E区水田

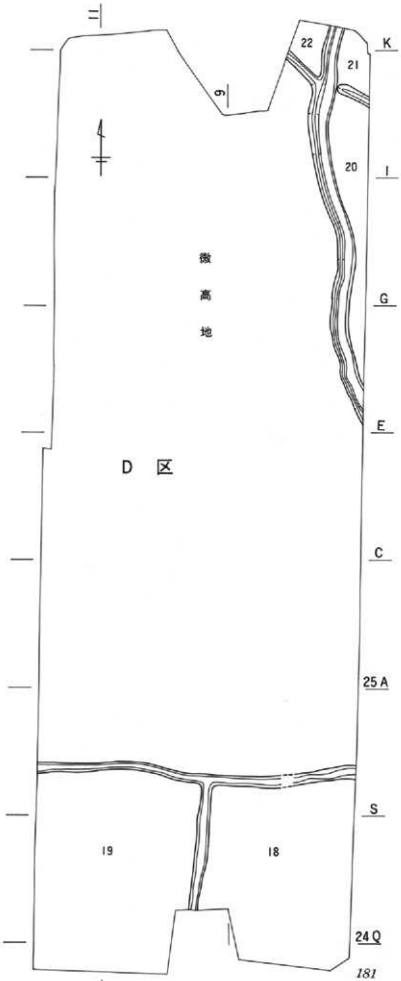
D区では、5枚の水田区画が検出された。北西から中央部にかけては微高地にあたり上部により攪乱され、水田は検出されなかった。また、区画の全容を明らかにできるものも検出されなかった。

畦畔は、南北・東西畦畔とも国家座標に近似し走向する。下幅約80cm、高さ約3cmである。20・21・22号水田を区画する畦畔脇には溝状の落ち込みが確認された。水田面は、北部は東に、南部は南に傾斜している。

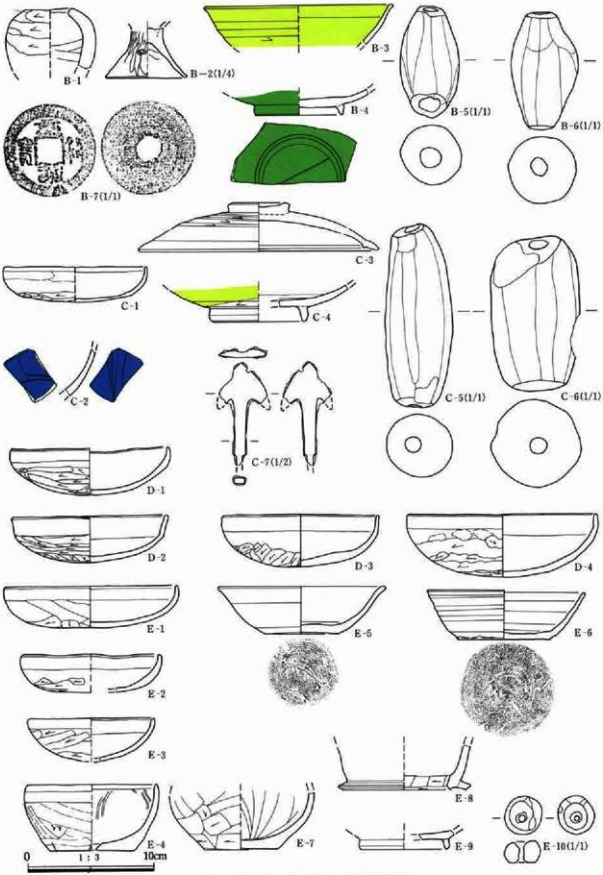
E区では、北東部4分の1においてAs－B軽石の堆積を確認し、数本の畦畔が検出された。中央部は、攪乱が多く軽石の堆積は確認できなかった。また、北西部（E区の2分の1を占める）は、広範囲にわたってAs－Bの堆積が認められたが水田畦畔は検出されず、浅い自然流路が傾斜に沿って形成されるのみで人為的な遺構は皆無であった。

水田区画は、3枚確認されたが区画の全容を明らかにするには到っていない。

畦畔は南北方向畦畔がやや北西に傾く傾向がある。恐らく傾斜が北東に下っており、その影響があると思われる。畦畔の規模は、下幅80cm、高さ3cmのもの、段差のみ確認のもの、下幅310cm、高さ9cmと大きなものが検出された。



第195図　D区水田



第196図　B～E区グリッド出土遺物

4．中世の遺構と遺物

a．遺構の検出状況

基本土層Ⅶ層はAs—B混入量および色調などにより複数の分層が可能である。玉村町域をはじめ前橋市域の近隣の遺跡では同層の堆積が認められており、発掘調査を実施する際には担当者間で「B混」と通称される層である。この層はAs—B降下後に堆積、形成された層であり、下層の軽石を混入するため砂質層であることを特徴とする。

いわゆる「B混」層からは、水田、方形区画溝をもつ屋敷などをはじめ各種遺構が検出されている。出土遺物などから、この層に関連したものは概ね中世に相当するものと考えられている。

福島曲戸遺跡では、Ⅶ層は基本的に2層に分層されている。Ⅶa層は褐配色を呈し、軽石を多く含む層である。その下位のⅦb層は黒褐色を呈し、軽石含有量はⅦa層より多く、より砂質である。なお、Ⅶa層は利根川起源の洪水砂層に被覆されている。

今回の調査ではⅦa層およびⅦb層それぞれの上面に水田が検出されるとともに、水路などの溝群や土坑などを確認している。いずれの遺構にも伴出遺物は少なく所属時期については有効な情報は得られていない。

土坑はA区に6基、B区に8基、C区に8基、D区に1基、E区に15基の計34基が確認された。

溝はB区、C区、E区に確認されている。比較的規模の大きな22号溝および64号溝は水路の可能性がある。C区に認められる東西走行の66号溝や72号溝は畦畔形成に伴う溝であろう。

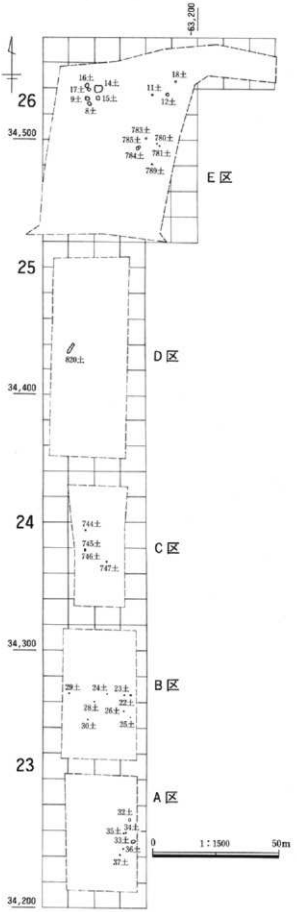
水田はⅦa層上面に中世2水田が、Ⅶb層上面に中世1水田が検出された。水田区画は部分的な確認にとどまるが、D区では中世1および2水田がほぼ同様の区画をもつことが理解された。

以下、遺構ごとに概要を報告する。

b．土坑

32号土坑（第198図、PL17）

23G－6グリッドに位置する。長径129cm、短径95



第197図　中世土坑位置図

cm、深さ10cmを測る。

平面形は大型楕円形を呈する。

33号土坑（第198図、ＰＬ17）

23Ｆ－５グリッドに位置する。長径140cm、短径127cm、深さ55cmを測る。

平面形は大型楕円形を呈する。

34号土坑（第198図、ＰＬ17）

23Ｆ－６グリッドに位置する。長径18cm、短径16cm、深さ４cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

35号土坑（第198図、ＰＬ17）

23Ｆ－６グリッドに位置する。長径29cm、短径27cm、深さ８cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

36号土坑（第198図、ＰＬ17）

23Ｅ－６グリッドに位置する。長径36cm、短径25cm、深さ17cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。

37号土坑（第198図、ＰＬ17）

23Ｅ－６グリッドに位置する。長径21cm、短径18cm、深さ６cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

22号土坑（第198図、ＰＬ34）

23Ｑ－６グリッドに位置する。長径64cm、短径61cm、深さ16cmを測る。平面形は円形を呈する。

23号土坑（第198図、ＰＬ34）

23Ｑ－６グリッドに位置する。長径66cm、短径27cm、深さ16cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

24号土坑（第198図、ＰＬ34）

23Ｑ－７グリッドに位置する。長径66cm、短径27cm、深さ16cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

25号土坑（第198図、ＰＬ34）

23Ｏ－６グリッドに位置する。長径29cm、短径21cm、深さ６cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

26号土坑（第198図、ＰＬ34）

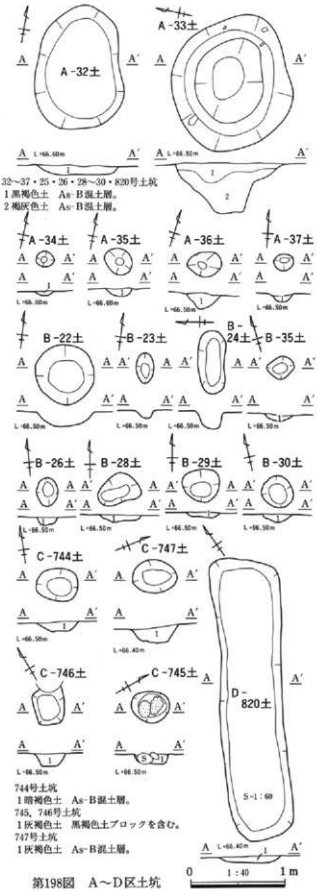
23Ｐ－６グリッドに位置する。長径29cm、短径22cm、深さ９cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

28号土坑（第198図、ＰＬ34）

23Ｐ－９グリッドに位置する。長径46cm、短径31cm、深さ７cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

29号土坑（第198図、ＰＬ34）

23Ｑ－11グリッドに位置する。長径39cm、短径34cm、



第198図　Ａ～Ｄ区土坑

深さ6cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

30号土坑（第198図、ＰＬ34）

23Ｏ－９グリッドに位置する。長径34cm、短径33cm、深さ8cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

744号土坑（第198図、ＰＬ37）

24Ｊ－９グリッドに位置する。長径45cm、短径35cm、深さ12cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

745号土坑（第198図、ＰＬ37）

24Ｈ－９グリッドに位置する。長径41cm、短径34cm、深さ10cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

746号土坑（第198図、ＰＬ37）

24Ｈ－９グリッドに位置する。長径(40cm)、短径33cm、深さ14cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

747号土坑（第198図、ＰＬ38）

24Ｇ－８グリッドに位置する。長径48cm、短径36cm、深さ20cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

820号土坑（第198図）

23Ｄ－10グリッドに位置する。長径443cm、短径93cm、深さ11cmを測る。平面形は大型楕円形を呈する。

8号土坑（第199図、ＰＬ38）

26Ｃ－９グリッドに位置する。長径153cm、短径115cm、深さ22cmを測る。

平面形は大型隅丸方形を呈する。

9号土坑（第199図、ＰＬ38）

26Ｄ－９グリッドに位置する。長径177cm、短径155cm、深さ26cmを測る。

平面形は大型不整形で、石製品（滑石）が出土している。

11号土坑（第199図、ＰＬ38）

26Ｄ－４グリッドに位置する。長径71cm、短径67cm、深さ10cmを測る。平面形は円形を呈する。

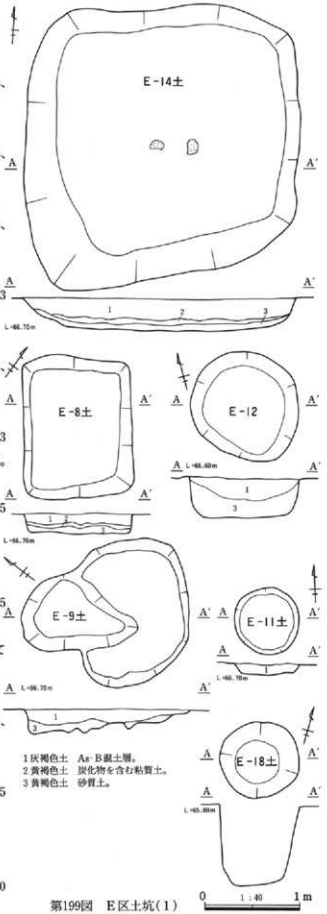
12号土坑（第199図、ＰＬ38）

26Ｄ－３グリッドに位置する。長径124cm、短径115cm、深さ41cmを測る。

平面形は大型楕円形を呈する。

14号土坑（第199図、ＰＬ39）

26Ｄ－８グリッドに位置する。長径295cm、短径290cm、深さ35cmを測る。



第199図　Ｅ区土坑(１)

平面形は大型隅丸方形を呈する。

18号土坑（第199図、ＰＬ39）

26Ｅ－２グリッドに位置する。長径84cm、短径81cm、深さ83cmを測る。平面形は円形を呈する。

15号土坑（第200図、ＰＬ39）

26Ｄ－８グリッドに位置する。長径160cm、短径125cm、深さ28cmを測る。

平面形は大型楕円形を呈する。

16号土坑（第200図、ＰＬ39）

26Ｅ－９グリッドに位置する。長径198cm、短径148cm、深さ19cmを測る。

平面形は大型楕円形を呈する。

17号土坑（第200図、ＰＬ39）

26Ｄ－９グリッドに位置する。長径130cm、短径112cm、深さ21cmを測る。

平面形は大型楕円形を呈する。

780号土坑（第200図）

25Ｔ－４グリッドに位置する。長径44cm、短径40cm、深さ15cmを測る。平面形は円形を呈する。

781号土坑（第200図）

25Ｔ－３グリッドに位置する。長径46cm、短径45cm、深さ11cmを測る。平面形は円形を呈する。

783号土坑（第200図、ＰＬ39）

25Ｔ－４グリッドに位置する。長径67cm、短径62cm、深さ46cmを測る。平面形は円形を呈する。

784号土坑（第200図、ＰＬ39）

25Ｔ－５グリッドに位置する。長径135cm、短径(119cm)、深さ32cmを測る。

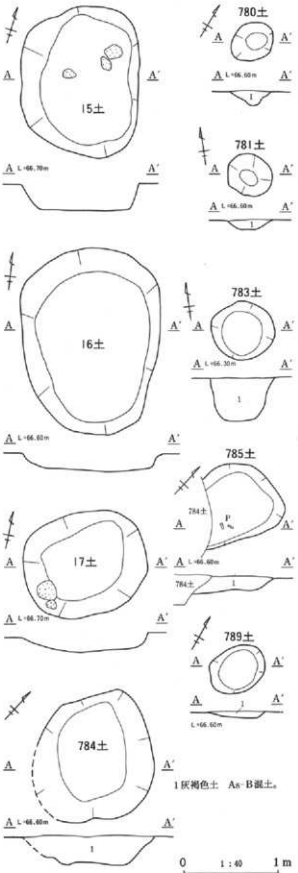
平面形は大型楕円形を呈する。

785号土坑（第200図、ＰＬ39）

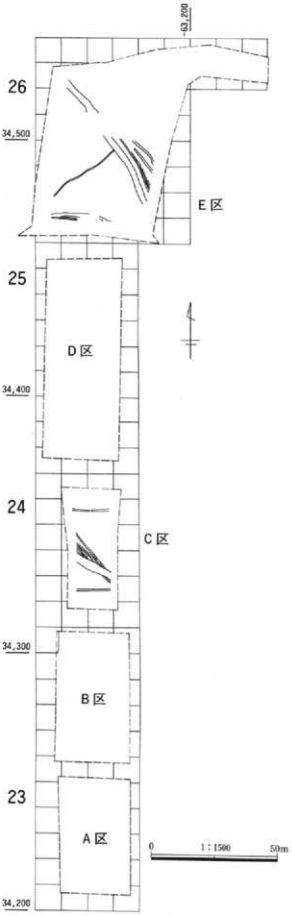
25Ｔ－５グリッドに位置する。長径(71cm)、短径80cm、深さ16cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

789号土坑（第200図、ＰＬ40）

25Ｒ－４グリッドに位置する。長径59cm、短径50cm、深さ５cmを測る。平面形は楕円形を呈する。



第200図　Ｅ区土坑(２)



第201図　中世溝位置図

c．溝

B区、C区、E区から検出された。これらの溝は、As－B混土で埋没しているか、または、基本土層Ⅶb層から掘削されていることが分かっている溝である。しかも、遺物には近世のものが皆無であることから、中世の溝に分類し掲載した。

溝の性格としては、掘削痕の残るものが多く、中世の水田耕作に伴うものであると考える。水路として考えられるのは22号溝である。

C区

64号溝（第203・205図、ＰＬ44）

24G－7グリッドで検出した。全長15.1mを確認、両端は調査区外に至る。西北西から東南東へ直線的に緩やかに傾斜しながら走向する。幅452cm、深さ124cm、断面形状丸底である。掘り込み面は、近世1の水田耕土下の層、基本土層Ⅵbから確認できる。Ⅵ層群は、中世の水田1・2を被覆する洪水層である。64号溝は、この洪水層堆積後掘削されたと考えられる。溝はその後継続して使用され、最終的に近世1の水田を被覆する洪水の時に埋没している。遺物は、層中には皆無である。最下部の12層中から遺物が検出されている。

66号溝（第203・205図、ＰＬ47）

24E－7グリッドで検出した。全長13.6m、幅38cm、深さ8cm、断面形状逆台形である。南北に国家座標に沿って直線的に走向。傾斜は無い。

69号溝（第203・205図、ＰＬ48）

24F－7グリッドで検出した。全長18.8m、幅62cm、深さ12cm、断面形状丸底である。北西から南東に幅が拡縮しながら走向する。70・71号溝に平行している。傾斜は無い。As－B軽石を多く混入する土で埋没する。畦畔形成時の掘削痕と考える。中世1水田と同時期である。

70号溝（第203・205図、ＰＬ48）

24H－8グリッドで検出した。全長12.2m、幅62cm、深さ10cm、断面不定形である。北西から南東に傾斜しながら走向する。高低差2cmである。69・71号溝に平行する。溝幅は拡縮する。As－B軽石を多

く混入する土で埋没する。畦畔形成時の掘削痕と考える。中世１水田と同時期である。

71号溝（第203・205図、ＰＬ48）

24Ｇ－７グリッドで検出した。全長13.8m、幅53cm、深さ10cm、断面形状不定形である。北西から南東へ走向し、溝幅は拡縮する。69・70号溝に平行する。傾斜なし。As－Ｂ混土で埋没する。畦畔形成時の掘削痕と考える。中世1水田と同時期である。

72号溝（第203・205図、ＰＬ47）

24Ｌ－７グリッドで検出した。全長19.8m、幅46cm、深さ９cm、断面形状逆台形である。東西方向、国家座標に沿って走向し、傾斜は無い。中央部で土橋状に途切れる。As－Ｂ軽石を多く混入する土で埋没する。畦畔形成時の掘削痕と考える。中世１水田と同時期である。

73号溝（第203・205図、ＰＬ48）

24Ｇ－７グリッドで検出した。全長18.2m、幅24cm、深さ６cm、断面形状逆台形である。北北西から南南東に高低差６cmで傾斜し、走向する。As－Ｂ軽石を多く混入する土で埋没する。畦畔形成時の掘削痕と考える。中世１水田と同時期である。

Ｅ区

22号溝（第204・206図、ＰＬ45）

25Ｐ－４グリッドで検出した。全長56.8m、幅240cm、深さ117cm、断面形状は薬研状になる。北東方向にやや湾曲しながら、北西から南東方向に高低差12cmで傾斜し、走向する。埋没土は、１層から10層までAs－Ｂ混土塊、灰黄褐色シルト質塊を多量に混入する。人為的に埋められた可能性がある。

時期は、基本土層Ⅶｂ層から掘り込まれている。人為的に埋められ、上部はⅦａ層により覆われている。中世１水田の時に掘削され、中世２水田の時には埋没して、水田化されている。

99号溝（第204・206図）

25Ｎ－７グリッドで検出した。全長6.7m、幅38cm、深さ12cm、断面形状不定形である。東西に走向し、西端が南に曲がる。傾斜は無い。中世２の水田を被覆する洪水層（灰白色シルト質土）で埋没する。

100号溝（第204・206図）

25Ｎ－７グリッドで検出する。全長23.2m、幅126cm、深さ８cm、断面形状不定形である。東西に走向し、傾斜はない。灰白色粘質土、As－Ｂ混土で埋没し、中世２水田を被覆する洪水層堆積後に掘削された溝である。

102号溝（第204・206図）

25Ｎ－９グリッドで検出する。全長10m、幅38cm、深さ16cm、断面形状逆台形である。東西方向に走向し、傾斜は無い。中世２水田を被覆する洪水層（灰白色シルト質土）で埋没する。

103号溝（第204・206図）

25Ｎ－10グリッドで検出する。全長８m、幅36cm、深さ14cm、断面形状不定形である。東西方向に走向し、傾斜は無い。中世２水田を被覆する洪水層（灰白色シルト質土）で埋没する。102号溝と同一の溝の可能性あり。

107号溝（第204・206図、ＰＬ49）

25Ｑ－４グリッドで検出する。全長23.3m、幅41cm、深さ13cm、断面形状逆台形である。北東方向にやや湾曲しながら北西から南東方向に、22号溝に平行して走行する。北西から南東へ高低差1.1cmで傾斜している。As－Ｂ軽石を少量含む褐色土で埋没する。中世２水田を覆う洪水砂を掘り込んでいる。

109号溝（第204・206図）

25Ｓ－３グリッドで検出する。全長11.8m、幅50cm、深さ11cm、断面形状不定形である。北東方向にやや湾曲しながら北西から南東方向に、22号溝に平行して走行する。北西から南東に高低差11cmで傾斜している。As－Ｂ軽石含む暗灰色土で埋没する。中世２水田を覆う洪水砂を掘り込んでいる。

113号溝（第204・206図）

25Ｒ－４グリッドで検出する。全長11.6m、幅52cm、深さ14cm、断面形状逆台形である。北西から南東に直線的に走向する。傾斜は無い。As－Ｂ軽石含む灰色砂質土で埋没する。中世２水田を覆う洪水砂を掘り込んでいる。

114号溝（第204・206図）

25Q－4グリッドで検出する。全長16.6m、幅56cm、深さ29cm、断面形状逆台形である。北東方向にやや蛇曲しながら北西から南東方向に走向。北西から南東に高低差3.5cmで傾斜する。埋没土は、灰白色シルト質土にAs－B軽石混暗褐色度ブロック混入する。暗褐色土の下に灰白色土があり、上下層が逆になっている。中世2水田を覆う洪水砂を掘り込んでいる。

124号溝（第204・206図）

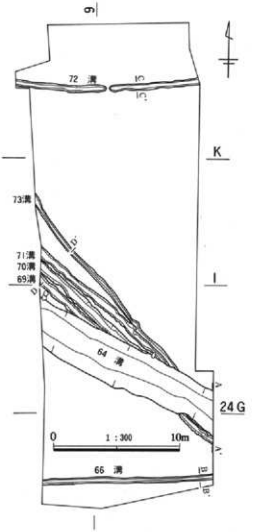
25P－11グリッドで検出する。全長29.5m、幅22cm、深さ10cm、断面形状逆台形である。南西から北東へ走向する。南西から北東へ高低差2cmで緩やかに傾斜する。As－B軽石を多く混入する土で埋没する。中世1水田と同期の形成と考えられる。

B区

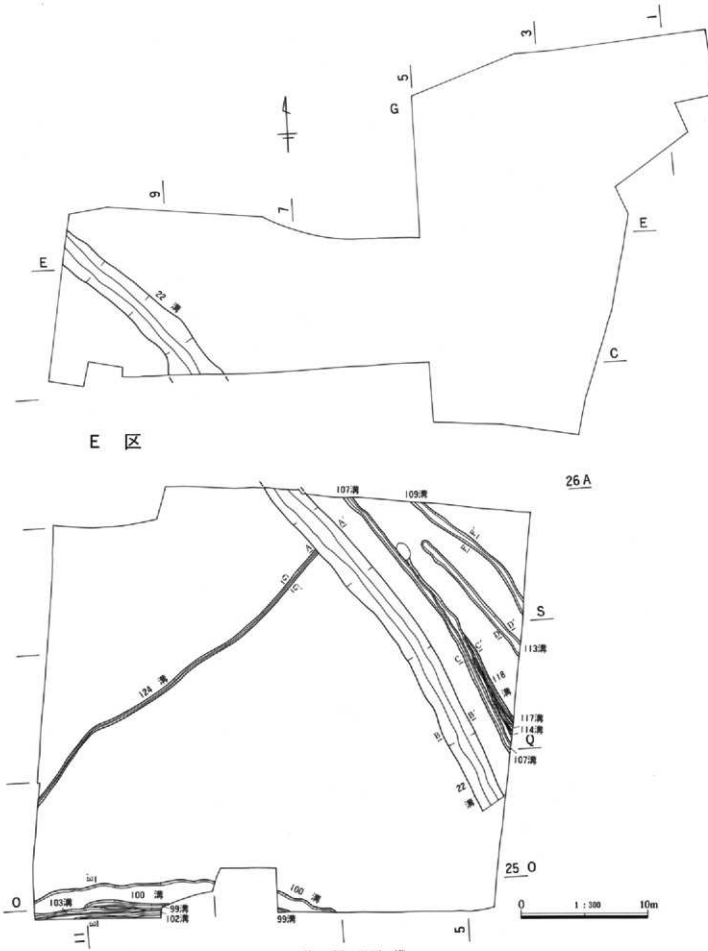
37号溝（第202図、PL46）

24A－11グリッドで検出する。全長8.17m、幅32cm、深さ29cm、断面形状逆台形である。南北方向に国家座標に近似し走向する。傾斜は無い。溝の底部には、耕作痕検出され、埋没土は、非常に多量のAs－B軽石とAs－B下水田耕土塊である。よってB降下直後の耕作によって形成されたと考える。

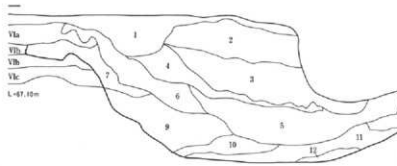
第202図　B区37号溝



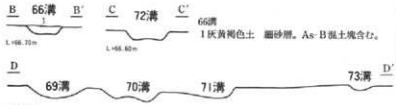
第203図　C区　溝


E 区
26 A
107溝
109溝
113溝
116溝
117溝
114溝
107溝
125溝
22溝
103溝
100溝
99溝
102溝
99溝
100溝
25 O
1 : 300
0
10m

第204図　E区　溝



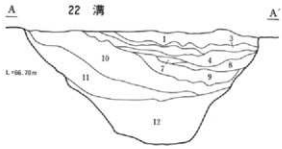
1によい黄橙色砂質土　ラミナ状堆積。
2によい黄褐色砂質土　ラミナ状堆積。
3によい褐色砂質土　ラミナ状堆積。鉄分沈着。
4によい黄褐色土　細砂層。
5によい黄褐色土　細砂層。ラミナ状堆積。
6によい黄褐色土　細砂層。やや締まる。
7によい黄橙色土　細砂層。
8によい黄褐色土　黒褐色土粒含む。
9によい黄褐色土　黒褐色砂層含む。ラミナ状堆積。
10灰黄褐色土　黒褐色砂含む。砂層。
11灰黄褐色土　細砂層。締まりあり。
12黒褐色土　砂礫層。土器片多量に含む。

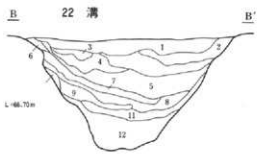


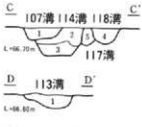
66溝
1灰黄褐色土　細砂層。As-B混土塊含む。

第205図　C区溝土層断面

第203図　参照







107・114・117・118溝
1褐色砂質土　As-B少量含む。締まる。
2暗褐色土　As-B含む。明褐色土粒含む。
3によい黄褐色シルト質土　暗褐色砂質土粒少量含む。
4暗褐色土　As-B塊含む。
5暗褐色土　によい黄褐色土粒少量含む。

113溝
1灰色砂質土　暗オリーブ色土塊含む。

99・100・102・103溝
1灰白色土　砂層。灰白色粘質土粒含む。
2灰白色粘質土　As-B含む。
3灰白色土　砂層。明黄褐色砂塊含む。
4灰白色土　砂層。ラミナ状堆積。

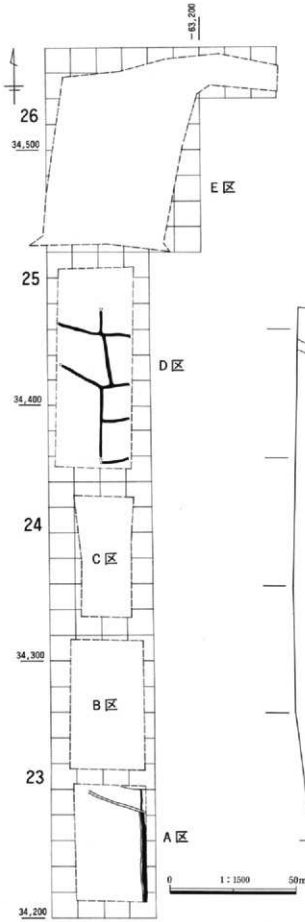
109溝
1灰色砂質土　黒色粒子含む。
2暗灰色砂質土　白色粒子多量に含む。

22溝
1灰黄褐色土　As-B・黄褐色土粒少量含む。締まる。
2灰黄褐色土　As-B含む。締まる。
3黒褐色砂質土　As-B多量に含む。締まる。
4によい黄褐色土　同色シルト質土塊多量に含む。締まる。
5によい黄褐色土
同色シルト質土塊多量に、黒褐色砂質土塊少量含む。
締まる。
6黒褐色土　As-B軽石多量に含む。
7黄褐色土　同色シルト質土塊多量に含む。締まる。
8黄褐色土
同色シルト質土塊多量に、黒褐色砂質土塊少量含む。
締まる。
9黄褐色土　灰白色シルト質土塊多量に含む。締まる。
10黄褐色土
灰白色シルト質土塊・灰色砂多量に含む。締まる。
11灰色土　鉄分の沈着あり、かたく締まる。
12灰色土　砂層。ラミナ状堆積。

0　1:40　1m

第206図　E区溝土層断面

第204図　参照

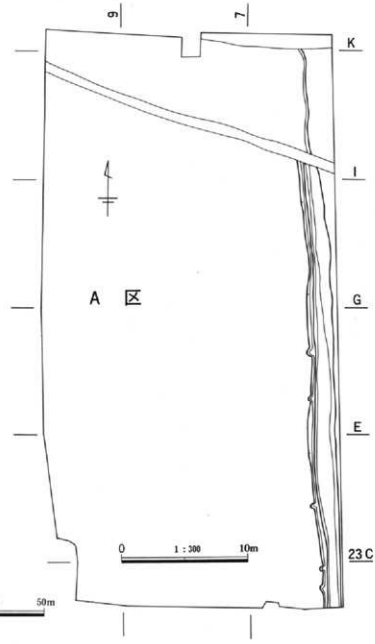


第207図　中世１水田位置図

d．水田

被覆層は、白灰または灰黄褐色のシルト質土である。所々砂層を堆積し、洪水層と考えられる。層厚は、現利根川に近いほど厚く、E区で約１m、A区で約50cm堆積している。また、鉱物の沈着も特徴である。この被覆層中からの近世遺物の出土は無い。また、遺構面からも近世の遺物は出土していないため、中世の遺構と判断した。

この被覆層以降、１m弱の洪水層が３層確認され



第208図　A区　水田

ている。大規模な洪水と考えられ利根川変流後の洪水と考えられる。従ってこの被覆層は、利根川の変流に起因するものと考えたい。しかし、時期を示す出土遺物は無く、時期決定することはできない。

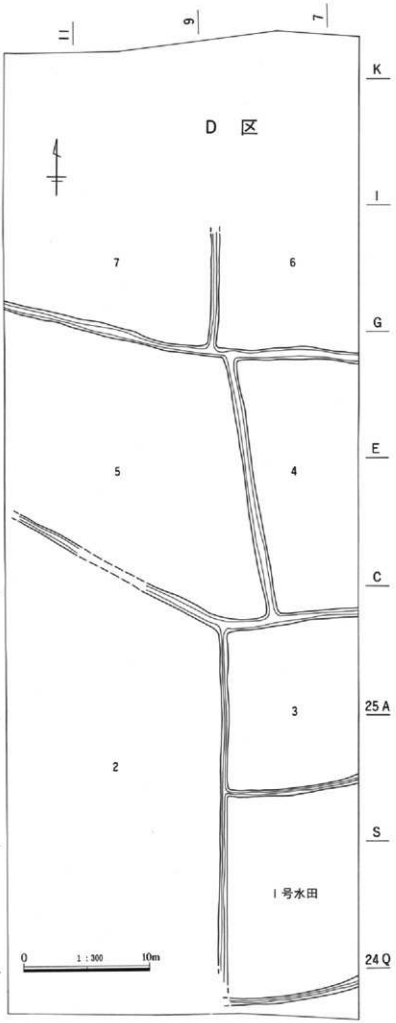
遺構は、2時期検出された。第1面は耕土が暗褐色のAs－Bを多く混入する層で構成し、第2面は耕土がAs－Bを比較的少なく混入する層で構成する。ここでは便宜的に前者を中世1、後者を中世2とする。中世1は上層の中世2の耕作、またはその他の遺構により攪乱され、水田の基部が残存した結果と考えられる。中世2の「擬似畦畔」とも考えられるが、D区においてこの2面が検出され、その畦畔がずれていることから、区画は踏襲しているものの、ある程度時間差のある水田遺構を反映していると考えられる。

中世1水田

中世1の水田は、A・D区において畦畔が検出された。

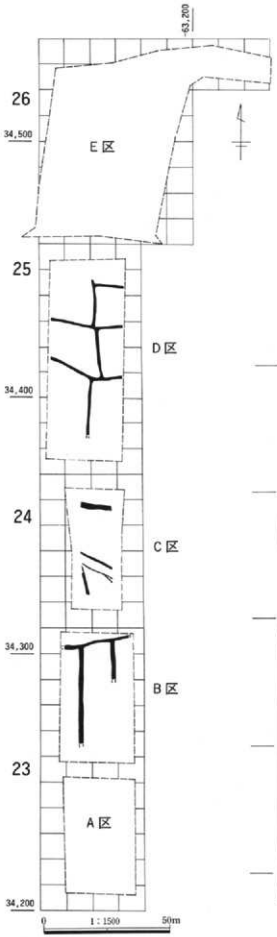
A区（第208図）

A区は、遺構の残存が悪く東部に南北畦畔が検出されたのみである。攪乱のため区画の規模や水田面の傾斜は判明しない。畦畔際の溝は、畦畔際の落ち込みと判断した。

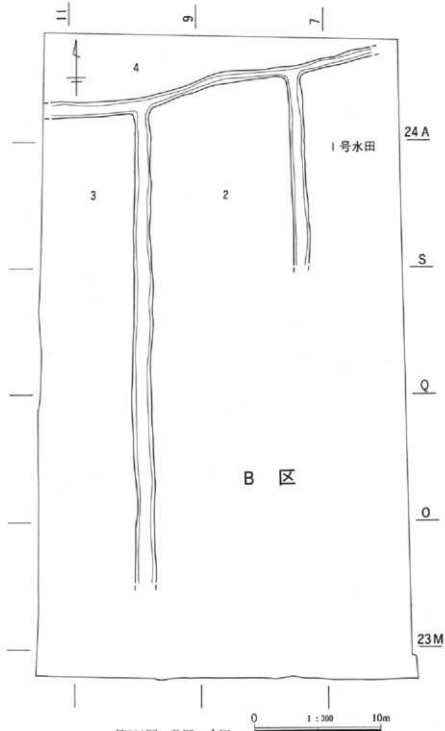


第209図　D区　水田

畦畔は、下幅約90cm、高さ約7cmあり北部では片側の段差のみの検出にとどまっている。走向は国家座標に近似している。畦畔の位置、走向ともに、As－B下水田に近似している。



第210図　中世2水田位置図

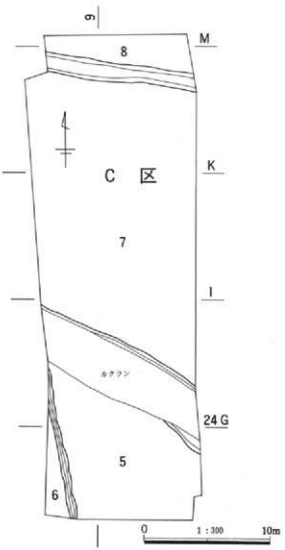


第211図　B区　水田

D区（第209図、ＰＬ53）

Ｄ区では、７枚の水田区画が検出された。しかし、水田区画の全容が分かるものはない。いずれも区画東西の幅が調査区外になり、南北の幅のみが確認できる。南北幅は、１号水田が15.5m、３号が12.7m、４号が19.8m、５号が15.5mである。

畦畔は、南北畦畔は国家座標に近似し走向している。東西畦畔は、東部は国家座標に近似するが、西にいくほど北にずれている。畦畔下幅は均一で平均約90cm、高さは約１cm確認された。なお、上層の中世２の水田により攪乱され畦畔上部、水田面の傾斜は確認できない。



第212図　Ｃ区　水田

中世２水田

中世２の水田は、Ｂ・Ｃ・Ｄ区において畦畔が検出された。

Ｂ区（第211図、ＰＬ54）

Ｂ区では、４枚の水田区画が検出された。区画の全容の分かるものはない。ただ区画の形態は、１・２・３号水田は南北に長い長方形ではないかと推定する。区画規模の東西幅は２号水田では約11.2mとなっている。南北幅は判明していないが、As－Ｂ下水田の区画に近似していると考えられる。

畦畔は、国家座標に近似し走向する。下幅は平均1.1m、高さは約２cmである。

Ｃ区（第212図、ＰＬ54）

Ｃ区では、４枚の水田区画が検出された。中央部に大きく攪乱が入り、いずれも区画の全容は判明していない。

畦畔は、南北畦畔が国家座標に近似し走向するが、やや北西に傾いている。東西畦畔は、国家座標に近似し走向し、As－Ｂ水田の畦畔を踏襲していると考えられる。検出された畦畔の規模は、南北畦畔が下幅約70cm、高さ３cm、東西畦畔は下幅1.5m、高さ約３cmである。東西畦畔は、検出された中世２の水田畦畔の中では比較的大きいものである。

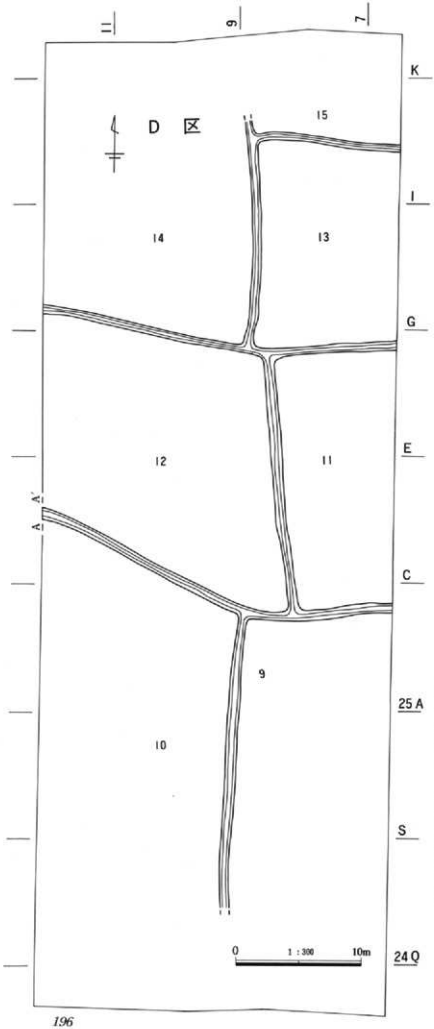
水田面の傾斜は北から南に緩やかに傾斜し、中央部の攪乱を境に８cmの高低差がある。

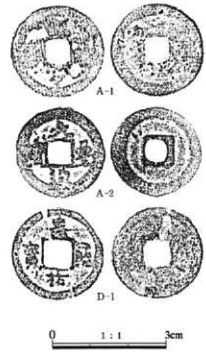
Ｄ区（第213図、ＰＬ54）

Ｄ区では、７枚の水田区画が検出された。しかし、水田区画の全容が分かるものはない。いずれも区画東西の幅が調査区外になり、南北の幅のみが確認できる。南北幅は、11号水田が20m、12号水田が17.5m、13号水田が15.3mである。中世１の水田区画を踏襲していると考えられる。

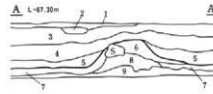
畦畔は、南北畦畔、東西畦畔ともに国家座標に近似して走向する。畦畔規模は、下幅が平均約70cm、高さ約10cmである。

水田面は、南から北に緩やかに傾斜している。





第214図　A・Dグリッド出土遺物



1 にぶい橙色シルト質土　白色軽石僅かに含む。
2 にぶい黄褐色シルト質土
3 にぶい黄橙色シルト質土
4 明黄褐色土
5 灰黄褐色土　白色軽石僅かに含む。
6 灰黄褐色土　As-B軽石含む。鉄分沈着。
7 灰黄褐色土　As-B軽石含む。
8 黒褐色土　As-B軽石多く含む。鉄分沈着。
9 黒褐色土　As-B軽石多く含む。

0　1 : 40　1 m

第213図　D区　水田

5．近世以降の遺構と遺物

a．遺構の検出状況

災害復旧遺構が2時期、水田が2時期、それらに伴う土坑、溝、石組み遺構が検出された。出土遺物は、極端に少なく銭貨、キセル、近世の洪水によって運ばれたと思われる時期の異なる遺物が出土している。

b．災害復旧遺構

当遺跡では、「天地返し」をすることにより土質の改良をねらった痕跡が、溝の連続したものとなって検出されている。最も新しいものは、昭和22（1947）年のカスリン台風によるものである。それらは、洪水砂に埋もれた耕地を復旧した溝群として確認された。同様な溝群は、近世面においても確認された。

近世の復旧溝群は2時期確認され、ひとつはAs－A降下以前の洪水砂が充填されたもの、もうひとつはAs－A軽石または拳大の礫を含む黒褐色土である泥流が充填されたものである。ここでは便宜上、前者を近世1、後者を近世2とする。

近世1は、基本土層第Ⅴb層上面で検出された。しかし、殆どのものが、後世の復旧溝群に攪乱されており、Ⅴb層中で検出された。溝には洪水砂が充填され、溝上には、粘性の強いシルト質土のⅤc層塊を混入するⅤa層が堆積する。Ⅴa層は、洪水復旧後の耕土と考えられる。

近世2は、基本土層第Ⅲ層下で検出された。しかし、その殆どが上部をカスリン台風後の復旧溝群により攪乱され第Ⅲa層中または第Ⅲa層中より検出された。溝には天明3（1783）年の浅間山の噴火による降下軽石As－A、または拳大の礫を含む黒褐色土である泥流が充填され、上部にAs－A混土である第Ⅲ層が堆積する。第Ⅲ層はAs－A軽石復旧後に形成された耕作土と考えられる。

復旧溝群は、方形のまとまりを持って検出された。そのまとまりは、0.6m～1.6mの空白部分により区画されている。これらは、土地の区画を表していると考える。この土地の区画は、昭和22（1947）年のカスリン台風時、天明3（1783）年の浅間山の噴火時、近世1復旧時の3時期とも同じところに重なっている。18世紀から土地の区画は変わらず、しかも復旧するときには必ず土地の区画を意識して復旧したと考えられる。どんなに洪水層が厚く堆積しても土地の区画を復元できる基準が存在していたものと考えられる。

また、この土地の区画は、近世1水田と近世1復旧溝群の間で異なっている。

江戸期の諸記録によると群馬県地域には100回以上の大洪水があったとされる。その中でも寛保二（1742）年八月一日の大洪水が最大の被害を与えたと記録されている。江戸時代の文献資料である「村明細長」によれば、福島村では「当村の土地は現在砂地に変わってしまったが、これは寛保二年の大洪水によって、耕土が流されその上に川砂が残されたもので、当村はそれ以降農耕に大きな損害を被っている」と記載がされている。

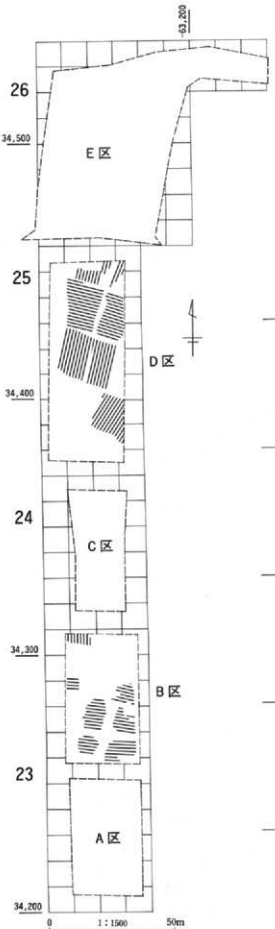
当遺跡での前述のような土地区画の変化は、江戸期100回以上を超える洪水のいずれかにより耕地が荒らされ、従来どおりの土地利用ができなくなり、その利用方法の違いが土地区画の変化につながったのではと推定する。

溝の走向方向は、殆どが短軸方向に溝を掘削し、溝の幅は、残存良好なもので40cmから50cmである。ともに時期差は認められない。

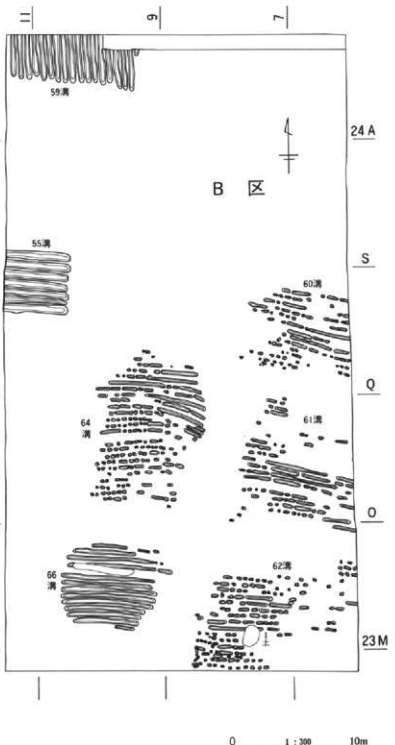
しかし、復旧目的に違いがある可能性がある。

近世1では、溝の埋土と溝を掘削した「地山」とは非常に似通った土質である。また、その土層を観察すると、地山土層の層位が逆転して溝内に埋没しているのがわかる。よって、近世1復旧溝は洪水層下の耕土を取るのが目的であると考えられる。

近世2では、天明3（1783）年の浅間山の噴火による降下軽石As－A、または拳大の礫を含む黒褐色土である泥流が復旧溝内以外では検出されていない。災害による「悪土」は、すべて溝内に収められたと考えられる。よって近世2復旧溝は、軽石や泥流による耕作に適さない土をすべて溝内に充填し、耕作面を表出させるのが目的であると考える。



第215図　近世1復旧溝位置図



第216図　B区復旧溝

①近世１復旧溝群

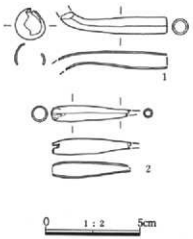
近世１の復旧溝群はＢ・Ｄ区において検出された。

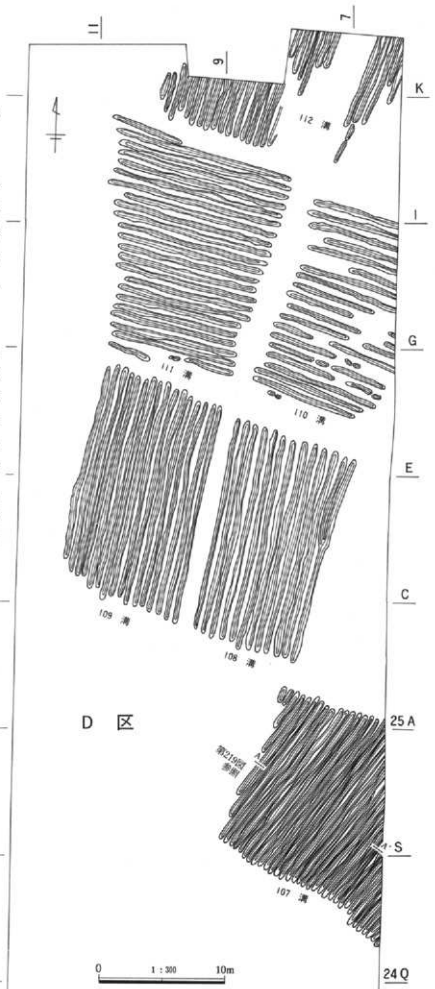
Ｂ区（第216図）

Ｂ区では、溝群が７区画検出された。殆どの溝群の検出が断片的であり、遺構の残存状況は悪い。唯一区画全体の面積を推定できるものが64号遺構で、長軸12.0m、短軸8.5m、面積74.9㎡（22.7歩）である。

Ｄ区（第217図、ＰＬ56・103）

Ｄ区では、溝群が６区画検出された。その内区画の全容がわかるものは３区画である。108号遺構は、長軸17.3m、短軸10.0m、面積151.3㎡（45.8歩）、溝幅47cmである。109号遺構は、長軸17.5m、短軸9.7m、面積170.4㎡(51.6歩)、溝幅37cmである。111号遺構は、長軸16.4m、短軸14.3m、面積204.4㎡（61.9歩）、溝幅40cmである。





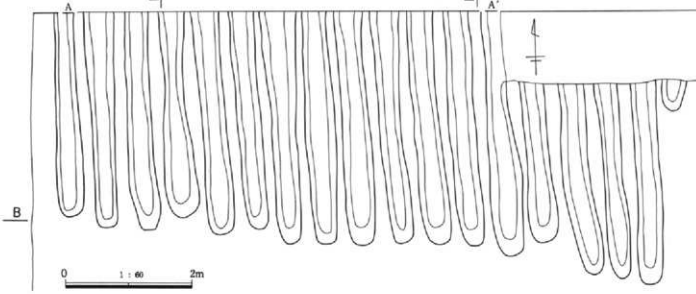
第217図　Ｄ区復旧溝と出土遺物

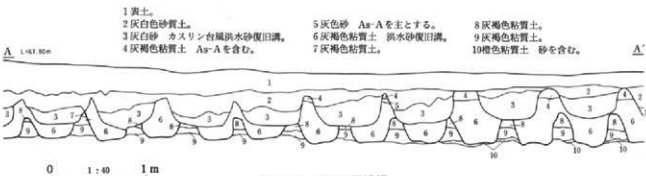
59号遺構（第218図）

B区24A－9グリッドにおいて検出する。検出範囲は部分的である。長軸10.0m、短軸4m、面積33.9㎡（10.2歩）である。溝は南北方向に掘削されている。溝幅40cm、深さ10.3cmである。溝と溝の間隔は、18cmである。溝の上部及び復旧後の耕作面はカスリン台風の復旧溝群により撹乱されている。溝の掘削は、洪水前の耕作土まで掘り込むことを目的として掘られたと考えられる。実際には、近世Ⅰ水田耕作土相当の基本土層第Ⅵa層上部まで掘削している。耕作土すべてを掘削するには至っていないと見られる。しかし、B区では耕作面を掘削され近世1水田は畦畔が一部分検出されるに留まっている。

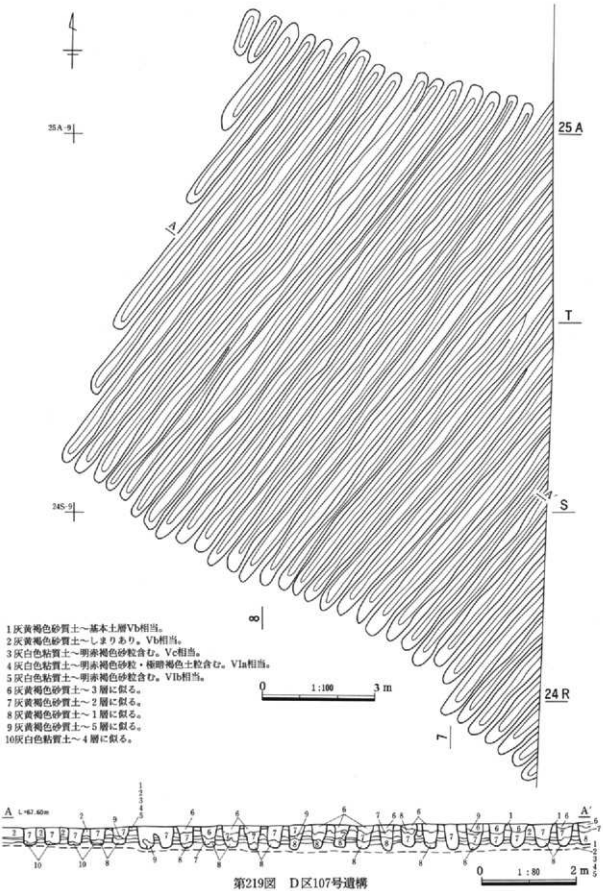
107号遺構（第219図、PL56）

D区24Q－6グリッドにおいて検出する。検出範囲は部分的で土地区画の全容は判明していない。長軸15.0m、短軸15.0m、面積163（49.3歩）㎡である。溝は南西から北東方向に掘削されている。溝幅45cm、深さ44.9cmである。溝と溝の間隔は、20cmである。溝の上部には復旧後の耕作土が堆積するが、耕作面は撹乱され残存していない。溝群は、耕作土下で検出されている。溝の掘削は近世1水田耕土まで掘削することを目的としたと考えられる。実際に近世1水田耕作土下まで掘削しっかり掘削されている。しかし、D区の他の復旧溝は、ここまでしっかり掘り込んではおらず、下の近世1水田面は残存状況がB区よりも良い。



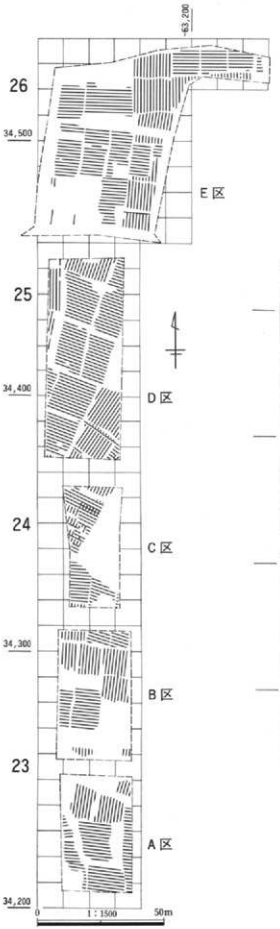


第218図　B区59号遺構

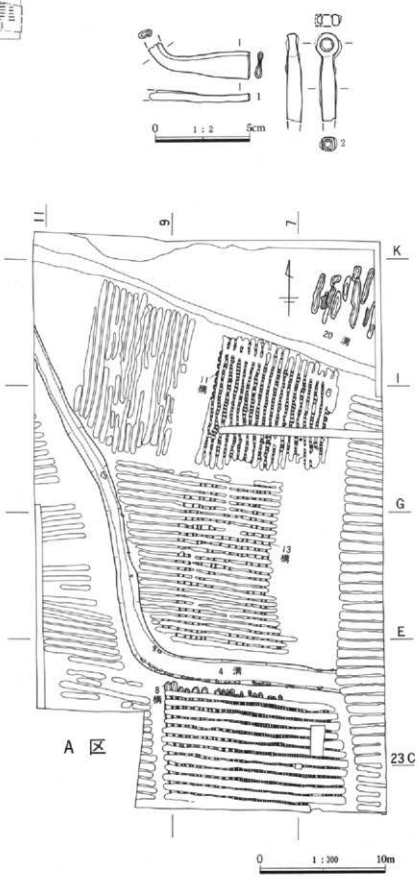


1 灰黄褐色砂質土～基本土層Vb相当。
2 灰黄褐色砂質土～しまりあり。Vb相当。
3 灰白色粘質土～明赤褐色砂粒含む。Vc相当。
4 灰白色粘質土～明赤褐色砂粒・極暗褐色土粒含む。VIa相当。
5 灰白色粘質土～明赤褐色砂粒含む。VIb相当。
6 灰黄褐色砂質土～3層に似る。
7 灰黄褐色砂質土～2層に似る。
8 灰黄褐色砂質土～1層に似る。
9 灰黄褐色砂質土～5層に似る。
10 灰白色粘質土～4層に似る。

第219図　D区107号遺構



第220図　近世２復旧溝位置図



第221図　A区復旧溝と４号溝及び出土遺物

②近世２復旧溝群

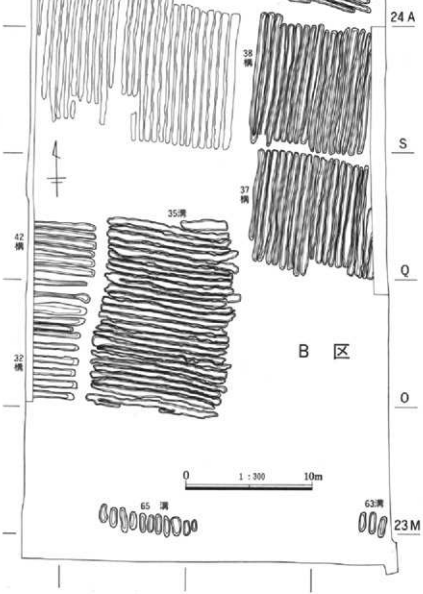
近世２の復旧溝群はＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ区全調査区において検出された。

Ａ区（第221図、ＰＬ57）

Ａ区では、溝群が４区画検出された。いずれも後世の災害復旧によって大きく攪乱され、残存状況は悪い。11号遺構のみは、面積を推定できる程度に残存している。それは、長軸9.3m、短軸9.3m、面積76.1㎡（23歩）である。溝の幅は30cmで西北西から東南東に走向している。

Ｂ区（第222図、ＰＬ57）

Ｂ区では、溝群が８区画確認された。Ｂ区も後世の攪乱が大きく入り、残存状況は悪い。その内、35号遺構は残存状況がよく、区画範囲の長軸は15.6m、短軸10.5m、面積155.8㎡（47.1歩）である。溝の幅47cmで長軸方向の東西方向に走向している。



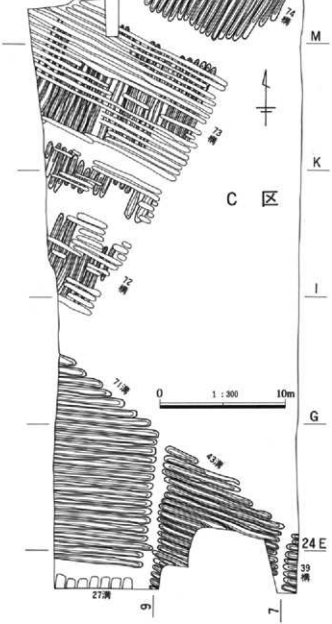
第222図　Ｂ区復旧溝

C区（第223図、P L57）

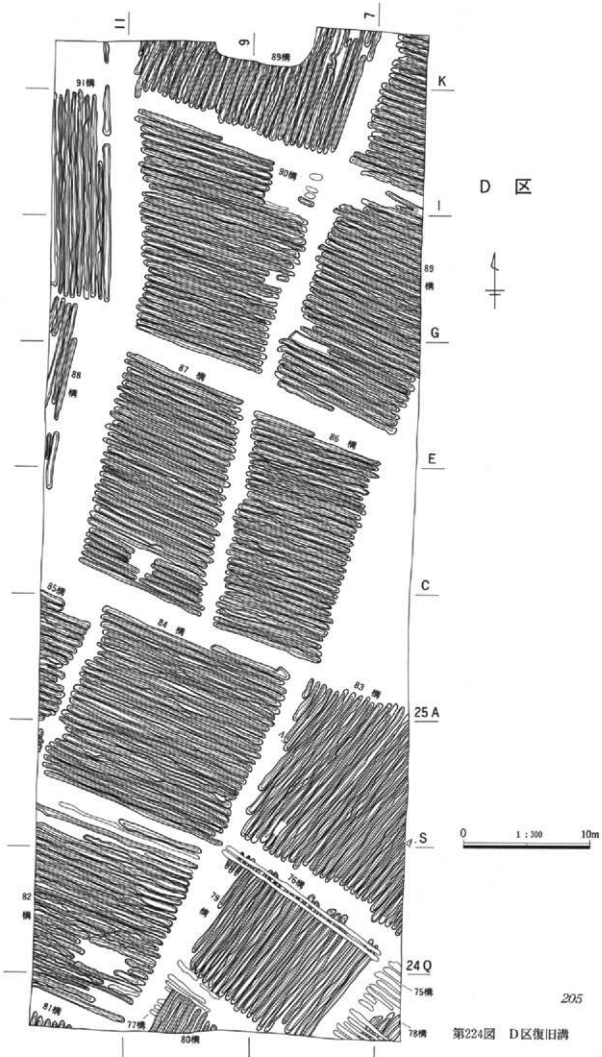
C区では、溝群が6区画確認された。後世の攪乱が大きく入り、残存状況は悪い。いずれも区画の全容を明らかにする遺構は検出されていない。

D区（第224図、P L58）

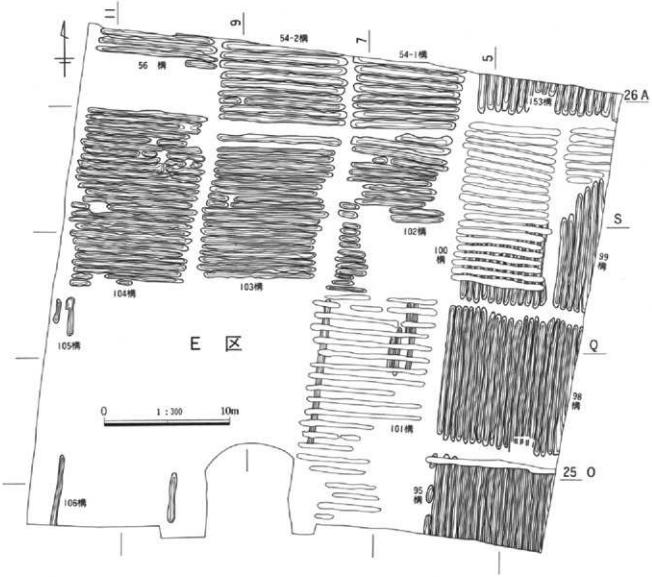
D区では、溝群が16区画検出された。その内区画の全容がわかるものは4区画である。84号遺構は、区画範囲の長軸15.8m、短軸14.6m、面積219.5㎡（66.4歩）である。溝は幅47cmで、長軸方向の西北西から東南東に走向している。86号遺構は、長軸17.1m、短軸10.7m、面積158.0㎡（47.8歩）である。溝は幅40cmで、短軸方向の西北西から東南東に走向している。87号遺構は、長軸16.7m、短軸10.6m、面積168.2㎡である。溝は幅39cmで短軸方向の西北西から東南東に走向している。90号遺構は、長軸16.4m、短軸13.3m、面積197.9㎡（58.8歩）である。溝は幅42cmで短軸方向である西北西から東南東に走向している。形状は台形である。



第223図　C区復旧溝


D 区
K
I
G
E
C
25 A
S
24 Q
91構
90構
89構
88構
87構
86構
85構
84構
83構
82構
81構
80構
79構
78構
77構
76構
75構
0
1 : 300
10m

第224図　D区復旧溝



第225図　E区復旧溝（1）

E区（第225・226図、PL.58・59・103）

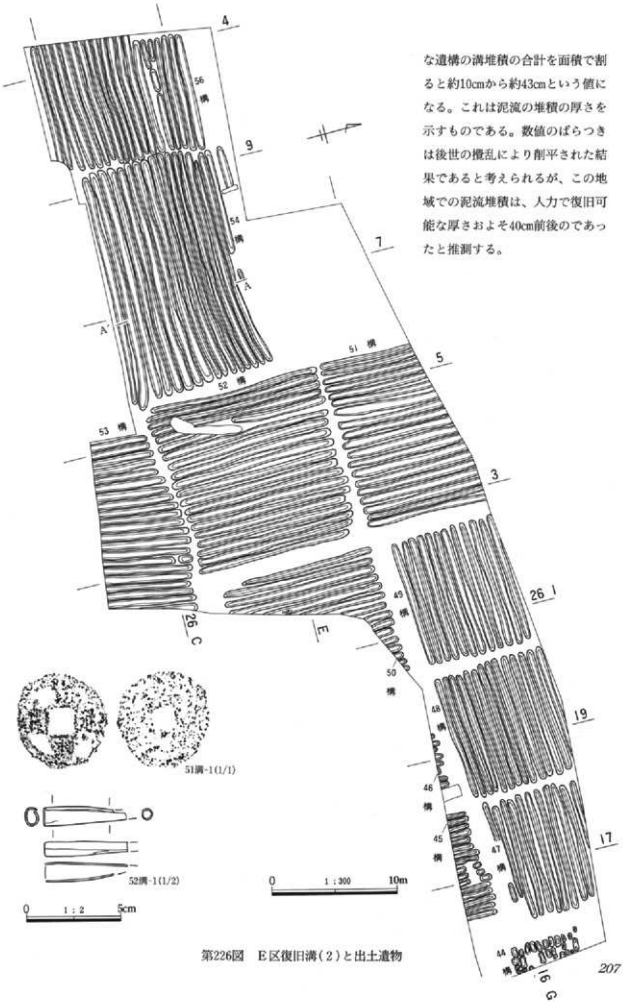
E区では、溝群が23区画検出された。そのうち54号遺構はE区－1・2に渡って検出されている。溝の区画がE区－2において2つに分かれてしまう。隣接する53・56号遺構と区画の範囲を比較しても同様の大きさとなり、54号遺構を1つの区画もありうるとし、1区画として報告している。

区画の全容がわかるものは5区画である。52号遺構は、長軸13.5m、短軸13.5m、面積177.2m²（53.6歩）である。溝の幅は47cmで南北方向に走向している。53号遺構は、長軸14.4m、短軸11.8m、面積171m²である。溝の幅は52cmで長軸方向の南北方向に走向している。56号遺構は、長軸18.1m、短軸10.3m、面積169.6m²（51.3歩）である。溝の幅は53cmで短軸方向である東西方向に走向する。103号遺構は、長軸11.2m、短軸9.8m、面積104.1m²（31.5歩）である。溝の幅は47cmで短軸方向の東西方向に走向している。104号遺構は、長軸14.2m、短軸9.5m、面積125.2m²（37.9歩）である。溝の幅は42cmで短軸方向の東西方向に走向する。

E区においてのみ泥流の充填された復旧溝群が検出された。47～54・56号遺構である。これらの溝は、軽石の充填される溝群よりも幅が広い。

泥流の充填された復旧溝群のうち残存状況の良好

な遺構の溝堆積の合計を面積で割ると約10cmから約43cmという値になる。これは泥流の堆積の厚さを示すものである。数値のばらつきは後世の攪乱により削平された結果であると考えられるが、この地域での泥流堆積は、人力で復旧可能な厚さおよそ40cm前後のであったと推測する。



第226図　E区復旧溝(2)と出土遺物

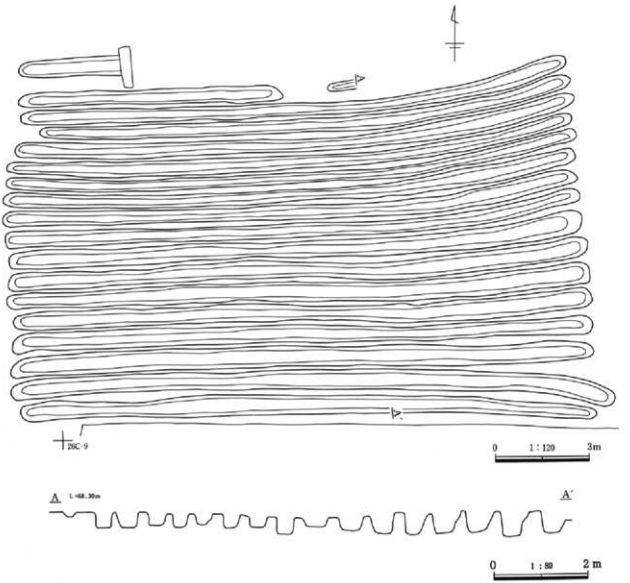
54号遺構（第227図、ＰＬ59）

Ｅ区25Ｔ－５グリットにおいて検出した。検出範囲はＥ区－１と２に渡っている。区画範囲は、長軸19.1m、短軸11.5m、面積205.2㎡（62.1歩）である。溝は、長軸方向の東西方向に走向している。溝の幅は50cm、深さは36.4cmである。溝と溝の間隔は、20cmである。

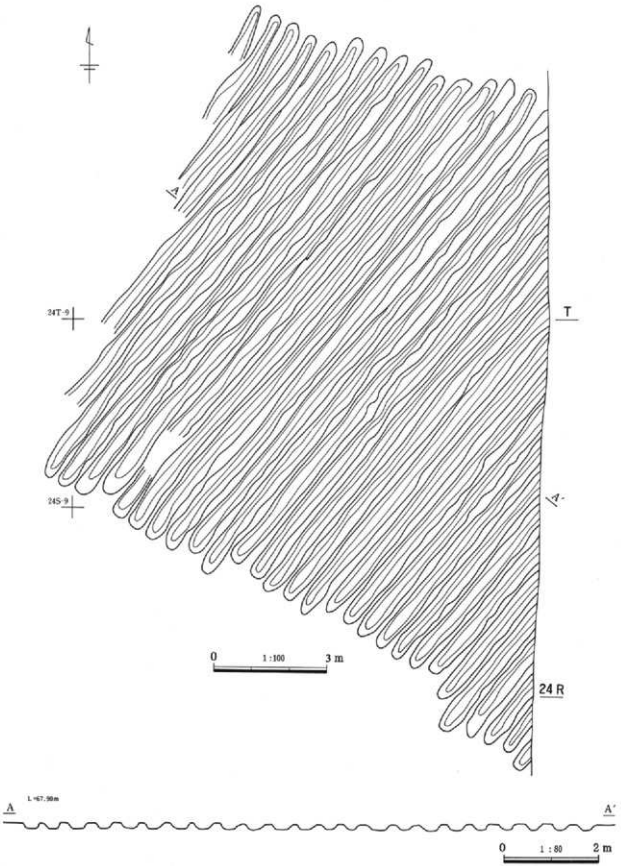
溝には拳大の礫が混入する黒褐色土である泥流が充填されている。付近にはこの泥流の堆積は確認されておらず、泥流の全てがこの溝群の埋土として充填されたことになる。

83号遺構（第228図、ＰＬ59）

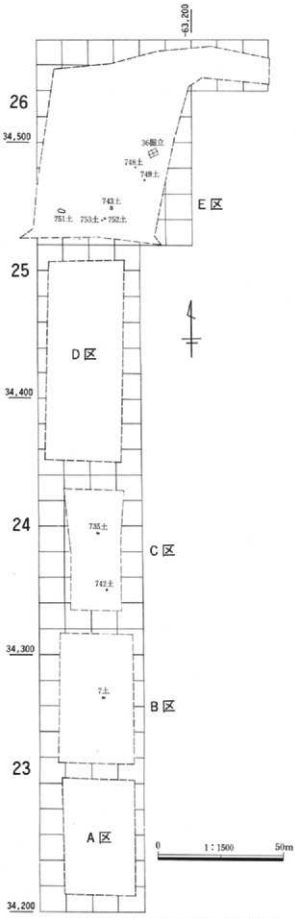
Ｄ区24Ｑ－６グリッドにおいて検出した検出範囲は部分的で土地区画の全容は判明していない。近世１復旧溝群107号遺構の下位から検出された。区画の範囲は、107号遺構と同じである。長軸15m、短軸14m、面積163.1㎡（49.3歩）である。溝は南西から北東方向に掘削されている。溝幅47cm、深さ10.2cmである。溝と溝の間隔は、20cmである。溝の上部は後世の復旧溝によって攪乱されている。溝には、天明３（1783）年の浅間山の噴火による降下軽石As－Ａが充填されている。



第227図　Ｅ区54号遺構



第228図　D区83号遺構



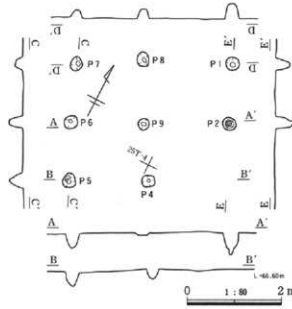
第229図　近世掘立柱建物、土坑位置図

c．掘立柱建物

近世に属すると考えられる掘立柱建物はE区において1棟検出された。

36号掘立柱建物（第230図）

25T－4グリッドに位置する。桁行2間、梁行2間の規模で、建物中央部に柱穴をもつ総柱建物である。桁行長340cmで柱間は170cm、梁行長260cmで柱間は130cmを計測する。



第230図　E区36号掘立柱建物

d．土坑

各土坑の時期については検出状況から、As—A以前に位置づけられる江戸期の遺構とみられる。

7号土坑（第231図）

23Q－8グリッドに位置する重複土坑である。

735号土坑（第231図、PL37）

24J－8グリッドに位置し、楕円形平面を呈する。

742号土坑（第231図）

24E－7グリッドに位置し、楕円形平面を呈する。

743号土坑（第231図）

25O－7グリッドに位置する大型楕円形土坑。

748号土坑（第231図）

25S－5グリッドに位置し、楕円形平面を呈する。

749号土坑（第231図）

25Q－4グリッドに位置し、楕円形平面を呈する。

751号土坑（第231図）

25O－10グリッドに位置し、底面は起伏をもつ。

752号土坑（第231図）

25N－7グリッドに位置する不整形土坑である。

753号土坑（第231図）

25N－7グリッドに位置し、楕円形平面を呈する。

第231図　B・C・E区土坑

e．水田・溝

近世期の水田は2時期のものが検出されている。ここでは便宜的に近世1、近世2とする。いずれも近世期の洪水層に覆われた水田遺構である。洪水層で覆われてはいるが、その後の攪乱や、当時の耕作土自体が洪水により流出している箇所もあり検出状況はあまりよくない。

近世1水田は、灰黄褐色砂質土層及び灰黄褐シルト質土層の下に検出された。これらの層は洪水層の様相を呈し、間層に時間差を示すような痕跡が無いことから1度の洪水で堆積したものと考えられる。上層には、この洪水砂を充填した復旧溝群が検出されている。層厚は、約80cmである。

水田耕作土は、夾雑物の少ない明黄褐色土に灰黄褐色粘質土塊を含む層である。鉄分が凝縮している。もともと河川の洪水による堆積と考えられ、きめの細かいシルト質である。基本土層の第Ⅵ層に相当する。

近世2水田は、褐色砂質土である天明3年(1783)以前の洪水層の下に検出された。この洪水層は、利根川に近い低地部分であるE区にのみで確認されている。洪水層は3層に分層できる。最下層にシルト質土、中層に細かい砂の層、上層は中層よりも少々粗い砂の層となっている。

近世1水田を被覆する層の上に水田耕作を行っている。当然水田耕土は、砂質が強い土となっており、水田耕作に向いていたとは考えにくい。文献においても、この洪水の後、農地の土質が悪化し、収量が激減したとの記載が残っている。

近世1水田

近世1の水田遺構は、A・B・D・E区において検出された。C区では水田遺構は検出されず、溝のみの検出に留まった。

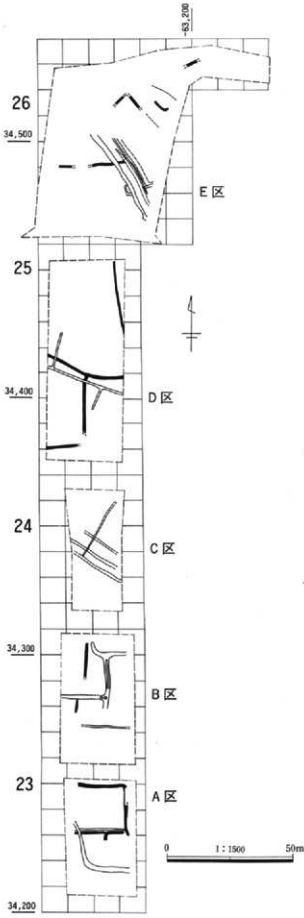
A区（第233図）

A区では、3枚の水田区画が検出された。いずれの水田区画も区画の全容は分からない。3号水田の

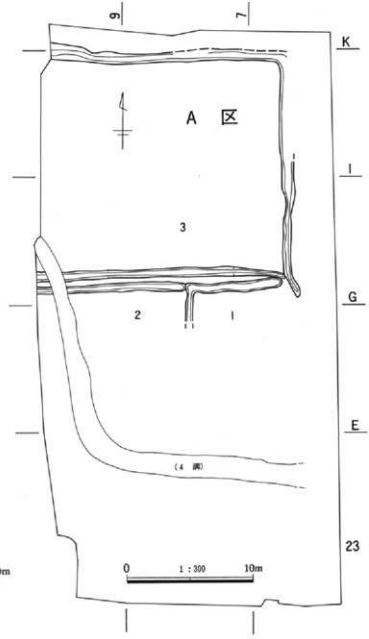
南北幅は17.2m，１号水田の東西幅は８ｍである。

畦畔は、国家座標に近似し走向する。下幅60cm～90cm、高さ13cmである。

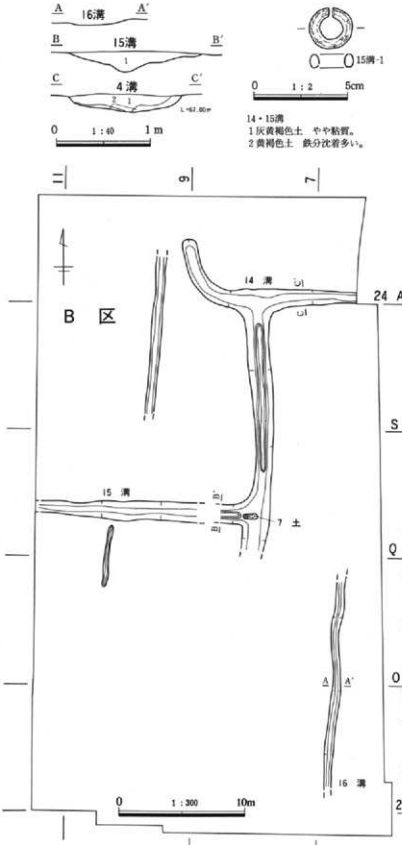
水田面は、北から南に傾斜し、１・２号水田の北東隅に水口があり３号水田から水が流れ込むようになっている。



第232図　近世１水田、溝位置図



第233図　A区水田



第234図　B区水田と出土遺物・溝

B区（第234図）

B区では、南北畦畔が部分的に検出された。水田区画の全容が判明するものは検出されていない。

畦畔は、下幅70cm、高さ3cm、全長12.5mのものと、下幅30cm、高さ7cm全長5mのものが検出された。

水田面の状態は、攪乱が多いため確認できない。

また、水田面を切っている溝が3条検出された。

14号溝（第234図、ＰＬ46）

24Ａ－６グリッドで検出した。全長16.2m、幅1.2m、深さ18cm、断面形状鍋丸の逆台形である。傾斜西から東に高低差2cmと緩やかに傾斜しながら走向している。埋没土は水田面を覆う洪水層である。As－Ａ降下以前に近世１水田を壊して掘削されている。

15号溝（第234図、ＰＬ46・103）

23Ｑ－７グリッドで検出する。南北方向の部分が19m、東西方向の部分が17m確認された。幅140cm、深さは18cm、断面形状立ち上がり緩やかなＶ字状である。傾斜は北から南に、西から東に傾斜している。高低差は、南北方向は殆ど無く、東西方向は10cmである。

南北方向の中央付近は、１段深く掘り込まれる部分がある。また、東西方向と南北方向の合流地点には土坑状の掘り込みがある。

埋没土は近世１水田面を覆う洪水層である。As－Ａ降下以前、近世１水田形成以降に掘削されている。

14号・15号溝とも国家座標に近似した走向である。幅、深さも同様であり一連の遺構と考えられる。

18号溝（第234図）

23M－6グリッドで検出された。全長16.3m、幅60cm、深さ6cm、断面形状は逆台形である。走向は、国家座標に近似して走行する。傾斜は、僅かに北から南に傾斜し、高低差は3cm程度である。

C区（第235図）

C区では、水田遺構は検出されず、溝を4条検出した。

57号溝（第235図、PL47）

24G－7グリッドで検出した。全長20.2m、幅97cm、深さ42cm、断面形状は逆台形である。

走向は北西から南東に高低差は1cmで緩やかに傾斜し、直線的に走向する。埋没土は、褐色砂質土で近世1水田を覆う洪水層に似る。

58号溝（第235図、PL47）

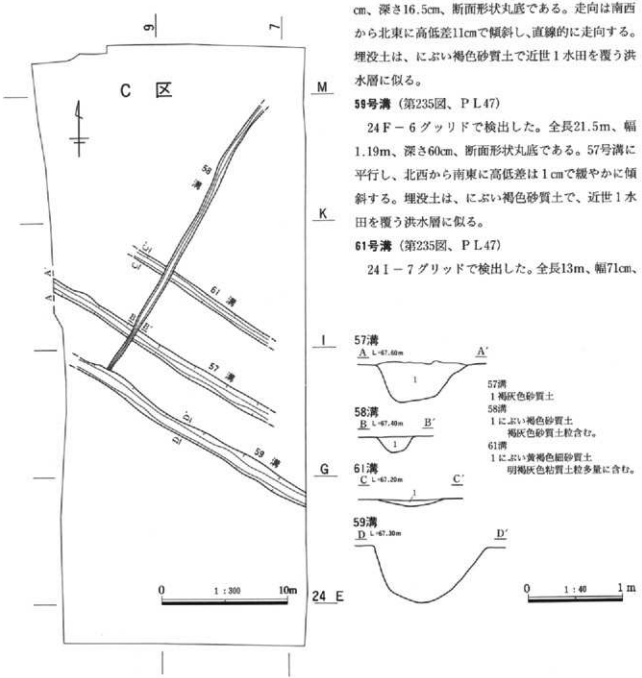
24H－9グリッドで検出した。全長24.6m、幅39cm、深さ16.5cm、断面形状丸底である。走向は南西から北東に高低差11cmで傾斜し、直線的に走向する。埋没土は、にぶい褐色砂質土で近世1水田を覆う洪水層に似る。

59号溝（第235図、PL47）

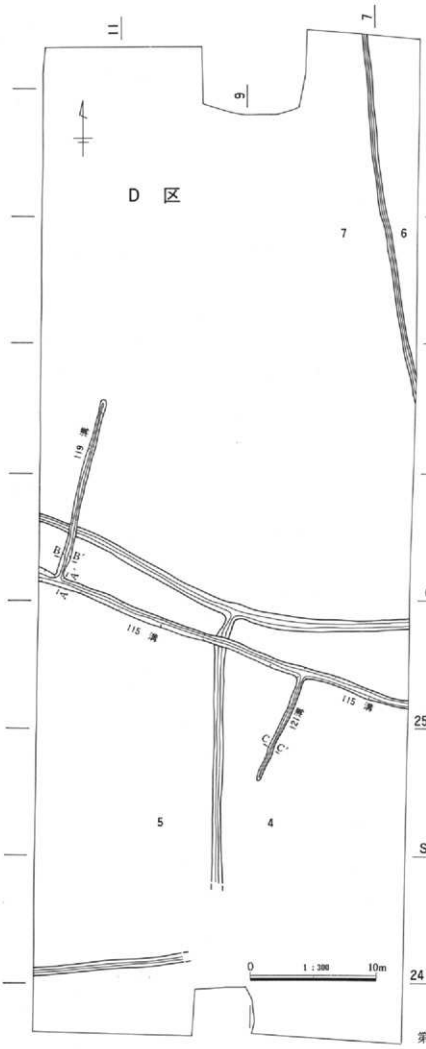
24F－6グッリドで検出した。全長21.5m、幅1.19m、深さ60cm、断面形状丸底である。57号溝に平行し、北西から南東に高低差は1cmで緩やかに傾斜する。埋没土は、にぶい褐色砂質土で、近世1水田を覆う洪水層に似る。

61号溝（第235図、PL47）

24I－7グリッドで検出した。全長13m、幅71cm、



第235図　C区水田・溝



深さ6cm、断面形状丸底である。57・59号溝に平行し、傾傾斜は北西から南東に高低差は6cmで傾斜する。埋没土は、黄褐色砂質土で明褐灰色粘質土粒混入する。

D区（第236図、P L.55）

D区では、4枚の水田区画を検出した。

いずれも区画の全容はわからない。5号水田の南北幅は最大35.5mである。

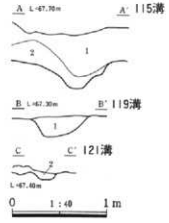
畦畔の走向は、南北畦畔が国家座標に近似し走向し、東西方向は、ほぼ国家座標に似るが西部分が北に曲がる。下幅90cm、高さ1cmである。ただ、北西部の畦畔は、下幅が40cmと幅が狭い。

水田面は北から南に緩やかに傾斜している。

また、水田より新しい3条の溝を確認した。

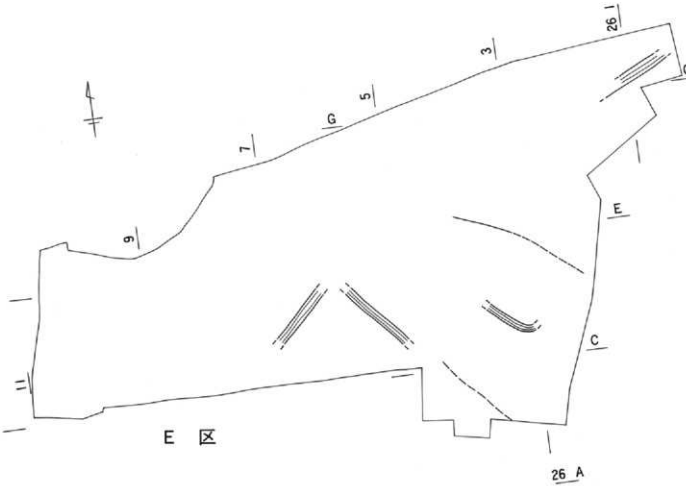
115溝（第236図）

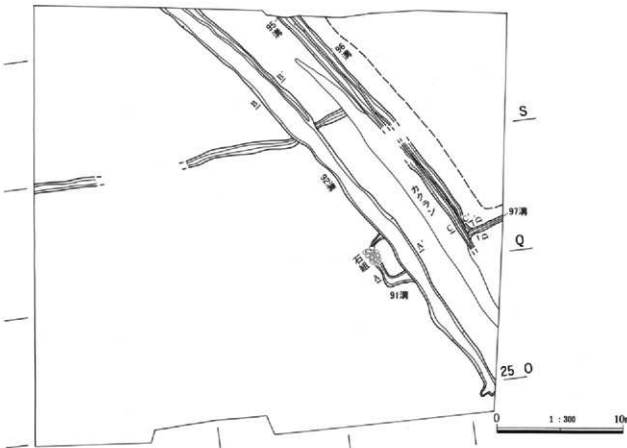
25A－6グッリドで検出した。全長30.5m、幅50cm、深さ30cm、断面



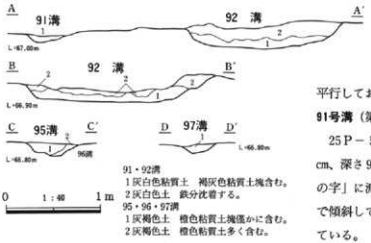
115・119・121溝
1 灰褐色砂質土
全体に鉄分沈着。締まる。
2 褐灰色砂質土
灰白色砂質土小塊多く含む。締まる。

第236図　D区水田・溝





第237図　E区水田・溝



第238図　E区水田土層断面

形状逆台形である。西北西から東南東に高低差6cmで傾斜し、直線的に走向する。近世1水田を覆う洪水層で埋没している。

119号溝（第236図）

25C－11グリッドで検出した。全長14.3m、幅60cm、深さ20cm、断面形状逆台形である。北北東から南南西に高低差15cmで傾斜し、直線的に走向する。近世1水田を覆う洪水層で埋没している。

121号溝（第236図）

24T－8グリッドで検出した。全長8.9m、幅25cm、深さ7cm、断面形状逆台形である。119号溝に平行して走向し、傾斜は無い。近世1水田を覆う洪水層で埋没している。

E区（第237図）

E区では、部分的に畦畔が検出されたが、水田区画の全容が分かるものはない。畦畔もとぎれとぎれで検出されているので、形状の推定もできない。

畦畔の走向は、南北畦畔が^{f}N－35°－Wと大きく国家座標からずれ、東西畦畔は南側がN－73°－Eと僅かに北にずれている。下幅は、70cm、高さ2cmで確認されている。また、25Q－4グリッドに幅1.5m南北畦畔の痕跡が検出されている。高さは殆ど無く、畦畔の基部のみが検出された。

水田面の傾斜は、北西から南東に傾斜している。

溝は、5条検出された。91・92号溝は水田畦畔を掘削して形成されている。95・96・97号溝は畦畔に平行しており水田に伴うものである。

91号溝（第237・238図）

25P－5グリッドで検出する。全長6.1m、幅40cm、深さ9cm、断面形状丸底である。92号溝から「コの字」に派生している溝で、北から南に高低差6cmで傾斜している。近世1水田を覆う洪水層で埋没している。

92号溝（第237・238図、PL49）

25N－4グリッドで検出する。全長39.7m、幅1.67m～2m、北部は幅広く、南にいくほど狭くなる。深さ25cm、断面形状逆台形である。北西から南東へ南北畦畔に平行して走向している。高低差7cmである。近世1水田を覆う洪水層で埋没している。

95号溝（第237・238図、PL48）

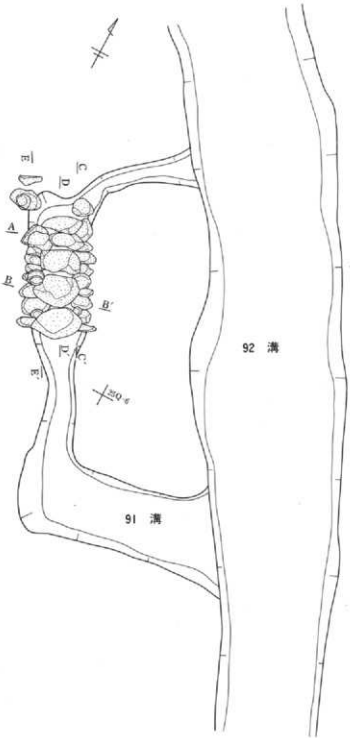
25Q－4で検出する。全長23.7m、幅49cmであるが、微妙に拡縮して整っていない。深さ11cmで、断面形状は不定形である。走向は南北畦畔に平行する。南北畦畔に平行して走向している。傾斜は無い。埋没土は水田耕土に橙色粘質土塊含むものであり、水田畦畔形成時の畦畔際掘り込みの痕跡と考える。

96号溝（第237図、PL48）

25Q－4グリッドで検出する。全長21.7m、幅40cm程度であるが微妙に拡縮して直線的でない。深さ6cmで断面形状は不定形である。南北畦畔に平行し、傾斜は無い。埋没土は、水田耕土に似ており、鉄分の沈着がある。水田畦畔形成時の畦畔際掘り込みの痕跡と考える。

97号溝（第237・238図、PL48）

24Q－4グリッドで検出する。全長3m、幅37cm、深さ10cm、断面形状逆台形である。東西畦畔に平行して走向し、傾斜は無い。埋没土は、水田耕土に似る土に橙色粘質土塊が混入するものである。水田畦畔形成時の畦畔際掘り込みの痕跡と考える。



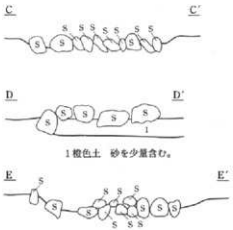
石組み遺構（第239図）

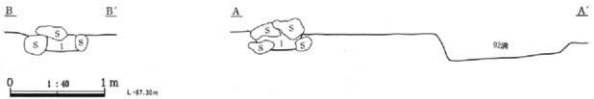
25Q－6グリッドで検出した。近世2の水田耕土下の洪水層を取り除く段階で検出した。溝に沿って長方形の範囲に石を組んでいる。長軸1.3m、短軸57.8cmである。

石は、溝の立ち上がりに長径30cm、短径17cm程度の川原石を小口積みに組んで側壁を構成している。そして、天井を塞ぐように長径45cm、短径30cm程度のより大きな川原石を組んでいる。天井の石は長径を短軸方向にしている。溝出入り口は塞いでいない。

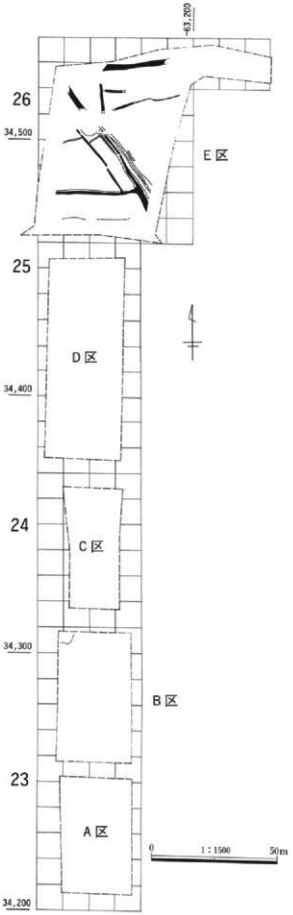
石組み内部には、近世1の水田及び91・92号溝の覆土と同様の土が石組みで囲まれた溝の中にも埋設していた。

使用状況は、周囲に柱穴は検出されず、石組みの上に構造物があった可能性は低い。石組みを剝き出しの状態では、不安定なため使用不可能と考えられる。石組みを覆っていたものは洪水で流されてしまった可能性がある。また、91号溝が付随することから石組み内を水が流れていたことは確かである。恐らく石組み上を土で覆い固めて、暗渠として使用したのではないかと推定する。





第239図　E区石組み



第240図　近世２水田、溝位置図

近世２水田

近世２の遺構は、Ｅ区のみで検出した。Ｅ区は利根川に最も近く、洪水の影響を受けやすい。そのため洪水層が厚く堆積し、その後の攪乱を受けにくい場所であった。近世の２を被覆する層は、調査区全体に見られるが、Ｅ区以外の場所では、復旧溝の攪乱が深く入り、復旧溝の同士の間に僅かに認められるのみである。Ｅ区では厚いところで80cm堆積している。

Ｅ区（第241・242図、ＰＬ55）

Ｅ区における遺構の検出は、水田畦畔とそれに伴なう溝（水路）である。水田区画は４枚検出された。１号水田は、長軸24.6m、短軸5.1m、面積125.46㎡ある。水口は、３箇所あいている。西側の水口は不自然なところに設置され、この水口の北に１本畦畔が存在した可能性がある。

畦畔の走向は、近世１水田と近似し走向する。畦畔規模は、60cm、高さ５cm、であるが、67号溝際の畦畔は、下幅90cm、高さ７cm、南端に至っては、下幅2.6m、高さ８cmとなっている。

水田面は、北西から南東へ傾斜し、高低差は７cmである。67号溝の北東側は、畦畔が検出されず、面がはっきり捉えられなかった。洪水により攪乱された可能性がある。

溝は数条確認されたが畦畔際のものは、畦畔形成上の痕跡あるいは畦畔際の落ち込みと考えた。

67号溝（第241図、ＰＬ48）

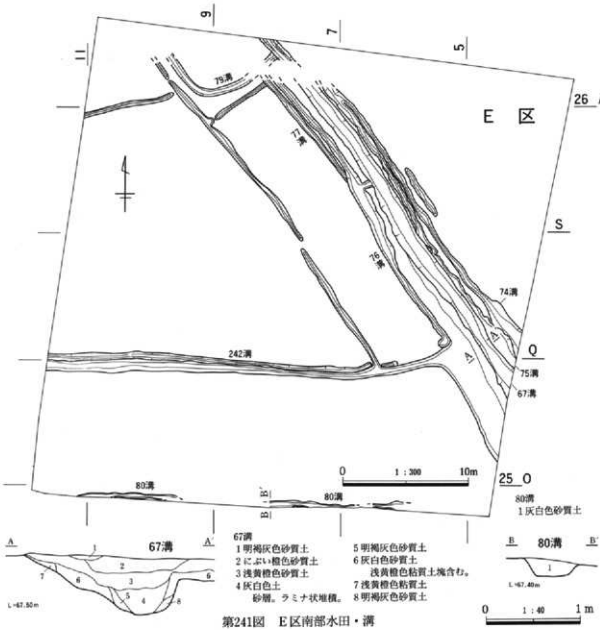
25Ｐ－４グリッドで検出した。全長34.8m、幅1.64m、深さ59cmである。断面形状は、左岸側は逆台形状に立ち上がり、右岸側は斜めにやや緩やかに立ち上がっている。北西から南東へ南北畦畔に平行しながら、高低差19.5cmの傾斜で走向している。

埋没土は、灰色砂層の上に近世２の水田を被覆する洪水層が堆積している。近世２水田に伴う水路であると考える。

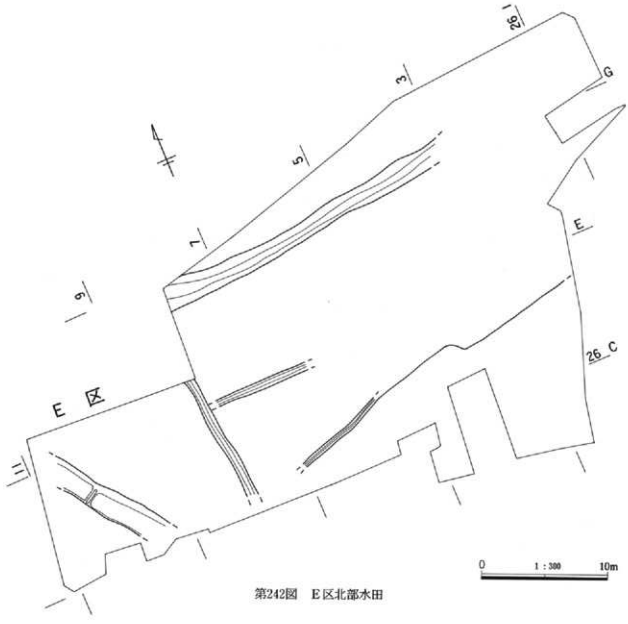
80号溝（第241図）

25Ｎ－６グリッドで検出した。全長18.7m、幅57cm、深さ20cm、断面形状逆台形である。西から東、

高低差8.5cmの傾斜で走向している。灰白色砂質土
で埋没土している。



第241図　E区南部水田・溝

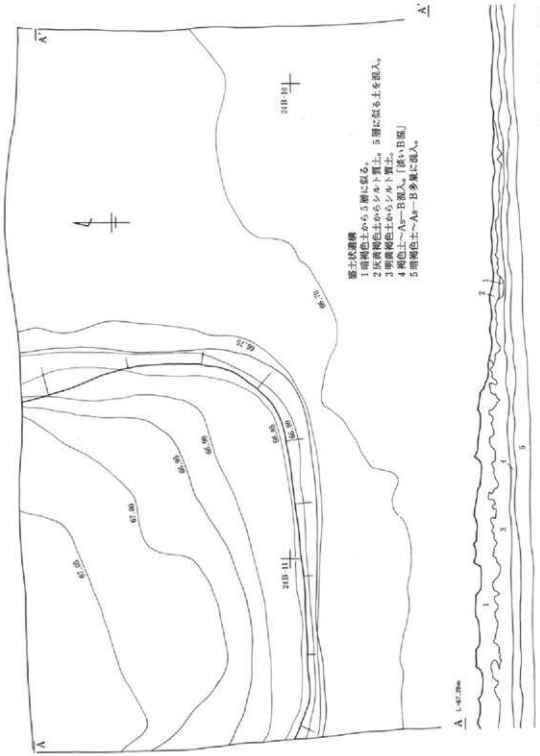


第242図　E区北部水田

f、その他（盛土状遺構）（第243図、ＰＬ59）

Ｂ区北東隅、24Ｂ－10グリッドにおいて盛土状の遺構を検出した。南北3.2m、東西4.1mの方形平面を呈する。遺構上面は、洪水砂を復旧するために掘削された溝群（59号遺構）により攪乱されている。

被覆土は、にぶい黄褐色シルト質土である。近世１の水田を覆う洪水層と一致する。形状は、南東隅がほぼ直角であり、全形・規模は不明である。また、性格についても不明であるが、検出状況からみて、人為的な盛土行為により形成されたものとみられる。



第243図　Ｂ区盛土状遺構

断面では、遺構下部にAs－B混土層があり、水田遺構も検出されている。この水田遺構は、3層の明黄褐色シルト質土の洪水層で覆われている。その上に1層を積み上げて、盛土状にしている。2層は、その後の耕作により1層と3層が混ぜられた結果、形成されたものと考える。

盛り上げた1層の土は、As－B混土と考えられる。おそらく3層の洪水後、洪水層を掘り抜いてAs－B混土を3層洪水層上面におき、洪水層を掘削した穴の中に充塡する天地返しが行われたのではないかと推測する。しかし、この遺構の断面にはその痕跡が無く調査区外で天地返しが行われたと推定することしかできない。3層の洪水層は利根川の変流にかかわるのではないかといわれているものだが、当遺跡では、年代を示すものは検出されていない。

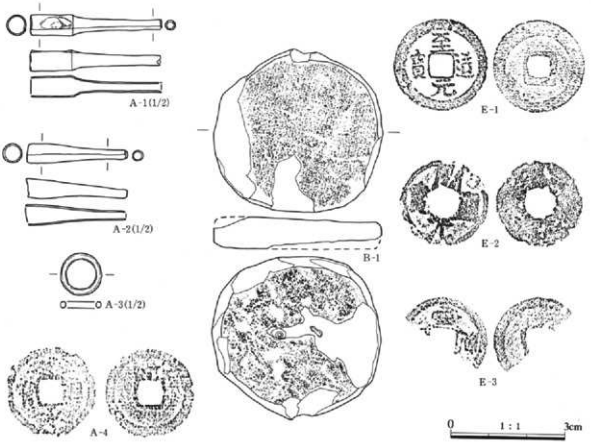
5．グリッド出土遺物（第244図、PL103）

第1面に関連する遺構確認調査に伴い、洪水層中から出土した遺物である。出土量は少なく、遺構に伴うものではないが、グリッド出土遺物として報告しておく。

A区グリッドからは煙管（A－1・2）、環状製品（A－3）、古銭（A－4）が出土している。煙管は2点とも吸口部であり、1は肩部に段をもつが、2は肩部がやや脹らむ形態をもつ。このような形態からみれば、1は1700年代前半期、2は同後半期に位置づけられるものといえる。

古銭はA－4が寛永通宝である。E－1およびE－2はそれぞれ至道元宝（北宋銭、995年初鋳）、開元通宝（唐銭、621年初鋳）であり、中世銭貨の混入であろう。

A－3の環状銅製品、B－1の土製品については用途、時期とも不明である。



第244図　A・B・E区グリッド出土遺物

6．調査のまとめ

a．古墳時代について

古墳時代の遺構としてはD区において集落、E区において水田を確認した。

集落は4世紀代を中心とし、水田は榛名二ッ岳渋川テフラ（Hr-FA，6世紀初頭）による埋没水田であることから、確認された居住域と生産域は同時期ではない。しかし、D区集落の南および北側については水田耕作が可能な低地になり、E区とも連続している。さらに、E区Hr-FA埋没水田耕土に浅間C軽石（4世紀）が混入していることからみれば、集落と同時期から水田耕作が継続的に行われていると考えることもできるだろう。

今回調査した古墳時代集落は4世紀代の良好な資料を提供したといえる。概要はそれぞれ報告したが、ここでは出土土器の特徴について触れておくものとしたい。

第245図から第247図は、D区で確認された住居について出土土器を中心にほぼ時期序列に整理したものである。

全体的には4世紀初から半ばに位置づけられる土器群といえよう。

41号住居は長方形平面を呈し、出土土器は検出された住居の中で最も古い様相をもつ。湾曲する壺の頸部形態や小型高坏の存在をはじめ、小型の壺には赤井戸系の関連も看取できる。なお、壺の頸部形態には東海地方東部の要素を考慮する必要もあろう。時期的には3世紀末から4世紀初頭を位置づけておきたい。

50号住居は古い様相をもつS字口縁の甕が伴っていることから、やはり4世紀前半に位置づけておこう。

40号住居は隅丸方形平面を呈する住居で、甕や壺に南関東系の様相が伺われる。壺には頸部に単一沈線による格子目文を施す資料が認められるが、この文様はおそらく網目状撚糸文に関連するものだろう。また、脚付壺は弥生系のものとみられる。なお、小型壺は、41号住居出土資料との共通性も認められる。

これら41号・50号・55号・40号住居については南関東および東海東部方面の様相が看取されるより古い一群といえるだろう。

48号住居は南東部を49号住居に重複される住居である。そのため、埋没土中の土器については混在が生じている可能性がある。48号住居床面出土資料をみると、南関東系の様相をもつ甕が主体である。このような土器の出土状況からみると、S字口縁甕や脚部横みがきをもつ高坏については、後出の様相であることから49号住居に伴うものと考えておきたい。すなわち48号住居についてはS字口縁甕を伴わない一群の土器といえるだろう。4世紀半ばに位置づけておこう。

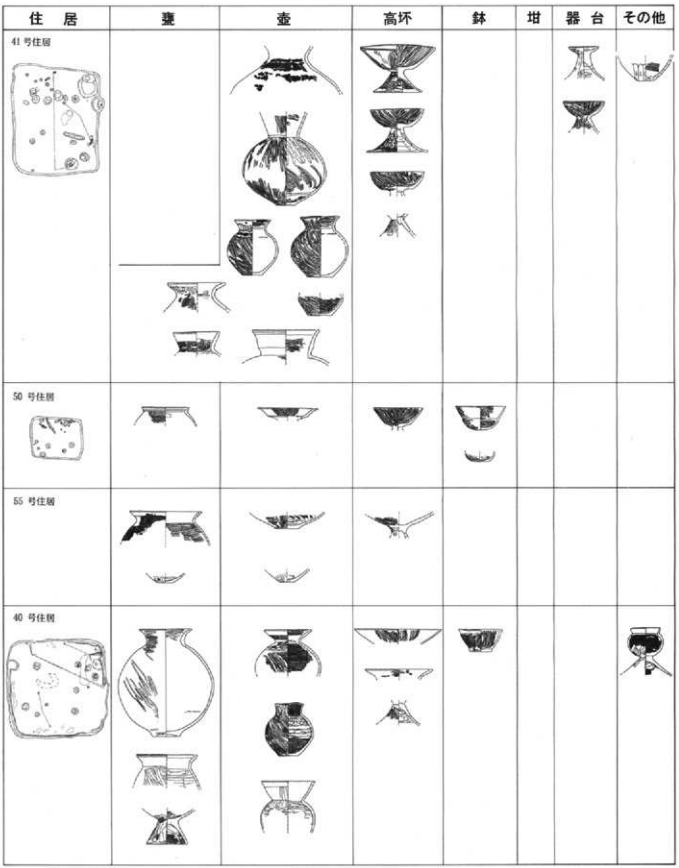
54号・45号・49号・47号住居はS字台付甕を伴うことを特徴とするもので、今調査例ではより新しい様相であり、時期的には4世紀半ばに位置づけられよう。

49号住居は高坏脚部に横みがきが認められることから布留式との関連を伺うことのできる資料であり、注目される。前記重複住居である48号住居埋没土出土の高坏も本住居のものと考えておきたい。また、大形鉢もこの時期の特徴といえよう。

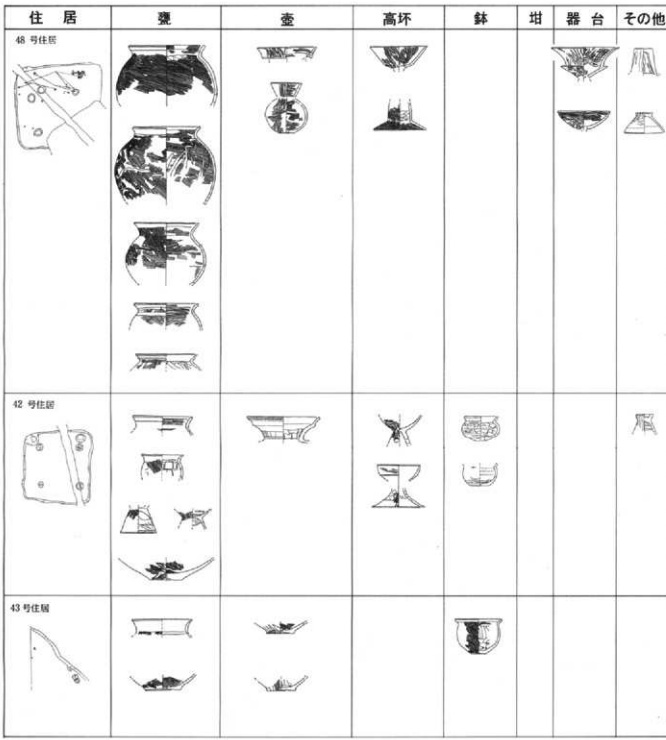
これらS字台付甕をもつ住居は平面形に共通性が認められ、平面形Aとして分類した一群である。この住居平面形はこれら以外に42号住居、44号住居も含まれる。両住居は伴出する土器が量的に少ないため不明な部分もあるが、住居平面形からみれば同系統のものと考えることができよう。

46号住居にはわずかな段をもつ口縁部の甕と肉厚の鉢が出土するが、この鉢はあまり類例をみない。時期的には四世紀半ばを考えておきたい。

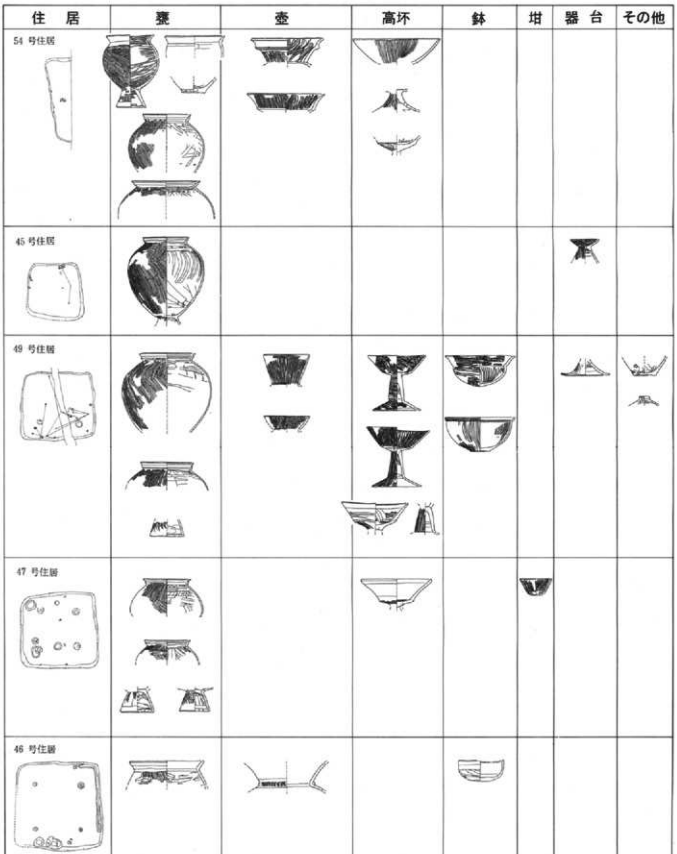
概括的には南関東系の土器をもつ住居がより古く、S字台付甕を伴出する住居がより新しいものとみられる。今回検出された集落については、4世紀初頭から半ば以降にかけて、概ね3時期の変遷を伺うことができる資料といえよう。



第245図　古墳時代住居出土土器一覧図(1)



第246図　古墳時代住居出土土器一覧図（2）



第247図　古墳時代住居出土土器一覧図(3)

b．掘立柱建物について

A区古代面で確認された掘立柱建物について検出状況を中心に概要をまとめておきたい。

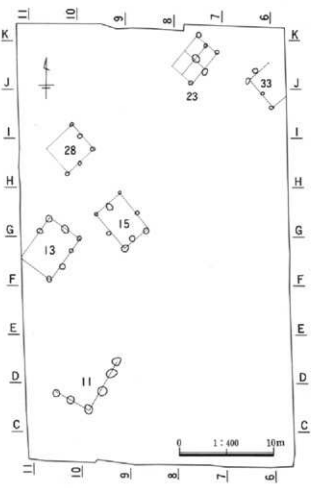
3（A）dで報告したように34棟の掘立柱建物が集中的に確認された。時期はAs-A埋没水田より下面で同面検出の竪穴住居より古い段階である。この調査面は9・10世紀代を主体に古代遺物群が多量に出土し、古墳時代遺物もわずかに混在する状況である。このことから考えれば、平安時代から古墳時代の時間幅の中にあるものといえる。しかし、建物規模を、比較すると3種8形態に類別が可能で、さらに同種同形態のものが同位置に重複する等から、これらの掘立柱建物群は時間的にも関連性が強いものと考えられた。加えて大量の土器類の集中出土および遺構の検出状況から掘立柱建物群についても9・10世紀代を中心とした継続的な遺構であると判断される。

掘立柱建物の重複をみると、6棟前後の重複が多く少なくとも6時期前後の建物配置による集落構成があったことになろう。

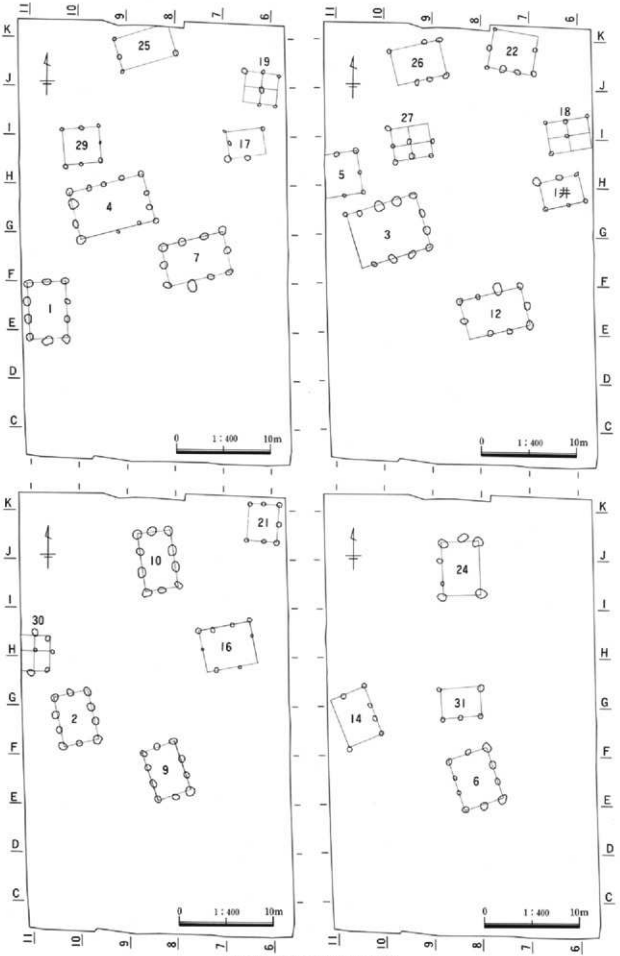
発掘調査においては、多数の土坑、ピット群および残存状況の不良な住居の検出とともに数万点にのぼる土器片類の出土等により掘立柱建物としての確認は十分に検討し得なかった。そのため調査段階では実測図面を作成することで、後日検討を加えるものとした。そのため、掘立柱建物を含め、遺構間の新旧関係については把握されていない。

確認された掘立柱建物については規模の比較から報告したような8形態に分類した。基本的には次の3形態で、A－3間×4間、B－2間×3間、C－2間×2間である。Cは基本的に総柱であることから倉庫とみられる。A、Bは規模が異なるがいずれも側柱で構成される建物で、庇等の付属施設は認められない。居住もしくは作業施設とみることもできる。しかし、この遺跡の特異性であろう遺物の大量出土を考えると、掘立柱建物Cとは異なる倉庫の可能性もあるだろう。グリッド単位での遺物出土状況をみると10,000点前後の集中分布グリッドが3ヶ所存在する。この部分はいずれも掘立柱建物A・Bの重複が著しい場所とも一致し、このことからも推定できるかもしれない。

ここに示した図は重複する掘立柱建物群を平面的に分割したものである。新旧関係が明らかなものはなく根拠にとぼしいが、建物方向等を参照しながら図のような配置としてみた。それぞれ6～7棟程度であり、やや建物が近接し密集しすぎるようにみえるが、掘立柱建物の耐用年数を20年とするとここに示した5配置でも100年の期間が想定できる。さらに掘立柱建物は西・東側に広がりをもつが、遺物の出土状況からは東側により多くの遺構が存在する可能性がある。規模の大きな掘立柱建物Aは同地点に桁行方向を同じくして重複するが、この建物が中心的な存在になるのだろうか。西もしくは東側にこれに類する建物が存在する可能性がたかいだろう。



第248図　掘立柱建物配置図（1）



第249図　掘立柱建物配置図(2)

c．古代の遺物について

ア．文字資料について

11点の文字資料に関連する遺物が認められた。漆紙文書をはじめ墨書土器、刻書土器および刻書紡錘車が出土している。そして、文字は認められていないが、漆紙文書付着土器も７点出土している。

これらの資料は発掘調査中に注意され、遺跡説明会および新聞発表などにより公表している遺物も一部含まれる。

しかし、漆紙文書をはじめ多くの遺物は今回の資料整理を行う過程で摘出されたものである。これらの資料は量的には少ないものの、この遺跡の性格の一端を特徴づける可能性があるものと考えられた。

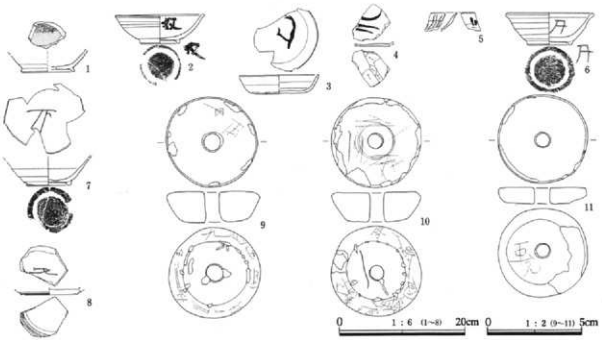
さらに、福島曲戸遺跡の南側500mに位置する福島飯塚遺跡（註１）からは９世紀代の土師器坏、須恵器椀を中心に200点におよぶ墨書土器とともに漆紙文書が付着する土器小片１点が出土している。これまで玉村町域では出土例が少なくほとんど注意されていなかったが、近年の発掘調査により文字資料の蓄積が進んでいる。今後、周辺の調査例を含めて総合的な分析が必要になると考えられる。また、現在まで高崎市下小鳥遺跡（註２）出土の１例のみであった漆紙文書についても、小片ながら福島曲戸遺跡、福島飯塚遺跡の２例が加わることになった。なお、福島飯塚遺跡出土資料については国立歴史民俗博物館平川南先生に指導をしていただいている。

このような経緯のなかで、福島曲戸遺跡出土の文字資料についても平川先生に指導をお願いした。以下、指導内容をもとに出土文字資料についてその概要を報告していきたい。

漆紙文書（第250図１・第251図）

Ａ区２面から大量の土器とともに漆紙付着土器片が６点検出された。

赤外線カメラにより文字の有無について調べたところ、第250図１須恵器椀底部片に付着する漆紙について確認できた。紙の残存は不良で、破片付着面のおよそ半分が剝落している。さらに残存面も部分的に遺失していることから、文書の一部であることがわかる程度となっている。肉眼では確認できないいが、赤外線カメラにより２文字が確認できた。平川先生により文字は残存状況が不良のため釈文できないが、筆勢により判断すると漆付着面に２文字が認められ「□　□」となる。なお、文字の大きさは約１cm四方であることから、行政文書の一部と考え



第250図　文字資料集成図

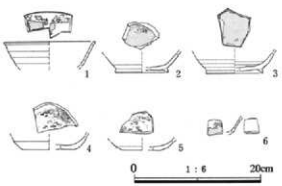
られるとの指摘を受けた。(下の写真参照。)

第251図は漆紙付着資料6点であるが、いずれも小片であり文字については認められないが、文書の一部であろうと推定できる。

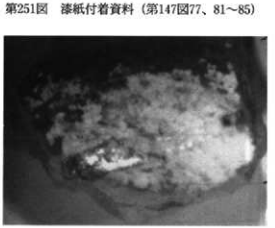
これらの資料は9世紀代の須恵器であり、この集落で漆作業が行われていたことを示す資料である。いずれもパレットとして使用された碗類の蓋紙が器面に付着したまま廃棄されたものだろう。

文書について確認された1例では断片的なものであるため、その性格は不明であるもののこの遺跡が役所もしくは寺院など公的機関との関連を有していたことを示す資料として重要であろう。

なお、前記のように近接する福島飯塚遺跡においても小破片ながら漆紙文書の出土例がある。今後、周辺遺跡の調査については漆紙文書の出土について注意する必要があろう。



第251図　漆紙付着資料(第147図77、81～85)



漆紙文書　赤外線カメラによる写真
(白っぽい部分が紙層。中央やや上側に墨書がみられる。)

墨書土器(第250図2・3・4・5)

4点認められた。A区8面では大量の土器類が出土したが、その量に比すれば数は少ない。2は須恵器椀体部内面に「取?」が確認できる。文字は土器に対して正位に書かれる。3は土師器坏底部内面に墨書があるが、残存状況が不良で読みとることはできない。4は23号掘立柱建物P9埋没土から出土した土師器坏で、底部内面に「川?」と推定される文字が認められる。5は土師器坏口縁部外面に墨痕が認められるが、字種を確定できない。

刻書土器(第250図6・7・8)

3点認められた。6は須恵器碗で、体部内面に刻書が認められる。刻書は焼成前に加えられたもので、文字ではなく記号であろうと指摘された。7は須恵器碗底部内面に刻書が認められる。焼成前に加えられたもので、文字ではなく記号であろうとの指摘があった。8は須恵器底部内面に刻書が認められる。焼成前に加えられたもので、やはり文字ではなく記号であろうと指摘された。

刻書紡錘車(第250図9・10・11、PL101)

紡錘車はA区8面において計8点出土しているが、その内3点に刻書が認められた。

9は体部側面に文字列が認められる。刻書はかなり乱れがあり、明瞭に読みとれる文字は限られるが9文字加えられていると観察される。平川先生により「山　名　九　九　□　□　□　□　□」と釈文された。なお、上面にも刻書が観察されるが文字として確定できない。10は体部側面に「上野国　迎?　路　飼　合?」等の刻書があり、判読できない文字および重ね書きする部分も認められる。これらの刻書のうち、「上野国」にのみは縦位に加えられ、他は横位となっている。なお、読みとれる刻書は他例に比し明瞭で丁寧な文字が加えられている。11は下面に2文字分の刻書が認められる。剝落もあり一部不明となっているが、平川先生により「虫　□」と釈文された。

註1　群埋文『年報　19』　2000年

註2　『下小島遺跡』群埋文調査報告第119集　1991年

イ．凸帯付四耳壺について（第252図）

A区8面から2点の凸帯付四耳壺が出土した。報告したようにこの調査面では8・9世紀代の土器類を中心に大量の遺物が出土している。確認された凸帯付四耳壺もこれらの遺物類に混在して出土したものであり、遺構との関係および出土状況について特徴的な情報は得られていないが、隣接したグリッドから出土している。

1は23D-8グリッドから出土した。短頸壺肩部に凸帯が巡る。焼成は堅緻であり、凸帯も丁寧なつくりで明瞭な面を形成する。突起は剝落するが、凸帯部のみに貼付されるようである。口縁部は直口し、口唇部は肥厚ぎみで上端に面をもつ。器上半部片と下半部片には接合関係はないものの、図上復元により器形が把握できる資料である。このグリッドは遺物、遺構とも同調査面では希薄な地点である。2は23J-7グリッドから出土した。この資料も口縁部片と肩部片の接合関係はないが、図上復元したものである。焼成はやや軟質で、広口の大型壺肩部に凸帯が巡る。突起は凸帯下部の体部から凸帯部にかけて貼付される。突起上半部は剝落するが、中央には棒状工具による押さえがあり、耳状の突起が付されたものとみられる。このグリッドは土器の集中度が高く、出土破片総点数は9000点以上におよぶ。土師器が約7割、須恵器が約3割程度の比率であり、灰釉陶器も100点ほど含まれる。遺構については東西に走行する47号溝や掘立柱建物が位置する。47号溝および南に平行する50号溝は古代集落を画する位置にあり、この溝の北側に遺構群、遺物群が集中する。掘立柱建物は7・6・9・12号掘立柱建物が重複する地点にあたる。A区における遺物出土状態を概観すると、掘立柱建物群が集中する区域に遺物類の集中出土も看取されることをみると、2についても掘立柱建物との関連を考えることができるだろう。

凸帯付四耳壺は8世紀前半美濃須衛窯に祖型が求められ、8世紀中頃から9世紀にかけて信濃独自の器形として発展、生産される特徴的なものとされている。その背景には信濃国府の関与も考えられている。（註1）

最近では埼玉、新潟、山梨、岐阜、石川、栃木等関東中部各地の窯跡、集落から類例が注目されている。

群馬では、世良田諏訪下遺跡、舞台遺跡、福島曲戸遺跡の3遺跡4例が確認されている。（註2）

さらに舞台遺跡では胎土について「駒内ではさほど特異とはみられない。」との所見があり、県内産の可能性も考慮されている。すなわちこの器種が群馬においても焼成、保有されていたことを示唆するものであり、土器の系譜や性格を考える糸口ともいえる。なお、2については胎土焼成等が舞台遺跡例に類似するとの指摘もある。（註3）

凸帯付四耳壺は長野を中心とする遺物として着目されるとともに、国府の関与を考究する資料のひとつとされる。群馬における出土例もその系統的な理解と律令期における国府等との関連のなかで位置づけられていくものだろう。今回の出土例はその分析へ向けた資料集積例として報告しておきたい。

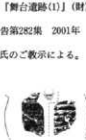
註1　「須恵器窯の技術と系譜」窯跡研究会第2回シンポジウム発表要旨　1999年

註2　綿貫邦男「舞台遺跡(1)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第282集　2001年

註3　綿貫邦男氏のご教示による。

1・166図496

2・166図497



伊勢崎市舞台遺跡
E2-205号住居

0　1:12　40m

第252図　凸帯付四耳壺

ウ．有孔鍔付鉢について（第253・254図）

A区第8面において確認された古代遺構遺物検出面から特徴的な土器が出土した。

鉢形の体部と器台状の底部形態および底面端部の穿孔や鍔貼付という共通する器形的特徴をもつ。ロクロ成形によるが、焼成は軟質である。このような器形については類例も乏しく、器種についても不明である。今回はこれらの一群の土器について有孔鍔付鉢と仮称して報告している。

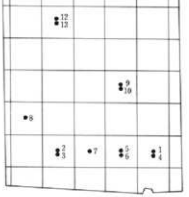
以下、特徴を報告し今後の類例検討の資料に供しておきたい。第254図1～11が有孔鍔付鉢であるが、参考資料として12、13の台付き鉢を掲載しておく。

有孔鍔付鉢の特徴

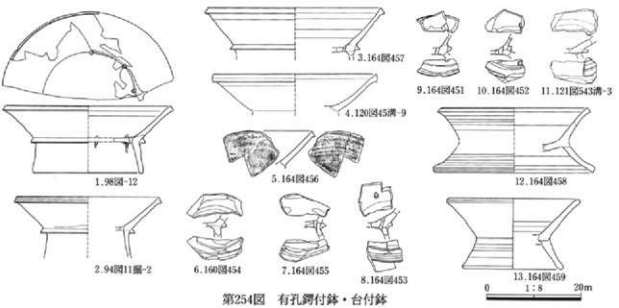
A区古代検出面では大量の土器類が出土していることは前記のとおりである。その大量の土器群に混在してここで取り上げる有孔鍔付鉢が認められた。

いずれも破片資料であり、鍔部分もしくは穿孔部分のみが目立っていたことから羽釜や甑などの一部とも考えられた。接合復元が進行する過程で第254図1（19号竪穴出土土器・98図12）について器形が把握されるものとなった。この資料を中心に同種土器の特徴を観察していきたい。

1は、口径34.7cm(推定)、器高14.2cmの有孔鍔付鉢である。鉢形の体部に器台状の高台が付される器形を呈する。体部は直線的に立ち上がり器内外面とも横ナデ、口唇部はやや肥厚して外側に面を形成し、断面三角形の稜をもつ。また口唇端部に棒状工具による凹部が1ヶ所認められる。この凹部は幅15mm程度のわずかな痕跡であり付加も粗雑なことから、この土器の機能に関わる加工であるかは特定できない。なお施文具形状からみると底部穿孔に使用された棒



第253図　有孔鍔付鉢分布図



第254図　有孔鍔付鉢・台付鉢

状工具と類似したもののようにみられる。外側に面をもつ断面三角形の口唇部形態は他資料も共通した特徴である。なお、11の台付き鉢の口唇部形態もやや類似する資料といえるだろう。

底面はほとんど遺失しているため不明だが、器厚は体部より薄手となるようである。2・3等の資料も体部に比し底部器厚はやや薄手となっている。

穿孔は体部と底面の接する部分、底部縁辺に加えられる。1は3ヶ所確認されるが、間隔は7.5cm、5.5cmと不規則である。穿孔は径5mm程度で上方から貫通する。3ヶ所のうち2穴は単一穿孔であるが、1穴は位置の調整のためか2回の穿孔により付加され、底部下では一部が器台内面に接している。このことからも上方から下方への穿孔であることがわかるとともに、体部底面における穿孔位置が縁辺部を目的とすることがよく看取できる。なお、底面中央部の穿孔については接合資料が無く不明だが、破片資料中に穿孔された底部片が認められないことから同器種の穿孔は縁辺に限られるように思われる。鍔は体部と器台部が接する位置に付加される。この鍔は断面三角形で下側に凹面をもち、端部は下位をむく。鍔の付け方は他例も同様であり、この器種の特徴ともいえるが、9のみは端部が上方をむくようである。鍔端部が下方にむく形状から、他容器にかけるための機能も考えられた。しかし、器台部分が残存する資料を観察すると、鍔より器台部がやや外側に張り出しぎみになることから鍔が他容器にかかる構造にはなっていない。また、補強に伴うようにも考えにくい。このことから、この器種における鍔については機能的な面をあらわしていないように思われる。

器台はやや開き気味となる。1は器台高6cm、上部径22cm、端部径23cmを計測する。端部は丸みをもつ単純な形状で、内外面とも横ナデである。開き方は弱く、12や13の台付き鉢と比較すればその差は明らかである。

色調はにぶい橙色を呈し、内外面に黒斑も認められる。胎土焼成は軟質で、出土土器の中では土釜の胎土焼成と類似しているように観察される。

さて、このような土器の類例であるが極めて特異な形態をもつものの出土例は乏しいようである。資料整理段階で類似資料として目についたものは高崎市田端遺跡例である。(下図参照)

この土器は「大形井戸」である土坑から多量の土器とともに出土したもので、器種不明の須恵器として報告されている。図にみるように形態を比較するとほぼ同様の器種であることがわかる。鉢形の体部と器台状の底部および鍔貼付、底部の穿孔等この器種の基本的な形態上の共通性とともに大きさも類似したものといえる。相違点をみると田端遺跡例では、底部の穿孔が中央部にあり縁辺部には加えられないこと、鉢部中位にも鍔が貼付されること、台部には方形の切り込みとクシ状工具による櫛歯文が施される等の点である。このような相違点は、田端遺跡例がより加飾されたものであると考えれば、福島曲戸遺跡例がいわば粗製といえるのかもしれない。ただ、基本的な形態は共通するものである。

用途については不明であるが、田端遺跡例は二次焼成痕や煤の付着が認められ、福島曲戸遺跡例では底部が他部位に比し破損状態が著しい。また、位置は異なるが底部の穿孔も大きな特徴である。このような点から用途を考えると、鉢部内での火熱の使用を想定することも可能であろう。田端遺跡例での台部の切り込みも装飾効果とともに空気流入の効果も想像に難くない。さらに類例の追加を期したい。

B区3号住居跡下
土坑出土土器
(S=1:8)

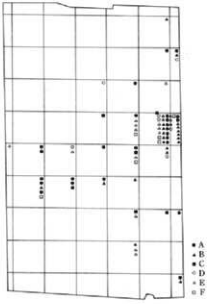
『田端遺跡　上越新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告第9集』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1988年

エ．椀・坏類について

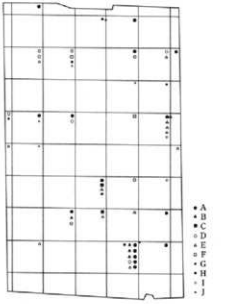
A区8面からは報告のとおり総点数99,756点におよぶ土器片が出土している。このうち土師器が71%、須恵器が27%となっている。さらに土師器では64%を坏が占め、甕が36%と集計されている。また、須恵器では坏・椀類が65パーセントとなっている。いずれも破片数の集計であり個体数については比較できないが、土師器、須恵器共坏・椀類が主体を占めさらに土師器坏は総出土量でも主要な器種となっていることがわかる。

土師器坏は成形、器形が極めて粗雑なものが大半で、器面には指頭痕や型肌が残るとともに器厚も不規則である。口縁部も起伏が生じ、底面も凹凸となる例が多い。このような形状はいわゆる型づくりによるものと考えられる。器体や底部に顕著に認められる歪みは、型からの剝離の際に生じたものだろう。また、底部内面縁辺には指撫でが加えられており、当初の型の大きさは失われているようだ。しかし、大きさや形状には類別可能な差も認められ、器形の判別ができる例について類別した。須恵器椀、坏類についても形態上の大きさや特徴等により分類し、その分布傾向を把握しようとした。しかし、ここでは完形もしくは器形復元可能な資料を対象としていることから、総出土遺物による分布傾向とは異なるものとなった。対象となる資料点数に大きな差があることから両者を比較できないが、ここでは傾向についてみておきたい。255図土師器坏で集中するグリッドは1号井戸周辺にあたる。破片集中グリッドは別グリッドであるが、器形の判別でき得る資料とは分布傾向を異にするということであろうか。井戸内からの遺物出土はない。周囲の石敷き部からの出土である。このことからみれば完形の坏がここに置かれたことをあらわしているのだろう。破片集中グリッドは重複する掘立柱建物群と位置を共有しており、収納施設としての倉庫と収納物としての土器類との継続的な関係を想定できる。このように考えると、分布傾向の差は土師器坏の使用方法の差に起因する可能性もある。1号井戸周辺に分布するものは収蔵ではなく、具体的な内容は不明だが祭祀に関連することが推定できる。器体が大きく歪む坏も祭祀に関係した要素なのかもしれない。

須恵器椀・坏については分散ぎみで、分布の偏差をとらえにくい。総出土資料分布状態とも大きな差異は認められない。遺構との関係でみれば竪穴住居より掘立柱建物群との関連が強いといえるだろう。



第255図　土師器　坏分布図



第256図　須恵器　碗分布図

第257図　土師器一覧図